日本被団協原爆被害者調査　資料集Ⅳ

被爆者の死（その２）

――昭和21年からの40年――

日本原水爆被害者団体協議会

日本被団協原爆被害者調査資料集Ⅳ

被爆者の死（その２）

——昭和２１年からの４０年——

発行にあたって

日本被団協の「原爆被害者調査」('85.11 ～'86.3 実施)には、原爆で亡くなった家族についての設問が含まれている。この資料集は、そのうち昭和２１年から４０年間の死亡家族についての自由な記述回答から、「原爆が人間にもたらした死とはどのようなものであったか」をよく伝えている４００例を選んで編集したものである。

原爆は「あの日」の死を免れた家族のうえにも、次々と襲いかかった。直後の大やけど・大けがによる死や急性原爆症による死は次第に減少し、白血病やがんをふくむ「病気」による死が増えていった。とりわけ「がん死」は、被爆後４０年を経た現在なお増加し続けている。

家族の死と死にいたる苦しみを看取ってきた遺族は、その死の多くについて、原爆被爆と関係がある、すなわち＜遅れた原爆死＞であったのではないかという疑いを抱いている。その苦しみぬいたあげくの惨めな死は、同じく被爆した遺族を＜遅れて来る原爆死＞の不安へと誘うのである。

原爆による家族の死は、遺族にとってはいまなお、思い出すのもつらいことである。その苦しみをのりこえてあえて筆をとらせたもの、それは、戦争と原爆のもたらした死を償おうとしない国の無責任に対する怒りと、こんな死は二度とくり返させてはならないという願いに外ならない。証言の一つ一つから、そうした遺族の思いを汲みとっていただきたい。

なお、厚生省が昭和６０年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」には、さらに多くの「原爆で亡くなった家族についての思い出」が書き込まれているという。＜原爆は人間にとって何であったのか＞を永く人類の歴史に刻む資料として、国はその全容をありのままに公表すべきである。

最後に、この資料集の作成にあたっても、一橋大学の「＜原爆と人間＞研究会」や社会調査室をはじめ、多くの方々のご協力をいただいた。付記して、心からの謝意を表したい。

目　　次

発行にあたって

凡　　例

広　　島

頁

Ⅰ．昭和２０年代の死 ………… 13

Ⅱ．昭和３０年代の死 ………… 50

Ⅲ．昭和４０年代の死 ………… 79

Ⅳ．昭和５０年以降の死 ………… 116

長　　崎

Ⅰ．昭和２０年代の死 ………… 191

Ⅱ．昭和３０年代の死 ………… 212

Ⅲ．昭和４０年代の死 ………… 237

Ⅳ．昭和５０年以降の死 ………… 267

＜付録＞広島・長崎地図（被爆当時）

表紙写真：「嵐の中の母子像」本郷新・作（連合通信）

凡　　例

1．この証言に関する設問は、次のとおりである。

【問13】被爆当時のご家族のうち、原爆に被爆した方で、昭和２１年以降に、亡くなられた方がありますか。

「いる」と答えた方について、

【どのような状態で亡くなられたのですか。また、亡くなられるまでの間、どんなことに苦しんでおられましたか。つぎの例を参考にしながら、できるだけくわしく、書いてください。】

◇例◇

ア．原爆で肉親をなくした悲しみに、生きる支えをうしなって
イ．けが・やけどの傷あとに苦しんで
ウ．被爆を境にからだが弱くなって
エ．病気とのたたかいの日々をおくらされて
オ．ある日、急に、突然に
カ．原爆症の不安・恐怖におびえて
キ．こどものことを心配して
ク．思うように働けないことに苦しんで
ケ．学業や就職、結婚・家庭など、夢や希望をうばわれて
コ．あの日の体験に、苦しめられて
サ．隠そう、忘れようと苦しんで
シ．早く死にたい、と苦しんで
ス．とくに被爆のせいで、苦しんだことはなかった

【あなたは、その方（たち）の死について、どんな悲しみや思いをいだいてきましたか。例を参考に、できるだけくわしく、書いてください】

◇例◇

ア．生きていてくれたら
イ．自分（残る者）のために苦労をなめて
ウ．家族みんなが苦楽をともにして
エ．もっと援護対策が早ければ

オ．その死に方に恐怖や不安をいだいて

2　証言はすべて原文のまま。ただし、表記の誤りや、漢字、仮名づかいについては、改めたところもある。また、特定される人名等は△△…××…で、編集にあたって補った部分は文中〔　〕で、示してある。

3．400例の証言は、被爆地により二分したうえ、家族の死亡時期によって次の4つに分類、編集した。

①昭和20年代の死：昭和21年から29年までの家族の死について証言しているもの

②昭和30年代の死：昭和39年までの家族の死について証言しているもの

③昭和40年代の死：昭和49年までの家族の死について証言しているもの

④昭和50年以降の死：本調査実施時点（昭和60年11月～61年3月）までの家族の死について証言しているもの

4．【死亡家族の概況】には、調査票の死没家族表から次の事項を記載した。

死亡家族の番号（「あの日」からの死亡家族の通し番号），死亡年月日，続柄（回答者からみた），死亡時年齢，死亡の原因，被爆の状況（距離），（被爆時年齢），死亡と原爆との関係意識

〔死亡と原爆との関係意識〕欄の略語は次の事項を示す。

ある：その死は原爆被爆と関係があると思う

なし：その死は原爆被爆と関係がないと思う

不明：その死は原爆被爆と関係があるかないかわからない

各欄のＮＡは、無回答を示す。

5．昭和20年内に死亡した家族のある場合は、証言のあとに〔昭和20年内の死亡家族〕として、次の事項を示した。

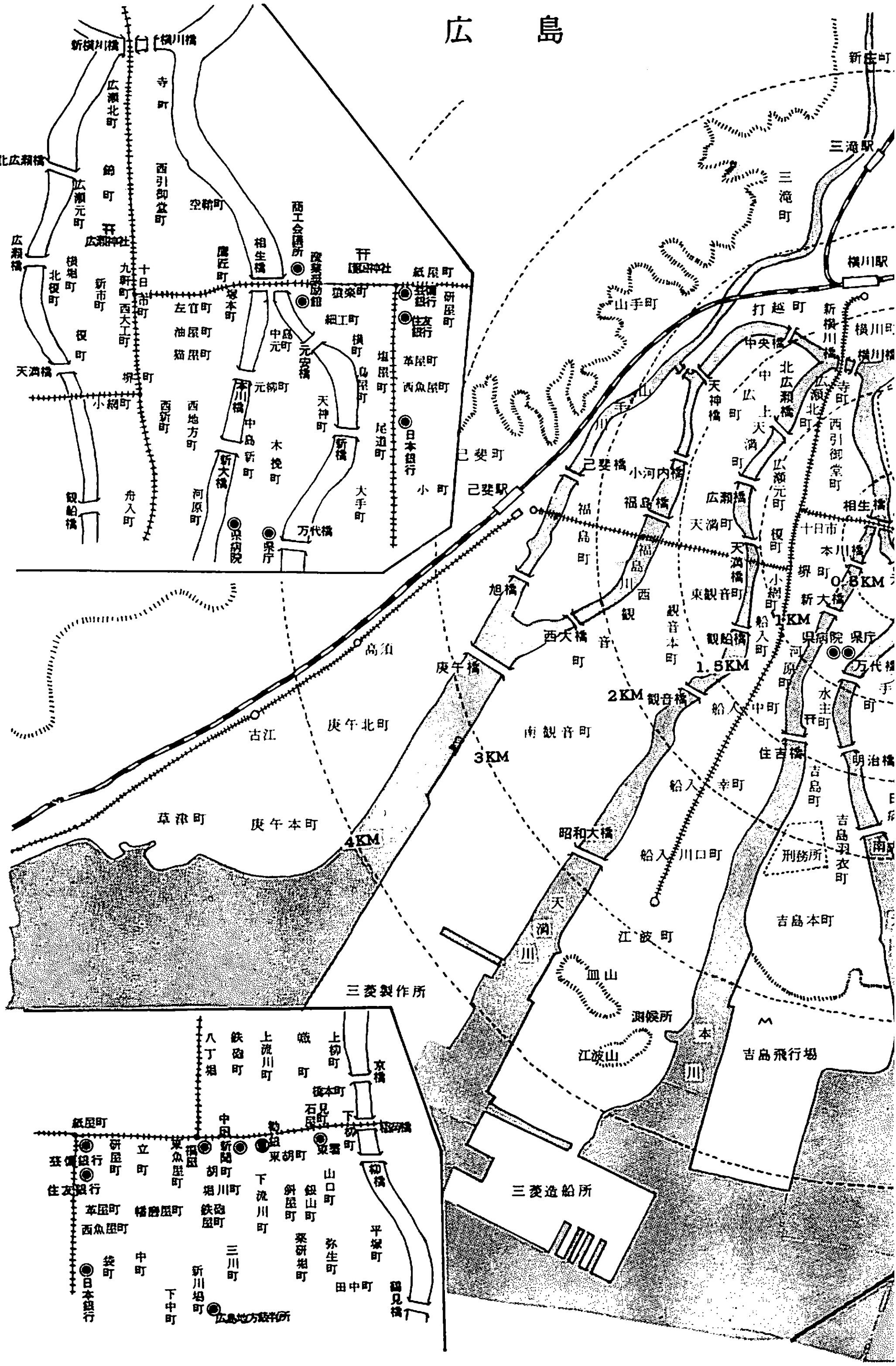
死亡家族の番号，死亡月日，続柄（回答者からみた），被爆時（＝死亡時）年齢，被爆の状況（距離），死亡の状況

6．各証言のあとの〔　　〕（　　）内は、回答者についての次の事項を示している。

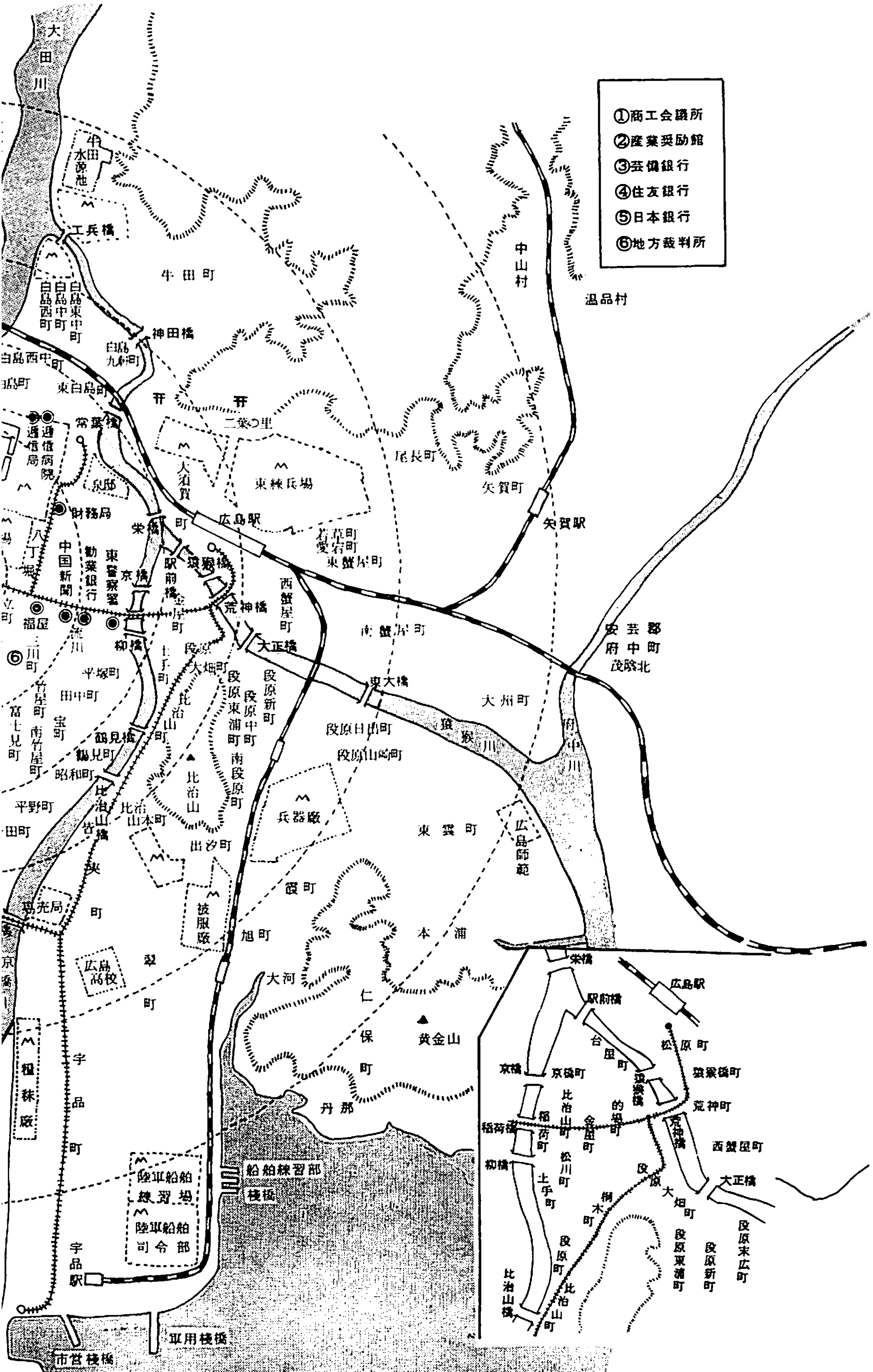
〔被爆地，被爆状況（爆心からの距離），性別，被爆時年齢〕（整理番号）

広　島

広　島



新横川橋
横川橋
寺町
広瀬北町
西引御堂町
北広瀬橋
広瀬元町
鉛町
空鞘町
広瀬神社
商工会議所
広瀬橋
横堀町
九軒町
十日市町
西大工町
鷹匠町
相生橋
産業奨励館
護国神社
紙屋町
北榎町
新市町
左官町
寺本町
猿楽町
細工町
芸備銀行
住友銀行
研屋町
榎町
油屋町
猫屋町
中島元町
元安橋
横町
革屋町
塩屋町
天満橋
堺町
鳥屋町
西魚屋町
小網町
本川橋
元柳町
西新町
西地方町
中島新町
天神町
木挽町
尾道町
日本銀行
観船橋
新大橋
新橋
舟入町
河原町
大手町
小町
万代橋
県病院
県庁
新庄町
三滝駅
三滝町
横川駅
山手町
打越町
新横川橋
横川町
中央橋
北広瀬橋
中広町
天神橋
上天満町
広瀬北町
西引御堂町
山手川
己斐町
己斐橋
小河内町
広瀬元町
己斐駅
福島橋
広瀬橋
天満町
福島町
福島川
西観音町
十日市
本川橋
堺町
0.5KM
旭橋
観音本町
東観音町
天満橋
小網町
新大橋
1KM
西大橋
観音町
観船橋
舟入町
河原町
県病院
県庁
高須
庚午橋
1.5KM
万代橋
2KM
観音橋
舟入中町
水主町
大手町
古江
庚午北町
南観音町
住吉橋
3KM
吉島町
明治橋
舟入幸町
草津町
庚午本町
昭和大橋
刑務所
4KM
舟入川口町
吉島羽衣町
天満川
吉島本町
江波町
三菱製作所
皿山
測候所
本川
江波山
吉島飛行場
三菱造船所
八丁堀
鉄砲町
上流川町
幟町
上柳町
京橋
橋本町
石見屋町
下柳町
中国新聞
勧業銀行
猿猴橋
紙屋町
芸備銀行
研屋町
立町
東魚屋町
福屋
胡町
東胡町
東署
住友銀行
堀川町
下流川町
山口町
柳橋
革屋町
播磨屋町
鉄砲屋町
鉄屋町
銀山町
西魚屋町
平塚町
栄研堀町
弥生町
袋町
中町
三川町
日本銀行
新川場町
田中町
下中町
広島地方裁判所
鶴見橋



①商工会議所
②産業奨励館
③芸備銀行
④住友銀行
⑤日本銀行
⑥地方裁判所
大田川
牛田水源池
工兵橋
牛田町
白島東中町
白島中町
白島西町
神田橋
白島九軒町
東白島町
常葉橋
二葉の里
大須賀町
東練兵場
尾長町
中山村
温品村
矢賀町
矢賀駅
広島駅
若草町
愛宕町
東蟹屋町
西蟹屋町
南蟹屋町
安芸郡府中町
栄橋
猿猴橋
駅前橋
京橋
荒神橋
大正橋
柳橋
東大橋
大州町
段原新町
段原中町
段原東浦町
段原日出町
段原山崎町
南段原町
猿猴川
府中川
比治山
比治山本町
比治山橋
鶴見橋
鶴見町
昭和町
平塚町
田中町
宝町
竹屋町
南竹屋町
富士見町
平野町
兵器廠
東雲町
広島師範
出汐町
被服廠
霞町
旭町
本浦
大河
仁保町
黄金山
丹那
皆実町
翠町
広島高校
宇品町
宇品駅
糧秣廠
陸軍船舶練習場
陸軍船舶司令部
船舶練習部桟橋
軍用桟橋
市営桟橋
逓信局
逓信病院
泉邸
財務局
八丁堀
中国新聞
勧業銀行
東警察署
流川
三川町
福屋
松原町
猿猴橋町
荒神町
西蟹屋町
段原大畑町
段原東浦町
段原新町
段原末広町
段原町
比治山町
京橋町
稲荷橋
稲荷町
松川町
土手町
金屋町
的場町
台屋町
桐木町

Ⅰ．昭和２０年代の死

【死亡家族の概況】
①　２２／２／４　父５７歳　貧血　直爆１．０㎞（５５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆後死亡するまで、寝たきりの状態で、一度も起き上がることは出来ませんでした。けがはなおったのですが、貧血がひどかったのです。

〔広島　直爆１．０㎞　女　２１歳〕
（１１－００６９）

【死亡家族の概況】
①　２２／３／１６　母３９歳　脳出血　直爆２．０㎞（３７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆後は半身やけどのため傷あとの治療に苦しみましたが、その治療と前後して血圧も高くなり、体が弱くなって、倒れることも２、３度あり、１年半ほどたってたおれて死にました。

〔広島　直爆１．５㎞　女　１８歳〕
（３４－５７９９）

【死亡家族の概況】

②	22／　1／18	母51歳	結核	直爆3.0㎞（49歳）	ある
③	22／　3／24	姉20歳	結核	直爆3.0㎞（18歳）	ある
④	39／12／18	父73歳	脳出血	直爆3.0㎞（54歳）	ある
⑤	49／　7／10	兄45歳	急性肺炎・肺がんの疑い	直爆4.0㎞（16歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

原爆の2年後に2人とも結核で亡くなりました。

〔母〕昭和20年10月頃から肺結核で寝こみ、昭和22年1月18日死亡しました。亡くなる前、母親は柿が食べたいというので、まだ市内は焼け野原でしたが、あちこち探し歩き、やっと広島駅前でみつけ、一つ買って帰り食べさせました。母は非常に喜んで「おいしかった」と言い、それから数日後に亡くなりました。

また母は私たちのことが大変気になり「死にたくない」と言い、私たちも「どうか死なないでください」と言っていましたが、とても気にして死にました。

〔姉〕それから昭和22年3月24日姉が肺結核で亡くなりましたが、当時姉には婚約者がおり「病気が治ったら結婚する」と言っており、父とその婚約者と私と3人で交替で夜も寝ず看病していた。すでに胸に穴があき、とても苦しみ、息を引きとり、可哀想でした。22年は1月に母、3月に姉を亡くし、泣いて1年を過ごしました。いい薬があったらと思いました。

〔父〕昭和38年、父は脳出血で約1年私が看病し亡くなる。3日前から昏睡状態で息を引きとりました。

〔兄〕次兄は昭和39年頃に自活していましたが、親不孝者でしたがやっと落ちついて仕事をしはじめたのですが、急性肺炎になり入院するという日の朝、急に亡くなり、肺がんではなかったかとも言われていました。

心の支えを失い大きな痛手となりました。2人とも〔母と姉〕良い私の相談相手だったので、本当に悲しくて仕方ありませんでした。生きていて欲しかったです。

〔昭和20年内死亡家族〕

①8／21　姉30歳　直爆1.0㎞　大けが・大やけど

〔広島　直爆1.0㎞　女　14歳〕
（34－7120）

【死亡家族の概況】

①	21／6／29	父53歳	病気	直爆1.8㎞	（52歳）	ある
②	22／4／21	妹18歳	病気	入市	（16歳）	ある
③	52／6／30	母75歳	パーキンソン氏病	直爆1.8㎞	（43歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

世界ではじめての原子爆弾、何も知らず知らされず、どのような状態になるか、長い間私どもには知らされなかったのが口惜しい。

医師もそれがわからず、父は肺結核と言われて、本人は自身で結核ではない、何かがあると言いつつ死んだ。

妹は腹膜炎と〔言われ〕、父と同じような状態だったが、父が21年6月に、妹が22年4月に亡くなりました。

政府が早く援護対策に力を入れていてくれたら、何とか出来たのではないかと常に思っています。20年に亡くなった方には何らかの補償もあったらしいが、21年では何も〔なく〕死に損である。

妹も学徒動員ででたが、病気だけで22年になれば補償なし。その場所で死んだ者も後日亡くなったものも同じだと思い、補償のあつかいに一言いいたい。

苦しい年月を過ごしたが、父が生きていたら、妹がと、今、日々思い出しております。

〔広島　入市　女　21歳〕
（25－0002）

【死亡家族の概況】
① ２２／５／３　次男３歳　敗血症　入市（１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次男〕私は終戦後約１年半広島市内で生活し、その後長野県に移りましたが、〔次男は〕ちょうどその転居前より原因不明の発熱等あり、ただただ具合が悪く、長野県に転居直後悪化し、結局敗血症ということで死亡しましたが、それまで原爆が原因と気がつきませんでしたが、被爆翌日入市したことや広島市内に住んだことが原因ではないかと医者に話しましたら、医者も同感でしたので、私は原爆被爆が原因と確信しています。

あの原因のよくわからない具合の悪さでむずかった当時、それを叱ったことなど思い出すと、胸が張り裂ける思いです。

〔広島　直爆２.０㎞　男　３０歳〕
（１２－００３１）

【死亡家族の概況】
① ２２／５／２４　父４２歳　急性肺炎　直爆４.０㎞（４０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆後故郷に帰り、なれない仕事（炭焼き）に従事し、朝早くから遠くの山へ出かけ、炭俵を背にのせて夕方おそく帰って来ていた。食糧事情等非常に悪く、突然肺炎にかかり７日もたたないうちに死んだ。
被爆までは病気一つしたこともない父だったのだが。

私は日立製作所向島造船所に入社し、２ヵ月目で父が急逝した。そのために会社をやめなければならなかった。

病気の母、弟妹等４人、小さい兄弟の生活をみなければならなくなった。
自分の進みたい方へ自由に進まれなくなった。

〔広島　直爆３.０㎞～　男　２０歳〕
（３４－１８０９）

【死亡家族の概況】
①　２２／６／２９　妹１９歳　死因不明　直爆距離ＮＡ（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕ある日急に発熱し、かぜのような状態が１週間から続き、どうしても熱が下がらず、そのうち脳膜炎のような症状もあるし、いろいろ医師がつくされたけど良くならず、激しい頭痛になやまされ、２週間ほどの苦しみで亡くなった。
背中の腰の部分に被爆によるやけどのあとがあった。

ある日突然にやってくる病魔への不安と、発病してからの苦しみを思うと、恐怖でたまらなかった。
もっと援護対策が早かったなら、適切な投薬により苦しみも少なかったのではないか。

〔広島　入市　男　１９歳〕
（３５－０２５０）

【死亡家族の概況】
①　２２／８／３０　姉５歳　病気　直爆３.０㎞（３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕姉と私は、母が両脇にかかえるようにして台所より土間のくどの所へ飛ばされましたが、その時はこれといって子供達はけがもなかったようです。

姉は口の中に口内炎が出来て、それもこけのようなのが出来て、食べられなくなったとのことです。

母は、これはきっと今から思えば原爆症だったのだろう、といっています。５歳にしておいしい物ひとつ食べられず死んだ姉がいちばんかわいそう……と、いつも母がいっていました。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１歳〕
（３４－５２４１）

【死亡家族の概況】

②　２２／８／ＮＡ　父５８歳　その他　直爆１.０㎞（５６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆で頭に大けがをしていましたけど、命に別状はなく日常ぶらぶらしていました。投下から約２年後、母の命日近くになってふらっと出て行き、以後帰って来ませんでした。私の考えでは、おそらく母の後を追って自殺したのではないかと思います。

両親の死後、非常にみじめな境遇の中を生きて来ました。もし広島に原爆が投下されていなかったら、もし両親が生きていてくれたら、くやまれてなりません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／２９　母４３歳　直爆０.５㎞　原爆症

〔広島　直爆３.０㎞～　男　１４歳〕
（１４－０３０９）

【死亡家族の概況】
⑤　２２／月日ＮＡ　姪２２歳　けが　直爆1.3㎞（２０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姪〕（家の中で被爆）足を大けが（１５針位縫ってもらった）。少しよくなり姉一家と大阪へ、ビッコになっていた。体が悪くなり２２年頃入院。生活苦しく、姉は食糧等広島に取りに帰っていました。私は両親と草津で間借りしていました。ぼうこう、腎臓等悪くなり、足も化膿して手術してもらったら、肉を巻いた木切れが出たそうです。爆風で体に入った木切れのためか、あちこちが悪くなり亡くなりました。
たいへん費用等で困ったようです。今だったら国で治療していただけるのにと残念でなりません。
大ヤケドで死んだ姪〔③〕の妹で、２歳年下でした。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／　6	姪	1歳	直爆1.0㎞	圧焼死
②8／　6	甥	胎児	胎内被爆	死産
③8／14	姪	２２歳	直爆1.3㎞	大やけど
④9／　4	姉	ＮＡ	直爆1.0㎞	原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　２５歳〕
（34－5016）

【死亡家族の概況】
④　２３／1／8　父５８歳　精神的に衰弱死　直爆1.7㎞（５５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕一家５人で平凡ながら幸福な家族でした。
原爆で家も借家もなくなり、途方にくれていました。片方の目は原爆の傷がもと

で失明です。一人息子をうしない妻も失った父は、生きるささえをなくし、日に日にすいじゃくして、毎日のように涙を流していました。

今後どのようになるのであろうかと不安な日々で、だんだんと食事がのどをとおらなくなって死亡いたしました。

生き残った者も死んだものもどこにうったえればよいのでしょうか。私は２人の息子に原爆のことをきかせてあげたいという気持は少しはあるのですが、涙が出て、まだ話す勇気が出ないのです。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　母４９歳　直爆１.７㎞　圧焼死
②８／６　姉１８歳　直爆１.７㎞　圧焼死
③８／６　弟１３歳　直爆１.７㎞　ＮＡ

〔広島　直爆２.０㎞　女　１５歳〕
（１３－２１－００４）

【死亡家族の概況】
①　２３／　２／２　父６６歳　貧血症　直爆０.９㎞（６３歳）　ある
②　５０／１２／９　母８１歳　脳出血　直爆２.２㎞（５１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕△△△△社３階にあった国防献金課の勤め先（９００米）で被爆し、机、椅子とともに飛ばされたが奇跡的に無傷だったが、その後体のだるさをよくうったえるようになった。食料難時代でもあり、医者にかようようなゆとりもなかった。

昭和２３年１月末△△△△社勤務中に倒れ、貧血症ということで１週間後急に死亡した。

中島本町で過ごし、心の故郷が破壊され、近隣関係もめちゃめちゃになり、長男

（長兄）が豪州関係のＢＣ戦犯容疑のためラバウルで死刑となり、心理的にもめいっていた。

昭和２３年で食料事情もまだまだ悪く、全国民等しく目標を失った生活をしており、原爆についてもプレスコードのためタブー化されており、白血病についても回虫病による貧血症とされていた。

援護対策が早ければ何とか生きられたのではないかと、今になっても残念である。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１３歳〕
（１３－３５－００２）

【死亡家族の概況】

④　２３／３／４　母４８歳　肺結核　入市（４５歳）　ある

⑤　２３／４／９　父６８歳　肺がん　入市（６５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕背中が痛い痛いと言って夜も眠ることが出来なくて、早く死にたいと、いつも鉄道のレールの所へ連れて行けと困らせた。食糧不足で食事も十分なことが出来なかった。

〔母〕何度も血を吐いた。子供達のことを心配して、自分の死が近づいたときも生きようとしていた。寝込んだその日から１年目に死亡。

６人家族が３人になった時、現在５２歳の弟が悪の道に入り、当時ヒロポン中毒、少年院から始まり、次はアル中、警察のお世話になりのくり返し、現在もアル中で入院させております。３０年以上、１日とて気の休む日はありません。運命とあきらめきれず、若い内は再生してくれるよういろいろと努力したのですが、今ではもうどうしようもありません。

戦争さえなかったならば、両親も兄も生きていてくれたならばと、このようなこと

ばかりの思いでした。でも今は、自分を見つめられる時は、お詫びの気持で、心安らぐよう前向きに生きて行きます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１９　兄１８歳　直爆１.０㎞　大けが・原爆症
②８／１９　従弟ＮＡ　直爆距離ＮＡ　ＮＡ
③８／１９　従妹ＮＡ　直爆距離ＮＡ　ＮＡ

〔広島　直爆２.０㎞　女　１４歳〕
（２３－００６６）

【死亡家族の概況】
①　２３／６／２１　妻３１歳　けが・心臓弁膜症　直爆２.０㎞（２８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕二階作りの家で、階下の部屋で下敷きになり、焼ける直前自力で脱出。全身傷だらけ、ほとんど裸に近い状態で避難。１０日に田舎へ帰郷。医者の話では生きているのが不思議なくらい。その後病気と生活苦で食べるものもなく、残る子供のことを案じながら死んで行きました。
〔三男：二世〕２３年２月に出生はしましたが、間もなく口、鼻、耳、肛門等から絶えず出血。２３年７月２７日、母の後を追い死亡しました。

余り若くてたくさんの子供を残して死んだ妻です。
こんな平和な時代が来るのなら、どんなにしてでも生きていてほしかった。生活苦、特に食糧難時代に家族、特に子供のために犠牲になり、死期を早めたように思う。今は子供もそれぞれ安定しているし、やはり残念でたまらない。

〔広島　直爆２.０㎞　男　３２歳〕
（３４－２７１３）

【死亡家族の概況】
②　２２／６／２３　父７４歳　病気　直爆1.5㎞（７２歳）　ある
③　２３／８／　６　母６１歳　病気　直爆1.5㎞（５８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕病気で２年間床につき、体にはしっしんがで、手の平に大きなあながあき、いつもうみのようなものがでていた。
〔母〕６ヵ月間床につき、亡くなる前は血をはき、下血をしていました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１６　姉２４歳　直爆距離ＮＡ　不明

〔広島　直爆1.5㎞　女　１６歳〕
（３８－００３０）

【死亡家族の概況】
②　２３／９／２１　義父４２歳　頸椎カリエス　直爆1.7㎞（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義父〕病気で亡くなったのですが、原爆症に他の病気が併発して、その病気がだんだん悪化して働けなくなり、収入がなくなることを心配しながら亡くなりました。

家族みんなが苦労しました。私も学校を卒業してからすぐ働き出し、弟達もそれぞれ自分に出来ることで収入を得ました。生きていてくれたらこんな苦労をしなくても良いのにと思いました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①９／ＮＡ　義弟０歳　直爆2.7㎞　原爆症

〔広島　直爆２.０㎞　男　１４歳〕
（２７−００４９）

【死亡家族の概況】
① ２２／１１／４　父年齢ＮＡ　肺結核　入市（ＮＡ）　ある
② ２３／１０／６　母年齢ＮＡ　卵巣悪性腫瘍　入市（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕投下直後入市。私を捜し求め、私を発見してからは担架にのせて疎開先（高田郡三田村）の家まで連れて帰る算段をし、そのあとは自分の教え子（鉄道教習所の教官をしていたので）が動員に行ったまま帰らないので、毎日捜し歩いていた。それから具合悪くなり床につき、仕事にも出られなくなり、２２年死亡するまで、私以下３人の子供はまだ小さいので、行く末を心配しながら死んで行った。
〔母〕２３年になって腹部に腫瘍（卵巣嚢腫ということであったが）。だんだん腹がふくれて大きくなり、父の死後小さい弟（小学生）妹（中学生）私（高校生）、兄もマラリヤで、生活苦の一家には母に入院させることもできず、相撲取りのような大きな腹を抱えた母の苦しみを少しでもやわらげようと、私達弟妹は交代でただひたすら母のおなかをさするばかりであった。
　父の一周忌を１ヵ月早く済ませた母は、私達に思いを残したまま父の後を追っていったが、今のような制度もなく、死ななくてもよい生命を失わせたことが心残りだ。

父も母も、援護対策が早くできていれば死なせることはなかった。入院もさせないまま息を引き取って行った父・母がかわいそうだ。
両親の死後妹は△△県に、弟は○○県の親戚に預けられ、私も高校を昼から定時制に変えて、昼間は働いたが、月給２５００円（昭２４年）ではどうにもならず、中途学業放棄、○○県に働きに来た。
父母存命なら兄弟ちりぢりになることもなく、私も学業を続けられたであろうし、一個の原爆、私達一家の運命を変えてしまった。

〔広島　直爆1.5km　男　15歳〕
（35−0197）

【死亡家族の概況】

② ２３〜２４／月日ＮＡ　父年齢ＮＡ　けが・病気　直爆８.０km(年齢ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後、私と父と土橋方面で学徒奉仕の女学生であった妹を捜して１０日間位歩き回ったが、ついに分からず、その後だんだん弱くなり寝たり起きたりを続け、だんだん尿の中に白い粉末が混ざるようになり、医師より骨髄と骨の一部が溶け出るとのことだった。Ｓ２３か２４年に骨がポキポキと折れ、死んだ。

もっと早く医師と治療法の対策が欲しかったことと、死に方に非常な恐怖感をいだいた。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①月日ＮＡ　妹年齢ＮＡ　直爆０.７km　ＮＡ

〔広島　直爆2.0km　男　24歳〕
（02−0025）

【死亡家族の概況】

① ２４／３／２３　母　２８歳　胃がん　直爆４.１km（２４歳）　不明
② ２５／６／２３　祖父６８歳　糖尿病　直爆４.１km（６３歳）　ない
③ ４９／１／１４　祖母７５歳　脳溢血　直爆４.１km（４６歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕３人目の子供（次女）を昭和２２年９月に出産。その後胃がんの手術を受けましたが数ヵ月後には再発し、２度目の手術を受けました。その時がんは他の内臓に転移しどうすることも出来ませんでした。がんだと気づいた母は次女の将来を案じ、父に子供のいない妹夫婦の養女にと頼み、母の願いを遺言として聞き入れた父は、１歳の誕生日を迎えた次女を義妹夫婦に託し、母が亡くなって１ヵ月後、養子縁組み届けを市役所に提出しました。（祖母から聞いた話）

〔祖父〕３年以上糖尿病や神経痛に苦しみ、イタイイタイ、早く死にたいと言いながら亡くなりました。（祖母から聞いた話）

〔祖母〕身体障害者の私を、母の発病後から昭和４９年１月１４日まで、ずっと世話をしてくれていた祖母は、脳溢血であっけなく亡くなりました。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　３歳〕
（３４－５９１０）

【死亡家族の概況】

①　２４／４／６　兄３４歳　原爆症　直爆１.０㎞（３０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕被爆後４年間苦しんで死亡。

被爆後三原△△病院へ入院。その間（３年）入退院をくりかえしていた。当時は医療が十分でなく、家族としては不安な毎日であった。

後頭部がわるい、いたい。と本人は言っていた。

私も２０歳で勤務が厳しい時代（当時休みももらえなかった）で兄に何もしてやれなかった。ただ背中をなぜてやるぐらいで、苦しい状態を察し涙するばかりであった。

戦地で死の境をくぐり、無事に故郷へ帰ったものの、原爆でなくなり、父母の悲しみ落胆をまのあたりにみて、日本はひどい戦争をしたものだと若年ながら思った。

〔広島　直爆３.０km～　男　１７歳〕
（３４－９０１１）

【死亡家族の概況】

① ２４／５／２６　父５２歳　病気　入市（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕２１年頃より、じんぞう病となり、以後寝たり起きたりがつづき、だんだんと悪くなり、３年くらい病んで１日に２度往診をしてもらうようになり、骨と皮になって亡くなった。

あの頃は原爆の検査もなかったので、死因はわからない。

私にとって父であるし、私を捜しにすぐに広島市内へ入ったのですまないと思うし、３年も病気をして生活は苦しくなって母も苦労をしたし、私はその後行きたい学校も行けなかった。病気をしないでもっと生きてくれたらとずっと思って来た。

〔広島　直爆２.０km　女　１３歳〕
（３４－６１０９）

【死亡家族の概況】

① ２４／６／２９　長男１９歳　けが　直爆２.０km（１５歳）　ある
② ５０／６／２６　夫　７３歳　脳軟化症・心不全　直爆２.０km（４３歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕一人息子が亡くなってからは今後どうして暮らして行ったらよいか。

いつも松葉杖にたより、食べる物もなく、歩くことが出来ないので運動不足、テレビもまだなく、本もみんな焼けてしまい、足が悪いのでただ毎日がバラックの中で青春もなく、今思うと、今の時代の少年は何不自由なく思う存分なことが出来ますので、ますます息子のことが不憫でなりません。一日も忘れることは出来ません。核戦争は絶対反対です。

朝早く弁当をもって学徒で工場へ行き、夕方におそくにやっと帰って来ましたが、家はたおれ家族は皆負傷、火傷でどうすることも出来ず、その夜おそく三次へ行き、手当てを受けました。

あのおそろしい原爆のため一人息子が、１４歳で学徒動員で大洲の鉄工所で原爆に遭い、工場つぶれ下敷きとなり、足など傷を受け、当時薬品もなく、長い間松葉杖で学校へ通学しておりましたが、ますます足が悪く、学校へも通学出来ぬようになり、退校しました。２２年頃から追々足のためすい弱、青春もなく楽しみもなく淋しい一生だったことが可哀想。

一生原爆さえなかったら、こんな淋しい生活でなく、孫もいて楽しい生活が出来たことと思います。今は淋しい老人です。

〔広島　直爆1.5㎞　女　４２歳〕
（３４－００４１）

【死亡家族の概況】

①　２４／９／２１　夫３２歳　胃潰瘍　直爆1.7㎞（２８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕夫が働かないと生活は苦しくなる。それ故家庭不和が生じる。夫はお酒にたよるようになり、乱暴者になった。その揚げ句胃痛を訴え、時々血をはくようになり入院したが、３ヵ月あまりで死亡。死亡診断書には（胃潰瘍）と記されました。

夫が亡くなった時点では私も原爆に対する知識が浅く、その上アメリカ連合軍指令部のプレスコードによって、我々大多数の被爆者は（見ざる、聞かざる、言わざる）の姿勢を余儀なくされたと思う。しかしながら１０余〔年〕も被爆者援護対策のおくれは、無情な政府の無責任極まる仕打ちと考えます。したがってそのため数字に現われない犠牲者のいることも認識してほしい。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２９歳〕
（２７－０２４４）

【死亡家族の概況】
② ２４／１０／１　父６６歳　病気　直爆２.０㎞（６２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕２４年９月２７日、畑で気分が悪くなって近所の人に連れて帰ってもらってから、吐気に苦しみました。原因が分からないので入院しようと頼んでいるうちに亡くなった。原爆症ではなかったかと先生がおっしゃっていた。
当時分からなかったが原爆症かと思う。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①１０／２０　父の従姉７５歳　直爆１.７㎞　不明

〔広島　直爆２.０㎞　女　年齢不明〕
（２７－０１３１）

【死亡家族の概況】
⑥　２４／１０／５　義兄３５歳　原爆症　被爆状況ＮＡ（３１歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義兄〕傷もやけどもなく、いたって元気そうだった義兄は、昭和２４年９月に原爆症でたおれ、身体全体に斑点が出来、その上歯ぐきはくさり、うがいをするたびに歯がぬけ落ち、とても見ておられないほどの苦しみでした。苦しみは１ヵ月ほどつづき、１０月５日に３人の子供達のことを気にかけながら死亡いたしました。

その義姉は、３人の子供をつれ、とてもつらい人生を送って来ております。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　伯母ＮＡ歳　直爆１.０㎞　圧焼死
②８／６　従弟１５歳　直爆１.０㎞　圧焼死
③８／６　従妹１３歳　直爆１.０㎞　圧焼死
④８／６　従妹１１歳　直爆１.０㎞　圧焼死
⑤８／１５　伯父ＮＡ歳　直爆１.０㎞　大けが

〔広島　直爆２.０㎞　女　２４歳〕
（０９－０００５）

【死亡家族の概況】
②　２４／１０／１９　父５１歳　けが・病気　直爆２.０㎞（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕父親はそれまで力いっぱい生きてきた。被爆でけがをしたが、くすりもなく、食糧もなく、なおしようがない。子どものためにむりをして野菜作りをしていた。

入院しなければならなくなり、身体がどんどん小さくなっていき、話す言葉も力がなくなっていった。子どもの成長を見とどけることのできないくやしみ、あわれ

さ、にくさが顔にでていた。

弟もなくなり、父親もなくなった。家族がバラバラになり、こういうことがなければと思うと、何のために生まれてきたのかわからない。

くやしく、あわれだ。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　弟１３歳　直爆０.６㎞　ＮＡ

〔広島　直爆２.０㎞　男　１５歳〕
（０４－０４０１）

【死亡家族の概況】
⑧　２４／１２／２４　長男５歳　病気　直爆１.５㎞（１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕主人の出征中のことで、戦後９月頃帰り神戸で親子が暮らすようになったけど、毎月医者通いしない月はなかったくらい子供が弱かった。高熱が出る。ペニシリンとかマイシンとか注射しないと良くならず、費用にこまり、わずか残った衣類を闇市で売り金にかえて来ました。

昭和２４年１２月２４日に亡くなりました。亡くなる前珍しく３ヵ月位医者にかからず、急に熱が出て１週間で亡くなりました。私にとってクリスマスは、一生忘れることがありません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／　６　甥　　９歳　直爆１.２㎞　爆死
②８／　６　姪　　７歳　直爆１.２㎞　爆死
③８／　６　叔父　６２歳　直爆１.２㎞　大けが

④8／　6　いとこ30歳　直爆1.2㎞　大けが
⑤8／　6　いとこ24歳　直爆1.2㎞　大けが
⑥8／15　叔母　60歳　直爆1.2㎞　大けが
⑦9／NA　兄嫁　35歳　直爆1.2㎞　原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　24歳〕
(28−0016)

【死亡家族の概況】
②　24／月日NA　母57歳　脳卒中　直爆3.0㎞（53歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕夫（父）の死。財産を失い無収入となり、長男の戦死、次男の復員、復学のことなど、生活の苦しさとたたかいつつ、娘達（私）と生きながらえていたが、ある日突然意識不明となり、1週間の間に、吐き、くだしをくり返して、死んでしまった。

その当時は原爆症ともわからず、単に脳卒中と片づけられてしまったけれども、その死までは変だったと思われる。

もっと早くから援護対策、医療対策が行なわれていたら、私どもの生活も少しは楽になっていて、いっしょにたのしい生活が過ごせたのにと思われる。

〔昭和20年内死亡家族〕
①8／6　父62歳　直爆0.5㎞　NA

〔広島　直爆3.0㎞〜　女　19歳〕
(27−0332)

【死亡家族の概況】

② ２４／月日ＮＡ　伯母２７～３０歳　結核　直爆1.3㎞（２３～２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔伯母〕私はこの伯母のもとにひきとられて、子守りなどをしながら中学に通っていた。
原爆の後、元気になったおばが急に弱くなり、結核になり、西条療養所に入院していて、そこで亡くなった。１歳と３歳の子を残して死んだ。
おばが入院により、子供のめんどうなどを私が見なければならなかったので、中学校にもほとんどいけず、中２で学校を中退した。

やさしい伯母だった。小さい子供をのこして死ぬなんて思ってもみなかったこと、多分原爆をうらんで死んだのではないでしょうか。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　祖母５５歳　直爆１.０㎞　圧焼死

〔広島　入市　女　１１歳〕
（３４－７１９４）

【死亡家族の概況】

① ２５／　３／ＮＡ　父６６歳　喉頭がん　　　　入市（６１歳）　ある
② ５２／１１／２３　母８６歳　高血圧・腎臓病　入市（５４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕喉頭がんでＳ２５年死亡。父は８月９日、３日目の早朝入市しました。母と同時、私を捜しに入市したものですが、父は終戦後の８月１７日農業の荷物をとりに海辺に行く時、右手を地雷でもぎとられました。

被爆と戦後の傷害は何の補償もされないまま、６６歳でこの世を去りました。

当時１９歳の兄に「△△えをたのむ！」と言って、末の子の私のことを案じながら声がとだえました。突然なくした右の手の不自由とがんの痛みの苦しみが、目の前に浮かんで来ます。抗がん剤もなく、効能のないペニシリンのみを、高価な費用捻出に母は頭を痛めていました。

やせほそってゆく父の姿に、何かよい薬はないか（薬の費用を心配しないで）、こんなにお金がかかったら私は学校に行けなくなるのではないかしら、あの頃に被爆者に対する援護法があったら、抗がん剤があったら、もっと治療が出来、長生きできたのではないか等思うと、胸がしめつけられる思いがします。

〔広島　入市　女　１２歳〕
（１３－１９－０３７）

【死亡家族の概況】

①　２５／４／２７　父５３歳　胃がん　直爆２.３㎞（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後の混乱の日々、他の多くの男達（家族を抱えた父親）は心身ともに傷ついて己のことを忘れたかのように、それぞれに生活、生きるために必死に働いていました。父もその１人でした。

２３年頃でした。平生こらえていた身体の不調を口にし、床に着くようになり、苦痛を訴えるように病状が悪化しました。母の看病は並大抵ではありません。知人、友人、医師と多くの方の力添えを得ましたが、癒えることなく逝ったのです。

被爆のショックはもちろん、父を失った悲しみは家族に死をも考えさせるほどに悲嘆の日々が続きました。父はその苦痛と家族を残して……その胸中は到底語れないほどつらかったろうと思われます。

被爆後、両親、兄弟、親子等々互いの最期を見とどけることなく亡くなられた方達の思いは、生涯脳裏から消えることはないと思います。まさに生きることが苦しみの中にあります。

生き残ったそういう方達に１日も早く援護対策が望まれます。苦楽は共にしてこそ喜びは大きく、また苦しみにも耐えられます。個人は家族あって、家族あって社会であり、社会が世界へと連なっています。人は皆死を迎えます、自然死、天変地異によって……。しかし、被爆死など人災は決して許さるべきことではありません！絶対に。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１０歳〕
（４０－１１１６）

【死亡家族の概況】

①	２３／３／ＮＡ	父６９歳	脳溢血・尿毒症	直爆２.６㎞（６６歳）	ある
②	２３／３／ＮＡ	姉２２歳	死因不明	直爆１.７㎞（１９歳）	ある
③	２５／４／ＮＡ	母55～56歳	死因不明	直爆１.７㎞（50～51歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕脳溢血で１０日間寝こみ、急に亡くなった。

〔母〕長男、次男、三男、長女（戦時中結核で死亡）を戦争で、また次女と夫を一度に失い、落胆して病弱となり、寝たり起きたりの生活を送っていたが、突然亡くなった。

〔姉〕被爆後身体が弱くなり３年間ずっと寝ていたが、父が死んだショックもあったのか、父と同じ日に、私が医者を呼びに行っている間に死んでしまった。

父は渡米したこともあり、終戦後は鉄道管理部で通訳をしていた。父や兄弟が生きていてくれたら、戦争がなかったら、こんなに貧乏することもなかったのにと思う。

父と姉が同じ日に亡くなったので大変なショックを受けた。

〔広島　直爆２.０㎞　男　１６歳〕
（３４－７２７６）

【死亡家族の概況】
①　２５／１１／１２　母７８歳　病気　直爆１.０㎞（７３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕元気だったのに、１０月２０日頃から突然あまり外に出なくなり、たいぎいたいぎい〔大儀〕といい出し、食べ物、おこげの臭い、おもち、氷水をほしがり、臭いがするものを吐き吐き、食べるものも食べれなくなって、病名もわからぬまま亡くなった。最期だったので病名もわからず、でも私は原爆と関係あると思ったし、胃がんではなかったかと思っている。

死に水にお酒を欲しがったので飲ませた。

たった１人の肉親も亡くなり淋しくなった。年をとってくると生きていてくれたらという思いが強くなる。

早い時期に亡くなったので原爆がとか病名すらわからないまま、それが残念です。

戦前はぜいたくな暮らしをしていたので、もとどおりの生活が出来るようになるまで生きていてほしかった。

〔広島　直爆１.０㎞　女　３３歳〕
（３４－７１２２）

【死亡家族の概況】
①　２５／１１／２７　母５５歳　貧血・心臓病　直爆３.０㎞（５０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕被爆当時廊下に立っていて全身に窓ガラスの破片をうけ、身体中まりのようにふくれあがって血だらけになり、軍の救護所で応急手当をうける(赤チンをぬるだけ)。

大きな破片は取り去り、母の実家のある三次へ行って療養。死ぬまで貧血と心臓病に悩まされながら、25年11月27日に急死。戦後2年ぐらいガラスの破片が皮ふの表面近くに出てくると医師に取り除いてもらい、いつまたという恐怖心を持っていたようです。「私はいつ死ぬかわからないから」と言って身辺はいつも整理していたのが、痛ましく思い出されます。

戦後の5年間すっかり健康を害してしまった母をみているのは、同じような苦痛を感じました。

もっと早く援護法が制定されていたらとも思いますが、それよりももっと大切なことは、再びあのようなことは繰り返してほしくないということです。

〔広島　直爆2.0㎞　女　21歳〕
(17－0116)

【死亡家族の概況】

① 25／12／23　長女17歳　化膿性胸膜炎　直爆2.0㎞(12歳)　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長女〕17歳の12月に風邪をひきまして10日ばかり休んでいましたが、急に発熱しまして、それが化膿性胸膜炎となりまして、半月ばかりの患いで泣くなりました。小さい時から病気したことのない娘でしたので、今にしてみれば、原因は原爆ではないかと思います。

〔広島　直爆2.0㎞　女　31歳〕
(34－3316)

【死亡家族の概況】
① ２６／２／１３　父５１歳　病気　入市（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕
○終戦後急に体力が弱り、脱毛あり。（救護のため被爆直後に入市、原爆症だったと思う）
○原爆の被害とも知らず、失業と病弱。多くの子供をかかえて生活苦。医療費なく満足に医師にも見てもらえず。２６年病死。
○５人いた子供は、生活保護を指定を受ける状態で、進学、結婚等も思うように行かなかった。

もっと援護対策が早ければ、父の治療も、生活の不安も、家族に対する心残りも無かったろうにと思います。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１３歳〕
（１３－２９－０１９）

【死亡家族の概況】
⑦ ２６／３／１９　母５１歳　原爆症　直爆０.９㎞（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕昭和２６年３月１９日に母が亡くなりました。この時は長男（台湾から引きあげで帰った）が母の面倒をみていました。長男の話では、母は大体に大がらな太った人だったんですが、やせひっこちになってしまってたようです。私はこの時三女を妊娠し、生活が苦しかったのでカンヅメ工場へ働きはじめていたので、全くみてやれませんでした。祖母がいましたので祖母にも面倒みてもらったでしょう。
　母の死の知らせを聞きましたが、葬式に出られませんでした。妊娠している時、

そういう悲しい場に出ない方がいいと言われていたので……。

でも可哀想でしたよ。

あれだけの子供を育て「ヤンキーの顔はみとうない」「子供を殺しやがって！」と〔言って〕いましたからね。四女は６日の朝「外で遊ぶよ！」と言って出たまま遺骨もないんですが、四女のことを「疎開させておけば会うことできたのに」と……。

四女は疎開させていたんですが、四女を疎開させ、母は四女が可哀想だといつも泣いて食事も食べない状態だったので、疎開先から四女を引きもどしたんです。そしてすぐ原爆に遭ったんです。

母は結婚してからそんなにゆう福でもなく、自分の反物を次々とたおして子供の服を作っていましたからね。そして貧乏のどん底まで落ちましたからね。

母には可哀想なことをしましたよ。

たくさんの子供を一度に亡くし、助けを求める子供も助けてやれず、ずい分苦しんだでしょう。ヤンキーをにくんでいましたから、とても可哀想です。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６	弟１４歳	直爆距離不詳	大やけど
②８／６	妹　９歳	直爆距離不詳	爆死
③８／６	弟　３歳	直爆０.９㎞	圧焼死
④８／２６	妹　６歳	直爆０.９㎞	大けが・原爆症
⑥９／１１	弟１２歳	直爆０.９㎞	原爆症
⑦１０／１	父５２歳	直爆０.９㎞	原爆症

〔広島　直爆１.０㎞　女　２１歳〕

（３４－７０７０）

【死亡家族の概況】

① ２２／６／ ５ 長男 １歳 腎臓 胎内被爆 （胎児） ある

② ２６／７／２３ 夫 ４６歳 肺結核 直爆２.４㎞（４０歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕Ｓ１９年９月結核のため野戦から入院のため帰還。仙台の陸軍病院に入院。２０年４月全快とのことで帰郷療養。６月から原職復帰。８月に被爆。

陸軍経理にいましたので被災者の救済、戦後処理などのため、大本営跡にテントを張り仕事をしていました（２１年１２月まで）。郷里に帰宅した時には非常に疲れて、別人格のようになっていました。もとより仕事らしい仕事も出来ないで、こんなことではと自らはげましはげましして働こうとしましたが、思うように働けず、子供達が次々病気をしますので心配しながら、とうとう２６年７月に亡くなりました。

〔長男〕〔私は〕被爆後胎内にこどものいることに気づくのがおそく、２１年４月に出産しました。生れてから死ぬまで（１年２月間）病気ばかりでした。１年経った頃からは病気が二つも三つも重なり、２２年６月亡くなりました。

主人の死は、完全に全快していなかった病気をおして職場復帰をして直後被爆をし、そのあとも戦後処理のための仕事に苦労をし、また自分の身体が病気の再発に苦しみながら転じた職業にもろくに恵まれず、貯えの全てを失って、失意のうちに亡くなりましたこと、ただすまないし、気の毒でなりません。子供もみな幼いし、どんなにか気がかりだったと思います。心身ともに原爆によってむしばまれたとしか思えません。直後の死でなかったので、戦死扱いもしていただけませんでした。

〔長男は〕胎内被爆などしていなかったらまともに成長して、家族全員の大きな力になっていて（男の子は１人でした）くれただろうと思います。

〔広島 直爆３.０㎞ 女 ３５歳〕
（２７－０３３６）

【死亡家族の概況】

③　２６／８／３０　父３３歳　病気　入市（２７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕病名がわからずじまいでしたが、長い間寝込んだ状態でした。

医者も病名をつけることが出来なかったようです。当時は原爆症があることなど、分からない時だったそうです。

私が６歳の時、父が亡くなりました。生きていてくれたらと未だに思います。原爆投下がなければ、生きていたでしょう。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①月日ＮＡ　おば　年齢ＮＡ　直爆１.０㎞　圧焼死

②月日ＮＡ　いとこ年齢ＮＡ　直爆１.０㎞　圧焼死

〔広島　胎内被爆　女　胎児〕

（０１－２０２４）

【死亡家族の概況】

④　２６／９／３　次女２０歳　ランドリー型脊髄前角炎　直爆１.５㎞（１５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔次女〕１.５キロ屋内被爆、無傷。６年間夏になるとなんとなく体の状態が不安定。ビ熱、歯ぐき出血を繰り返した。それまでは医師も驚くほどの健康だった。被爆後の広島の医師にはビ熱、歯ぐきの出血になんらの処置もなされなかった。

ある日急に、突然足にマヒがきた。マヒはたちまち手足の動きを封じ、言葉も不明りょうになり、だ液をのみ込むことも出来なくなり、発病６日間で死去。意識は

最後まではっきりしていた。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　長男１２歳　直爆0.7㎞　爆死
②8／7　夫　４９歳　直爆1.5㎞　大けが
③9／6　長女１８歳　直爆0.8㎞　原爆症

〔広島　直爆2.0㎞　女　４３歳〕
（３４－０００４）

【死亡家族の概況】

① ２３／２／１３　長男１８歳　胃潰瘍　直爆1.5㎞（１５歳）　ある
② ２７／２／１５　夫　５２歳　胃がん　直爆2.0㎞（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕△△△△△は動員学徒として爆心地より１.５㎞で（株）三菱造船で被爆し、家庭待機の命を受け帰宅途中で黒い雨に遭い（言葉では表せない気持悪さだったとか）夕方に帰宅し、無事を喜びあったが、間もなくのどがちぎれるような、胸がやけるようだとうったえ、闘病生活に入る。水がのみたい、水がのみたいと、口には入れれどこわく喉には入れなかった。

当時は手に入れにくい注射をしてもらうけれど、はかばかしくない。その後手足にむくみが出る。輸血を何度かする。した時に元気をとりもどす。自分は胃腸が悪いと思っているので、断食が胃腸に良いときき道場に入る。４食抜かす（普通人は３０食から５０食位する）とたちまち頭から毛がつるりと抜ける。我が家に帰り栄養をとらせる。胃腸病院に入院。やせるので胸ではないかとレントゲン、異常なし。非常に喜ぶ。なれど１ヵ月後には血便、血尿が出始め亡くなる（当時は原爆症と分からず胃潰瘍との診断）。

〔夫〕△△△○○は一人息子をなくし、体がだるいと変調をうったえていた。力を落と

したのも手伝ってか（夫が男泣きしたのは初めて）後を追うように亡くなる。

花も蕾で終わったわが子を思い、胸が苦しくて苦しくていたい。近頃では人前では泣けず、お墓に行って声を出して思い切り泣く。代われるものならかわってやりたかった。水も口をすすぐだけ、思い切りのませてやりたかった。

〔広島　救護　女　４２歳〕
（３４－０１３０）

【死亡家族の概況】
②　２７／６／２１　母５１歳　白血病　直爆１.０㎞（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕夫を失った悲しみ。
戦後の混乱の中での生活の苦しみ。
発病してからは、病の苦しみ。
被爆して後は、悲しみと苦しみの日々であったと思う。

死亡した昭和２７年という段階では、原爆病について何も知らされていなかったように思う。
もっと早く被爆者に対して医療の手がさしのべられていたらと思う。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　父４４歳　直爆０.５㎞　爆死

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２３歳〕
（１４－００９８）

【死亡家族の概況】
①　２７／７／７　弟１９歳　敗血病　直爆２.０㎞（１２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕体が弱り、心臓が悪く苦しんでいたが、突然に体が悪くなり、急に死亡した。

①原爆手帳をもう少し早くから出してもらっていたら……。
②もっと援護対策が早かったらと思う。

〔広島　直爆１.５㎞　女　２７歳〕
（３４－１５３２）

【死亡家族の概況】
②　２７／９／ＮＡ　母年齢ＮＡ　出血・下血　直爆１～１.５㎞（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕こぶが首すじに出来たり、それがきえると手首に出たりして移動した。
洗面器いっぱいに血をはいて、まもなく（２ヵ月弱にて）入院して、喀血して血がのどにつまり死亡。喀血して血がつまり、死亡。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　弟１３歳　直爆爆心地　爆死

〔広島　直爆１.５㎞　女　２１歳〕
（４３－０１１９）

【死亡家族の概況】
① ２７／１０／２１　父５４歳　腹膜後壁がん　直爆２.０㎞（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕原爆で家を焼かれ、見知らぬ田舎に帰り、６年目、体のだるさと食欲不振で急に体力が弱りました。戦中、町内のために警防団員として頑張った父でしたが、少しずつ寄せてくる体の異常に気づき、病院で診察を受けた時は「後壁膜がん」にかかり手術も出来ない状態でした。

何の援護対策もなく、家族も本人も苦しみました。原爆によるがんとは考えたくないと思いますが、やはり心の中には、今もって被爆者には、不安と恐怖を持ちつづけます。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１６歳〕
（２８－００７８）

【死亡家族の概況】
① ２７／１０／３０　妹７歳　自家中毒　胎内被爆（胎児）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕２０年１０月生まれで、すぐ病気（おでき）がひどく死にそうになり、やっと助かり、また２歳位の時もお腹をこわしてあぶない時があり、やっと小学校に入り、これで安心かと思ったのに、秋まつりの次の日、丸１日ももたず、熱と下痢、嘔吐が続き、間もなく意識不明でうわ言を言いながら亡くなりました。

一番下の妹だったので、本当に悲しい思いでしたが、生まれた時栄養が全然とれなくて、あわれな赤んぼうだったのを思い出します。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１４歳〕
（１３－１２－０５３）

【死亡家族の概況】
①　２８／２／１４　母６７歳　白血病　直爆1.5㎞（５９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕年末に風邪で寝込み、爾来元気回復せず。終わりには頭髪が抜け、体に紫斑が出る等、原爆症の症状が現われて死亡す。

〔広島　入市　男　３１歳〕
（１３－３１－０２１）

【死亡家族の概況】
①　２８／２／２８　父５１歳　やけど・胃がん　直爆2.0㎞（４３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕広島二部隊に所属していて直爆した。
そのため家族は、二部隊を中心に１０日間捜して歩いた結果、似島小学校に収容されていた。
けが、やけどが３８ヵ所位うけていた。
その後は７年間療養をつづけ、死を何度むかえたか分かりません。本人はもちろん、家族ともども毎日苦しんだ。
子供は小さいため、経済的にも大黒柱を失って、本当に苦しんだ。

父が被爆した時は、１８歳を頭に４歳まで７人の子供をかかえて、母は苦労した。
援護対策は何度厚生省に申請しても聞いてもらえず、却下された。

〔広島　入市　男　１５歳〕
（３４－３０１７）

【死亡家族の概況】
①　２８／８／１１　夫５０歳　腹部・胃のがん　直爆２.０㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕Ｓ２６年４月１８日　胃の手術
　　２７年８月　直腸の手術、同１１月　十二指腸の手術
　　２８年４月　腸の手術
　　２８年８月１１日　没

頑健な身体でしたが胃の具合悪くなり、水が口中に上がって来るようになり、診断の結果すぐ手術するように言われました。胃がんということで早く手術したのでよいと思ったのもわずかで、次々に再発、自ら進んで手術を受けましたが、ついに帰らぬ人となりました。

被爆後広島市内へ出かけたりしたので、私や子供より放射能をたくさん受けていてがんになったものと思います。弟３人戦死。自分は原爆に遭い、老母と私と子１人おいて死んで行った人の心中を思えば、生きていることを感謝せねばなりません。それにしても戦争はむごい。絶対にしてはならないものです。

中学１年の子と老母をかかえてどうして生きるか、それが先決問題でした。主人の扶助料を頼りに、したことのない百姓（田畑はあり）を見よう見まねでしてきました。

〔広島　直爆２.０㎞　女　３３歳〕
（２４－００７１）

【死亡家族の概況】
②　２４／　９／ＮＡ　姉４３歳　子宮がん　直爆２.５㎞（３９歳）　ある
③　２８／１１／２５　母７１歳　子宮がん　直爆２.５㎞（６３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕子供のことを心配しながら、働けないことを苦にしていた。

〔母〕死の不安、恐怖？におびえてか、死にたくないとくり返していた。

当時はがんで死亡する苦しみをやわらげる麻酔薬等が不足していたのか？苦しみに狂った様子、今でも思いだされる。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１２　義妹１９歳　直爆０.８㎞　原爆症

〔広島　直爆３.０㎞　男　２９歳〕
（１８－００１８）

【死亡家族の概況】
①　２９／３／３１　夫４４歳　肝臓　入市（３５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕主人は私と結婚する前は僧侶だったのです。広島の寺町のΔΔ寺というお寺の説教師だったのです。戦争がはげしくなって軍僧に志願したのですが、呉の軍港から船に乗って支那に渡ることになっていたのですが、米軍の潜水艦にやられ行くことが出来なくなり、徴用がかかり軍の敵前上陸の舟艇のエンジンのすえつけの仕事をしており、宇品内燃機関の会社で倉庫の主任もしてがっちりしていたのが、突然の出来事の原爆でぼうぜんとしてしまい、職を失い自分がこれから先の収入０で、僧侶になるにも寺町は全部あとかたもなく、自分自身を失いそうになってしまったのです。

あの誠実な主人がアルコールにも走ってしまいました。少しばかりあった衣類もそこをつき、８月６日以後軍の服を着せられて１ヵ月以上死体の処理に。私達３人は広島から（８月６日）１０年余り一歩も県外市外に出ませんでしたから、ガスをすいたいだけ吸ってしまったのです。主人は出血、頭髪もぬけ、肝臓をやられ、その毒素が脳をおかし、ばたくるったようになり、１週間の（市外）入院で亡くなり

ました。一銭の貯えもなく、心おきなくみとれなかったのがくやみ切れません。

２９年３月３１日より、私の人生はまた苦悩がおしよせて来たのです、２人の子供をかかえて。

思い出したくありません。生きてかえってくれるわけでもありません。美しいあの世で私達を守ってくれていることと毎日信じて今日まで来ました。仏様になっている方のことは、私の胸の中に私だけがしまっておきとうございます。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２５歳〕
（３５－０２０６）

【死亡家族の概況】
②　２９／１０／９　夫５９歳　胃がん　直爆０.９㎞（５０歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕検査に行ったところ、がんだということがわかって、暑い頃に入院し、まもなく亡くなった。

どうすることもできなかった。
死んでからがいけない。
さびしい。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　三女１２歳　直爆０.７㎞　爆死

〔広島　直爆１.０㎞　女　３８歳〕
（３４－７０７７）

Ⅱ. 昭和３０年代の死

【死亡家族の概況】
② ３０／１／２６ 父６２歳 リンパ腺腫 直爆1.2㎞（５２歳） ある
③ ５５／９／１９ 母７９歳 心筋梗塞 直爆1.2㎞（４４歳） 不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕リンパ腺のがんなので全身にまわり、みるみるやせてしまい、自営業で当時健康保険がなく、わずかなたくわえも入院費で使い、品物を売って入院費をつくった。家もなく一間の間借り生活でした。
〔母〕前の晩から胸がくるしいと入院し、夜中にあっという間に亡くなり、死に目にも会えませんでした。

今のように被爆手帳があったり、また国民健康保険があれば、もっと早く手当てを受けられたのにと、くやまれます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６ 長男８歳 直爆１.１㎞ 大やけど・爆死

〔広島 直爆１.５㎞ 女 ２１歳〕
（０８－００１７）

【死亡家族の概況】
① ３０／５／２５ 父６５歳 胃潰瘍 入市（５５歳） 不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕昭和２０年８月１０日、長男の安否を気づかって広島市に行き、帰宅直後から原

因不明の下痢、おう吐、発熱があり、およそ1ヵ月間床に就き、その後も身体の不調を訴えながら過ごしているうち、昭和26年突然吐血、以来ほとんど寝たきりの状態で、昭和30年死亡した。

昭和30年に死亡した父の症状について、当時被爆が原因とは考えてもみなかったが、今にしておもえばあてはまる症状が多分にあり、もっと早く被爆者検診等の援護対策が実施されていたらと残念である。

〔広島　入市　男　20歳〕
（34－1614）

【死亡家族の概況】
①　31／1／7　兄37歳　死因不明　直爆1.0㎞（26歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕けが、やけどのため長く通院しておりました。前夜まで元気でしたが（いつもの通りでしたが）朝起こしに行った時には、すでに亡くなっておりました。

父はすでに他界しておりましたので（兄を失い）一家の柱を失いました。

〔広島　直爆3.0㎞　女　14歳〕
（26－0040）

【死亡家族の概況】
①　31／2／10　父54歳　貧血　直爆2.0㎞（43歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕２㎞の地点で被爆した父は、私をさがしに１.５㎞の学校まで行き、手のつけ〔ら〕れぬ有様で仕方なく帰りました。中心地の放射能も吸ったと思います。

原因もわからず、とにかく眠れぬ夜が続き、ついに神経すい弱になり、顔色も青白くなっていました。精神病院にやむ〔を〕得ず入院して随分金がいり、家業の豆腐屋の原料を求めるにも困るほどになりました。

現代の年齢からいえば若くして死亡しました。原爆にやられていなければ、決してこんなにはと今でも思います。

仕事を捨てて帰郷した父は、馴れぬ豆腐製造の仕事をせざるを得ぬ状態で、体にも無理がいっていました。終戦後は電力も使えず、手で豆腐をひいて重労働でした。子供達も数おりますので大変でした。原爆のために私達一家は一変しました。神経を使い、肉体を苦しいほどに使い、病むに至ったのです。小学低学年の妹や弟を残し死んだものです。その頃は手帳も無くて、医療費をようようかまえたことでした。

〔広島　直爆1.5㎞　女　１５歳〕
（３９－０００５）

【死亡家族の概況】

④　３１／２／２７　弟３０歳　白血病　入市（１９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕被爆を境にからだが弱くなり、歯ぐきの出血、脱毛、脱力感、鼻血、歯そう膿ろう、めまい等で１０年間苦しみ、県病院入院後７０日間で亡くなった。

映画「生きていてよかった」のモデル。その後から白血病が話題になった。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／6　従兄　３０歳　直爆1.0㎞　圧焼死

②８／６　　従兄　２８歳　直爆１.０㎞　圧焼死
③８／６　　従兄嫁２８歳　直爆１.０㎞　圧焼死

〔広島　入市　女　２７歳〕
（３４－５８２９）

【死亡家族の概況】
③　３１／３／５　夫５３歳　病気　直爆１.５㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆いらいどことなく弱くなり、毎日ぶらぶらして２５年頃から床につくようになり、それ以来ねたりおきたり、床についてから５年位はねたきりになって、とうとう３１年の３月に死亡しました。その間の苦しかったことは忘れられません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１１　次女８歳　直爆距離ＮＡ　大やけど
②８／１５　次男９歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

〔広島　直爆１.５㎞　女　３６歳〕
（２２－０３５７）

【死亡家族の概況】
①　３１／４／　１　父６４歳　高血圧　入市　　　　（５３歳）　ある
②　５１／２／１６　母８１歳　病気　　被爆状況ＮＡ（５０歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕広島で被爆前は大阪の大阪商船に勤務していましたが、娘である私が家庭の事情で離別（夫）しましたが、娘と孫２人位育てると張りきり、知人の世話で広島の軍隊の酒保（兵隊のための売店）を引き受けました。

日頃はタバコも酒ものまず、清く正しくが口ぐせの父でした。スポーツ好きで、登山、水泳、テニスも人にまですすめるような人でしたが、被爆後は何事もつかれやすいようで、仕事をやる気もなくし、小鳥の世話やウサギ等を飼って遊ぶような日々でした。

財産等ない私達でしたので、それから私１人が一生懸命に働きました。それでもやる気等ないらしく、好きな山遊びもスポーツも目もくれず、ある日急に手足がしびれると言うので病院にみせたところ、高血圧と診断され、１３年間は半身不随でしたが、自分の事は自分でよくしてくれました。父はよく「おれが高血圧だなんて」とか「酒もタバコものまず、ヤセているのに」とかぐちばかり言っていました……。

今考えればもしかしたら被爆が原因していたのではないかと思われます。父は広島爆撃直後、人命救護、死体始末のため、毎日のように広島に出かけたり、近くの小学校に収容された方々の世話と、日夜働きました。

父も私も被爆した事さえ忘れたようでした（被爆という事を余り考えなかった）。

父の死については、ただ病気のため仕方がないと諦めていましたが、被爆というものがこんなにも影響するものならと、つくづく恐怖と不安を感じ、父に対しても自分の不注意がくやまれました。もっと早く被爆の怖さが分かっていたら、今少し永い命があったのではないかと思われました。

〔広島　入市　女　２６歳〕
（４０－００７２）

【死亡家族の概況】

①　３１／５／１９　義父６３歳　胃がん　入市（５２歳）　ある

②　５６／４／１４　義姉６６歳　膵臓がん　入市（３０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義父〕胃腸が弱く、いつも下痢などしていました。ある日突然に高熱を出し、内臓からの熱だと分かり入院しましたが、手術せず退院しました。が、しんどくなるばかりで思うように食事も進まず、苦しみました。地方のお医者に通ってもらって、注射をしてもらいました。その時には胃ににぎりこぶし位のかたまりが手にあたりました。どんどん病気は進んでいました。ふくまくまでがんは進んでいて、お腹ははれて水をぬきました。だんだん弱くなり、５回位ぬいた時に力つきて亡くなりました。腹がにがり、くるしんで亡くなりました。今生きていてくれたら、援護法の制定など１日も早くやってほしいと叫んでいることと思います。

もっと援護対策を早く制定してくだされば、兄嫁たちの死もうかばれて来ます。

〔広島　入市　女　１５歳〕
（３４－３３０５）

【死亡家族の概況】

⑤　３２／８／１７　父５１歳　肺がん　入市（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕中国から帰って中区寺町にあった家の焼けあとから３人の焼死体を掘り出し、また家にあったいろいろの品を焼けあとから掘り出しました。

父は会社の検診で突然に肺がんと言われて、４ヵ月位で死にました。

５１歳でしたのでまだまだ生きていてくらたらと思います。その死に方にも恐怖を感じ、私の弟も、私の主人も一度にタバコを止めました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　祖父７１歳　直爆０.５㎞　圧焼死

②８／６　祖母６６歳　直爆０．５㎞　圧焼死
③８／６　妹　１２歳　直爆０．３㎞　爆死
④８／６　弟　　３歳　直爆０．５㎞　圧焼死

〔広島　直爆３．０㎞　女　１６歳〕
（３４－０１１１）

【死亡家族の概況】
①　３２／９／２０　妹３６歳　白血病　入市（２４歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕家族員ではないが、実の妹が１９５７年９月に白血病で死亡。

妹は当時結婚しており、原爆投下後に入市して被爆した。被爆直後は何でもなかったが、Ｓ３２年９月２０日に３６歳で、白血病で激しく苦しんで死んだ。

医師から、あと３日の生命だと宣告されたが、激しく苦しむ様子を見るに耐えかねて、”このまま苦しませるよりも早く楽にさせる方がよい”と医師にたのんで早く死なせてもらった。それから１年間くらい、自分が殺したのではないかと責められる思いがした。

家族員ではなかったが、妹が白血病で死んだことについて、直接被ばくして大やけどを負った自分ではなく、入市被爆の妹が突然に死んだことで、かえって原爆のおそろしさをはだで感じた。

〔広島　直爆２．０㎞　女　３１歳〕
（３４－７２４２）

【死亡家族の概況】
① 28／12／25 父61歳 心臓病 直爆1.7㎞（53歳） ある
② 32／ 9／31 母62歳 肝臓病 直爆1.7㎞（50歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕1年間位寝たきりで、ボケがかなり進んでいたが、死因は心臓マヒで、苦しまずに死んだ。
〔母〕父が死んでから2回自殺未遂した。
身体の調子が悪く「早く死にたい」ともらしていた。身体がはれて、皮膚の穴から水が押すと出たりなど、苦しんで死んだ。

病院に十分かかれなかった時代だったので、もっと十分に医療を受けさせてやりたかった。

〔広島 直爆2.0㎞ 女 18歳〕
（01－0203）

【死亡家族の概況】
② 32／9／NA 父59歳 胃がん 直爆2.5㎞（47歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕2.5㎞、外にいてガラスの破片でけがをする。すぐに近所のお医者様へ行ってガラスをとりのぞいてもらって、けがの方はすぐによくなった。その後（隣組）のために毎日死体焼きをするのに働き、1週間生死不明の息子をさがしに市内を歩いた。その後28年位までは何も変化はなく元気でいました。
ある日とつぜん食欲がなくなり、胃がんとなり、5年間いろいろのところががんになり、入院・退院をくりかえし、とうとう死亡しました。
父の入退院をしたころは医療費が大変で、全部なくなったと母がよく言っていま

した。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　いとこ２０歳　直爆１.５㎞　爆死・大けが

〔広島　直爆３.０㎞　女　２０歳〕

（１３－２２－０４１）

【死亡家族の概況】

①　３２／１２／３　妻３７歳　白血病　直爆２.０㎞（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕昭和３２年の夏△△△保健所の行なった被爆者健康診断で精密検査を要するとの指示があり、住友××病院で精密検査の結果、白血病と診断され、直ちに入院治療したが１２月３日に死亡した。

入院からわずか３ヵ月で年盛りの妻に先立たれたことは、突然の悪夢と感じた。余りにはかなくて……あっと言う間に何一つ施す手だてのないまま……。

たとえ弱くとも生きていてくれたらと思います。

〔広島　直爆２.０㎞　男　２７歳〕

（３８－０１２７）

【死亡家族の概況】

①　３３／４／２９　次男１４歳　急性骨髄白血病　入市（１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔次男〕被爆1週間目、親族の者を捜すため妻は1歳の次男を背負って3人で入市した。被爆の状態は私は良く説明出来ん、おそろしいばかり。当時何とも感じなかったが、秋頃に鼻血や歯ぐきから3人とも時々血が出るが、3年位はつづいたと思うたが、原爆関係のものとはさらに思わなかった。妻も21年から2年あまり腸が悪く、ばったりねこんだが、原爆関係とは思わなかった。

次男が中学2年14歳の春まで元気で成長していたものが、突然腰が痛いと苦しみ出し、痛みが激しく、地方病院では分からず、広島市のΔ病院に連れて行った。院長先生が白血病じゃと断定された。自分らは被爆しとらんとつめよったが、直接被爆しとらんからと思っていた。ちょうど原爆病院がいっぱいで、通知をしたらすぐ入院せよとΔ先生に言われたが、通知のあったあくる日に白子のようになって死んで行った。

あの苦しんだことを思い出すから、こんなことは思い出したくない、書きたくないと思います。お世話くださる皆様には誠に申し訳ないのですが、年齢を重ねると余分に悲しくなるものです。

〔広島　入市　男　27歳〕
（34－0804）

【死亡家族の概況】

①	22／5／23	兄28歳	原爆症・けが	直爆2.0㎞	（26歳）	ある
②	33／4／ 6	母64歳	子宮がん	直爆3.0㎞	（51歳）	ある
③	33／5／ 2	父64歳	心不全	直爆0.7㎞	（51歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕広島工専の研究室で被爆しました。疲れると傷口から出血し、広島を離れて入院する手筈でしたが学校の都合でとりやめて、学校の復旧に尽力しましたが、病床についてからは病欠を理由に半強制的に退職を迫られ、1週間位後に29歳の生涯を

終えました。

〔父〕県庁に出勤途中大手町７丁目、８丁目万代橋付近の知人宅で被爆し、キセキ的に生き、一晩炎の龍巻の舞う河原に、７日夕方帰宅しましたが、あらゆる原爆症状が出ＡＢＣＣからたびたび呼び出され、仕事も病身故に思うようにゆかず、病苦と貧苦と屈辱の中１３年の闘病のあと６３歳で亡くなりました。

〔母〕自宅で被爆（牛田町）。主人と息子の看病に懸命に働いてくれましたが、子宮がんにかかり末期状態で日赤病院に入院しましたが、薬効なく６３歳で亡くなりました。

誰か１人でも生きていてほしかった。

私の収入では食べて行くだけで売れる物は売りはらい、それでも十分な手当てをしてあげられなかったことがいつまでも心に重くのしかかります。

〔広島　直爆1.5㎞　女　２３歳〕
（２２－０２３５）

【死亡家族の概況】

②　３３／５／２　夫６１歳　胃がん　入市（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕昭和２２年頃から身体が病弱となり貧血をおこすようになった。２４年～２９年頃まではやや元気になり働きましたが、３０年１２月初め甲状腺に不明の（ハレモノ）ができ手術の結果、始めは良質の（ハレモノ）のような医者の診断でしたが、結果は原爆〔ママ〕第二期症状と診断され、３３年５月２日、ほとんど全身をむしばんだ（がん）のため死亡しました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　養女１３歳　直爆1.5㎞　爆死

〔広島　直爆2.0㎞　女　39歳〕
（34−2519）

【死亡家族の概況】
①　33／7／9　父58歳　脳内出血　直爆4.0㎞（45歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕42歳の時第一回の脳出血で倒れてより、半身不随のまま、被爆してから約10余年生きながら、まがりなりに自宅を改造して歯科医療活動を続けていました。

被爆時技工室で硝子ビン等が多くあり、体全体にその破片が多く体内にありました。でも元来心臓が丈夫な父でしたが、歯の治療をしていて突然頭をかかえ倒れて一晩中苦しみ、翌日なくなりました。私は原爆のせいで死期を早めたと誠に残念でなりません。

〔広島　直爆1.5㎞　男　15歳〕
（27−0050）

【死亡家族の概況】

②	23／ 8／ 5	義兄33歳	やけど・けが・腎臓病	直爆1.0㎞	（30歳）	ある
③	25／ 9／ 2	姉　34歳	やけど・けが・病気	直爆1.0㎞	（29歳）	ある
④	28／12／11	義姉32歳	腹膜炎	入市	（24歳）	ある
⑤	31／ 3／10	父　71歳	骨がん	入市	（60歳）	ある
⑥	33／ 8／ 3	兄　46歳	肺がん	入市	（33歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕入市して肉親をさがし歩き、気が狂ったように夜も眠らずに何万体の死体を一人一人確かめて、毎日６日の日より何日間もさがし回り、秋には倒れて入院いたしました。口走ることは原爆の惨状をそばの者に言いながら、血を吐きながら、水ものどを通らずに息絶えてしまいました。

〔兄〕父と同じように、行動が同じで第２次放射線を浴びておりますので、仕事もつくに〔ことが〕出来ずに私が入院中に死にました。

〔義姉〕兄嫁も父や兄と同じです。

〔姉〕直爆で助かった方が不思議で、足首だけが土の上に出て掘り出されて、家につれて帰りましたが（牛田町）、寝たきりでとにかく食事がのどを通らずに苦しんで死にました。

〔義兄〕姉の主人も中心地の場所に勤務していて一時は助かりましたけど、ヤケドがひどくて３年間生きられたのが不思議なくらいです。

被爆後１３年間に６人の葬儀をいたしました。

どんなに悲しんでも、泣き叫んでも死んだ人は帰っては来ませんが、私達の被爆した人間の苦しみ抜いて生きて来た生き証人として、死んだ人達を無にしないで、こんなにも核の恐ろしさがあるということを、生命のある限りみなさんに訴えて行きたいと思っております。

こんなことは文章や、筆舌に言い表すことは出来ません。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①　8／6　母５４歳　直爆1.0㎞　圧焼死

〔広島　直爆1.5㎞　女　１２歳〕

（２８－００５２）

【死亡家族の概況】

①　３３／８／１１　夫６６歳　肺炎　直爆1.0㎞（５３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕主人は基町の兵器部で建物の下じきになり、一時人事不省になり助けられて、それから顔がはれて曲がっていたこともあり、その後だんだん健康を害して、パーキンソン病とて手足がふるえて来て、呆けが早く来たらしくて、それに精神的にも？〔不明〕って来て一日中ぼんやりしていて、夏風邪を引いた後肺炎となり死亡。

病気をしらぬ丈夫な人がもう少し長く生きていてもらいたかったと思います。

公職追放でつとめ口はなし、恩給は停止、本人も苦しかったと思います。子供達がそれぞれ働いて家計を助けて切りぬけました。

〔広島　直爆３.０㎞　女　４２歳〕
（１４－７０２３）

【死亡家族の概況】

② ３０／１／２０　母４７歳　腸閉塞　直爆1.6㎞（３７歳）　ある
③ ３３／９／１４　父６３歳　白血病　直爆1.6㎞（５０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕ある日急に鼻血が出てとまらなく、市民病院に行きすぐ入院。先生からは白血病といわれ、助からないといわれ、信じられませんでした。あれほど病気したことのない父が、本人は近いうちに退院できると言っていた。本当に３ヵ月後、全身の血管から血が出て、かわいそうでした。

〔母〕病弱で子供達のために一生懸命生きた、働いた母。食べられなくなり青い胃液をはいて、あまりの苦しさに死にたいと言っていました。

父母のことを思うと涙が出ます。もっといろいろと援護等があればあるいは助かったかもと……。

自分が苦しい時、生きていて相談にものってほしいし、また楽しいこともいろいろ

と知って味わってほしかったです。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／6　祖母年齢ＮＡ　直爆1.0㎞　ＮＡ

〔広島　直爆2.0㎞　女　6歳〕

（３４−５５７１）

【死亡家族の概況】

①　３３／１１／　１　母５１歳　胃がん　直爆2.0㎞（３８歳）　ある

②　６０／　４／１２　父８６歳　ＮＡ　　直爆2.0㎞（４６歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕死亡した時には、５人の子供の中３人結婚していて、あと２人学校に行っていました。上の弟がよわいので入院していたので、本当に毎日ないていました。死にたくないと毎日言いながら、くるしみながら亡くなりました。

兄弟が多かったので家庭のことが出来なくなってしまいました。母が亡くなって人生が変わりました。くろうをしました。今思えばよくやったことだと思います。

〔広島　直爆2.0㎞　女　１６歳〕

（３４−６１２９）

【死亡家族の概況】

①　３３／１１／　１　母５０歳　胃がん　直爆2.0㎞（３７歳）　ある

②　６０／　４／１２　父８６歳　病気　　直爆1.8㎞（４６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕胃がん、肝臓も何もかも。

ある日体の不調をうったえて医者に行ったら、もう手おくれで手のほどこしようもなく、もだえ苦しんで、下の妹が小さかったので最後まで死にたくないといって、みんなで泣いたこともあった。あの姿はもう見たくない。

〔父〕食道に穴があいて。

母が生きていてくれたら家族みんなが少しは明るい家庭が出来ていたと思う。

また、もっと早く援護対策が出来ていたら、病院での費用を心配せずにすんだと思う。病人が費用のことを気にかけて死んだことを思うと、残念でたまらない。

〔広島　直爆２.０㎞　女　１３歳〕
（３４－７０１０）

【死亡家族の概況】
② ３４／３／１６　夫４０歳　肝硬変　入市（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕酒の好きな人で酒はよく飲んでいたが、そんなに体に悪いほどのことはなかったけれど、亡くなる２、３年前から体が殊に疲労しやすく、肝硬変となり死亡する。

はじめは原爆には関係ないと思っていたけれど、遺骨が灰色であったのは、やはり原爆の影響があったと言われた。

４０歳代の若さで死亡したことは、今でも残念でならない。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　義父５４歳　直爆１.０㎞　圧焼死

〔広島　入市　女　２１歳〕
（３４－４１１５）

【死亡家族の概況】

② ３４／3／３０　父６２歳　肉腫　　　　　直爆2.5㎞（４８歳）　ある

③ ４７／3／　８　母６９歳　急性膵臓壊死　直爆2.5㎞（４２歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆を境にからだが弱くなっていったと思う。「にくしゅ」という病気でコバルトをかけながら、やせおとろえて死んだ。

〔母〕「急性すいぞうえし」という病気で、ある日急に痛みだし、１日で死亡した。

人の運命はわかりませんが、もう少しでも長く生きていてくれたらと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／１７　姉１４歳　直爆0.5㎞　大けが・大やけど

〔広島　直爆1.5㎞　男　１０歳〕

（３４－７１９７）

【死亡家族の概況】

④ ３４／4／２７　母６５歳　直腸がん　入市（５１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕心臓も弱くて働けなかった。直腸がんの手術（人工肛門をつけた）してからは一度退院したが、すぐ再入院した。毎日が苦しみの連続で、とても可哀想だった。いつも私のことを心配してくれていた。

お金が無かったので十分な手当てもしてやれないで、可哀想だった。

今でも気になって思い出す。

（母は〔被爆〕当日、祇園から子供達をさがして市内を歩き回った。）

援護対策が早ければ、十分な手当てをしてあげられたと思う。

自分の幼い時の傷を、母が死んでからもうらんだことがあるが、母としてみれば、私のことが気になってさぞかし心残りであったであろうと、今では思っている。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　　姉３１歳　直爆０.５㎞　爆死
②８／６　　弟１２歳　直爆０.７㎞　爆死
③８／１５　弟２５歳　直爆０.５㎞　原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　２６歳〕
（３４－７２５６）

【死亡家族の概況】
②　３５／３／１４　夫５７歳　脳出血　直爆２.０㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆後からだが弱くなり、２９年に職場を辞めなやんでいた。貧血の繰り返しで通院を続け、死の前後は広島原爆病院へ通院、貧血の薬を服用していましたが、３５年3月１３日突然脳出血のためたおれて、１４日の朝早く死亡しました。

生きていてくれたら今の平和を味わわせるのにと思います。たくさんの子供のために、病弱で苦労をかけて残念に思うし、もっと援護対策が早ければ病気も楽になおせただろうし本人の不安も軽かったのでは……といとおしく思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　長男１３歳　直爆１.０㎞　爆死

〔広島　入市　女　年齢不明〕
（３４－７１６５）

【死亡家族の概況】
① ３５／６／１０　母４６歳　胃がん　入市（３１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕私が高校進学時、上の姉２人が高２、高３と３人の学費を稼ぐため、母も働き始めた。そのうち疲労を訴え、医者にかかると胃がんと診断され手術をうけた。退院自宅療養中黄疸を併発し亡くなった。亡くなった時身体中斑点だらけであったことを記憶しています。
　生前母がよく口にしていたのは、私達に対して何もしてやれないことを悔しがっていました。私もまた現在の私の姿をみせることができないことを非常に残念に思っています。

〔広島　直爆３．０㎞～　男　１歳〕
（１７－００４７）

【死亡家族の概況】
① ３５／６／１２　父５６歳　胃がん　直爆３．１㎞（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕いつ頃からか、気がついた時には父はよく胃散を飲んでいました。△△で診てもらいましたら、胃より肺結核があるのでその方の治療を……ということで３３／秋三田の療養所に入所しました。ところが半年余の入所中もずっと胃の調子は良くなかったようで、結局３４／６月一時退院し、披済会病院で胃の精密検査の結果、はや胃に大きな「しこり」が出来ていて即刻手術し、３分の２をてき出しました。
　早くて３ヵ月、長くても１年と言われ、くしくもちょうど１年後の手術した日、手術した時間に亡くなりました。
　本人もがんと知っていたので、生きるためにいろいろな可能性に挑戦しましたが、一進一退を繰り返しながら、常に襲う痛みとたたかいながらついに力尽きたという

ような闘病生活でした。

口に出していうことはありませんでしたが、自分では原爆の影響を考えていたのではないかと思います。

経済的には男兄弟の無い長女の私に重責がかかり、結婚してあまり間のない夫が若い時だけに余裕もなく大変な思いをして助けてくれました。それだけにとても済まなさそうにいい、感謝しながら亡くなりました。

当時（Ｓ３３年頃）国として被爆者の健康に特別な配慮がなされていて、各医療機関に徹底していれば、△△での胃がんの見落としは無かったのではないかと未だに残念に思っています。結核治療の前に手術していたら助かっていたかもしれないと、命を縮めた父に申し訳なく思っています。一生懸命母を看病した父が先に亡くなってしまいました。

〔広島　直爆３.０km　女　１５歳〕
（２８－０１１５）

【死亡家族の概況】

② ３５／１０／１０　父７７歳　肺・胃がん　入市（６２歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕胃がんから肺がんに転移。

３４年の春までは農作業に精出していましたが、３５年春からは腹中に何かあると言っておりました。８月６日に広島へ行って原爆病院に診察受け、８月１８日にも原爆病院に診察を受け、その時１ヵ月後に家族と来るように言われたのですが、本人が耳が悪くて聞い〔て〕おらず、９月の末に衰弱がきびしいことを原爆病院医師に話しますとがんとのことでした。がんは△△医師より確認、１０月１０日亡。

父の生前の労苦〔に〕対し感謝申し上げます。

父あって私です。誠残念です。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１２　叔母４８歳　直爆０.３㎞　大やけど

〔広島　入市　男　１７歳〕
（３４－４７０８）

【死亡家族の概況】

①	３６／１／２５	義母６４歳	リンパ腺がん・舌がん	直爆１.２㎞（４８歳）	ある
②	４５／１／１０	義父８２歳	老衰	直爆１.２㎞（５７歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義母〕３３年頃から、のど、舌の奥がいたいといっていた。卵巣嚢腫を手術し、その後日赤で舌がんとわかった。Ｓ３５．７に手術したが２ヵ月後リンパ腺がんになり、コバルトをかけたが手遅れだった。最後は血液がんになり、全身がんで、リンパ腺の所から血がふき出してとまらない状態であり、安楽死を本人が希望した。

〔義父〕首の所にヤケドをしたが、その後は元気だった。最後は入院（前立腺）している間に食欲なくなり、むくんで死んだ（老衰による死と思う）。

義母の死は、とても可哀想だったと思う。

〔広島　入市　女　２８歳〕
（３４－５１３２）

【死亡家族の概況】

④　36／3／8　　祖母67歳　中風　直爆2.1㎞　(51歳)　　ある

⑤　38／月日NA　叔父29歳　NA　被爆状況NA（11歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕顔面にガラスが数不明に入っており、大きなものをとり除いたようですが、粉は残って（とり出すことが出来ず）おり、毎年夏になると汗が出るたびに「ジガジガする」といっておりました。

残った子供や孫のために働きづめに働き続け、何の楽しみもないまま貧乏のどん底で、まだ私も子供（死亡時高校生）のことで十分な看病も出来ず、医療も十分とはいえない状態で、今でも申し訳なく思っています。

〔昭和20年内死亡家族〕

①8／6　　叔母年齢NA　直爆0.0㎞　圧焼死

②8／6　　叔父16歳　　直爆距離NA　爆死

③12／NA　母　年齢NA　被爆状況NA　病気

〔広島　直爆3.0㎞　女　2歳〕

(34－5608)

【死亡家族の概況】

①　36／7／14　父　73歳　肝臓がん・心臓衰弱　直爆1.2㎞（57歳）　ある

②　50／3／29　義妹59歳　胃・肝・膵臓がん　直爆1.7㎞（29歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕町に住む私に食料を持って行く途中に被爆。その後私を捜して3日間市内を歩き

回った。

　胃に異常があると知らされてから、原爆症では……と不安な日々を過ごしていた。

主人が戦死して以来、やはり父が相談の相手だったのでさびしかった。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２９歳〕
（３４−７１９１）

【死亡家族の概況】

①　２１／　３／２１　妻２９歳　原爆症　直爆１.１㎞（２８歳）　ある

②　３６／１０／１２　母７４歳　胃がん　直爆１.１㎞（５８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕けがをして寝ていた自分もようやく起きられるようになったころ、急に３月１日から寝こんで２１日に亡くなった。

　髪が抜け、痛みははげしくなかったが、熱が下がらず、そのまま亡くなった。

〔母〕胃がブスブスするから診てくれといって、診てもらったら胃がんだった。本人にはがんであるということを知らせず、どんな薬でもいいからいい薬を使って長くもたせてくれと医者に頼んだ。手術はすでに手おくれだった。

〔妻〕まだ３０ではない、２９だと言いながら、その若さで死んだ。子供はいるし困ることは困った。

　妻が死んでのち、こんどは長男が原爆症になった。

〔母〕しかたがない、もう年だから。

〔広島　直爆１.５㎞　男　３４歳〕
（３４−７０８６）

【死亡家族の概況】
① ３０／１／１５　父５２歳　病気　直爆1.5㎞（４２歳）　ある
② ３７／３／１５　母５２歳　病気　直爆1.5㎞（３５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕３０年1月１５日、体の中にうじがわき自然に腐ってきて１週間前より熱があり、口の中より血をはくようになった。そのうち２、３日後血を３升ほど吐いた。あわてて病院に来ていただきリンゲルをやってもらった。死ぬ時にはおなかがはれていき苦しくなった。
〔母〕同じく３７年の３月１５日死亡した。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１５歳〕
（２７－０４６９）

【死亡家族の概況】
① ３７／１１／２７　父４８歳　肝硬変　直爆２.０㎞（３１歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕肝硬変で亡くなりましたが、それが被爆と関係があるのかどうかはわかりません。７月の末に入院して、１１月に亡くなるまでのことは、今でも思い出しても胸がしめつけられるような思いがします。父は最後まで意識がはっきりしていましたので、それだけ苦しみも強かったのではないかと思います。肉体的な苦痛はもちろんですが、自分が亡くなった後の家族のこと、４人の子供のことを、大変心配していました。

父が亡くなって２３年の月日が過ぎましたが、今でも父が生きていてくれたらと、やさしかった父の笑顔が浮かびます。肝硬変という病気は、お酒の好きな人に多いと聞きますが、父は全然飲めませんでした。今にして思えば、やはり被爆したことと関

係があるのでは、という思いがあります。

姉妹みんなで集まったとき、もし父が生きていてくれたら、母も私達４人も全然違った人生を歩んでいるだろうと話し合ったこともあります。

〔広島　胎内被爆　女　胎児〕
（２０－００４２）

【死亡家族の概況】

①　３８／２／１７　母５７歳　腎臓がん　直爆２.０㎞（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕父親がすでに亡くなっておりましたので、母が父の役割もしておりました。生活がすべて母を中心でした。体の不自由な兄もいましたので、そのことも現在私が母親の立場で考えてみても大変な心配だったと思います。とてもかわいそうな一生だったのではと、今母が生きていればいろいろと話を聞いてあげられたのにと悔やまれます。

５６歳の若さで死んでしまったので、もう少し７０歳位まで生きていてくれれば、それだけです。

〔広島　直爆２.０㎞　女　４歳〕
（１９－００１７）

【死亡家族の概況】

①　３８／３／１４　父　６７歳　直腸がん　直爆３.０㎞（４９歳）　ある

②　４７／４／２６　養母７８歳　子宮がん　入市　　　（５１歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕手術の後しばらくは元気を出していましたが、最後の１年はやけになったように無茶ばかりしていました。亡くなった時も原爆研究所〔ＡＢＣＣのことか?〕から来られました。親戚等も死因のわからないのが２名つぎつぎと亡くなられていて、被爆すれば必ずがんで死ぬと思い込むようになりました。

〔養母〕若い時子宮外妊娠で子宮は取っていましたのに、子宮がんで亡くなりました。一生病持ちのような感じの人生でした。

私も被爆しておりますので病に倒れたらあまり長くは生きれないと思っています。やはりがん等の病気におかされる気がいつも心にはなれません。気力でがんばっていますが、ほっとした時が大変だと今から不安に思っています。

〔広島　直爆３.０km　女　１７歳〕
(２８−００８０)

【死亡家族の概況】

①	２３／２／ＮＡ	妹	１６歳	るいれき	入市	（１３歳）	ある
⑤	３８／月日ＮＡ	おば	５７歳	がん	直爆２.５km	（３９歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕市女に入学した喜びもつかの間、首のつけ根にぐりぐりが出来、何ヵ月も床に伏し、元気のあった頃はすることもないので写経をして過ごしておりましたが、２月の寒い早朝、父の慰めの言葉「先に行っときんさい。お父さんももうすぐ行くからね」にうなずきながら永眠した。

〔おば〕戦争中父が海軍に応召したため、父のすぐ上の姉にあたるおばが（京城に看護婦として行っていたが、着のみ着のままで帰広し、実母が一番下の妹を出産した後死亡したので）我々４兄弟を見てくれたが、当時旧制広島高等学校の食堂を経営していたので、陸軍輸送隊のまかないを引き継いでいた。幸い屋内にいたので、当時

幼児だった一番下の妹ともども助かったが、戦後再婚し、八百屋の家業にリヤカーなどを引いて専念した。
　律儀、真面目、気の強い人だっただけに、戦前戦後の無理が重なって、全身ががんの転移で侵され、がい骨のようにやせるまで、昼夜の区別なく働き続けた。

　苦労の連続で幼い我々を育ててくれ、社会人となってやっと恩返しに温泉などへ案内しようと思っていたのに、全身がんに侵されるまでがんばったおばの人生がかわいそうで、また、残念でなりません。

〔広島　入市　男　１５歳〕
（３４－５７２１）

【死亡家族の概況】
①　３９／１／１８　父６３歳　脳動脈硬化症　直爆３.０㎞（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕皆実町の陸軍被服廠本部にて被爆、８月末まで敗戦処理のため安佐郡緑井の△△産婦人科に宿舎を移し、自転車で相生橋を通り皆実町まで通勤、多大の放射能にさらされたと思います。帰郷後１０数年間体の調子が悪くぶらぶらし、働けない無念さを感じたと思う。薬代が高く気にかけながら、２回広大病院に通院したぎりで帰らぬ人となった。もっと援護対策が早ければ、安心して治療したのではないかと残念でした。

〔広島　直爆３.０㎞～　男　１６歳〕
（３４－５７５６）

【死亡家族の概況】

②	35／12／18	母59歳	細網腫	入市（44歳）	ある
③	39／　2／29	父67歳	高血圧・尿毒症	入市（48歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕持病の座骨神経痛のうえ高血圧で尿毒症が重なり、母が5年前に亡くなっていて、生きる支えを失ったため。

〔母〕昭和35年、急に首のリンパ腺がはれ、医者に診察を受けたところ細網腫が肺の中に出来ていて手術不能で、またたく間に全身のリンパ腺がはれて、入院1ヵ月で亡くなった。

両親は昭和20年8月6日夜、静岡から海田市へ着いて、8月7日早朝広島の爆心地を通ってまだくすぶっている自宅の焼跡へ入ったため、死の灰を大量に浴びたよう。〔母は〕厚生省で原爆症の認定をした。

せめて母が生きていてくれたら、自分が受けている苦労を母と2人で分けることが出来るのにと、いつも思う。

〔昭和20年内死亡家族〕

①8／11　姉22歳　直爆0.8㎞　原爆症

〔広島　入市　女　17歳〕

（13－15－042）

【死亡家族の概況】

①	38／6／24	母	年齢NA	肺臓がん	直爆1.0㎞（年齢NA）	ある
②	39／4／25	弟	33歳	心臓麻痺	直爆1.0㎞（14歳）	ある
③	40／月日NA	祖母	年齢NA	事故	直爆2.5㎞（年齢NA）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕原爆一般検査で肺臓がんと診断され、広大附属病院に入院、約１年間入院し同所にて死亡。
〔弟〕商用で上京途中、国鉄列車寝台車内で死亡、３３歳。

母について……母の姉は神戸市に在住。本年８４歳で健康。原爆投下がなければと残念、無念。

弟について……小生が当時手に入れた食用油でケロイドもあまり目立たなくなったのに……。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１６歳〕
（４０－０５７２）

【死亡家族の概況】

①	２２／　３／２２	次男	６歳	やけど・下痢	直爆３.０㎞	（４歳）	ある
②	３９／　８／　１	夫	６３歳	胃がん	直爆３.０㎞	（４４歳）	ＮＡ
③	５３／１２／１２	母	８６歳	老衰・子宮がん	直爆３.０㎞	（５３歳）	ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次男〕原爆で耳をやけどしており、また下痢をするので病院通いをしておりましたが、薬も思うようになく、だんだんひどくなり、耳だれが出たり、また化のうしたので日赤病院で手術をしましたが、３時間後に死亡しました。

下痢の度に、ポンポが痛いから固い御飯が食べたいと泣いておりました。未だにそのことが頭から離れません。
〔夫〕胃がんで手術し８ヵ月入院し、退院し県庁に勤めておりましたが、再発し今度は手術が出来ず、下痢がひどくなり、西瓜が好きだったので小さく切って食べさせると、西瓜は大きく切らぬとおいしくないと小言を言って困らせたものです。
〔母〕老すい。

〔広島　直爆３.０㎞　女　３３歳〕
（３４－０２６７）

Ⅲ. 昭和４０年代の死

【死亡家族の概況】

② ４０／１／１４　母６５歳　貧血・心臓　直爆１.５㎞（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕原爆直後、急性症状になやまされ薬もなく十分な治療もできず、また、Ｓ２０年１２月２５日未明には一家の大黒柱の夫を亡くし、新築された工場経営も不能となり、売掛金や工場売却代金も完全に集金できず、預金は全て封鎖され、物価急上昇のため４００年続いた住みなれた広島を離れ、見知らぬ土地で野菜一つ買うにしても何もないの上、お金だけでは買えなくて品物とお金を要求され、電灯〔の〕ない山奥でランプの生活、また、飲み水は山の下の民家に貰い水して汲みあげ搬入するような天地のひっくりかえったような生活を送り、子供の学費や生活費に困り（封鎖された預金は人数割当ての額しか引き出せず）１８歳を頭に学生、学童ばかりで働く術もなく、十二指腸潰瘍を患い、だんだんと弱り貧血となりいつも原爆症の不安や恐怖におびやかされ、ある日突然心臓麻痺で死亡。いつも子供の健康や病気、結婚や二世への影響を気にしていました。腰痛にもよく耐えていました。

原爆直後は急性症状やその後も十二指腸潰瘍、貧血になやまされながらも、いつ〔も〕やさしく子供や周囲の方々のことばかり気にして、何不自由のな〔い〕生活から貧のどん底の生活へと陥り、本当に家族みんなが苦楽を共にしたのですが、残る者の健康、病気、結婚生活を心配し続けて、恐怖や不安をいだきながら死亡しましたが、もし生きていてくれたら小額にしても健康管理手当も支給されたでしょうに、少しは気を休めることもできたでしょうに。最も早くから援護法の実現を望みながらも

制定を見られなかったは非常に悔しく悲しかったでしょう。よく御近所の方から「あのやさしかった仏様のようなおばあちゃまが亡くなられたのですか」と声をかけられる度に、罪もない人間の死、原爆故と思うと悔しくてなりません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①１２／２５　父５９歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　１５歳〕
（４０−０７４０）

【死亡家族の概況】
②　４０／2／２３　父６５歳　胃がん　入市（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕長女を捜すため、爆心地より１．５㎞以内を２日間にわたり歩き回った。その後胃の具合が悪く、市販の胃薬を常用していた。胃がんになったことに気付かず、発見した時は手遅れであった。

父は死亡するまで、被爆していることを子供達に言ったことがない。そのための治療もしていなかったと思う。援護対策が周知徹底していれば、もっと長生きをしていたとくやまれる。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／１２　妹１３歳　直爆1.5㎞　大やけど

〔広島　直爆3.0㎞〜　男　１6歳〕
（４４−００69）

【死亡家族の概況】
① ２１／８／２０　父５３歳　肝硬変　　直爆４.０㎞（５２歳）　ある
② ４０／９／１８　夫４５歳　大腸がん　入市　　　　（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕２１年春頃から体がだるく、お腹に水がたまりパンパンにふくれ、食欲がなくなり、自分で起きることもできなくなり、ひどく苦しみながら残る家族のことを心配しながら亡くなりました。
〔夫〕亡くなる１年位前から便にせん血があったらしいのですが、会社の検診にも－（マイナス）だったりしてわかりませんでした。病気が進むにつれて痛み出しましたので、８月下旬に入院しました。いろいろな検査をしてもわからないので手術をしてみてがんとわかりました。その日からだんだん悪くなり、下からたくさん出血し出しましたので、止血してもらったり、輸血をしても受け付けなくなり、最後に肺炎になりました。子供のことを心配しながら苦しんでなくなりました。先生に入市の話をしましたところ、関係があるようにいわれました。

〔広島　直爆３.０㎞～　性別・年齢不明〕
（３４－5565）

【死亡家族の概況】
① ４０／１２／２０　兄５８歳　がん　入市（３８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕昭和３８年３月頃胃がん発病、広島日赤病院入院手術。その後一時退院。昭和４０年９月再発、肝臓に転移、広島原爆病院入院。７０㎏あった体重が３０㎏に減少。痩せ衰えて意識朦朧、全身の痛みを訴え、苦しみながら昭和４０年１２月２０日、同病院で死亡した。

兄の死亡によりその一家が経済的にも精神的にも崩壊した。

〔広島　直爆2.0㎞　男　29歳〕
（35－0055）

【死亡家族の概況】
①　40／12／22　母60歳　心不全　直爆1.8㎞（40歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆時は1.8Kの楠木町に私たち子ども4人と住んでいました。父は昭和19年日本製鋼所で労災死していました。父の死で会社から出た1万円の謝礼金は手もつけず、そのまま郵便貯金をしていました。当時の生活は母と長女の私で細々ではありますが支えていました。被爆時母は41歳、私15歳、妹13歳、妹5歳、弟1歳半でした。

私は勤務の途中、広島駅構内で被爆し、そのまま日頃打合せていた三次にその日のうちに避難しました。母は近所の三次製紙工場で、つい下の妹は同じ町内の田村ゴム工場で働いていました。下の小さい妹と弟は母方の祖母といっしょに家で留守番をしていました。小さい妹と弟はあの閃光で前側全部やけど、働いていた妹は不思議と無傷でした。母も打撲で顔の半分黒くなってはいましたが、傷はありませんでした。1週間後、三次に家族全員打合せの所に帰って来ました。途中安古市の方で黒い雨に逢いさんざんな目にあっていました。

帰った田舎での生活はすさまじいものでした。父の残してくれた1万円も一文も手に入らず、郵便局員に預けた通帳番号は紛失したといって手続きをしてもらえずそのままです。当時の1万円、いまの金にしたらと思うと不親切な局員に今でも腹がたってなりません。無一文になった母は4人の子どもかかえ、なれない農業と男と同じ山林仕事に、食べるものもない時つけものとお茶で頑張りました。その結果昭和37年吐血し、広島の原爆病院で胃を摘出しました。心臓がひどく弱り手術も危ぶまれましたがなんとかその手術は成功し、3年生きのびました。でもその後はひどい貧血と高血圧で医者から手のはなれることはなく、40年の12月22日、誰にも看取られず心不全で死亡しました。

とても自分にきびしい、そして人に対する思いやりのある母でした。人をうらむことは一切しない人でしたので、あの１万円のことも自分の星が悪かったといってあきらめていました。

家族みんなのために苦労して死んだ母はとても安らかなきれいな顔をしていました。その時大やけどをした妹も弟もそれぞれ結婚し、子どももできました。小さい妹と弟の将来を案じて死んでいった母だけに、今生きていたら孫にかこまれて幸せだろうにといつも思います。

母はよく本を読み、若い人と話すのが好きでした。若い人の友達も多くあり、私の子どもや子どもの友達も、来る時はグリコをよく持ってきていたので、グリコのバアちゃんで人気ものでした。今でも生きていたら私といっしょに語り部として二度と核兵器で人が苦しまないための努力をしたであろうにと思うと、母の一番の希いが実現しないまま死んだのが残念です。

だから私は母の心を実現さすために頑張りたいと思います。

〔広島　直爆２.０㎞　性別不明　１６歳〕
（３４－５０２７）

【死亡家族の概況】

①　４１／２／４　父６４歳　肺がん　直爆１.０㎞（４３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後、通常の生活をしておりましたが、顔や体中にキズ跡が残り、ガラスの破片が耳、顔、足、腕の何ヵ所にも死ぬまで残っておりました。死ぬ直前には、白血球が減り、高熱が続き、水漬けのような状態で、口の中はただれ、薬も飲めませんでした。

ＡＢＣＣ病院が、２度も検査をしたのに、全く治療の方法を、また、自分の健康状態のことを知らせてくれないことに対して非常に怒っておりました。

亡くなるまでに、せめて、ガラスの破片をとってあげてヒバクのケガの跡をなくしてあげたかったと思います。

〔広島　直爆３.０km　女　１１歳〕
（１３－１６－０４４）

【死亡家族の概況】

① ４１／３／２３　父６９歳　喉頭がん　入市（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕最初頭髪が抜けたり身体がダルイといってぶらぶらする、仕事をせぬ日が続いていたら尿から血が出るようになって入院し、広大で胆石の手術を受け身体が弱りました。歯も悪くなって抜歯して義歯にし、かみ合わせが悪く口内に傷ができ、それがもとで喉頭がんになったのか唇の肉が突出してとても苦しみ、見る目もいやな程でした。最後に△△病院で全身にがんが広がっていると言われ入院しても駄目と言われ、家に連れ帰って１０日ばかりして死亡しました。７、８年も病院を替えて入院生活で生計も困難となり、苦痛は筆舌に尽くせません。

こんな苦しみに苦しんで死んだ人のためにもっと早く援護の手が差し伸べられなかったか、今頃位の手当でもあれば助かったものをと残念でたまりません。

〔広島　入市　女　２４歳〕
（３４－１０１２）

【死亡家族の概況】

⑥	２５／１２／１３	父７２歳	脳溢血	入市	（６７歳）	ある
⑦	３２／　８／１３	母７２歳	胃がん	入市	（６０歳）	ある
⑧	４１／　４／２７	兄５４歳	急性脊髄白血病	直爆２．０㎞	（３３歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父母〕まだ原爆被害ということを知りませんでした。まだそんなに恐ろしいことと思わない時でした。

父は前より心臓病で苦しんでおりました。母は働き者でした。

父母は長女〔が〕横川町１丁目に嫁に入っており、それを尋ねにまた横川の屋敷で鍬で焼跡をはねかえし死体をそこで焼いた（義父鉄棒の下敷き）。

それより母は病弱で気力もなく真青い顔をして寝てばかり、歯が全部抜け入歯となる。１０年余りして自分も胃がんと知り死ぬ。

〔兄〕当時逓信病院の薬局におり、無きずのため人々を助け治療をして回っておりました。元気でしたが、だんだんと顔色が悪くなり、自分では原爆症だということを知っておりました。不安と恐怖におびえて、原爆症というものはこんなに苦しいものかと言っておりました。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６	夫	３３歳	直爆・爆心地	圧焼死
②８／６	姉	３３歳	直爆２．０㎞	爆死
③８／６	姪	１４歳	直爆１．０㎞	爆死
④８／７	義父	６０歳	直爆１．０㎞	大やけど
⑤８／８	姪	９歳	直爆２．０㎞	大やけど

〔広島　入市　女　２８歳〕

（３４－６２９６）

【死亡家族の概況】
① ４１／１１／２７　夫５３歳　心不全　被爆状況ＮＡ（３２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕除隊後、入退院の繰り返しで月半分しか勤務できない生活を。死ぬ前は２年間は休業。ケガや歯の治療には、いつまでも出血が止まらず、最後は心不全でアッというできごとでした。

本人の元気になりたい一念で懸命に治療を受け精神力をつちかって努力してもむくわれず、子供のことを大変心配していた。〔被爆当時の〕ヤケドで全身焼けタダレ、日赤のベッドもなく毛布だけの中で亡くなられた人に比べれば、家族に看取られたことは幸せとは思いますが。

今後絶対、このようなことが起きてはならないと思う。

〔広島　入市　女　２２歳〕
（２７－０１７８）

【死亡家族の概況】
② ４２／７／４　夫５９歳　胃手術中原因不明　直爆２.０㎞（３７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕病気がちになった主人は週１回通院しながら、農業しながら山林仕事、酪農と現金収入になることはなんでもやり、医療費学費に苦しみ無理をして、とうとう昭和４２年7月４日、広島市の△△病院に入院してその日に手術中に原因不明のまま死亡しました。やはり直爆して体をこわしていたのでしょう。

残っている家族のために苦労して死亡しましたが、もう少し長生きしていてくれたら援護対策ができて、あんな苦労もせず、病気治療ができたと思いくやまれます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　次男１３歳　直爆１.０㎞　爆死

〔広島　入市　女　３５歳〕
（３４－１５７７）

【死亡家族の概況】

①	３１／１／２５	父７６歳	病気	直爆距離ＮＡ	（６５歳）	不明
②	４３／１／１７	母８１歳	脳溢血	直爆１.５㎞	（５８歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕２７年頃より体が弱り、２８年頃より左肩より首に向かって穴があいたようになり、くさっていった。
〔母〕のういっけつ。被爆の時家屋の下敷きになり、足を２ヵ所の切傷をして、歩行が困難であった。

父も母にもなにもしてやれなかった。もっと早く援護対策が早ければ良かったと思う。

〔広島　直爆１.５㎞　男　１４歳〕
（４０－０３８８）

【死亡家族の概況】

①	２９／１１／２６	兄２７歳	胃がん	入市	（１８歳）	ある
②	４３／　１／２４	父６８歳	心筋梗塞	直爆２.５㎞	（４５歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕だんだんやせていった。

かぜ気味で体具合が悪かった。血圧も高かった。

朝元気で仕事に出たが、職場で倒れそのまま死亡。

〔兄〕東京の大学に在学中。

胃が悪い悪いと言っていたが、ある日入院。胃の幽門部にがんがあり、腹膜に転移。1ヵ月の入院の末、何も食べられないようになって死亡。

〔広島　直爆2.5㎞　女　11歳〕
(34－5629)

【死亡家族の概況】

② 43／5／22　長兄64歳　腸がん　入市(41歳)　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長兄〕昭和42年12月頃、寒い雪の降る日でした。突然気分が悪くなりたおれ、国立病院へ入院しました。血圧も高く、いろいろ手当てを受けましたがますます悪くなるばかり、腸の方もだんだん悪くなり(年老いた母と、自分の子供が戦後にできたおそい子どもだったため結婚もしていなかったので、とても心配しながら)5ヵ月ちょっと入院後死亡いたしました(腸がんだったとのこと)。入院中ももう一度元気になりたいと苦しんでおりました。

(今でも目に浮かぶことは、喉にたんがつまり、それを1人で出すことができず取って上げるのが大変でした。早く取らなければ息ができなくなるので急がなければいけません。もう二度と見たくありません。)

長男であり、年老いた母と妻と女の子2人をのこして先に死んだ兄がいとおしく、どんなにか母が心細い思いをしていたことか、たよりにしていた兄が先になくなり、残念でたまりませんでした。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／２８　兄３７歳　直爆1.0㎞　原爆症

〔広島　入市　女　１8歳〕

（３４－０493）

【死亡家族の概況】

①　４４／2／１４　夫４9歳　肺炎　被爆状況ＮＡ（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕被爆後、高熱が永い間つづきました。体のあちこちにハレモノができ、ウミが出ていました。また、ガラスのはへんも出て来たりして、病院にて手当てする。カミはぬけ口ははれて血が出ていました。

治ってからも鼻血は出ていました。とてもつかれやすくて仕事のひまを見ては横になってやすんでいました。

〔広島　入市　女　２５歳〕

（３４－３０３２）

【死亡家族の概況】

③　４４／2／２２　妻４６歳　再生不良性貧血　直爆1.8㎞（２２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕Ｓ４３.１２　勤め先で急に気分が悪くなり、病院（△△町××病院）でみてもらったら再生不良性貧血といわれすぐ県病院に入院。毎日毎日輸血でお正月も家に帰ることができませんでした。輸血用の血液は子供が友達に依頼してくれたので心

配はいらなかったが、４４年２月、約３ヵ月で生涯を終えました。

突然の病気で医者から病名をいわれ、だめだといわれた時には涙が出て体が震えました。亡くなった時には涙が出ませんでした。つくすべきことはすべてしましたので、その点では悔いはありません。考えてみると原爆は恐いものです。亡くなるまで意識ははっきりしていました。

私の入院の都度、付き添って看病してくれ、病気の看病ばかりで苦労をさせました。２人の子供の結婚も見てませんのでそれが残念です。孫が「おばあちゃんはどうしておらんの」と聞いたりしますが、いてくれたら子供、孫もいて楽しい家庭になるのにと思いますが。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　父４１歳　直爆1.6㎞　圧焼死
②8／9　母３９歳　直爆0.8㎞　大やけど

〔広島　直爆1.5㎞　男　２４歳〕
（34－7126）

【死亡家族の概況】
④　４４／２／２６　母７４歳　多発性骨髄肉腫・がん　入市（５０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕１０日後の入市ですが、市中を家族を捜して歩き回り、〔爆心から〕８００ｍの自宅跡を掘り起こし、遺骨の収集等に努めたので、以後、貧血、白血球減少が続き、息子の医院宅で養生につとめたので寿命は保てましたが、多発性骨髄肉腫、すべての内臓のがんと悲惨な最後であった。

直被〔直接被爆〕の上に、母同様の動きをしている私も、母と同じ病気、死にざまになると思うと、恐怖はぬぐえない。

即死の３人のことよりこのことの方が重大で念頭をはなれない。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　父５９歳　直爆０．８㎞　圧焼死
②８／６　姉２８歳　直爆０．８㎞　圧焼死
③８／６　弟１３歳　直爆０．８㎞　圧焼死

〔広島　直爆2.0㎞　女　１７歳〕
（３４－００１８）

【死亡家族の概況】
①　４４／3／１１　父６３歳　肝臓がん　救護（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕親父の代から漁業を生業としている私の家は、皆元気だと喜んでいた矢先、父は急に調子が悪いと言うので地元の医院に入院しました。診断の結果、肝臓がんという最悪の見立てでした。それから１ヵ月、身体は衰弱しきり、ついに骨と皮のガイコツ状の有様でなくなりました。医師も原爆から受けた後遺症と書きましたが、学校に救護に行き、２４年も経た今日でも、と余りにもそれまでが健康だったこともありまして、家族一同驚きました。
当時親父は６３歳で、私から見ればよほど年寄りに思いましたが、その親の年になった私は、若死だったと痛感します。戦後苦労し、良い時代を知ることもなく他界して、父を思う度に夜などは涙が出ることがあります。

〔広島　入市　男　２２歳〕
（３４－５２５１）

【死亡家族の概況】

③　３５／月日ＮＡ　弟３１歳　病気　　　　　　　入市　　　（１６歳）　ある
④　４４／８／２８　夫４８歳　食道がん・脊髄がん　直爆１.０㎞（２４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕奇跡的に助かったが病気がちで、昭和４２年にがんの診断書で認定を申請したが、一年後に却下された。死ぬまで国が認めてくれなかったことを無念に思い、口ぐせのようにくやしがっていた。死ぬ半年前にも両手、両指の変形を理由に再度、認定を申請したが間に合わなかった。

原爆ですぐ死んだ人よりは幸せであろうが、２０年間苦しんで死んだ夫も可哀想である。４８歳である。まだ生きていてくれればとたびたび思う。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　妹１８歳　直爆０.８㎞　大やけど
②９／６　妹１４歳　直爆０.６㎞　圧焼死

〔広島　入市　女　２４歳〕
（４０－０８２６）

【死亡家族の概況】

③　２３／１０／１１　母４６歳　原爆症　直爆１.５㎞（４３歳）　ある
④　４４／１０／２６　父６８歳　腸がん　入市　　　（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕Ｓ２１年に部落の友人から帰れと呼びかけていただき、ここに帰り、公会所をかり、とうぶんここにて生活し、食べる物は庭先にて南瓜作り、またぬかダンゴのような物作り、それはそれは今の食べ物とは考えのつかない食事。栄養不足にて、２５年には腸へいそくをわずらい、退院したと思えば腸チフスにかかり、それからと

いうものはいろいろな病気になり、（夏はウドン、冬は餅）との食事が続きました。御飯１粒も食べられなかった。４３年頃から床につき、４４年は血尿が出たので入院する。４４年にがんで亡くなる。

〔母〕２１年頃から病気で休むようになり、２３年には床につき、それはみじめなものであった。口の中からウミがセンメンキに１ぱい位１日に出たのだった。またその口の中のにおいがものすごく、歯はぬけるやら、のどの肉がとれてのど豆が見えるようなありさまであった。書くありさまになく、みじめな死であり、とても全部書くことは出来ることではない。

今生きていてくれたら、私もこう病気みたいので話し相手がほしい。
１回でも良いから仏法代が出れば良い。それが一段の願いである。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　弟１１歳　直爆1.5㎞　爆死
②8／6　妹　2歳　直爆1.5㎞　爆死

〔広島　直爆1.5㎞　男　17歳〕
（32－0053）

【死亡家族の概況】
①　44／11／17　妻54歳　膵臓炎　入市（30歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕急に腹痛を起こし、二、三の医者に見てもらったが病名がはっきりせず、3日目に腹膜炎になり手術の時膵臓炎とのことで、二度の手術の直後に死亡しました。発病後4日目でした。

まさか死亡するとは思いませんでしたので、本人も一言も家族に後のことも言えずに残念だったと思います。

４人の子供のうち次男だけは結婚していましたが、長男と妹２人がいましたので、男手１人で後の３人の子供達の生活や結婚等に大変苦労をしました。

〔広島　直爆3.0㎞　男　３３歳〕
（１１－０１６８）

【死亡家族の概況】
①　４４／月日ＮＡ　長女４５歳　心臓弁膜症・白血病　入市（２１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕白血病のため苦しんだ。入院（順天堂）後１ヵ月で死亡。出血し、止血しなかった。
死後、解剖した（肝臓が硬化し、血がなくなっていた）。死後遺体解剖の結果、造血機能障害を患わされていました。さらにほとんど血液がありませんでした。主治医の言。

〔広島　入市　女　４１歳〕
（１３－２３－００９）

【死亡家族の概況】
②　２８／月日ＮＡ　祖父６９歳　病気　直爆2.0㎞（６１歳）　ある
③　４５／４／１７　祖母７８歳　老衰　直爆2.0㎞（５３歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔祖父〕疎開して職もなく、身体も弱くなり病気がちとなり、その上唯一の支えである

息子も失い、生活不安とこれからの孫の養育に途方にくれていたらしい。

〔祖母〕嫁も再婚していなくなり、自分の目も片方は白内障、片方は青ソコヒとしだいに悪くなり、一粒種の私をそれからどうして育てるかと不安におびえつつ、私が一人前になった時力尽きてしまった。

祖母は特に苦しい生活と闘って、ついに力尽きて亡くなりました。何回か生活のためにもと、認定被爆者の申請もしたが受け付けてもらえず、やはり今思えば援護対策を一刻も早く実施してほしいと思います。一家の大黒柱を失ったのは戦死に匹敵すると考えます。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　父２７歳　直爆1.8㎞　爆死

〔広島　胎内被爆　男　胎児〕

（３８－０１３２）

【死亡家族の概況】

②　４５／５／１　養母６１歳　子宮がん　入市（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔養母〕長男を３歳で病気で亡くしていたので、何かの折に私達に話してましたが、今度あの日、突然に次男を奪われてしまったのです。養母達は疎開していましたので、私が８月７日夜になって、疎開先へたどりついた時、私の無事を喜んでくれましたが、実子である次男が帰らないということで明くる８日から捜しに出かけて３日間くらい長女と捜し続けたのです。結果的には１３日に次男はお骨になって帰ってまいりましたが。

その後、戦争も終わり、養父の故郷である熊本へ帰りました。私は秋田の兄の所や、東京の親類宅におりましたので、文通だけはしておりましたが、養母も亡くなる１２～３年位前にも手術（今では病名はおぼえていません）をしたり、ほとんど

病院はかかりきりのようでした。亡くなる数年前に会いました時も、体力もなく大分元気そうにしていましたが痛々しく、亡くなったのが東京の病院でした。最後の最後まで苦しみました。

先にものべましたように、別々に暮らしておりましたが、私の健康のことなどいつも気にしていてくれました。３０年代後半から私も入院したり、家にいても家事は自分の体にあわせて行うようにしておりました。そんな私を心配して、岩国におりましたが電話や手紙ではげましてくれ、また、広島の病院でみてもらったらどうか……などいってくれました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　義弟１２歳　直爆距離ＮＡ　爆死

〔広島　直爆1.5㎞　女　１６歳〕
（１２－０１７７）

【死亡家族の概況】
①　４５／７／１２　夫６９歳　肝臓機能障害　入市（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆を境に発熱、下痢が続き、その後もあまり健康には恵まれず、肝臓を患って長期の入院生活を送った。膀胱がんも併発し、肝硬変で死亡しました。

もっと生きていてほしかった。

〔広島　入市　女　３１歳〕
（２８－０２７７）

【死亡家族の概況】
① ４５／７／１９　次男３４歳　胃がん　入市（９歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔次男〕健康体でした。大学を卒業、会社へ入り結婚。二児を得て幸せにくらしていました。

急に腹痛を覚え、医者へ行きました。胃がんで３ヵ月の命と言われました。苦しんで死にました。医者に原爆の故かと聞きましたが、わかりませんとの返事でした。

このようなお尋ねは書くのもいやになります。残された孫たちをみるにつけ、涙の種とならぬものはありません。

〔広島　入市　女　３５歳〕
（１４－８０１２）

【死亡家族の概況】
⑥ ４５／９／１２　夫５３歳　がん　直爆２．５㎞（２８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆してからあまり元気ではありませんでした。２５年くらいからぶらぶら病になり、２０年間苦しみました。とうとう動けなくなり入院しました。体がやせてきて動くこともでき〔なくなり〕昭和４５年９月他界しました。本当に主人を亡くして困りました。１人の子供も養子に出したりして苦しみました。

主人を亡くしてから私も死にたいと思いました。被爆したために主人は弱くなり１人の子供は養子に出し、親を亡くした１０歳の妹と１人の子供〔を〕かかえて、主人を見ながら一生懸命働いたことも何もならず、もっと援護対策が早ければなんとかなったのではないかと思いました。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　父４６歳　直爆距離ＮＡ　爆死
②８／６　母４５歳　直爆距離ＮＡ　爆死
③８／６　妹２０歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死
④８／６　妹１８歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死
⑤８／６　妹１６歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死

〔広島　直爆3.0㎞　女　２６歳〕
（４０－０１９６）

【死亡家族の概況】

①　４５／１０／３０　父７６歳　高血圧・心臓疾患　入市（５１歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕老年期に近くなるにしたがい、全身倦怠感、関節炎（両手足）、高血圧、心臓疾患、以上のような病症のため毎日治療のくりかえしで寝たきりの時が永く続き、最後は心臓疾患のために死亡。

援護対策が早くゆきとどいておれば、父を含めて、直爆、入市の人達はもう少し早い期間に治療等を受けられ、自分達で納得のいく生活ができたのではないかと残念に思っています。

〔広島　直爆1.5㎞　女　１８歳〕
（３４－７０７４）

【死亡家族の概況】
② ４５／１２／２４　父８１歳　その他　入市（５６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕終戦後郷里高松に帰ったが、高松も空襲で家は焼け再築に大変であったが、肉体的、金銭面にいろいろあり、特に昔のように思うように働けなくなり、そのことが精神的に負担となり余生を楽しく愉快に過ごすことができなかった。

広島での被爆後高松での生活は大変だった。これは戦争というには責任を転化させたくないが、子供を原爆でなくし、残る者の生活や将来のことを考え不安と体力的な衰えを常に頭の中で考えていても、黙秘の生活には苦労があったと思われる。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　弟１５歳　直爆1.0㎞　爆死

〔広島　直爆3.0㎞～　男　２８歳〕
（３７－００５３）

【死亡家族の概況】
④ ２２／６／１６　曽祖母８１歳　病気　直爆距離ＮＡ（７９歳）　ある
⑤ ４６／１／　９　祖母　７９歳　貧血によるもの　直爆距離ＮＡ（５３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔曽祖母〕被爆を境にして病床になり、２２年６月に亡くなりました。
〔祖母〕原爆で孫の私を残され育ててくれましたが、昭和３８年大腿部の複雑骨折により８年病床にあり、看護に疲れた私と毎日けんかです。当時原爆病院があるということも知りませんでした。「おばあちゃんがいるから結婚できない」とずいぶんいじめたものです。「原爆さえなかったら」と毎日泣いていました。

昭和４６年１月９日、マッチのように細くなって亡くなりました。

昭和４６年に亡くなった祖母の死が悔やまれてなりません。もっと早く原爆病院なり、養護ホームでも知っていたら。１０歳で両親を亡くした私を死にものぐるいで育ててくれました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　父　３５歳　直爆1.0㎞　圧焼死
②8／6　母　３２歳　直爆1.0㎞　圧焼死
③8／6　祖父５９歳　直爆1.0㎞　圧焼死

〔広島　直爆3.0㎞　女　10歳〕
（34−7062）

【死亡家族の概況】
②　38／10／5　父73歳　胃がん　直爆1.0㎞（55歳）　NA
③　46／ 2／5　母80歳　心臓病　入市　（54歳）　NA

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕実父はあれから身体が弱りがちになり、ふらふらして暑さ寒さがやけどした跡によくチカチカこたえて来ると、常に口にしてました。いつも胃にもたれそうなといってられたけど、胃がんで死にました。
〔母〕実母はどうきがよくうつといつも口にしてました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　いとこ１３歳　直爆1.0㎞　やけど

〔広島　入市　女　18歳〕
（34−4371）

【死亡家族の概況】
①　46／5／2　父82歳　胃・腸がん　入市（56歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕入市8月10日（実際は8日）救援のため、あと1ヵ月、行方不明者の家族と生き残りの方の仮家屋の設営により帰宅（東城町）後、下痢、脱毛、食欲不振、等あり、6ヵ月くらい療養。いずれにしても身体の不調を訴え、慢性の胃腸等の患いが、死亡するまで続いた。

被爆の現状を見聞きしていたので、原爆のおそろしさは生涯言っておりました。いずれにしても被爆後の体調がくるっていた。

原爆で亡くなられた方々に援護法を強化して、国を挙げて処してほしかった。今からでも、死亡者に対して、国家補償法の実現をのぞむ。（現存の被爆者への処遇も同じように）

〔広島　入市　男　26歳〕
（34－1312）

【死亡家族の概況】
①　46／7／3　妻51歳　敗血症　入市（25歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕召集された自分を捜しに何度も入市したため、風邪をこじらせ手遅れになったのだが、白血病と同じ症状と医師から言われ、心から可哀想に思った。

〔広島　直爆2.0㎞　男　28歳〕
（34－1431）

【死亡家族の概況】
② ４０／１１／　５　母６２歳　病気　　　　直爆２.０㎞（４２歳）　不明
③ ４６／　７／２０　弟３９歳　急性心不全　直爆１.２㎞（１３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕７年間長患いの後、亡くなった。原爆さえなかったらと何度も言っていた。
〔弟〕２人の子供を残して急性心不全で亡くなったが、何とも無念でやりきれない。火傷の痕を何度も手術し、その火傷痕のために彼がどれだけ苦しんだかと思うと、今でもかわいそうでたまらない。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１７　叔父４３歳　直爆０.８㎞　原爆症

〔広島　直爆１.５㎞　女　１７歳〕
（３４－５９９６）

【死亡家族の概況】
① ４７／１／３０　母８３歳　その他　救護（５６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕直接被爆していないにもかかわらず、私の治療のためか、背中に火ぶくれができた（治療中に私の吐く息を吸い込んだためのものと思われる）。また足も悪くなった。

自分が生きていられるのは、母の手厚い看護があったればこそだが、自分達の生活におわれて面倒を見ることができなかったのが残念である。少しも援護対策の恩恵にあえなかった母が可哀想である。

〔広島　直爆１.５㎞　男　１４歳〕
（３４－０１２０）

【死亡家族の概況】

② ４７／２／２２　伯母８３歳　その他　入市（５６歳）　なし

【死亡の状況・遺族の思い】

〔伯母〕毎年５～１０月頃になると、手足が皮膚病で紫色の斑点ができ、ベトベトになり大変苦しんでいました。皮膚科にもかかっていましたが、全治ということにはならなかったようです。

健康な人だったので、直接被爆したわけでもなく長生きをしましたが、生きて行く上で大変さびしくわびしい思いもたくさんあったにもかかわらず、一生懸命生きたと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　姉１２歳　直爆1.0㎞　圧焼死

〔広島　入市　女　１歳〕
（３４－１５７０）

【死亡家族の概況】

③ ２５／１２／　７　母４３歳　脳溢血　直爆1.2㎞（３８歳）　ある
④ ４７／　７／２６　父６８歳　白血病　被爆状況ＮＡ（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕病気がちで、３年間入院したが病院でも見放され、△△△病院で白血病とわかり特別手当の申請をしましたが、認定されないまま死にました。
〔母〕心臓病等で寝たり起きたりの生活を続け、４３歳で脳いっけつで死にました。

父は白血病だったのだから、せめて生前に特別手当の認定をしてもらいたかった。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　姉１３歳　直爆距離ＮＡ　爆死
②８／６　妹　７歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死

〔広島　直爆1.5㎞　女　９歳〕
（１３－２３－１０３）

【死亡家族の概況】

①　４７／８／５　夫５６歳　胃がん・肝臓がん　直爆2.0㎞（２９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕どうも大好きだったお酒がのみたくなくなり、少しのんでもすぐ酔うし、そしてお医者に見てもらったら胃がんと言われ、そして私が先生によばれて行ったら先生は「悪性だから一度広島の市民病院に行って見てもらって下さい」と言われ、つれて行ったら先生が私に「３日後に来て下さい、結果を申します」でつれて帰り、３日後に見てもらった結果を聞いたら先生は「原爆検診は何を見ているのですか。もっと早くわかっていたでしょう。もう胃がんから肝臓がんに転移していて、もうお盆まで生きるかわからないから気を付けて見てあげなさい」と言われて、入院して見てもらって２ヵ月後に主人は４７年８月５日に死なれ、それから私は検診はいつも行って見てもらっていたのにと思いました。主人は体全体むくんでお中〔腹〕はれ、金玉大きくむくんでしこ〔尿〕はでなくなり死にました。

主人ははじめて入院、そして家に１回も帰られず死にました。気の毒でかわいそうで、私はいつもこんなになって死ぬることがおそろしいといつも思って、恐怖や不安をいだいております。

〔広島　直爆1.0㎞　女　３０歳〕
（３４－２０２６）

【死亡家族の概況】

① ２９／ ９／１７ 母 ５７歳 子宮がん 直爆１.５㎞（４８歳） ある

② ３９／１０／２６ 祖母９５歳 ＮＡ 直爆１.５㎞（７６歳） 不明

③ ４７／ ８／３０ 夫 ６７歳 病気 直爆１.５㎞（４０歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕ある日突然原爆症による子宮がんと言われ苦しんだ。それから数年病と闘い、金を使い、この面でも先が不安だと悲しんだ。── 被爆により全財産を失った上、預金は封鎖され動きがとれなかったし、働く場もなかったので身心共に疲れ果てて死去した。

〔夫〕被爆し顔面喉にかけてやけどしたが、それを押して３日間市中を駆け回り同僚救助にあたったため、数年後から肝臓が目立って悪くなった。常にこの病気療養に努めていたが、次第に体力が落ちたこと。被爆で全財産を焼失で精神的にも落ちこんでいった。

被爆しても家族みんなが肩をよせあってはげましあい生きてきたが、次々と原爆症で死去する様子を見て何とも言えぬ悲哀を感じている。

もっと援護対策が早ければと思う。口惜しさで胸いっぱいです。

〔広島 直爆１.５㎞ 女 ３０歳〕
（３４−５０４７）

【死亡家族の概況】

① ４７／８／ＮＡ 兄６７歳 胃がん 入市（４０歳） ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕胃がんでしたが全身に転移していました。本人は、家にはがんの者はなかったので、入市被爆〔の〕せいだと残念がっていました。

長兄には子供が多かったため、自分が病弱なので経済的にも苦労し、後のことをなやみぬいていました。

〔広島　被爆状況不明　男　２７歳〕
（３４－５２６９）

【死亡家族の概況】
①　４７／１０／１０　父７４歳　脳出血　直爆距離ＮＡ（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕３４年秋、ある日突然に父は仕事中に脳内出血で倒れ、意識不明が１週間くらい続き、その後意識が回復したけれども半身不随がだんだんと重くなり、体が思うように動かないことに苦しみながら、１３年後の４７年１０月に３度目の出血で亡くなりました。

苦労を共にして来ただけに、父にもう少し長生きをしてほしかった。ただそれが残念に思う。

〔広島　直爆３.０㎞　男　１８歳〕
（３４－３１０９）

【死亡家族の概況】
①　３２／ＮＡ／　７　父５９歳　病気　直爆距離ＮＡ（４７歳）　ある
②　４８／　１／２１　母６８歳　本態性高血圧・糖尿病　直爆距離ＮＡ（４０歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後父母のからだは弱くなり、特に父親は定職に就けない状態でした。そのため母と私が働きに出たりして生計を立てていました。が、とても苦しい生活でした。

昭和３２年７月父が風邪を引き、１週間位寝込んだのですが、急に容態が悪くなり、残される家族のことを心配しながら息を引きとりました。原因不明で、今考えると被爆したのが原因としか考えられません（父は背中に熱線を受けました）。

〔母〕その後、母も寝たり起きたりの状態となり、ずっと病院通いをしておりましたが、私が４５年に入院後、母も入院、４８年１月死亡しました。その時は３日位妻が付きそい、病院で意識がないまま眠るように亡くなったそうです。

私達は被爆後生活が一変しました。皆で力を合わせてまた昔のように安定した生活にもどりたいと一生懸命頑張って希望を持って来ましたが、体が弱いために苦労のしどおしでした。援護対策が早ければ、せめて母親にだけでももう少し何かしてやりたかったと思います。今はせめて妻や子供達のために、私自身安心して入院していれるように、国の責任において、せめて人並みの生活が出来るようになりたいと思います。

〔広島　入市　男　１８歳〕

（０１－００６３）

【死亡家族の概況】

③	４１／　５／２４	父７７歳	病気	入市	（５６歳）	不明
④	４７／１０／１４	母７３歳	脳卒中	直爆1.５㎞	（４６歳）	ある
⑤	４８／　３／１４	妻５０歳	子宮がん	直爆1.５㎞	（２２歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕被爆を境に身体が弱く、通院を繰り返していたが、ある程度健康も回復し、自営の衣料品商をやって元気であったが、昭和４７年２月に入院、４月退院、６月に再入院、４８年３月１４日子宮がんのため死亡。

例ア～オまでの気持ちでいっぱい。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　妹２２歳　直爆０．８㎞　圧焼死
②８／６　妹１５歳　直爆０．８㎞　圧焼死

〔広島　直爆1.5㎞　男　２７歳〕
（３４－４９１１）

【死亡家族の概況】
①　３５／６／１０　父６４歳　心筋梗塞　直爆３.０㎞（４９歳）　ある
②　４８／９／１６　母７３歳　腸がん　直爆３.０㎞（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆してから体が弱くなり、心臓の方が医者に注意されるようになり、糖尿病を併発して急に死亡した。
〔母〕父の死後、頑張って生活をしていたが、腸のがんにかかり、１年半の入院生活の間、６回もお腹を手術して、病気とたたかいながら苦しんで死亡した。

親はいくつになっても生きていてほしいものです。被爆しなければもっと長生きできたのではないかと思います。特に母ががんで苦しみましたので、自分もやがてがんにかかり苦しむ日が、と思うと不安です。被爆したお友達、従兄たちが５０歳台の若さでがんにかかり亡くなるのは耐えられません。

〔広島　直爆1.０㎞　女　１８歳〕
（１１－００１１）

【死亡家族の概況】
①　４８／９／２４　兄６０歳　高血圧　入市（３２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕ある日突然に倒れ意識不明となり、いく分か快復しその状態が続き、大学、日赤病院を転々とし、あげくは半分廃人になり苦しんで死亡。

育ち盛りの子供を残して死んだ後は兄嫁の肩に荷がかかり、生活にもことかくようになり苦労しました。もっと援護対策が早ければとこのごろ思います。

〔広島　入市　女　２０歳〕
（３５－００６０）

【死亡家族の概況】
③　４８／９／２７　母７０歳　肝硬変　直爆１.０㎞（５２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆後、胃をガスのため手術、その後ニコヨンでもして生計を立てなければ私を育てることができなかったため、無理をしてまた体をこわし、胸を病み入院。入院中黄だんを併発し、胆石の手術をする。そして何回も入退院をくりかえし、Ｓ４８年に肝硬変にて死亡。
母は私の分までひきうけて亡くなりました。

・もっと援護対策が早ければ、母はこんなに苦労しなくてすんだのではないかと思う。
・私の体のことをとても心配していた。特に、出産の時、自分の具合が悪いのに私のことを心配していました。
・母は家の下敷きになったため、顔には五寸釘がささり、右半身は大ケガをして、やっと助かりはしたものの体が弱く、かわいそうな半生でした。

・もっと長生きしてくれたならと思うと涙が出てきます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①９／３　妹０歳　直爆１.０㎞　原爆症
②９／１１　父　年齢ＮＡ　被爆状況ＮＡ　ＮＡ

〔広島　直爆1.0㎞　女　１歳〕
（１３－２３－０５９）

【死亡家族の概況】
③　４８／月日ＮＡ　父７７歳　直腸がん　入市（４９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕がんのため死亡したので、死の直前にひどく苦しんで亡くなった。身体的には死の直前の苦しみ以外に特にひどい苦しみはなかったが、母が被爆死したため、多くの子供を残し亡くなり、男手で育てる苦労、老後も伴侶がなくさびしく暮らしたという点で孤独であった。

父は母の死後、何もかも自分でしなくてはならず、死の直前まで苦労が多かった、という思いが強く残った。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　母４４歳　直爆０.８㎞　圧焼死
②８／６　妹　１歳　直爆０.８㎞　圧焼死

〔広島　直爆1.5㎞　女　１５歳〕
（３４－７２４８）

【死亡家族の概況】

①	４９／１／　４	母６２歳	腸がん	直爆１.５㎞（３３歳）	ＮＡ
②	４９／１／１１	父６７歳	尿毒症・肝臓障害	直爆１.５㎞（３８歳）	ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕２年間程度苦しみ、入退院を繰り返し死亡。

〔母〕数年間にわたり苦痛を訴え、医者を転々と変え入退院を繰り返し、苦しみながら死亡。ＡＢＣＣで解剖し特異ながんであったと知らされた。腸全体ががんにおかされていた。

私が体調がすぐれず、葬式にも参加できなかったのが残念です。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１７歳〕
（２７－０３８２）

【死亡家族の概況】

①	３５／１１／２	兄２１歳	事故	直爆１.０㎞（　６歳）	ない
②	４９／　４／５	母６０歳	肺がん	直爆１.０㎞（３１歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕父が病弱で働けなかったため一家の支えとして生計をたてていましたので、自覚症状があったのですが、近くの小さい病院で見てもらうという程度のことしかしていませんでした。早くに大きい病院へ行っていたらと悔やまれましたがどうにもなりません。

入退院をくりかえし肺がんを宣告されてから４年生きましたが、苦労の末の生涯で今でも母の死は子供の間でも悔やまれます。肺がんであることをかくすことも大変でした。また、当人の苦しみも最後は大変で、もう楽にしてあげたいと思わずにはいられないぐらいでした。

母の一生は苦労の連続で、楽ができるかなというころに病気。６人の子供を育てるだけの喜びしか味わえなかったと思います。今生きていてくれたら旅行に行ったり苦労をしていたころの友達と話したりと、いろいろ多くの楽しみがたくさんできたろうと思うとかわいそうです。孫の成長、末息子の嫁も見たかったことでしょう。自分が肺がんであることを知ってから一日、一日と弱っていきました。

私も子供のために一日でも長く生きたいと思いますが、この思いは母を失って思うようになりました。

〔広島　直爆1.5㎞　女　2歳〕
（34－5878）

【死亡家族の概況】

①	45／3／4	父66歳	食道がん	直爆距離NA	（41歳）	ある
②	49／4／6	兄48歳	転移性肝臓がん	入市	（19歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕明治の人間故に苦しみを外に表わさなかった。二度目の入院はこばんだが、医師の叱りでやむなく入院、約40日の闘病でこの世を去った。幾多の苦しみを外に出せなかった父はさぞ苦しんだであろう。

〔兄〕死の宣告を知って、二度目の入院（本人はこばんだ）。本人はもとより一週間に一度の見舞に行く私たちもつらかった。見舞に行っても、本人は何も語らず天井の一点を常に見つめ、何を考えていたのか察するに余りある。死亡直前に一言「あとを頼む。親戚には知らせるな」と。

父は病名を他人に公表するなと言い、兄も上記の通り。両名ともがんという病名に対し、どのように考えていたのであろうか。

これは余談かも知れませんが、父の戸籍に死亡場所“官有無番地”と記入され、刑務所の感じがした。官有無番地（△大病院）と記入して欲しかった。

宇宙開発やその他の技術革新も結構だが、人類の最大悲劇となった原爆医療、各種

対策が４０年経過後の今も遅々として進まないのはなぜだろうか。もしや明日わが身に、あるいは家族にと思うと、前途は暗〔闇〕だ。決して運命としてあきらめられない。

〔広島　直爆3.0㎞　男　17歳〕
（３４－５５２５）

【死亡家族の概況】
① ４９／４／１５　父７５歳　脳溢血　被爆状況ＮＡ（４６歳）　ある
② ５３／４／　４　母７３歳　胆道がん　被爆状況ＮＡ（４０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕１３年余り病床にあり、母がその看病で心身共にボロボロになり、１年の半分は入退院の繰り返しという父母であり、全く人間としての自由（旅行、市内への買い物、映画など）を今にして思うと享受できなかった。家の中で家族と見舞に訪れる人とのつき合い、実にせまい社会生活であった。しかも両親は私１人４人兄弟姉妹の中で被爆したことが最大の傷手で心を痛めていた。親のいなくなった日を案じてのこと。
〔母〕父の死後ほとんど入院し、涙にあけくれていた。

被爆が原因だろうと医師は言われたものの、そうと確定されず１３年余り寝たきりで、母が付き添い食事の世話をしていた。

こんな２人をみて、わたしが生きていてよかったのかと思うこともあった。わたしを８／６、８／７と火の中をさがし歩いてくれたのが原因と思っていて、そのことで胸が痛む。

〔広島　直爆1.5㎞　女　14歳〕
（３４－５７７４）

【死亡家族の概況】
① ４９／７／７　夫６３歳　脳血栓・心筋梗塞　直爆１.６㎞（３４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕血色がよくて、人間ドックでも正常といわれていた。車の運転をやめた時つかれたからといっていた。会社の机の中に心臓の薬をいれていた。

４９.７.７　久しぶりに銀座へ行こうといっていて、植木に水をやっていた時、突然音がして倒れており、嘔吐していた。娘と一緒に部屋へ運ぼうとしたら、自分で歩きはじめた。自分で顔を洗い、床につき、△△△〔病院〕の医者を呼べといったが、日曜日の参院選の日で、救急車を呼んだ。××外科病院へ運ばれていったが、救急隊がきた時には散瞳していた。

息づかいが荒くなって胸が苦しいとはいっていた。急におかしくなり救急車を呼んだ。タンカにのせられた時はすごいいきおいで血を吐いた。原因はわからずじまい、"心筋梗塞"といわれていた。

それ以前から、赤血球が多いといわれ、ヒフに血管拡張がみられた。白血球なら原爆と関係あると思ったが、△△△にかよっていたので安心していた。

あまり物事にはおどろかないので（左翼生活をした時に苦労しているため）いい死に方をした、バサッとひと思いに行ったのでほっとした。皆が泣いていた。

すべてがすんでから寂しい思いをした。理性的に車輪の両輪としてやってきた夫婦だったのでのりこえられた。

〔広島　直爆２.０㎞　女　３３歳〕
（１３－５３－０２６）

【死亡家族の概況】
① ４９／１２／２　母５５歳　心筋梗塞　直爆２.３㎞（２６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕入院中病院のトイレにて急死。

母親だけにまだまだ長生きをしてほしかった。また、被爆者でありながら、被爆者手帳を申請しながらとうとうもらえず亡くなったこと。

〔広島　直爆3.0㎞　男　4歳〕
（34－7149）

【死亡家族の概況】
①　49／12／18　夫76歳　心臓麻痺　入市（47歳）　NA

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕胃カイヨウの手術、肝臓の病気等、被爆後体が弱くなった。

夫婦2人きりの生活で、両人共被爆者でどちらが先にいってもあとにのこった者はさみしい。生活も苦しくなるばかりで、援護法がもう少し早くできていたら主人も心が安まったと思います。

〔広島　直爆2.0㎞　女　39歳〕
（34－7044）

Ⅳ. 昭和５０年以降の死

【死亡家族の概況】
① ５０／１／２９　夫６９歳　肺がん　直爆１.０㎞（２９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆後１ヵ月以上下痢に苦しみました。田舎に帰り手当てをしたため元気になりました。その後３０年頃肺浸潤になり、２年くらい養生しています。
　以後は割合元気でしたが、４９年２月頃より咳が出るようになり、１０月微熱が出、血痰も出ていました。１２月２１日入院。病状は日増しに悪く、翌１月始めにはもう末期（肺がん）と言われ、１月２９日死去しました。

　戦後子育てにいろいろな面で苦労してきました。子供達も一家を持ち安定した今、生きていれば少しは世間並みに幸せな生活ができたのではと思います。

〔広島　入市　女　２７歳〕
（３４－５４４６）

【死亡家族の概況】
① ５０／４／ＮＡ　母８０歳　病気　直爆２.０㎞（５０歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕まず高齢であったため、亡くなる前の２０年間は失明同様になり寝たきりの状態でしたので、実際は２０年前に死んだも同様なありさまでした。

　実母の死から、当時実母を２０年にわたり世話を夫とともにしてきたが、実母の生活そのものは生けるしかばねに等しい生活だったと思うし、またよく、あの時死んでいた方がましだったと実母はよく口にしました。生きるも地獄というのが被爆者の姿

だったと思います。

〔広島　直爆2.0㎞　女　３１歳〕
（３４－５９９０）

【死亡家族の概況】
①　５０／６／９　母７１歳　再生不良性貧血　直爆距離ＮＡ（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕元気であった母が急に入院。人様から献血（生血）をいただきながら４ヵ月の闘病生活を送って亡くなったので、被爆当時から同じような行動を過ごした私は、これまで以上に不安を感じるようになりました。

病院へ入院だけですむことでしたら、どんな苦痛にも耐えられるでしょうが、献血ともなれば人様の善意にすがるだけに心苦しく思いました。

〔広島　直爆3.0㎞　女　１１歳〕
（２８－００４８）

【死亡家族の概況】
①　５０／９／１６　長女３２歳　貧血症・造血機能障害　直爆2.0㎞（２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長女〕Ｓ４７年、ある日突然に倒れて病院に行き、手当してもらい入院して治療を受けておりました。後年は通院しておったようです。私の聞くところでは貧血症だったようですが、詳しいことは言ってくれなかったので分かりませんが、Ｓ４７

年頃～Ｓ５０年９月１６日に突然倒れて救急車にて病院に運ばれましたが、回復に至りませんでした、とのこと。

私は常日頃、いつも生きていてくれたらと何かにつけて思う親心、ただ毎日念仏のみです。

〔広島　直爆2.0㎞　男　２８歳〕
（３４－4207）

【死亡家族の概況】
③　５０／１０／１２　父７６歳　白血病　直爆2.0㎞（４６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆を境に父は働く気をなくし、また体が働くことについて行けなかったようであった。何度も倒れて病院も２、３変えて治療したが、最後の病院に１年入院して白血病で死亡する。

父は原爆手帳を持たずに死んでいきました。早く手帳を取ってやればよかったと思います。

父の死に方を見ていて自分も同じようになるのだと思い、自分も不安になりました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／7　妹　6歳　直爆1.5㎞　大やけど
②9／4　母　年齢ＮＡ　直爆1.5㎞　大けが

〔広島　直爆1.5㎞　男　１３歳〕
（４０－０９５６）

【死亡家族の概況】
① ５０／１０／１９　夫５８歳　肝硬変　直爆０.５㎞（２８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕長い間肝臓を患って通院していましたが、ある日突然苦しみだし、その日に入院しましたが、４０日目に亡くなりました。息を引き取る２時間前くらいまで話をしていましたが、子供のことばかり言っていました。
　生前は通院しながらの勤務でしたが、疲れやすくて会社も休むことがありました。被爆当時、脱毛、下痢、ひふの斑点、発熱などに苦しんだので、絶えず原爆症の不安にかられていたようでした。でも自分に言い聞かせるように、肝臓で死ぬもんかと強がりを言っていました。

　死の直前まで子供達のことを気にかけ、苦労ばかりしてきて気の毒だったと思いました。いま生きていてくれたらお互いになぐさめ合い、いたわり合えただろうにと残念でなりません。

〔広島　入市　女　２５歳〕
（３４−７０５４）

【死亡家族の概況】
① ５１／１／２１　妻５５歳　肝臓がん　入市（２４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕私が被爆後毎月１５日の定期的発熱が続き、入院または通院等病弱のため、献身的看護をしてくれ、自己の身体の異変等を犠牲にして夫の看護、子供の養育に従事し口外せず、昭和４９年頃より身体の異常を訴え医師の診断、治療に専念、人間ドックをうけたりしていたが、昭和５０年１０月腹痛のため入院。診断の結果、肝臓がんと判明、がんによる苦痛のため痛み止め注射により身体は衰弱の一途をたどり、苦しむ様子を見るにしのびず。本人自身も原爆による「がん」ではないかと恐

怖におびえていると推察されたが、「がん」であると告知するわけにもいかず、原爆との因果関係はわからないが、核兵器に対する憎しみは募るばかりであった。

手術後３ヵ月で妻は死亡、看護人を失った私、家族は地獄に突きおとされた思い。子供の結婚等に支障が生ずることは明らか、ともに私自身も被爆による発病、高血圧、肝臓、関節炎にいまなおなやまされ恐怖はつのるばかりである。

妻が生きていてくれたら私自身も苦労は軽減されるし、家族も楽しく生活が送れたのに、家庭には女性（妻）が必要と痛感した。妻の病死には私及び家族（子供）は死に方に恐怖や不安をいだいていることは事実と思われるが、自分等だけではない他の被爆者達も同様、このように悲しい思いをしているのだから、また核戦争が起これば被爆者が増えるだろうし、と考えるだけで悲惨である。

〔広島　直爆２.０㎞　男　２７歳〕
（３０－００３７）

【死亡家族の概況】
②　５１／１／２３　妻６５歳　糖尿病・高血圧　直爆０.５㎞（３４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕被爆以来、妻は丈夫だったが、昭和３０年頃より糖尿病が出て血圧も高く、心配した。亡くなる少し前、原爆のことをうらんでうらんで、時々大きな声をはり上げては少し狂人めいた態度をとったりして心配させられた。

亡くなってやっと安らかになったが、妻は可哀想だったとしか残っていない。子供は死んだ子供の身代りが欲しかったけど、妻は生もうとしなかった。

もう少し援護の手があったれば、早く治療したり、よい病院や薬もあったろうと思うけど、すまないと思っている。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　長男２歳　直爆０.５㎞　爆死

〔広島　直爆３.０㎞～　男　３５歳〕
（４０－０７７８）

【死亡家族の概況】
①　５１／３／４　父７３歳　心臓病　入市（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆後５～６年して、思うように働けなくなり、心臓が苦しく病気とのたたかいの日が多かった。食欲がなくなり、だんだん弱り、一時期非常な事態もあったが、その後大分元気になって農業等軽い仕事はしていたが、昭和４６年脳血栓で倒れ、１年ぐらい病床生活でしたが、いったん大分よくなり、散歩もできるぐらいになりましたが、もともと心臓が悪いため、ついに心筋梗塞で苦しみ、酸素吸入等手はつくしましたが、どうすることもできず死んでいったのです。

現在生きていてくれたら、いろいろなこと、相談もでき、私の子供が昨年結婚しましたが、生きていたら喜んでくれたことと思い残念です。

〔広島　入市　男　１４歳〕
（３４－１５２０）

【死亡家族の概況】
①　５１／４／２７　母８０歳　その他　直爆１.５㎞（４９歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕死ぬるまで手帳がいただけませんでした。

弟は母が大阪府知事に直訴の形でいただき、私は在務証明のおかげでいただきましたが、当時は建物疎開があって知人も少なく、また一緒にいた人なんて、隣組が全滅に近いありさまで、何の手当もなく、いつもひどく悩んでいました。

私が子宮がん手術のため入院する１日前に倒れて、手術の日に亡くなりました。私の身代わりとおもっています。死に水も取れず、親不孝を今も詫びております。被爆で片目が不自由で、本当に苦労されました。

〔広島　直爆1.5㎞　女　２０歳〕
（２７－０４２１）

【死亡家族の概況】
①　５１／９／２１　父８４歳　脳血栓　入市（５３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕もともと病弱な父でしたが、被爆後は後遺症とも思われる状態がいくつかあり、精神不安定を来し、まわりの者をいつも不安にさせていました。

例．貧血や胸の圧迫感、不眠などを訴えていました。

父の病状（貧血、圧迫感、不眠）を案じ、長年心配しておりましたが、高齢のためか安らかな最期でしたのが、せめてもの救いでございました。

〔広島　入市　女　１５歳〕
（１３－５３－０３８）

【死亡家族の概況】

① ５１／１２／２３　弟５３歳　胆管がん　直爆０．５㎞（２２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕奇跡的に助かったけど、何しろ０．５㎞の場所で被爆したので、その後ずっと身体が弱く病気がちであった。家庭的にも不幸であったが、５３歳の時胆管がんで死亡した。

被爆しなければ、甲種合格のいい身体をしていたのだから、ずっと長生きしていたと思います。

〔広島　直爆３．０㎞　女　２７歳〕
（１３－１１－０２５）

【死亡家族の概況】

③ ２２／９／　３　母４０歳　病気　　　　　入市（３８歳）　ある
④ ５２／２／１４　弟３７歳　くも膜下出血　入市（　５歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕原爆の落ちる前５月に父を亡くしたばかりの時に、祖父、姉を一度に亡くし、家も何もなくなり、後には小さな子供が大勢いたので、精神面、生活面で大変だったと思います。たぶんその時の無理が重なって病気になったのだと思います。死ぬ時には下の妹２人の手を取って、ものを言う力もなく泣いていました。心残りだったと思います。

〔弟〕３０歳頃からよく気分が悪くなって倒れることが続き、自分が死ぬのではないかといって苦しんでいました。自分が早くから両親を失くしているので子供達のことが心配だったのか、ずいぶん無理をして働いていたようです。その無理がいけなかったのか、突然の死だったのです。残念です、無念です。

生きていてくれたらなと思います。

母は子供達のために苦労ばかりし、子供の成長も見ずに亡くなりました。

弟もまた親を早くなくし、親のない者の苦しみをよく知っていて、自分の子供は親なし子にはしたくないといつも言っていたのですが、その自分も早く死に、わが子を片親の子にしてしまいました。後に残った兄弟達も、恐怖や不安をいだいて生活しています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　祖父８１歳　直爆距離ＮＡ　大やけど
②8／6　姉　１４歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

〔広島　入市　女　１２歳〕
（３４－６１９２）

【死亡家族の概況】

②　５２／３／９　母６４歳　肺がん　直爆2.３㎞（３２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕病気などしたことがない母でした。若い時はバレーボールの選手であったと自慢でしたが、昭和５１年６月、市の胸部レントゲン検診を受診。９月には精密検査で入院、肺がんの診断を受けました。１１月に手術、術後一時回復しましたが、骨に転移、みる間に悪化。昭和５２年3月９日に、診断より６ヵ月目の死亡でした。

煙草も吸わない、定期検診もきちんと受診、健康管理に気を付けていただけに、やっぱり被爆が原因していると、くやまれます。

戦後の混乱の中で一家の柱を失い、一生懸命働き続け、これから少しゆっくり余生を送るという時の突然の死です。被爆しながら何の補償もなく、生きていてくれたらという思いが残ります。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　父４３歳　直爆１．０㎞　圧焼死

〔広島　直爆３．０㎞　女　６歳〕
（３３－０１０５）

【死亡家族の概況】
①　２７／７／ＮＡ　姉２３歳　白血病　健診区域（１６歳）　ある
②　５２／５／３　　弟３６歳　腸がん　健診区域（　４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕とくに被爆のことについては苦しんだとは思わないけど、被爆さえなかったら白血病なんかで死ななかったと思います。
〔弟〕いつも腹が痛いと言いながらめまいがしたり、嘔吐がきたり、４年間という長い月日を病気と闘い、死ぬる前に腸がんとわかりました。それに白血病も少しはあったと聞いています。
　原爆は二度といやですね。

原爆という恐ろしいことに出遭わなかったら、姉も弟も元気で、この現在の日本（文化生活）を味わうことができたであろうにと思う。
また弟には子供がいます。現在生きている者には援護がありますが、死んだ者には何の援護もありませんネ。何とか考えていただきたいと思います。

〔広島　救護　女　１０歳〕
（３４－６０３０）

【死亡家族の概況】

① ４７／６／　５　母６８歳　糖尿病　　救護（４１歳）　不明

② ５２／７／１５　父７６歳　肝臓がん　入市（４４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕若い時は元気な父であったが７０歳頃より肝臓が悪くなり点滴をしてもらいに通院したり、入退院をくりかえしたが、最後にはがんで亡くなる。

〔母〕元気で戦争中、麦や芋の供出でガムシャラに働いて来たが、５５歳くらいの時、糖尿病になり、以来血圧も高まり視力が衰えて、あまり見えなくなり、亡くなる。

両人が亡くなった頃はまだ管理手当などもなく、医療費は無料でも付添人にお金がかかり大変でした。

母の場合、もっと援護対策が早ければ入院させることもできてもう少し長生きができたのではないかと悔やまれる。

〔広島　直爆1.５km　女　１６歳〕
（３４－４３８７）

【死亡家族の概況】

① ５２／９／５　妻５８歳　結核腫　入市（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕結核腫で亡くなりました。

咳は以前から出ていましたが、病気がいつまでもよくならないので病院でみてもらったら結核腫で入院となり、私は昼間は仕事で、夜は病院に付き添い、大変でした。亡くなった後は病院で解剖を希望されたのでおまかせしました。

付き添いをつけたくても高くてつけられなかった。

夫婦ほどいいものはありません。生きていてくれたら、小さな家でもと思います

が、亡くなって、亡くなった者のよさ、夫婦の愛情がわかります。

〔広島　直爆2.0㎞　男　33歳〕
（34－7263）

【死亡家族の概況】
①　52／12／19　夫59歳　肝臓がん　被爆状況NA（27歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕広島の軍人でした。腰の病気で長い間九大温研に入院、その後退院し、でも腰の骨のために苦しんで歩くのにも困難な時があった。その期間はそれは長い年月だった。それから身体にだるみをおび、次第にやせて、九大で肝臓がんの手術を受け、2年後に死亡した。その間、本人はもちろん大変な毎日。苦しんで苦しんで死亡しました。

どれだけ身をもって原爆をうらんだことか。多くの方々が様々の病気で苦難の道を歩いておられる様子、それにわが身の恐ろしさ、今後の身体の調子、毎日から原爆の一言が消え去りません。私の一生は終わりまで続く、このあわれさ。ただ死ぬ時、苦しまない最期をと祈るだけ。

〔広島　入市　女　26歳〕
（40－0747）

【死亡家族の概況】
①　53／2／27　妻71歳　肝臓がん　直爆2.0㎞（38歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕がんになって１０年間位入退院を繰り返していた。以前胆石でも苦しんだ。手術してみてはじめて肝硬変になっているのがわかった。

被爆がなければあのような病気にならず、今も健康でいることとくやみます。未だに夢に見るとその時のことが思いだします。

〔広島　直爆2.0㎞　男　３９歳〕
（３４－７１７７）

【死亡家族の概況】
②　５３／３／１８　母６９歳　糖尿病・心筋梗塞　入市（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕夫が原爆で亡くなった後は、家の働き手をなくして５人の子供を連れて困っておりましたが、農業が少しありましたので、私も当時１４歳で長男でありましたので、その当時は長男が家の後をひくものと強く言われておりましたし、私もそのつもりでおりましたので、責任を感じて、また父も亡くなる時、後を頼むと遺言を心に誓い母を助けて一生懸命に生きてきました。
その当時以来家のために母も大変苦労をしてきました。そのせいか母は体が年とともに弱くなり病気がちとなり、病院に入院したり退院したり繰り返していましたが、糖尿病、また動脈の血の流れが悪くなり、心筋梗塞で亡くなりました。
若い時夫に先立たれ、その後の子供を育て、結婚をさせ生計をともにした私には母のなみなみならぬ苦労がわかります。

直〔接〕被爆者、また入市被爆者全体の死を思う時残念でなりません。直〔接〕被爆の方はあの暑い最中体全体にやけどを負い水を含めて亡くなられた方、また今なお原爆症で亡くなられる方、その上残された家族を思う時、死亡〔に〕対しても現在の

被爆者〔に〕対しても援護対策が早ければと思っています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／３１　父４３歳　直爆1.７㎞　原爆症

〔広島　入市　男　１５歳〕
（３４－１０２９）

【死亡家族の概況】
②　５３／6／1　母７２歳　子宮がん・肺がん　入市（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆後、不思議と月経が止まったと話していた。その後何年も月経なし、もちろん母も私達も、被爆が原因の子宮がんとは思いもしなかった。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　従姉　年齢不明　直爆距離ＮＡ　圧焼死

〔広島　直爆2.0㎞　女　１５歳〕
（１４－１０６１）

【死亡家族の概況】
①　５３／6／２６　夫７５歳　病気　直爆2.0㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕２０年間力いっぱい仕事ができないと頭を下げてくれた主人、これが一番の苦し

い思いでした。ケロイドのせいもありますが、寒い寒いと大変な冷え性で、人より常に厚着をしており、夏でも冷えてはいけないと長いシャツを離すことができませんでした。

長い間寝込んでの人生で楽しいことの思いもなかったことでしょう。原爆にさえあわなければ働き者の主人、それなりの夢もあったことと思いますが、全てくるってきたのです。

〔広島　直爆2.0㎞　女　35歳〕
（28－0347）

【死亡家族の概況】

② 32／ 5／22　父80歳　肝臓がん　直爆2.8㎞（68歳）　ない
③ 53／12／31　母90歳　脳軟化症　直爆2.8㎞（57歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕病気のため食事がとれなくなり、枯木のようにやせていった。それでも何とかしてなおりたいと入院を希望し、10日目になくなった。その数日前に「ここは牛田（被爆地）か」と私に尋ねたのを覚えている。私の入院費用とその後も病気のため無為徒食を続けた私をかかえて、80歳近くまで老躯に鞭打つように働き続けた。

〔私に〕「自活して世帯を持て」と事ある毎に言い続けたが、死ぬまで実現せず、そのことをいつも苦にしてました。

〔母〕座骨神経痛のため、楽しみにしていた1年に1度広島を訪れる旅行ができなくなり、またテレビを見るだけで話し相手のない生活となって、亡くなる半年位前に「生きていてもしょうがないね」と私に洩らしたことがある。それから間もなく発病して床につき、夜でも襲われておびえ、眠れなくなり、看病の姉も疲労のため倒れて、老人病院に入院し、1ヵ月後になくなった。

子供のうち私だけが長期の入院で、母はつききりの看病をしましたが、その時にお百度参りまでしたと聞きました。〔私が〕安定した仕事につけず結婚もせず、人

並みの生活ができないのを、死ぬまで気にしていました。

両親は私の就職のこともあって、年老いてから住みなれた故郷を離れて、長兄のはからいで上京した。

父は "医療法" のできた年に亡くなったが、政府の手でもっと早く実現していれば苦労はずっと軽減されたと思います。私の病気のため、体力の限界まで働き続けなければなりませんでしたが、今自分も高齢者の仲間入りをして、改めてそのつらさをしのんで、申し訳なかったと思っています。

母は９０歳で亡くなりましたが、数年は自分の生きる支えを失ったように感じました。子供として何もできなかったことが心残りです。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／10　甥7歳　被爆状況ＮＡ　大けが・大やけど

〔広島　直爆３.０㎞　男　１９歳〕
（１３－０６－０１６）

【死亡家族の概況】

①	４６／月日ＮＡ	おば	７０歳	病気	直爆１.８㎞（４４歳）	ある
②	５３／月日ＮＡ	夫	６０歳	腎不全・心臓・肝臓・敗血症	直爆１.８㎞（２７歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕被爆後、病気がちとなり、糖尿～胸にきて腎臓と悪くなり、透析するようになった。あれほど元気だった夫が被爆後、すっかり病気がちとなった。Ｓ３０年ごろより入院がちとなり仕事もできなくなった。

〔おば〕喘息、胃腸が悪いなど、病気がちだったので、通院や入院を繰り返していた。

生活のため（子供が５人いたので）悲しんでばかりもいられなかった。

〔広島　直爆2.0㎞　女　23歳〕
（34－5940）

【死亡家族の概況】
①　54／1／11　夫61歳　肺がん・結腸がん　直爆0.7㎞（27歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕体調が思わしく〔なく〕なり、田舎生活の重労働は延命の望みなしとの医師の勧めにて、再出広するも職も無く、馴れる職につき、家計再建を目指し頑張るも、再び体調をくずし、三度の入退院を繰り返し、生計家計を思いながら、日夜の激痛に悩まされながら、苦痛に耐えかねて「早く死にたい」と言繰り返しながら、「原爆のせいかも」との言を口にしながら、この世去る。

思いもしないがんにおかされているは夢のようで、ほんとうに疑うより他なし。援護対策がもっと早く進んでいたなら、もう少しは養生もできたかも知れず、治療も進んでいたかも。あんな苦痛に悩むことなく死ねたと思う。

〔広島　直爆2.0㎞　女　23歳〕
（34－7079）

【死亡家族の概況】
①　54／1／12　父63歳　胃がん　直爆距離NA（29歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕胃がんを知りすぐ手術しましたが、術後体は衰弱するばかり、亡くなる2ヵ月前からは寝たきりの状態だったです。被爆していなければ、絶対に胃がんにはならな

かったと思っております。

父の死と前後して、家をつぐ弟の縁談がこわれ、今３６歳になりますが未だに独身です。母も被爆者ですが、仕事をして家計を助けています。原爆さえうけていなければ……といつも思っております。

〔広島　胎内被爆　女　胎児〕
（２２－００４４）

【死亡家族の概況】
①　５４／１／１２　夫６３歳　胃がん・心不全・肝臓　直爆２.０㎞（２９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆者の会のことを一生懸命やっていた〔会の副会長〕。最後の３年間、口には出さないように互いにしていたが、子供への影響は大変心配していた。

家のことも被爆者の会のこともこまめにやってくれた人だった。その人が死んでしまって……。誰でもやがては死ぬのだけれど。どうしても原爆のことは離れることができなかった。

〔広島　直爆３.０㎞　女　２４歳〕
（２２－０１９７）

【死亡家族の概況】
②　３３／６／２９　父７８歳　脳卒中　直爆１.２㎞（６５歳）　ある
③　４１／６／　６　母７７歳　脳卒中　直爆１.２㎞（５６歳）　ある

④　５４／２／　６　夫６３歳　肺がん　直爆３.０㎞（２９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕疎開作業に勤労奉仕に出て大火傷を背中にした。長い間苦しんだ。急に倒れて死亡。

〔母〕１.２Ｋで直爆し、１ヵ月位で青い斑点ができ、一度は死の宣告を受けたがもちなおし、４１年まで何らかの体の不調を訴えていた。足ははれ、歩くにも困難なようだった。３ヵ月位寝たきりだった。早く死にたいと言っていた。

〔夫〕白血球が減少になり、体は不調であったが生活のため働き通した。被爆者として平和運動に参加、中央行動にも参加した。急に肺がんの宣告を受けた。半年位入院したが、核の廃絶を願いながらがんと闘っていた。

戦後〔昭和２４.８〕に生まれ〔た三女は〕、元気に遊んでいたが、急に黒ずんだ血を吐いて、１日後〔昭和２７.７.８〕に死亡した。

両親や主人、兄達、被爆して長い間苦しみながらも、ぐち一つも言わずに、私たちのためによくして下さったのに、何一つして上げられなくすまない気持ちでいっぱいです。特に主人は被爆したあの日から一緒に苦楽をともにして、これからお互いに話し合い、平和運動もともにできると思っていたのに、早く死なれ残念です。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　次女１歳　直爆１.２㎞　大やけど

〔広島　直爆1.５㎞　女　２７歳〕
（４０－０３９７）

【死亡家族の概況】

①　５４　／　４／１４　父８４歳　がん　　入市（５０歳）　ある
②　年ＮＡ／１０／２２　兄５４歳　脳卒中　救護（ＮＡ）　　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕がんという病気も知らず亡くなりました。気がついた時は手遅れで、手術もせず仕舞いでした。老人なるが故に病気の進行が遅かったとのことでした。

〔兄〕大変に元気でとても若死にをするとは思われませんでしたが、夕方に倒れ、その翌日に亡くなりました。残念でなりません。これも被爆のせいと思います。

〔広島　直爆１.５㎞　女　１４歳〕
（３４－５１１３）

【死亡家族の概況】

②　５４／５／１１　母８８歳　心不全　直爆１.７㎞（５４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕大変長寿で８８歳で亡くなりました。

原爆の影響は（健康の面について）あまり受けなかったようです。直爆ですが、家の中でうけ、被爆した翌日にはけがをした子供２人をつれて可部町の実家でしばらく生活したことがよかったと思います。

しかし経済、精神面においては非常に苦労しました。病気になっても十分な治療もうけられず、情けなく思った時期も何度かあり、こんな時母は「お父さんがいたら」と悲しみに……。

いよいよ寝たきりになってからは病気との闘いの日々で（１年位）時には「早く死にたい」などもらしていましたが、あまり不足も言わず、感謝の生活でした。私達のために苦労して頑張ってくれました。

被爆後も亡くなる時まで３０余年間ずっと一緒に苦楽をともにして生活し、寝たきりになった時も母が入院を好まなかったので、家庭で看護しました。それは大変なことで共倒れ寸前でした（健康、経済、精神的にも）。もっと援護対策が早ければと切実に感じました。

入浴にしても、寝たきりの老人の入浴はとても家族の手には並大抵のことではあり

ません。そのような設備のない家庭のお風呂ではとても骨のおれる仕事で、好きな入浴も思いのままにならず、かわいそうでなりませんでした。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／7　父７０歳　直爆1.7㎞　大やけど・原爆症

〔広島　直爆3.0㎞～　女　２０歳〕
（３４－５０４８）

【死亡家族の概況】
②　５４／６／１１　姉６８歳　直腸がん　入市（３４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕３０年頃までは比較的元気でしたが、徐々に貧血になり、４０年にがんにかかり、４１年に岡山医大で手術をしました。手術は成功いたしましたが、仕事はできなかった。手術をして１３年間、病気と闘いながら入院もその間３回いたしましたが、力尽きて、昭和５４年６月１１日午前１時１０分、病院で亡くなりました。

とてもよい姉でした。もっと被爆に対する認識がありましたら、もっと長く生きていたのではないかと思う。死ぬ時の苦しむありさまを思うと、僕も不安になる。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　弟１８歳　直爆0.5㎞　圧焼死

〔広島　入市　男　２２歳〕
（３４－８３０１）

【死亡家族の概況】
① ５４／６／１３　妻５５歳　くも膜下出血　救護（２１歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕昭和５４年２月１１日に突然倒れ（くも膜下出血）、救急車で近くの病院に運ばれた時は意識があったがその後意識もなくなり、約４ヵ月後死亡した。

日頃から知恵遅れの次女（現在３７歳）の将来のことをひどく心配し、原爆のせいでは……といっていた。また、私も糖尿病でずっと通院中、しかも目が不自由で１人では歩けぬ状況だったため、家内はよほど心残りであったと思う。

私が病身になった（被爆を境に）ことで大変苦労をかけ通し、しかも次女のこともあって、生きていてくれたら……と残念でならない。私は今身障手帳２級、目が不自由で自分のこともできないため、しかも知恵遅れの次女と２人暮らしなので、娘に身の回りの世話をしてもらっているが、不自由な毎日である。

〔広島　直爆2.0㎞　男　２５歳〕
（１３－１７－０４５）

【死亡家族の概況】
① ５４／６／２６　父８４歳　肺気腫による心不全　入市（５０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕おでき、数年間。肺気腫（亡くなるまで）。

戦後ずっと肺気腫に数十年間苦しみ、呼吸困難でずーっと病院通いをし、末期の直接死因は心不全で。

第一線に尽くした父なのに、被爆者手帳の手続きもしないままに亡くなった。

原爆投下後、警察官（動員）として、第一線に立ち入市し、いろいろ被爆地の処理方に尽くしたであろうに、原爆手帳も一本気な性格で手続きしなかった。肺気腫（お

できは数年間）で戦後ずーっと亡くなるまで苦しんだ。だんだんと年はとるし、原爆手続きが面倒だったのだと思う。事実の人にはもっと簡単な手続きであげたらよい。

〔広島　入市　女　１５歳〕
（３４－５６４７）

【死亡家族の概況】

②	２１／　４／ＮＡ	義兄２６歳	原爆症	直爆距離ＮＡ	（２５歳）	ある
③	２１／　７／ＮＡ	姪　　１歳	原爆症	胎内被爆	（胎児）	ある
④	４５／１２／２１	姉　４５歳	腎不全による尿毒症	直爆距離ＮＡ	（２０歳）	ある
⑤	５４／　７／１４	母　７８歳	心不全	直爆距離ＮＡ	（４４歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義兄〕義父の死、義母の大やけど、義妹達の大けが、そして妻は妊婦で今にも出産しそうな状態で、孤軍奮闘していたが、ついに原爆症で倒れ、苦しみぬいて他界した。

〔姉〕その時点では、けがもやけどもなかったが、父、夫、子供を亡くし、Ｓ２７年からＳ４５年死去するまで病気との闘いだった。

白血球は極度に少なく、皮膚がん、その他すべての内臓で良い所は無く、入退院のくり返しであった。そして何の喜びもない自分の事を、早く死にたいと繰り返し言っていた。

〔姪〕胎内被爆の姪は、母親の乳さえ満足に飲むこともなく、ただこの世に生れたという足跡だけ残して死んで行った。

〔母〕美しかった母も、原爆によるやけどで、まるで別人のようになり、腕のケロイドが冬は痛み、夏はかゆいと、いつも言っていた。心臓が悪くなり、ぜんそくのほっさもあり、７８歳の生涯を閉じるまで苦しみつづけていた。娘に先だたれてからは、なおいっそう不健康でした。

一人一人の死について、悲しみやその思いをこの頁には綴り切れない。若くして最愛の人３名を失った姉。そしてその後自分も白血病との闘いが始まり、戦争の恐ろしさ、原爆への憤りは、はかり知れない。

両親、そして４人の姉妹弟、６人家族はたった一個の原爆でめちゃくちゃに破壊された。姉は死後認定患者第１号です。死んで認定されて何になりますか？　生きているうちに金銭の心配を少しでも軽くして、精いっぱい治療してほしかった。

政府の愛の無い、無責任な対応の仕方に未だに腹立たしい思いでおります。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／１１　父５２歳　直爆0.3㎞　大やけど

〔広島　直爆1.0㎞　女　１８歳〕

（１３－１１－０２６）

【死亡家族の概況】

②　４５／１２／２１　姉４５歳　腎臓障害・心不全　直爆２.０㎞（２０歳）ある

③　５４／　７／１４　母７８歳　呼吸器障害・心不全　直爆２.０㎞（４４歳）ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕

①原爆で顔面、両上膊部に火傷、ケロイドが残った。

②被爆〔後〕少しずつ体が弱り、喘息に悩まされるようになり、発作により呼吸困難となることあり、１０数年入退院をくり返す。

③昭和５４年、上記に消化器疾患を併発して極端に衰弱し、深夜、睡眠中のまま息を引きとった。

〔姉〕

①被爆時、外傷は無かったが、以後、消化器、循環器系統が次第に衰弱し、特に肝臓、腎臓が機能しなくなる。

②被爆後、夫と死別したが（原爆症）ために再婚できず、実家へ戻ったが、上記のような状況で、やはり入退院の繰り返し、全く快方に向かうこともなく、４５年全身のムクミ、呼吸困難となり、肺より水を摘出中に死亡（日赤中央病院）。

①原因の如何によらず家族の死はいつまでも胸を痛めるものでしょう。まして被爆のため……と思えば悲しみより憤りが先に立ちます。
②援護法がもっと早ければとも思うこと切です。姉の場合、死後１週間目位でしたか「認定」が下りたというお粗末さです（当時の朝日新聞に出ました）。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１１　父５２歳　直爆０.３㎞　大やけど

〔広島　直爆２.０㎞　男　１５歳〕
（１３－１７－０１３）

【死亡家族の概況】

①	５０／１０／２０	父７３歳	貧血・心臓病・脳梗塞	直爆４.０㎞（４３歳）	ある
②	５４／　８／２５	母６６歳	心臓・糖尿病・血液関係	直爆４.０㎞（３２歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

両親ともいろいろの病気が併発し、長く病気に苦しんでいました。両方とも弱くなり、また若いうちから病気になったのは、原爆の故に違いないと思っています。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　８歳〕
（２３－０１６５）

【死亡家族の概況】

⑤　２７／２／２８　父６０歳　腸がん　　　　　直爆２.２㎞（５３歳）　ある

⑥　５４／８／２７　兄５９歳　胃・その他のがん　直爆２.２㎞（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕会社に勤めていたので健康診断は何回もしていたのに、急にがんになり進むのが早く、気がついた時は大きくなりもう内臓に転移していて、５月末に分かって７月半ばに手術したがもう手遅れだった。ただ１人の兄で私が上京して看病してあげた。母と同じく、水ぶくれになり体重が増えて、亡くなった。

〔父〕医者から伝染病と言われ、本当に気の毒な死に方をしました。

戦争をうらみます。戦争前は父は画家で、良い生活もして来ました。大きな寺の次男に生まれ、何不自由なく楽しい家庭でした。子供、兄弟も多くて、広島の原爆を今もうらみます。私の一生もめちゃめちゃになりました。

今は私１人生き残り、毎日仏様に向かって１人で語りかけています。親が生きていたら、妹が弟が生きていたらと思わない日はありません。あんなに苦しんで死ななくてはいけないなんて可哀想で、孫を見てこれ位の年になんで弟が死ななければと、いろいろと私の心中は今も地獄です。

国からは何一つしてもらっていません。線香の１本もいただいていません。私が２０年前にやっと墓を作ってやりましたが粗末なもので、今では修理をしてやらなくてはいけないのに、なかなかそれも出来ません。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　　妹１３歳　直爆１.０㎞　爆死

②８／１７　弟１７歳　直爆２.０㎞　爆死・大やけど

③８／２３　弟１１歳　直爆２.０㎞　大やけど

④１１／８　母４８歳　直爆２.２㎞　原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　16歳〕

（０６－０００９）

【死亡家族の概況】

① ５５／１／１７　妻７５歳　白血病　救護（４０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕百姓家特有の人なつっこさと如才なさを持ち合わせ、家事のことは言うに及ばず、世間の交際等に至るまで、私の身体を心配し、何彼と積極的に動きました。ところがある日突然に入院という最悪の事態になりました。それは私が市民病院に診療に行く時はいつも家内は付き添って往き来しました。その日、私の診察が終わり、ついでに家内も精密検査をしました。その７日後、病院より緊急に電話連絡でお婆さんの来院を告げました。そして即日入院となり、骨髄性白血病という宣告でした。それは昭和５４年３月末でした。その後毛髪が抜けたり、また生えたりでしたが、翌年１月に死亡するまで貧血だと思い込んだまま穏やかな最期でした。私より若く苦労し放しで亡くなった妻が可哀想で、今日でも彼女のことを思うたびに涙が出てなりません。

本人は貧血と最後まで信じていましたし、私達も原爆症などとは知りませんでしたが、結果は悪性の原爆症で亡くなりました。

日常が元気でよく働き、家族の面倒もよく見てくれ、ほんとに私から言えば他にないよい家内だと自負しておりました。働き詰め、心配詰めの家内が私より先に亡くなるなんて残念でなりません。

〔広島　入市　男　４６歳〕
（３４－５１１１）

【死亡家族の概況】

①	年月日ＮＡ	長男４０歳台	喉頭がん	直爆１.２㎞	（１７歳）	ある
②	５１／１２／１８	三男４６歳	肝臓がん	直爆１.２㎞	（１５歳）	ある
③	５５／　１／１９	夫　８２歳	ＮＡ	直爆１.２㎞	（ＮＡ）	ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕背中大やけど。頭髪もきれいに抜けた。でもその後元気になり、結婚して子供３人いたが、喉頭がんで苦しんで死んだ。

〔三男〕失対で働けなくなり、住むところもなくなり、私のところで一緒に住んだ。ずっと具合が悪かったのになかなか医者に行かず、行った時は肝臓がんが手遅れで、入院後３ヵ月で死んだ。腹と足が大きくふくれ上がり、とてもかわいそうだった。とうとう結婚もしないままだった。

〔夫〕１０年前に別れた（酒乱）。

長男は子供３人残して死んだ。まだ若いのに、原爆のせいでこんな病気で死んだと思うと可哀想です。

三男は肝臓がんが手遅れで、腹、足がふくれ上がった。自分の子供の中で、この子が一番やさしくいい子だったから、私は気が狂いそうでした。

〔広島　直爆1.5㎞　女　３２歳〕
（３４－５８６５）

【死亡家族の概況】

①　５５／２／４　妻６３歳　脳出血　直爆1.３㎞（２８歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕被爆後の生涯、出血すると血が止まらず、歯の治療にも抜歯して貰えず困っておりました。３５歳に脳出血で倒れ半身不髄となり歩行も困難となり、４５歳に２度目の発病が出、その後半身不随となり歩行も不自由となり、起きたり寝たりの生活でしたが、幸いに自分のことは何でも人手は借りず努めて朗らかに、孫のお守りとその成長が生きる力ともなったようでした。

どのようにか苦しく淋しかったのでしょうが、一言もグチも言わずいつもやさしい人でしたが、昭和５５年２月４日突然倒れ、眠るが如く安らかに逝きました。

この地に転居して３年、１０日毎に隣村の医者に診てもらいに行く妻を自転車の後ろにのせ連れて行くのが日課でした。亡くなる３ヵ月くらい前の途中で急に「おじいちゃん、私は△（孫の４歳の女の子）の小学校に入るのが見たいよ」と言った。

今、小学校４年生。上の孫も小学４年生が今中学２年にスクスクと伸びている。この孫たちが朝晩おやすみ、おはようと挨拶し、学校の成績でも何でも仏前で話しかける孫たちを見るたび、生きておってくれたらどのようにその成長ぶりを喜ぶことかと可哀想でならない。

〔広島　直爆1.5㎞　男　３２歳〕
（１５－０００１）

【死亡家族の概況】

②	３７／８／１１	父８１歳	胃がん	直爆1.7㎞	（６４歳）	不明
③	５５／２／２６	弟５３歳	食道静脈破裂	入市	（１８歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕私の父は観音本町の会社に出勤し、２階建物の１階事務所デスクにすわっていて８／６の直爆でガラスの破片を体中に受け、建物の下敷きとなり、火も近くまでせまっており、死の直前のところを母が見つけ、近くにいた人数人に助けを求めて助け出しました。手押車へ父を乗せて、その日の夜にかけて現住所の△△へ帰りました。以後毎日ガラスの破片を探しては抜き取り、手当てをし、全部で２００片ばかりあったそうです。

それから２年余り傷が化膿して膿が出ていましたが、３年目頃より次第に傷も癒えて来て山歩きも出来るようになりましたが、胃の方が悪くなり、数年ぶらぶらしておりましたが、３７年８月に胃がんで他界して行きました。

〔弟〕広の第１１海軍航空廠に動員されていました。８／６日午後家族の安否で入市、以後は国鉄に勤めていましたが、３年余りして肺結核と診断され、数年間入退院をくりかえしていましたが、国鉄の希望退職により退職し、小さな事業を始め、病身

な体を酒でごまかしながら株式会社をきずきましたが、５５年２月２６日、突然食道静脈破裂により他界しました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　妹１５歳　直爆０.５㎞　爆死

〔広島　入市　男　２０歳〕
（３４−６１３６）

【死亡家族の概況】
③　５５／４／９　母７１歳　心筋梗塞　入市（３６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆後、７年後位から心臓病のために身に無理ができなくなり、２〜３年に１回位は入院を繰り返し、不安と苦しみの生活を送って、死ぬるまでに３回半身不随になったが、身体の不自由なまま、心筋梗塞で死ぬ前日まで苦しみながらの日々を送った。

母は戦後の生活の苦しい時代を４人の子供を育て成人させるために、病弱な体に無理を重ねた一生であった。楽しいことのなかった人生であった。もっと喜びのある日日を送らせてあげられなかったことが非常に残念であった。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　祖母５５歳　直爆０.８㎞　大けが・大やけど
②８／６　妹　１３歳　直爆１.０㎞　大けが・大やけど

〔広島　直爆２.０㎞　男　１５歳〕
（３４−５７２５）

【死亡家族の概況】

① ４２／２／　５　母６０歳　肝硬変　直爆２.０㎞（３８歳）　ある
② ５５／４／１５　父８５歳　胃がん　直爆２.０㎞（５０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕４年間入院生活をしました。まだ子供が独立してなかったので、母親としての役割が果たせないのを非常に気にして、いつも子供に「ごめんなさい」と言って、自分のことで子供に迷惑をかけまいと一生懸命がんばって、自分の病気の痛み等口に出したことはありませんでした。その時は気づきませんでしたが、今考えるとどんなにつらかったことと思います。

〔父〕母とは反対に、子供が独立していたので皆に世話してもらって自分は何にも言うことはないといっていました。病気も年齢の関係かあまり苦しみませんでした。

父も母も私を捜すため８月６日から９日まで市内のあっちこっちを歩き回っているので、それが少し原因して早く死んだのでは……と時々思い、済まない気持ちがします。

〔広島　直爆1.５㎞　女　１４歳〕
（３４－７１２７）

【死亡家族の概況】

① ２１／２　／３　祖父７４歳　病気　　入市（７３歳）　ある
② ２９／６／２０　祖母７６歳　病気　　ＮＡ（６７歳）　ある
③ ５５／６／　９　父　７６歳　原爆症　ＮＡ（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖父母〕突然急死した。

〔父〕原爆症に苦しんで、足がむらさき色になり、歩行できなくなり、息をひき取るまで痛い痛いと言って苦しんで死んだ。

祖父母の場合は気がついた時すでに死亡していたけど、父は恐怖と不安で痛むなかに死をこわがっていた。大怪我〔被爆で〕をした足が紫色になり、８年間歩くこともできなくなり、苦しんで死んだ。

〔広島　入市　女　１２歳〕
（３４－８０１７）

【死亡家族の概況】

①	５４／　６／　６	兄４６歳	急性心不全	直爆距離ＮＡ	（１２歳）	ある
②	５５／　１／　１	母８０歳	慢性胃炎による吐血	直爆２.３㎞	（４５歳）	不明
③	５５／１０／２１	父８０歳	急性気管支肺炎	入市	（４５歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕定年退職後、全身病気のかたまりのようになり（白内障の手術２回、高血圧、心臓病、糖尿病etc.）、最後に脳溢血で倒れ、１０年間寝たきり〔で〕死にましたが、いろいろな病気は被爆からきたものと言ってました。

〔母〕何度も何度も死線をさまよいながら結構長生きしましたが、被爆後田舎に疎開した時の辛さは毎日のように話していました。

〔兄〕本人は１００歳まで生きると言っていたのに、糖尿病から急性心不全を引き起こして４６歳の若さで死んでしまいました。本当にあっけない死に方でした。

〔広島　直爆３.０㎞　女　５歳〕
（１７－０００３）

【死亡家族の概況】
①　５５／１０／１９　母７６歳　循環器障害　直爆３．０㎞（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕被爆後非常に体が弱くなった。体力が弱り、肺浸潤、心筋梗塞、高血圧、心臓弁膜症等と長年闘い、常に死の恐怖におびえながら入院退院を繰り返し、精神的にも非常に苦しみ、被爆したためだと原爆を怨みながら死んで行った。

私も母の看護のために病院から職場に通い、夜は病院に泊り込みまた職場を休むこともしばしばで、私も被爆のため体が弱く貧血症なので非常に苦労した。そのためとうとう職を辞めざるを得なかった。母はそのことを非常に苦にし、「早く死にたい、楽になりたい」と言い続けた。

母のあの長い苦しみを思うと早く死んで良かったのかとも思うが、元気で生きていてくれたらとつくづく思う。父も被爆者でしかも８５歳の高齢である。しかも現在膀胱に悪性ポリープ（がん性）が何回もでき、入院手術４回、外来で電気メス焼き数回を繰り返し、２週間毎に病院に連れて行っている。母が亡くなったため私は父の世話に明け暮れており、職につくこともできず、経済的にも非常に困っている。これからますます弱って行く父のためにも老いて行く私のためにも、一日も早い援護対策を希望します。

〔広島　直爆３．０㎞　女　１６歳〕
（３５－０１７２）

【死亡家族の概況】
①　５６／５／２１　父７８歳　心不全　直爆２．０㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕８月１１日に父はすり傷程度で奇跡の生還をし、わずか２０日位の間に父の人相はまるで別人のように変わり果て、髪の毛は抜け、歯ぐきは変色し、歯はがたが

た、皮膚には班点ができ、食事も喉を通らない状態にまでに衰弱がひどく変わり果てていましたが、地方の医師の献身的な看病により一命はとりとめることができましたものの、その後も二度三度と危篤状態が続いておりましたが、精神力と治療に専念したお陰で、甲神部隊では数少ない生き残りの１人となり、その後地方での民生委員、公民館長、原爆被害者の会長と精力的に活躍していましたが、ある日（５６年5月１１日）突然お腹がにがりだし、食事も進まなくなり、やむなく△△市民病院に入院させ、点滴、酸素吸入の連日でしたが、治療の甲斐もなく５６年５月２１日、病院のベッドの上でついに精根尽き、長期にわたる原爆症に苛まれながら死亡いたしました。

原爆症で亡くなった父が生きていてくれたら、そして戦争がなかったらと今さら悔やまれて仕方がない。長期間にわたっての原爆症により悩み、入院、通院の繰り返しで、家族みんなが苦労と心配をしてきた。父と同年輩の方も原爆で多くの方が亡くなられましたが、出征されなかった方々は現在も元気で楽しく活動されております。もうこんな惨めで悲惨な核戦争は絶対に起こしてはならないと同時に、核兵器を世界からなくすよう、原爆被害者援護法の即時制定を強く要求する。

〔広島　入市　男　１５歳〕
（３４－７３０６）

【死亡家族の概況】

②	２３／　１／１５	伯母６１歳	腹膜炎	直爆２.０㎞	（５８歳）	ある
③	２３／　１／１６	伯母５６歳	腹膜炎	直爆２.０㎞	（５３歳）	ある
④	２８／　２／１６	母　５４歳	白血病	入市	（４６歳）	ある
⑤	４５／１０／２３	伯母７４歳	Ｓ字結腸がん	直爆２.０㎞	（４９歳）	ある
⑥	５６／　６／１８	妻　５７歳	糖尿病他	入市	（２１歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕若い時は元気でしたが、まさか糖尿とか腎臓のような病気になるとは夢にも思っ

ていませんでした。気力でがんばっていましたが、S54.4、精密検査を受けると病院にいったきり、S56.6死亡するまでの入院生活でした。例にあるようなことは私には見られませんでしたが、本人がかくしていたのでしょう。たんのうも切除していましたが私には元気に見えるようにしていました。糖尿、腎臓(人口透析)、動脈硬化、失明と、もうこれ以上どこも悪くないことはないような病名の数でした。もう思い出しても仕方のないことですけど、できるだけのことはしたのですが……。

〔母〕54歳の若さで白血病で亡くなりました。これは全体〔絶対〕に入市の後遺症だと思っています。広島の伯母の家で約4ヵ月治療しましたが、輸血より方法がなく、日毎に骨と皮になり、穴という穴から血がでて最後に息をひきとりました。白血病も最後はむごいものです。真に残念です。

妻が生きていてくれたら、私がヤモメで淋しい生活をしなくてもよいと思います。まことに残念です。自分のために苦労をなめて、一生懸命に働いてきたのに報われることなく死んでいくとは残念です。家族みんなが苦労をともにして元気でがんばってきたのに、1人苦しんで死んでいったのは真に残念です。

母がもう少し長生きをして曽孫の顔を見てくれればよかったのにと思います。白血病なんて大嫌いです。可哀想でなりません。残念です。

〔昭和20年内死亡家族〕

①8/日NA　従兄　年齢NA　直爆距離NA　大やけど

〔広島　入市　男　26歳〕

(34-0696)

【死亡家族の概況】

② 40/11/13　義母74歳　子宮がん　直爆1.2㎞(54歳)　ある

③ 56/ 7/13　夫　64歳　脳血栓　入市　(28歳)　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕生前とくに被爆のせいで苦しんだことはありませんでしたが、出張先の神戸のポートピアにて突然気分が悪くなり会社の方々のお世話で神戸市民病院に入院し、急の知らせにかけつけました時は意識もしっかりしていて遠いところ御苦労さんとねぎらってくれまして、会社の方々に大変お世話になったからお礼をと申しておりましたし、水が欲しい、煙草を一服と申しておりましたので、まさか亡くなるとは夢にも考えておりませんでした。

翌日から症状が急に悪化して梗塞を起こし（太い血管がつまったそうです）、４日目には先生方の必死の手当てにも勝てず脳死状態になり、人工呼吸器をとりつけられましたが、７日目の朝還らぬ人となってしまいました。

〔義母〕入院退院を繰り返し、衰弱がはげしくて手術もできませんでしたからその苦しみはひどいもので見ておれませんでした。最後には全身に転移して手のほどこし様もないまま亡くなりました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①９／２７　義父６４歳　直爆１.２㎞　原爆症

〔広島　入市　女　２３歳〕
（１３－１６－０５７）

【死亡家族の概況】

②　５６／８／２６　義弟６２歳　胃がん　救護（２６歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義弟〕兄の原爆症状を見ているので，いつも原爆症の不安にかられ、血圧が高くなる一方で思うように働けなかった。その中、心臓が弱くなり、入退院通院を繰り返していたが、がんに侵されていたことがわからす、手術はしたが、すでに転移していたので助からなかった。

２人の死を看取りました。原爆に遭っていなければ、こんな悲惨な死に方はしなかっただろうに、も少し安らかに死んでくれたらと思いました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　夫３１歳　直爆1.5㎞　原爆症

〔広島　救護　女　２０歳〕
（３４－０４７５）

【死亡家族の概況】
①　５３／１０／１６　父７７歳　腸がん　直爆４.５㎞（４４歳）　ある
②　５６／１０／　７　母７２歳　腸がん　直爆３.５㎞（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕とくに被爆のせいで自覚症状に苦しむという意識は表には出さなかったが、内心不安に感じていたようであり、人一倍健康管理には心をくだいており、通院と薬は離さなかった。消化器系統が弱く、便通が極めて不正常であり、死亡時にがんの疑いが持たれた時、本人には知らせなかったが、私は被爆の影響を疑った。苦しさおし隠して静かに息を引き取った。

〔母〕生計を立てるため、若い時から注文を受けての和裁に明け暮れし、小さい身体ながら健康にはとても自信を持っていた。一度（６５歳）呼吸器を患って半年入院、一時は危篤状態にまでなったが、奇跡的に回復、退院したが、この時からガックリと体力が弱まった。父（配偶者）を失って以来、気力もめっきり落ちたが、まさか消化器官がおかされているとは気がつかなかった。

便秘症状がひどくなったのは死ぬ１年位前からで、異常に腹部が膨満状態になり、ついに入院に至ったが、すでに直腸がん、肝臓がんに進行し、入院手術後一時は回復したかに思えたが、手術後半年で亡くなった。

両親２人ともがんに侵されていたことを思うと、今少し早く気づき、それなりの予

防、治療ができたものをと悔やむばかりである。２人とも年老いても年中貧乏ひまなしの働き者であり、徹底した診断と治療に専念できなかったのが残念でならない。

援護法の制定が早く実現しておれば、この後悔は軽くてすんだものと思う。

〔広島　直爆1.5㎞　男　12歳〕
（34－5741）

【死亡家族の概況】

① 53／ 1／ 2　父82歳　心不全　直爆2.0㎞（49歳）　不明
② 56／10／30　弟45歳　膵臓がん　入市　（ 9歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕老齢になってから、からだの動きが不自由になり弱くなっていった。
〔弟〕元気だった弟ががんで苦しんで死んでいったことは忘れることができない。

特に弟が若くして死んでいったことはくやしい。がんの早期発見ができなかった、医療体制の不備を思う。

〔広島　直爆3.0㎞～　男　16歳〕
（23－0154）

【死亡家族の概況】

① 23／10／27　母53歳　腸がん　直爆3.5㎞（50歳）　ある
② 57／ 1／16　父89歳　腎臓病　直爆2.0㎞（52歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕被爆当時は外傷もないまま気にしてもいなく、空地を利用しての農耕につとめていたが、次第に体調も悪くなり医院を転々としたが、ますます衰弱して食事も出来ない状態で、病院に入院して腸の切開手術をしたが回復見込みなくて、がんを切除することもできず、流動食をとり、腹部手術で排便という苦しい病床生活わずか1ヵ月で直腸がんにより死亡した。

〔父〕右上半身火傷で空襲警報が鳴ると防空壕へ弟と連れて入るのにたいへんだったが、その後傷が回復すると元気で勤めていたが、55歳のとき母と死別し、落胆するとともに、自分も被爆者という精神面の不安も大きく、停年以前に退職して故郷に帰り、一時は団地造成測量の手伝いなどもしていたが、腎臓病その他内疾患に苦しみ病床につき、常に被爆者意識は自らを不安な日々だったように思う。

私も被爆者として常に不安に思っている。

母は53歳の若さで、私自身には勤務の都合で臨終にも間に合わないまま（父にも）死別し、戦中、戦後間もなくと食糧難で経験のない農作業をして50代での死は、母自身も死にたくなかったことはもちろん、70歳に近い今でもいてくれたらと思うし、私が孫の成長を楽しみにしているように、孫の成長を喜んでくれたらと今でも思うし、医療機関の充実している時代ならがんと言っても切除手術位できたのではないかとも思い、可哀想な母だと、私が死ぬまで残念に思い続けることだろう。

〔広島　直爆3.0㎞　男　27歳〕
（34－0257）

【死亡家族の概況】

② 57／2／4　兄52歳　膵臓がん　被爆状況NA（15歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕亡くなるだいぶ前から体の具合は悪かった様子です。亡くなる3ヵ月前に倒れて入院し、痛みとたたかいながら、すっかりやせて亡くなりました。

長生きして欲しかった。いなかにいたために手帳の交付も受けず、検診も受けていなかった。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／７　父４６歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

〔広島　直爆2.0㎞　男　１１歳〕
（１４－７０１４）

【死亡家族の概況】
②　５７／４／１８　妻７６歳　リュウマチ　直爆1.5㎞（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕関節リュウマチで、１５年が体の自由がきかず、死ぬ前の５年は寝たきりであった。原爆症におびえて、早く死にたいと言っていた。とても悲しく苦しい５年の歳月であった。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　兄４２歳　直爆1.5㎞　不明

〔広島　直爆１５.㎞　男　３０歳〕
（２７－０２６６）

【死亡家族の概況】
①　４１／８／２４　母　８３歳　皮膚がん・老衰　直爆2.0㎞（６２歳）　ある
②　５０／８／２６　義兄７１歳　心筋梗塞　直爆1.5㎞（４１歳）　ある

③　５３／５／３０　姉　７０歳　乳がん　　　　直爆２.０㎞（３７歳）　ある
④　５７／４／２８　兄　６５歳　鼻腔がん　　　直爆２.０㎞（２８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕体臭が嫌な臭いがすると、悩んでいた。がんの故と思う。

〔兄〕６０歳の時、がんが発見され、３ヵ月の生命といわれたが、娘が中学３年のため、大学入試までと、気力で５年頑張って死んだ。その間、食物も思うように喉に通らずとても苦しんだ。

〔姉〕１５年間、高血圧、糖尿と入退院をくりかえし苦しんで亡くなった。最後には乳がんにもなっていた。

〔義兄〕１０年間心臓の病気で入院２回、あとは通院していた。被爆者ということで娘の結婚にも悩んでいた時期があった。大阪府被爆者の会の会長の時、東京での会議出席のあと、疲労のためか心筋梗塞で亡くなった。

８人家族が戦死、がんと７人まで亡くなって、末っ子の私１人残った。家族みんながとても私を可愛がってくれたので、１人残った時、３年位、生きているのが嫌だった。今年の春頃から、やっと生きる尊さに目覚め、頑張っている。４人の死に水をとって、つくづく戦争は恐いと思う。家族みんな被爆後の苦しさは、実際その目に遭ったものでないと分からないと思う。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２０歳〕
（３４－９０２５）

【死亡家族の概況】

①　２４／２／２４　妹２３歳　腎炎・肺結核　　　　直爆２.１㎞（１９歳）　ある
②　２９／７／２９　父６１歳　胃がん　　　　　　　直爆２.１㎞（５２歳）　ある
③　５７／８／２３　弟５１歳　胃・肝臓・膵臓がん　直爆３.０㎞（１４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕戦後職なし金なし、子供達の支えで毎日ブラブラ過ごしていた。２６年頃より体が弱くなり医者通いとなる。２９年胃がんのため胃切除手術をする。その後経過不良、半年たって苦しみ死亡する。

〔妹〕上半身のケロイドを残したので、毛穴がつぶれ、汗が出なかった（腎炎となる）。死ぬまでケロイドから脂肪のようなものが出ていた。戦後の混乱期に無理して家事を支えたのがたたり（結核となる）、２４年に死亡する。

〔弟〕戦後、家に被爆者３人、その家計を助けるため、年若くしてあらゆる肉体労働、商売をした。体を無理して働きどおしに働き続けた。結婚して２児をもうけたが、５６年広大にて胃全摘、肝、膵臓、一部切除するも１年位で死亡する。骨と皮となった。

戦争とは、原爆とは、人間に悲しみと苦しみだけをいつまでも与えます。国はなんら反省していません。

・現行２法がもっと早く施行されていれば、父、妹は十分治療が受けられ、長生きできたかもしれません。

・戦後、原爆犠牲者は殺され損、病気のし損、けがのし損です。こんな例は過去にも将来にもないのではないかと思います。

〔広島　直爆1.0㎞　男　２１歳〕
（３４－５３６１）

【死亡家族の概況】

①	５２／１２／１２	母７７歳	白内障・心不全	直爆4.0㎞	（４５歳）	ある
②	５７／　８／ＮＡ	姉５５歳	子宮体部がん	直爆1.0㎞	（１８歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕病気で８年間寝たきりの生活で過ごした。原爆の不安もあり、体験にも苦しみ、失った物への執着もあった。

〔姉（兄嫁）〕火傷がひどく原爆症に苦しみ、ほとんど働けない状態で、最後はがんで、何のための一生だったのか。流産を繰り返し、原爆の恐ろしさとともに、にくみ、苦しんだ生涯でした。

病人をかかえての家族の苦しみは、抱えた者でないと理解はできない。金銭的なもの、精神的負担、その犠牲はあまりにも大きい。看る者がどんなにつらく大変だったか、これから先、自分が病いに倒れたらどうなるのかと不安は大きい。

〔広島　直爆３.０㎞～　女　１２歳〕
（１３－３２－０１７）

【死亡家族の概況】
① ５７／１１／６　父８０歳　胃がん・肺がん　直爆２.０㎞（４３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕若い時柔道黒帯、青年団の団長、消防団長として堂々２０貫の身体に村人の信頼を集めておりました。

被爆後は町内会長、民生委員として、一身をなげうって世のため人のためにそれはよく尽力致しました。仏様のような人と人々から言っていただいておりました。Ｓ３０年過ぎた頃からどことなく元気が無く、風邪を引き易く、体のアチコチ痛くなりだしました。忙しい人で医者にかからず過ごしました。Ｓ５０年頃からは骨皮の身体になり、青いタンが出ると言っていました。医師は老人だから……の一点張りでした。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２２歳〕
（３４－５０５８）

【死亡家族の概況】
③　３２／１２／２４　父６５歳　肝臓がん　直爆２.０km（５３歳）　ある
④　５７／１１／２３　弟５６歳　白血病　　入市　　　　（１９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕昭和２３年に姉の主人が死亡。３歳、１歳の２人の子供を連れて姉が実家に帰って来ました。姉達一家の自立のできるように一生懸命働いていた時、肝臓がんにかかり、原爆症の不安と姉達一家のことを大変心配しながら亡くなりました。
〔弟〕歯の治療中に内科に紹介されて白血病とわかり、入院・退院を繰り返しながら、１年３ヵ月で亡くなりました。長男の結婚を目前にして。

親の死以上に、突然発病して白血病で死んだ弟のことは大変なショックでした。それ以来、どんな小さな体の異状にも神経をつかいます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　　　妹１８歳　直爆０.５km　爆死
②１０／２２　弟　２歳　直爆２.０km　大やけど

〔広島　入市　女　１９歳〕
（１９－００３３）

【死亡家族の概況】
⑤　５７／１２／２３　父年齢ＮＡ　脊髄骨膜炎　直爆１.５km（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕無理をして働いた。いつも背中が痛いと言って働きに行く父の姿を覚えている。病床の時も、息が切れるまで背中が痛いと言っていた。

原爆で苦労して自分たちを育て母がわりしてくれたし、１人しか残っていないの

に、床についてこんな苦しみをするなら、子供に食べさせてもらうなら、もうどうでもいいやと思うことがある。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①8／6	姉	１１歳	直爆1.5㎞	爆死
②8／6	妹	２歳	直爆1.5㎞	大やけど
③8／6	兄	１０歳	直爆1.5㎞	不明
④8／16	母	年齢ＮＡ	直爆1.5㎞	大やけど

〔広島　直爆1.5㎞　女　8歳〕
（１２－０１３１）

【死亡家族の概況】
①　５８／2／2　夫６４歳　肝硬変　直爆2.0㎞（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕２４年頃から貧血、十二指腸潰瘍で入院。その後はどうにか元気になっておりましたが、３６年肺結核で国立療養所へ入院。３７年、右肺葉切除の大手術で３年間の休職、復職後４２年頃より肝臓障害によって歩行困難になり、入院通院でどうにか快方にむかいましたが、４３年頃より静脈瘤（食道）により吐血をするようになり、入院退院の繰り返し、肝硬変となり、ついには肝臓がんの手術を受け、体力の低下により高熱が続き、最終的には吐血をしながら亡くなり、あの時の悲しい思いは私の生きている限り忘れることができません。

本人も病気のため、定年より２年も早く退職、昇給等にも大分ひびきましたので残念がっておりました。

入退院の繰り返しのため、幼かった子供の父親の役をするために、キャッチボールをしたり、子供だけ留守番をさせて病院に行ったり、外出しなければならないことも

あり、また収入も８割、６割と少なくなり、あまり丈夫でない体では仕事もできず、経済的にも精神的にもつらい思いをしました。

〔広島　直爆２.０㎞　女　２３歳〕
（３４－３３２０）

【死亡家族の概況】

①　５８／３／１１　夫８１歳　出血性胃がん　直爆１.５㎞（４３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕広島の原爆でやけど。頭、顔、左腕、両足に傷を受けました。４ヵ月位で歩くようにはなりました。左ひたいにこぶができておりました。脂肪のかたまりのようなものでした。こぶが小さくなったら、両方の目が見えなくなりました。なおるのに１年ほどかかりました。手が震えるようになり、字も書けないし、食事の時にも止まるようになりました。決まった仕事にもつけず苦労しておりました。ぶらぶら病も出ておりました。年に１、２度は出るようでした。３、４０日位は苦しんでおりました。やけどの傷はいつもかゆいとか痛いと言っておりました。

５７年頃から体調ひどく悪くなり、２、３ヵ月位で２０キロもやせました。９月頃には毎日通院するようになり、貧血、胃潰瘍と言っておりましたが、入院も勧めましたが、５０年から５７年の間に入院を２回もしているものですからいやがり、通院しておりました。５８年２月２日の朝、血をはき入院しましたが、手遅れでした。手当てのやりようがないと言われた時には、泣くにも泣けませんでした。寝たきりで、点滴と輸血で、夜昼なしの、はいては輸血、毎日繰り返しでした。苦しかったと思います。見ておるのがつらかったです。かわってやれるものなら、身の縮まる思いでした。３月７日から輸血してもすぐ吐くようになり、４日ほど続きました。５８年３月１１日午前２時５分に亡くなりました。長い年月苦しかったことを思う時、自分のことがこわくなります。病名は胃がん、出血性胃がんでした。

主人が死んでから３年が過ぎました。主人はいつも自分がいなくなったら、〔と〕

後のことを心配しておりました。私達には子供がいないから、私のことが気になったでしょう。長い間苦労を一緒にしてきたから、何にもできなくても生きていてくれたらと思います。８２歳でしたから若いとは言いませんが、１度は誰も行く所ですから仕方がないとあきらめなければと、生命にはいたし方ありません。私も命ある限り、他人様に迷惑かけぬよう、生きていきたいと思います。主人の死を思う時、悲しい時もありますが悲しんでばかりいてもなりません。

〔広島　直爆1.5㎞　女　３０歳〕
（３５－０１７１）

【死亡家族の概況】

①	５０／１１／７	父７２歳	肝臓障害・脳血栓	直爆１.６㎞	（４２歳）	不明
②	５８／　４／９	母７７歳	肝臓障害	直爆４.０㎞	（３９歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母〕両親ともに６０歳を過ぎて肝臓を患い、△△病院に入退院を繰り返していた。近所の医者に週一回来てもらっていたようで、原爆と直接関係あるのかは不明だが、歯の治療をするのも血がよく出るのでむずかしいと母がこぼしていたのを思い出す。

父は脳血栓で７月に倒れ、１１月まで子供の顔もわからない状態で過ごして死んだ。

母は２月から４月まで××病院に入院していた。

現在の世の中では、７０歳台であればまだ早いと思われるが、８人の子供を育てるのにずいぶんと戦後の食料難の時代の中で苦労をかけたと思う。

〔広島　直爆3.0㎞～　男　9歳〕
（３４－５６３４）

【死亡家族の概況】

① ３０／１１／１２　義母７３歳　心臓病　直爆1.7㎞（６３歳）　ある

② ５８／　５／１８　夫　６９歳　くも膜下出血・動脈瘤破裂　直爆０.５㎞（３１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義母〕怪我をしなかったので、大怪我をした私の面倒を長い間看てくれました。家も財産もなくした大きな悲嘆は、年をとっていただけに、心身ともにこたえていました。

原爆を怨みつづけた毎日を送りながら亡くなりました。

〔夫〕８月６日、広島市中心街の福屋デパートの中で被爆し、大怪我をしましたが、奇跡的に生き続けました。５８年、突然倒れましたが、反核運動には熱心でした。６８歳突然の死でしたが、私には被爆したからだと、そう思いたいのです。

〔広島　直爆2.０㎞　女　２４歳〕
（１３－４７－００３）

【死亡家族の概況】

③ ２４／月日ＮＡ　義妹２４歳　産後のひだち悪く　直爆４.０㎞（２０歳）　ある

④ ５８／６／２５　夫　６８歳　胃がん・肝臓がん　直爆２.５㎞（３０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義妹〕被爆を境にからだが弱くなり、特に治癒力が減退した。結婚し出産の時、体力がなく死亡。子供もその後３歳くらいで死亡した。

〔夫〕被爆直後私の実家や家族のことや自営していた工場の後始末等で、連日爆心地で奔走していたためか、被爆後風邪ひきやすく、胃腸が弱り、昭和２５年頃、十二指腸潰瘍を患った。その後もずっと胃が悪く病気がちで、昭和４０年に胃の手術をすすめられたが飲み薬でなんとかおさえていた。

５０年頃がんだと言われたが、北里病院で新薬の効果により入院１ヵ月間でおさ

まり、昭和５７年にいよいよ手術し、昭和５８年に死亡した。本人には最後までがんとは明かさず、家族でその分まで苦しみに耐えた。被爆のせいでの発病ではなかったかと今でも残念に思う。

〔例示の〕アイウエオ、以上すべてが私に該当し、１人残された毎日の生活の中でつまされる思いです。一時は何のために生きているか（今でも）……とつまらない思いです。とても立派な誠実な夫だっただけに、１人残された者としての悲哀をしみじみと感じています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／6　父　年齢不明　直爆1.0㎞　圧焼死
②8／6　母　年齢不明　直爆1.0㎞　不明

〔広島　入市　女　２４歳〕
（１３－１７－０５８）

【死亡家族の概況】

①	３５／４／ＮＡ	祖母８３歳	その他	直爆２.５㎞	（６８歳）	不明
②	５８／６／ＮＡ	父　７９歳	悪性リンパ腫	直爆３.０㎞	（４１歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔祖母〕老衰で亡くなったのでよくわかりません。
〔父〕離れて生活していたのでくわしいことはわかりません。
ア）死亡する３年前頃から次々に異なる病気を繰り返した。
イ）悪性リンパ腫という病名は本人は知らぬままでしたが、がん以上に怖い病気で、血液のがんというだけに身体のいたる所が悪くなります。治療の方法もなく、この病気で治癒はありません。手のほどこしようもありませんでした。

悪性リンパ腫は血液のがんというだけに、原爆と関係があると思われます。まだ研

究途上で、この病名で治ったという事例もあまり多く聞かれません。身のあちこちが悪くなり、合併症で病人も苦しみます。早く研究の強化を望みます。

〔広島　直爆2.0㎞　女　14歳〕
（27－0368）

【死亡家族の概況】
③　58／7／5　妻69歳　心不全　入市（31歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妻〕昭和33年12月に私と結婚した当時は元気でいたが、被爆手帳の申請をして被爆についての認識をよみがえらせて以来、気管支炎等のことでも放射能障害の影響かと心配するようになり、心臓が肥大し心不全の診断を受けて入院すること4回、6年間に5年間の長期入院を繰り返し、最後の1年間私はほとんど付き添いをして看護に専念したが、幾度か危険状態に陥り、主治医も死期の宣告をされても懸命の努力で生き延びたこともありましたが、ついに70歳を最後に逝去しました。原爆放射能障害が身をこがしたのだと自覚して逝きました。私の運動に努力してくれたのです。

私が被爆者ながら、死に水をとってもらうために11歳も若い人を後妻にしたのに、心不全という不治の病気になって、6年間に4回、日数からすれば約5年という長い病院生活。殊に最後の1年間はほとんど私が付添看護をした。私は看護手当も数ヵ月分受けたが、もっと早く援護法ができていていたらと思いました。

〔昭和20年内死亡家族〕
①8／12　妻　40歳　直爆1.8㎞　大けが・大やけど・原爆症
②8／12　五女　1歳　直爆1.8㎞　大けが・大やけど

〔広島　直爆1.5㎞　男　42歳〕
（34－1014）

【死亡家族の概況】

③　５８／８／８　妹５５歳　膠原病　直爆１.０㎞（１７歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕ある日急に発熱し風邪かとおもっていましたら、原因不明。その後膠原病と診断され、２ヵ月の病院生活で亡くなりました。

５５歳の若さで亡くなりました。葬儀に参列下さいました友達をみた時、なぜ１人だけ早く死んだのかとくやまれて仕方ありませんでした。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　父４７歳　直爆１.３㎞　圧焼死
②８／６　母４４歳　直爆１.３㎞　圧焼死

〔広島　直爆１.５㎞　女　２６歳〕
（１３－１４－００５）

【死亡家族の概況】

①　５８／９／６　父６７歳　胃がん　直爆２.０㎞（２９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕６５歳頃発病した父は、手術した時は半年の命と宣告されました。その前年、乳がんの手術をした母は自分の体も忘れ、父の看病に日夜も無くつくしました。私たちは主治医からも原爆との関係を知らされ、残された母も私も、いつもいつも不安におびえています。

〔広島　入市　女　１０歳〕
（１３－０４－０３４）

【死亡家族の概況】
① ４０／ ９／１０ 義兄４８歳 足がはれる病気 直爆1.7㎞（２８歳） ある
② ５8／１０／ ６ 母 ８７歳 心筋梗塞 直爆1.7㎞（４９歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義兄〕夏になると身体がだるく、足がはれることを繰り返して弱ってきた。
〔母〕ある日急に心筋梗塞の発作がおきて亡くなった。

〔広島 入市 男 ２３歳〕
（３５－００２０）

【死亡家族の概況】
② ５８／１１／１０ 妹６６歳 胃がん 救護（２８歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕おとなしい妹だったのであまり口に出して言わなかったから、知った時は手遅れだったが、長い間救護に当っていた妹だったので原因はあれあるような気がする。

妹は夫に早く死別し、女手一つで２人の子供を育て苦労の積み重ねであった。今から楽ができるという時に亡くなったので、もう少し早く援護対策が制度が成立でもできていたらと不憫でたまらない。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①月日不明 第２６歳 直爆距離ＮＡ 死亡状況ＮＡ

〔広島 救護 男 ４２歳〕
（３４－５２７９）

【死亡家族の概況】

①	29／ 3／ 2	父68歳	肺がん	入市	（59歳）	ある
②	57／ 1／27	妹55歳	肝臓がん・乳がん（両方）	直爆1.2km	（18歳）	ある
③	58／11／16	妹64歳	肝臓がん・乳がん（片方）	直爆1.2km	（26歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕当時としては薬もなく、痛みのためシーツを裂いて苦しみました。末期には本人も気づいていたようですし、確か先生も言われたのではないかと思う。弟が大学生でしたので、亡くなっても学校だけは続けるように言ってました。被爆後体が弱くなり、思うよう働けず、口には出して言わなかったが、心の中ではずいぶん苦しんだと思います。

〔妹②〕無傷でしたのに、ウ、エ〔例示〕と、親であるのに病気のため親らしいことができず、心の中ではつらかったと思います。△△さん〔相談員〕には子供のことで大変お世話になりました。入退院の繰り返し、病気との闘いでした。

〔妹③〕原爆症の不安、恐怖はいつも感じていて、病気との闘いでした。肝臓は腹部が腫れて腫れて苦しみました。乳がんは、腹部の腫れの方がひどくて、終わり頃まで気づいてなかったようです。

父の場合、まだ原爆のことがよくわかってなく、十分な医療を受けさせてあげられなかったことを残念に思います。全体的に援護対策が早い段階でできていたらと大いに思います。妹達のことは女どうしですので、生きていてくれたらお互いに頼りになるのにと思いますが。

〔広島　直爆1.5km　女　27歳〕
（34－7119）

【死亡家族の概況】

② ５３／１２／１２　妹５１歳　子宮がん　直爆２.２㎞（１８歳）　ある
③ ５９／　４／２２　父８５歳　老衰　　　直爆２.０㎞（４６歳）　なし

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕５９.４.２２死亡。

原爆を受けていたが（舟入町）、別に悪いとこもなく、ただ１４～１５年前に４～５年、アトピー性皮膚炎で難儀したくらいで、原爆性のものはなかったように思う。８５歳まで生かしてもらったのだから十分だと思っています。

〔妹〕５３.１２.１２死亡。

舟入小学校教員をしていて朝会の時被爆。全然けがなし。戦後も結婚もしなかった。

突然病気で子宮がんと診断され、もう手術もできない状態だった。でもコバルト治療を受けていて、それがしんどくてもうやめてほしいと言ったこともあったり、同室の〇〇さんはがんだそうでコバルト治療がつらいので窓から飛び下りたいと言っているとかいって、自分ががんであるのは気づいていなかったのか、知っていても心配かけると思って言わなかったのか。もう１週間くらいですから自宅でと言うことで家に帰りましたが、１１月２０日～１２月１２日まで、家で家族に見守られて亡くなりました。

女の姉妹ですから、やはり生きていてくれたらの思いはあります。でもそんなこと思ってみたところで亡くなった者が生き返るわけないし、寿命と思っています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　弟１２歳　直爆０.８㎞　爆死

〔広島　直爆３.０㎞～　女　２１歳〕
（３４－５８５１）

【死亡家族の概況】

①　５９／４／ＮＡ　三男５１歳　がん　直爆距離ＮＡ（１２歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔三男〕病院をいやがって、ギリギリまで入院しなかった。１年半入院。がんでひどく苦しんだが、最後はきれいに死んでいった。

戦争中、あんなに苦労してせっかく育てあげたのに、まだ若かったのに死なせたことが悔しかった。

〔広島　直爆1.5㎞　女　３３歳〕
（３４－７２１５）

【死亡家族の概況】

⑤　５１／３／２２　父７２歳　胃がん　直爆1.1㎞（４１歳）　ある
⑥　５９／６／２２　母７５歳　心不全　直爆1.1㎞（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後からだが弱くなる。けがの傷あとで指が屈伸できないので手を隠そうとしていた。

ある日突然に発病し死亡。からだが弱くなっていなかったら、発病がもっと早くわかったのではと思う。

〔母〕Ｓ２５年に甲状腺の機能低下になり死亡の日まで通院していた。高血圧、心臓病を併発していた。

もっと援護対策が早ければ、もっと身体の欠陥をチェックできて、病気に見合った治療ができたのではと思う。被爆した後、自分のために苦労をなめて（インフレ、封鎖、食料難、治療費の捻出等）いた。両親とともに生きていてくれたら、援護法制定の日をともに喜びわかちあうことができるのではないかと思い残念。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　妹　　４歳　直爆１.１㎞　爆死

②８／６　妹　　１歳　直爆１.１㎞　大けが・原爆症

③８／６　祖父６２歳　直爆０.２㎞　圧焼死

④９／１　姉　１４歳　直爆０.５㎞　原爆症

〔広島　直爆１.５㎞　女　１３歳〕
（３４－００２２）

【死亡家族の概況】

⑤　５１／３／２７　父７３歳　胃がん　直爆１.１㎞（４２歳）　ある

⑥　５９／６／２４　母７５歳　心不全　直爆１.１㎞（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母〕けが・やけどの傷跡があり、被爆を境にからだが弱くなった。母はＳ２５年に（甲状腺機能低下）発病し、死亡する１年前から５～６の病気を持っていた。

両親ともに被爆で重傷を負いながらも生きていたおかげで、現在の私が生きておられるのだと思っています。あの日、両親ともに死亡していたら、私自身どこかの収容所で死亡しただろうと思うと背筋が寒くなる思いがします。特に母は原爆症と闘いながら、私達のために苦労をなめたと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／６　妹　　４歳　直爆１.１㎞　圧焼死

②８／６　妹　　２歳　直爆１.１㎞　大けが

③８／６　祖父６０歳　直爆１.１㎞　爆死

④９／１　姉　１４歳　直爆０.５㎞　原爆症

〔広島　直爆1.5㎞　女　13歳〕
（34－5003）

【死亡家族の概況】

①	45／10／22	母64歳	出血死	直爆1.8㎞	（39歳）	ある
②	46／12／12	父74歳	肺がん	直爆1.8㎞	（48歳）	ある
③	59／ 8／14	兄58歳	肺の呼吸困難	入市	（19歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕特に原爆のことについては何も言っておりません。
　亡くなる2年前から少しずつやせて来ました。両親は広島、私は東京と離れていましたので、肺がんになっているとは気づきませんでした。最後は骨と皮になり、床づれもひどく可哀想でした。

〔母〕ある日突然、口と鼻から多量出血し、病名もわからず輸血を4～5回繰り返しましたが、最後に出血多量で亡くなりました。

〔兄〕ある日突然、風邪が元で呼吸困難になり、強い薬を使われたため内臓をやられ、出血をして亡くなりました。

　原爆を受けていなかったら今でも皆んな元気に暮らしておられるのにと思うと、とてもくやしいです。私も0.5㎞の所にいたので、いずれがんになって死亡することでしょう。

〔広島　直爆0.5㎞　女　15歳〕
（14－2019）

【死亡家族の概況】

① ２３／１／１７　四男２０歳、病気　救護　（１７歳）　ある

② ５９／８／１７　長男６４歳　肝硬変　直爆２．０㎞（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔四男〕肝臓肥大で原爆症のような症状で死亡。

〔長男〕肝硬変その他いろいろな病気を併発して死亡。

生きていてくれたらと思わぬ日はない。

四男は勤務先が個人商店で保険もなく、永く患い苦しんだため、お金もたくさん使い借金もした。警防団として働いたのに何の補償もなく、犬死にさせて可哀想です。国から線香の１本でも上げて「すまなかった」と言ってほしいと思います。

〔広島　入市　女　４４歳〕

（３４－４１１６）

【死亡家族の概況】

② ５９／　６／２７　父７９歳　肺がん　直爆４．１㎞（４０歳）　ある

③ ５９／１０／　７　母７５歳　心筋梗塞　直爆４．１㎞（３６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕１ヵ月入院して２ヵ月目に入る時、急に肺がんで後１ヵ月の命と言われた。いつも原爆症がでるのでないかと不安な一生をすごしました。肺の血のかたまりが気管につまり、窒息死をしました。

〔母〕ある日急に、１０時間ほど入院しただけでした。日曜日でこれという治療もなく、２度目の発作で眠ったまま急に心臓が止まりました。

生きていてくれたら、もっと援護が早かったら、もっと苦しまなく、死なないでい

てくれたらと思う。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　姉１６歳　直爆距離ＮＡ　不明

〔広島　直爆1.5㎞　性・年齢不明〕
（２７－０２６１）

【死亡家族の概況】
①　５２／　６／１５　父７９歳　心不全　　入市（４７歳）　ある
②　５９／１１／１１　母８０歳　心筋梗塞　入市（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕緑内障・白内障にかかりとつぜん仕事中に失明。手術３回。おぼろ〔げ〕ながらめがねで歩けるようになったが、仕事はできない。膵臓も発病す。死亡時は心不全でした。
〔母〕元気そうに見えてよく動いていましたが、糖尿病、白内障、高血圧病、胆嚢、心臓と病名をたくさんつけられていました。死の近くの折は、頭痛になやまされ、眼底出血もあったようで不眠におそわれていましたが、通いの病院で倒れました。心筋梗塞。

家族の肉親として最後までみとってあげたので、心やすまりました。自分の身はかえりみることができませんので、その後は引きしめて生きるつもりでおります。

〔広島　入市　女　３０歳〕
（３４－１４０２）

【死亡家族の概況】

① ４９／１２／　５　兄４８歳　脳内出血　直爆１.５㎞（１９歳）　ある
② ５３／１０／１０　夫４８歳　腎臓がん　直爆３.０㎞（１５歳）　ある
③ ５５／　５／　８　母８１歳　白血病　直爆１.５㎞（４６歳）　ある
④ ５９／１２／２０　父８８歳　気管支肺炎　直爆１.５㎞（４９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕ここ１０年間で肉親、婚嫁先を含め５名の被爆者の死を見送りました。１人々々決して忘れることのできない別れでしたが、中でも「遅れた犠牲者でした」と主治医より死を惜しまれた主人の状態は筆舌に絶します。原発は腎臓がん、骨肉腫による全身転移。今死ねない!!　こんな病気で死んでたまるかと頑張ってましたが、激痛が１秒も去らない状態になり、内臓全部が劇薬でとけてゆくようだと、半狂乱の叫びは、思いだす度に胸に痛みを覚えます。意識混濁３日間の暗の中で助けを求めるかのような悲鳴!!　最後は１０秒くらいの強烈な全身痙れん!!　医学的にがんの末期を知らないで、体の不調を緑の多い空気のきれいな信州で癒そうと転地して２ヵ月後のできごとでした。

被爆者同士の結婚。以前私の職場が広島で放射能影響研究所であったため、他県でよくあります被爆者差別を経験したことはありませんでしたが、３０数年後に遅れた犠牲者として主人を奪われた時に、被爆者でありながら、初めて原爆の恐ろしさと憤りを覚え、主人が被爆さえしていなかったならと涙する反面、大切な人の死を無駄にしてはならないという重い責任を痛感してます。

〔広島　直爆３.０㎞　女　１２歳〕
（２０－００９９）

【死亡家族の概況】

① ６０／１／７　弟５７歳　胃がん　直爆１.５㎞（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕自分で気付いた時には手おくれで、全身に転移していて手のつくしようもなく、死ぬまで苦しさを訴えつづけて死にました。死の１ヵ月前手帳を手にして大変喜び、早く検診を受けていたらと残念がって亡くなり、心残りです。

国税庁を退職してやっと家族揃って暮らせる矢先だけに、一番相談にのってくれたのにと、悔やまれてなりません。

〔広島　入市　性ＮＡ　２３歳〕
（３４－６１８２）

【死亡家族の概況】

①	３０／３／２２	姉３４歳	腎臓病	直爆２.３㎞	（２４歳）	ある
②	４４／６／　４	父７６歳	心不全	直爆２.５㎞	（５２歳）	ある
③	５９／４／　３	母８７歳	心不全	入市	（４８歳）	ある
④	６０／３／２１	妻６３歳	心不全･肺機能障害	直爆２.０㎞	（２３歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕特に被爆のせいで苦しんだ様子はありませんでしたが、身体〔障害〕者のため思うように働けませんでした。

〔母〕からだが弱かったが気丈な人で、苦しみを訴えたことはありませんでした。

〔姉〕広島で仕事が無いため、復員してきた夫と島根の山奥に入り、炭焼きなどなれない仕事をしたため発病（医者は腎臓病と診断）し、２人の小さな子を残して実家（広島）に帰り療養していましたが、体中から出血し、最後には吐血して死にました。白血病だと思います（当時は原爆のためとは思っていなかった）。

〔妻〕５０歳頃からいろいろな病気（心臓・腎臓・白内障等）が重なり、特に白内障で両眼を手術しましたが、右眼の眼底出血で失明し、併せて肺機能障害のため息苦し

く、歩行さえ困難でしたので、晩年は不安と苦しみの中で死亡しました。

1．昨年３月妻まで失い、生きる希望がありません。
2．天皇は戦争だから仕方が無いと言うが、被爆者は原爆投下をうらみます。
3．国は過去・現在・未来の被爆者対策に責任をもつべきです。
4．１日も早く援護法をつくってください。

〔広島　入市　男　２１歳〕
（３４－５３３４）

【死亡家族の概況】

②	３４／５／　３	姉婿５３歳	胃がん・脳軟化	直爆４．０㎞	（３９歳）	ある
③	５８／５／　３	姉　７６歳	胆石から心不全	直爆４．０㎞	（３８歳）	ある
④	６０／２／１６	兄　７３歳	肺がん・肝臓がん	入市	（３３歳）	ある
⑤	６０／４／２４	兄嫁６８歳	十二指腸潰瘍手術痕の肉腫	入市	（２８歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕被爆後、徴用先の呉海軍管理部より直ちにトラックで市内に入り、自宅や家族たち、また家内の家族たちの安否を気遣ってさがし回り、幾夜も防空壕の中で過ごした。その後、貧血、狭心症、頚骨髄腫、肝臓等克服しながらの生活であったが、最期は肺がん、肝臓がんの手遅れで死亡。

〔兄嫁〕８月６日夜、夫と子供３人を連れて焼土となった家のあとに行って、泣き崩れた由（姑や実家の家族の死）。５９年に十二指腸潰瘍の手術をし、退院後に倒れ再入院した時には、手術の個所に肉腫ができていて、このため死亡。

〔姉〕丹那町の自宅で被爆。棚から釜や鍋などが落ちて、頭、顔、手をケガ。顔面が特にひどくはれて、しばらくシップをしていたらしい。私が重体で姉の家に帰ってきたので、自分の傷もかえりみず、一生懸命介抱をしてもらった。１０月まで起き上がることもできなかった私が一命をとりとめることができたのは、姉のお陰。

当時私の介抱のかたわら、鷹匠町の実家の方面を姉婿と交代で、親や弟妹たちの消息を訪ね、捜し回ったとのこと。被爆後はずっと貧血やたびたびの耳下腺炎をおこしていた。姉婿の死後は家業のこと、舅や子供たち、従業員のことなど、体の弱い身には大変な苦労だった。何とか借財も徐々に払っていき、これからという時、胆石の手術をし、退院後手術の縫目の所から脱腸（ヘルニヤ）となり、ヘルニヤの手術後心不全で死亡。（血が薄かったためと思う）

〔姉婿〕丹那町で姉とともに被爆。中山小学校にいた私を戸板にのせて運び帰る。その時、傍らの人々は、もうこの人（私）は駄目だといわれたらしい。しかし、自宅に連れ帰ってからは、重体の私を姉とともに介抱してくださった。その間も鷹匠町、田中町、宇品方面に親類縁者の安否を気遣って歩き回り、夜は臭い私の看病をされていた。２３年に胃がん手術。３４年脳軟化症で死亡。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　母６３歳　直爆０.２㎞　圧焼死

〔広島　直爆2.0㎞　女　２１歳〕
（３４－７１１７）

【死亡家族の概況】

①　６０／７／２８　姉６１歳　乳がん　入市（２１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕戦後、たびたび病気になって、Ｓ６０年の夏、２年間患った乳がんのため、再発後２０日の入院のすえあっけなく死んだ。最後には体中ががんにおかされ（リンパ腺転移）、心臓マヒのような状態で死んだ。

７人姉妹のうち、とうとう一人が欠けた。姉は原爆手帳を取得するいとまもなかった。原爆のあくる日に、舟入町の自宅へ疎開先から帰って来たが、あの日に出会った

近所の人の居所を捜しあてないまま、しかもあまり手帳の必要も感じていなかったらしい。

〔広島　直爆1.5㎞　女　7歳〕
（34－5140）

【死亡家族の概況】
④　60／9／3　夫72歳　糖尿病･心不全･白内障　直爆1.2㎞（32歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆するまでの人生では、病気等何もしたことがなかった人でした。被爆と同時にいろいろな病気になり、苦しんだと思います。まず眼がおかされ、年中下痢にさいなまれ、そのため栄養を取らせていたので糖尿病になったと思います。

亡くなる3、4年前から病気とのたたかいに家中の者がつきっきりになりました。

病身の自分をかばいながら勤めをしてくれましたが、見ていて気の毒になることが何度もありました。息子が、後数年もしたら少しは父に楽をさせて上げられたのにと、悔やんでおります。今日の72歳は早死にだと思われるので、可哀想で胸が痛むことばかりです。

〔昭和20年内死亡家族〕
①8／6　父　67歳　直爆1.2㎞　圧焼死
②8／6　母　61歳　直爆1.2㎞　圧焼死
②8／6　伯母71歳　直爆1.2㎞　大けが

〔広島　直爆1.0㎞　女　28歳〕
（12－0024）

【死亡家族の概況】
③　60／9／11　弟59歳　肝臓がん　入市（19歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕手足や腰の痛みで入院。神経症などで入院するので、被爆者検診はかかさず受け身体には気をつけていたのに、58年11月胃かいようで手術。60年4月肝臓に転移再入院、9月11日死亡。

娘や息子にも強引に検診に行かせ、孫達の体のこと気づかっていました。からだがだるいと家でゴロゴロするようになると、原爆症の不安を口にするので、「直爆の私でさえ元気になったのだから」と慰めてはいましたが、胃かいようは本人だけが思っていることで、みごとな胃がんだったそうです。心残りはいっぱいあったでしょう。できるなら私がかわってやりたかったと思います。

子育ても終わり、孫にもめぐまれ、これから好きなことができると定年を楽しみにしていました。私に子供がなく1人暮らしなので、何かと案じてくれるのでとても頼りにしていました。こんなに早く別れが来るとは思ってもみませんでした。

被爆者も高齢化し年々減って行きます。あんな残酷な体験は、もう決していずれの人にもさせないようにして欲しい。残された私達の心からの願いです。

〔昭和20年内死亡家族〕
①8／6　兄25歳　直爆1.0㎞　不明
②8／7　姉29歳　直爆0.5㎞　大やけど

〔広島　直爆1.5㎞　女　21歳〕
（34－5133）

【死亡家族の概況】
① ６０／１１／2　妹５５歳　脳溢血　直爆3.0㎞（１５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕メヌエル病のため再々目まいがして、心臓肥大、高血圧等々で働けず苦しんでいた。Ｓ６０．１１．２突然友人の家で倒れ、頭が痛いと言ったままうずくまり、救急車をよんでも間に合わなかった。亡くなる２～３日前に頭痛がすると言っていたが、ねこむまでではなく、買い物などはしていた。

病弱なため食べ物に気を使っていた９歳も年下の妹が先に亡くなったことは、言葉に表せないほどショックでした。

〔私も〕高血圧、心臓肥大、ともに同じ病のため。

〔広島　直爆2.0㎞　女　２４歳〕
（３４－０６３４）

【死亡家族の概況】
① ６０／１１／３０　長男５６歳　肺がん　直爆3.0㎞（１６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕死亡の病名は肺がんでした。広島で直接被爆をし、その後たいした病気もせずに暮らしてきましたが、被爆後３６年目に肺がんという病気にかかり、がんセンターにて手術を受け、その後まる３ヵ年入院生活を続け、病気とのたたかいの日々を送った。3年目の１１月３０日死亡しました。

生涯をかけた息子でした。天にも地にもたった一人っ子でしたので、そのショックは筆舌に言い表せません。

あの日原爆にさえ遭わなかったら肺がんなんかにかからぬものをと、老人のぐちです。お許しください。

とにかく健康で生きていてくれさえすれば問題はありません。一人子に先に逝かれ、この年になって毎日毎日が暗い淋しい日々であります。

運命とは言いながら、あまりにも残酷に思えてなりません。

〔広島　直爆3.0㎞　女　37歳〕
(40－0977)

【死亡家族の概況】

①	51／12／22	父78歳	食道がん	入市	(47歳)	ある
②	60／11／NA	母76歳	糖尿病の悪化	直爆距離NA	(36歳)	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆によってあらゆるものを失い、最後には小さなアパートで夫婦2人きりで、年金で区役所の人もびっくりするようなお金で、細々と暮らしていた。塾もやっていたが、しまいには生徒は1人きりで、入院する前まで、そのいわゆる落ちこぼれの生徒を熱心に教え、ものを言うのも苦しそうなようすで、最後になにかこんこんと言って聞かせていた。

入院してからまもなく、のどから出血が始まり、食事もうけつけず、しまいにはアタマがおかしくなった。手術の時、手術室に運ばれていく時、「いやだ、いやだ」と言っていて、1人で行かせるのがとても可哀想だった。その次の日から頭がおかしくなり、一晩どなり通しで、翌日死んだ。悲惨な後半生だった。

〔母〕息子のことが原因で外国へ行き、そのまま死んだ。高齢の身で、子どもたち全部にもあえず、辛かったと思う。

父は職も地位も財産も体力も失い、子どもたちは全員被爆者で、その苦しみと心痛はひとかたならなかったと思う。子ども達は、健康や精神、生活が不安定で、いつまでも乏しい親のスネをかじり、いっそう貧乏がひどくなった。このような中でそのまま死なせたことが心残りである。

母については、不安定な息子のために、ついに７０をこして外国へ行かざるを得ず、その上そこで死んだ。娘たち（私の姉と妹２人）にみとられて死んだとはいえ、弟と私まで駆けつける経済的余裕がなく、最後をみとれなかったことで、とても心が重苦しかった。

〔広島　直爆2.0㎞　女　１２歳〕
（０４−０４０５）

【死亡家族の概況】
⑤　６０／１２／２８　母７８歳　子宮がん　直爆１.１㎞（２８歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕
○被爆当時１０日間位意識不明の状態だったが、その後は働きづくめに働いていた。
○子宮がんであったが、最後まで下着も洗わせなかった。Ｓ５９年２月頃病院につれていった。２月２４日広島大学病院に入院したが、治療は手遅れであった。その後３回入退院くり返した。リニヤックを１クールやった。Ｓ６０年は家にほとんどいた。眠るような感じで亡くなった。本人は病名について膀胱が悪いと言っていた。
○原爆について、グチのようなことは一言も言わなかった。父親については、かわいそうだったと言っていた。非常に気丈な人だった。

○人生は分かりません、父は１０日間〔ママ〕、母親は４０年間、同じように原爆を受けても生きていた。
○母親が子宮がんで手の打ちようがないと言われた時はショックだった。が、その後せいいっぱいのことをしてやろうと、ワクチンなども取り寄せた。ドライブや旅行にも行った。
○がんの痛みについて考えていたが、本人が入院したくないと言ったので希望どおりにした。痛みは我慢していた。

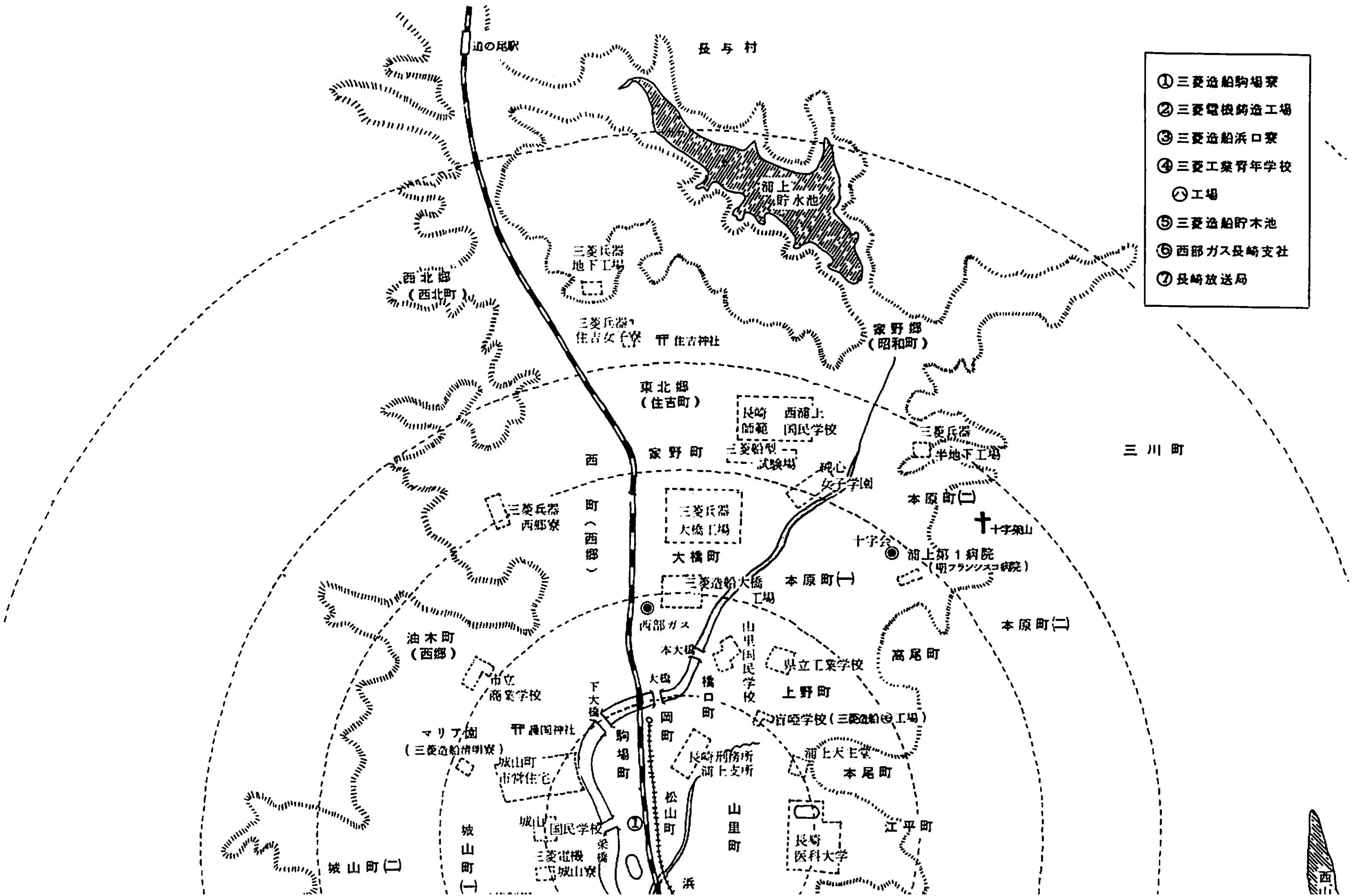
〔母の死と原爆との関係は〕ないと思いたい。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／６　姉１７歳　直爆０.４㎞　爆死
②８／６　妹　４歳　直爆１.１㎞　圧焼死
③８／６　妹　２歳　直爆１.１㎞　爆死
④９／５　父４５歳　直爆１.１㎞　原爆症

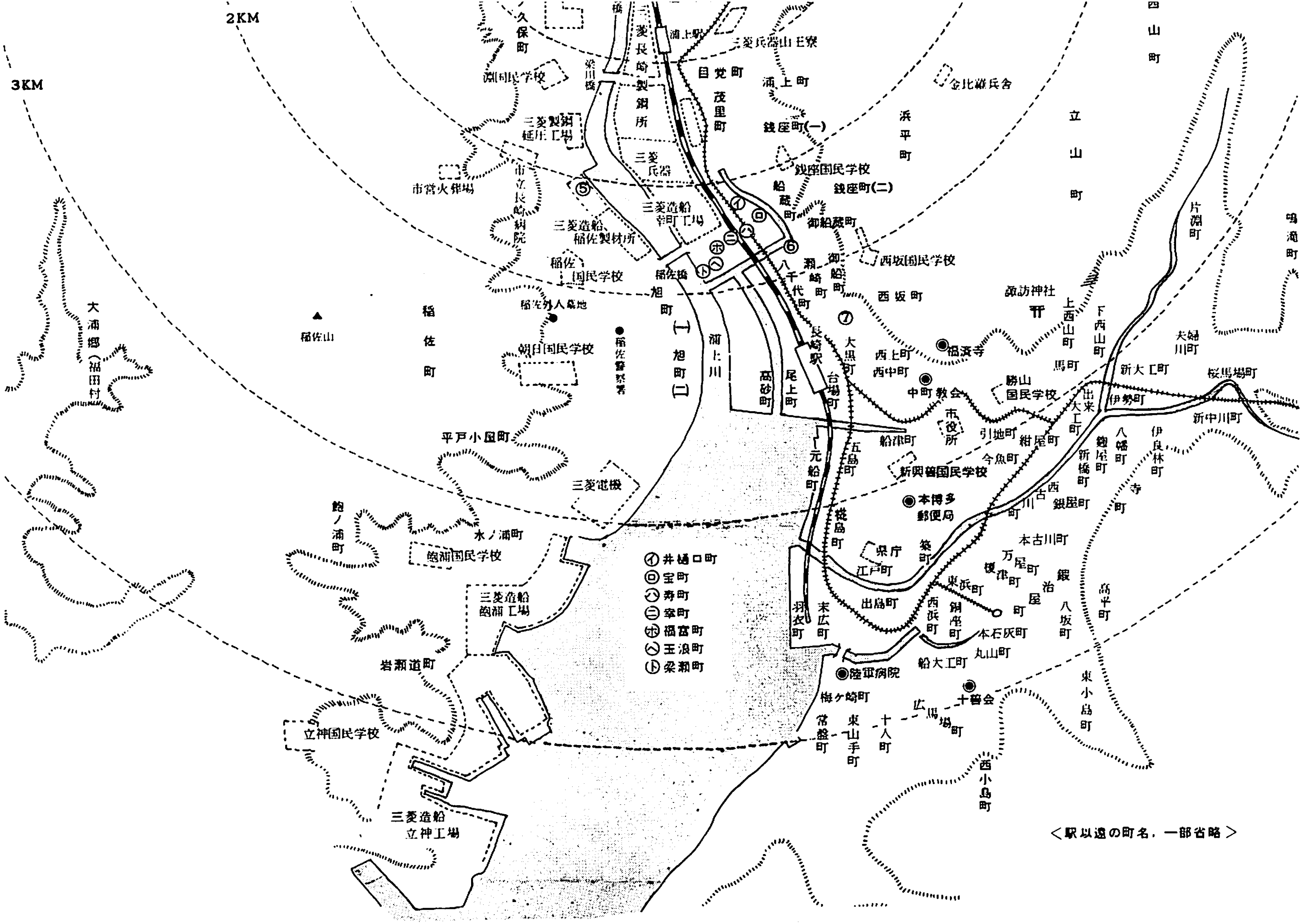
〔広島　直爆３.０㎞～　男　１３歳〕
（３４－６２８１）

長崎

長　崎



①三菱造船駒場寮
②三菱電機鋳造工場
③三菱造船浜口寮
④三菱工業青年学校
㋩工場
⑤三菱造船貯木池
⑥西部ガス長崎支社
⑦長崎放送局
道の尾駅
長与村
浦上貯水池
三菱兵器地下工場
西北郷（西北町）
三菱兵器住吉女子寮
住吉神社
家野郷（昭和町）
東北郷（住吉町）
長崎師範
西浦上国民学校
三菱兵器半地下工場
三川町
西町（西郷）
家野町
三菱船型試験場
純心女子学園
本原町㈡
十字架山
三菱兵器西郷寮
三菱兵器大橋工場
大橋町
十字会
浦上第1病院（聖フランシスコ病院）
三菱造船大橋工場
本原町㈠
西部ガス
本原町㈡
油木町（西郷）
本大橋
山里国民学校
県立工業学校
高尾町
市立商業学校
下大橋
大橋
橋口町
上野町
マリア園（三菱造船清明寮）
護国神社
岡町
盲唖学校（三菱造船㋩工場）
城山町市営住宅
駒場町
長崎刑務所浦上支所
浦上天主堂
本尾町
城山国民学校
松山町
山里町
長崎医科大学
江平町
城山町㈡
城山町㈠
三菱電機城山寮
梁橋
浜



2KM
3KM
久保町
浦上駅
三菱兵器山王寮
目覚町
浦上町
金比羅兵舎
西山町
梁川橋
三菱長崎製鋼所
茂里町
銭座町(一)
浜平町
立山町
三菱製鋼延圧工場
三菱兵器
銭座国民学校
銭座町(二)
市営火葬場
市立長崎病院
三菱造船幸町工場
船蔵町
御船蔵町
片淵町
鳴滝町
三菱造船稲佐製材所
西坂国民学校
稲佐国民学校
稲佐橋
八千代町
瀬崎町
御船町
西坂町
諏訪神社
旭町
稲佐外人墓地
大浦郷(福田村)
稲佐山
稲佐町
朝日国民学校
稲佐警察署
旭町(一)
旭町(二)
浦上川
高砂町
尾上町
長崎駅
台場町
大黒町
西上町
西中町
福済寺
中町教会
上西山町
下西山町
夫婦川町
馬町
新大工町
桜馬場町
勝山国民学校
出来大工町
伊勢町
新中川町
市役所
平戸小屋町
船津町
引地町
紺屋町
八幡町
伊良林町
元船町
五島町
今魚町
新橋町
鍛冶屋町
新興善国民学校
三菱電機
本博多郵便局
古川町
西銀屋町
寺町
飽ノ浦町
水ノ浦町
樺島町
築町
県庁
本古川町
飽浦国民学校
江戸町
万屋町
榎津町
東浜町
銀屋町
高平町
三菱造船飽浦工場
出島町
西浜町
銅座町
八坂町
羽衣町
末広町
本石灰町
丸山町
岩瀬道町
船大工町
陸軍病院
十善会
東小島町
梅ヶ崎町
広馬場町
立神国民学校
常盤町
東山手町
十人町
西小島町
三菱造船立神工場
イ 井樋口町
ロ 宝町
ハ 寿町
ニ 幸町
ホ 福富町
ヘ 玉浪町
ト 柔瀬町
<駅以遠の町名，一部省略>

1. 昭和20年代の死

【死亡家族の概況】

① ２２／４／１８　父５４歳　胃がん　直爆１．５㎞（５２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕貧しくとも、親子３人の支えは父であった。その父が、貧しさのため十分な治療もあたえられず、チョコレート状の血を吐きながら、もがき苦しんで亡くなったことを思う時、私の体は切り裂かれる思いです。

〔長崎　直爆１．５㎞　女　２３歳〕
（４０－０２２４）

【死亡家族の概況】

① ２２／１０／２２　父４６歳　肺がん　直爆３．０㎞（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕町内の防衛部長をしておりましたので、原爆投下後、直ちに消火活動や負傷者の手当てや死体処理等、日夜しておりました。

病気一つしたことのないほど健康な父でしたが、２１年頃から病名不明（病院の先生の診断）の病になり、２２年肺がんにかかり死亡しました。

最後は、今思えば原爆症だったと思います。

私はまだ学生でしたので、父がいてくれたら、生活に困らない日々を送ることができたと思います。

援護対策が早ければ、母と姉と３人生活して行くのに、少しは楽な暮らしができたと思う。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　１５歳〕
（１３－０８－０３４）

【死亡家族の概況】
①　２２／５／１３　父６６歳　結核　　直爆５．０㎞（６４歳）　不明
②　２３／３／　８　母６４歳　脳溢血　直爆５．０㎞（６１歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕原爆で、身体もさることながら、市内の家財焼失（疎開家屋も加わり）、なれない農業ですっかり身体をこわし、気性も激しかったのが、すっかり気弱になり、特に死亡までの１年間は全く地獄の苦しみで、「早く俺を殺してくれ」と言われたことは、終生忘れられぬ。
〔母〕父と対照的に死ぬのは瞬間的。父の死後１０ヵ月で、これは精神的にこたえた。

無条件降伏で、全国民やむを得ないものもあるが、はやり原爆の影は大きい。両親の生命・財物ともに失い、当時、未だ若かった自分のことを振りかえることは、心情的にもいやである。

〔長崎　直爆３．０㎞～　男　１７歳〕
（４２－１９７３）

【死亡家族の概況】
④　２３／７／１１　父５３歳　原爆症　ある　救護（５０歳）

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆を境に家庭が破壊され、健康であった父が急に弱くなった。父のその当時の

心情を思うと、涙が出るくらいよく理解できる。

それから病気ばかりで、健康な生活は少なく、原爆症（下痢がとまらない）で、昭和２３年になくなった。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　母４３歳　直爆０．５㎞　圧焼死

②８／９　弟　５歳　直爆０．５㎞　圧焼死

③８／２２　妹１８歳　直爆０．３㎞　原爆症

〔長崎　入市　男　１９歳〕

（40－1078）

【死亡家族の概況】

①　２４／２／１１　父６６歳　腸がん　入市（６２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕長崎被爆の翌日に、私を捜して知人と２人で入市した。その後健康のようであったが、戦後の町長として、九州干潟事業の陳情のため、たびたび上京して過労もあり、入院手術したが２４年に亡くなった。

腸がんの手遅れであった。長崎にともに入市した知人も、前後してがんのため亡くなられた。

父と知人は、私のために被爆翌日長崎市に入り、道ノ尾で鉄道を降り、浦上の爆心地を通って、私のいた挺身隊の迎陽寮まで歩き、茂木方面に難を逃れた私とは逢えず、生存を知っただけで、非常食を置いて引き返した。その時強い放射能を浴びて、がんになったのではないかと痛感した。

私が被爆手帳を取得したのは３７年頃。つまり１７年も経ってから原爆の恐ろしさを実感した。父の死と被爆との因果関係を証明することは、今となってはできないが、対策が早ければ、も少しなんとかできたかと思って残念。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　１７歳〕
（２６－００３９）

【死亡家族の概況】
① ２２／３／６　姉３３歳　肺結核　救護（３１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕２１年夏発病し、当時は風邪だろうとの診断でしたが、一進一退でブラブラしていました。翌年正月頃から風邪の症状が続き、肺結核の診断があり、３月３日になくなりました。当時私達は原爆のためとは分からず、医者の診断を信じていましたが、看護婦をしていました姉が、結核にしては症状がおかしいと言っていたことを思い出します。

姉は看護婦で、被爆者がいた間ずっと看護に当たっていました。（１０日間位）

戦時中の苦しい生活を切り抜け、平和の世界がき、これから家族揃って楽しい生活ができることを喜びにしていましたのに、突然の発病、死に見舞われ、兄の戦死の公報と前後してでしたので、一家悲嘆のどん底にしずんでしまいました。

肺病という医師の診断に世間をはばかってきましたが、原爆の援護対策がもっと早かったらと残念です。

〔被爆地ＮＡ　救護　男　７歳〕
（４２－０１８７）

【死亡家族の概況】
① ２４／７／３０　長男４歳　疫痢　胎内被爆（胎児）　ある
② 年 月 日ＮＡ　母７３歳　喘息　被爆状況ＮＡ（ＮＡ）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長男〕医者は当時エキリと診断したけど、今に思えば、一晩の内に全身小豆大のはんてんが出て死んだということは、明らかに原爆病だと私達自身は思います。

被爆さえしなくてすんだら、今現在４２歳。自分の生きてる限りは、子供の年も考えながら生きて生活している。

〔長崎　直爆３．０㎞　男　３２歳〕
（１３－２３－０６２）

【死亡家族の概況】

①　２４／８／１３　三男６歳　貧血　直爆２．１㎞（２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔三男〕急にはきけをもよ〔お〕して半日で亡くなりました。おとなしい利口な子供でした。なんにもしてやれなかったのが心のこりです。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　２５歳〕
（０４－０３７７）

【死亡家族の概況】

①　２２／５／　４　長男２歳　病気　胎内被爆（胎児）　ある
②　２４／７／１５　夫３３歳　病気　入市　（２９歳）　ある
③　２４／９／２０　三女６歳　病気　入市　（　２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

夫の死亡により、生活は苦しくなり、４人の子供を育てるに大変でした。夫の死亡後には、三女と長男を亡くして、残る長女と次女を義務教育が済むまでと、がんばりました。現在生きていてくれたら、家族みんなが苦楽をともにして、暮らしているのだと思います。

〔長崎　入市　女　２１歳〕
（４２－００８７）

【死亡家族の概況】

① ２４／１０／１　父６３歳　肝臓がん　直爆距離ＮＡ（５９歳）　ある
② ５９／３／１１　母９８歳　老衰　直爆距離ＮＡ（５９歳）　なし

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕外科医だったので、くずれた家屋からはい出して救護所に行き、運ばれて来る患者の治療をした。その後、肝臓がんの手術２回。苦しんで死亡。
〔母〕父と同じ場所で被爆したが、長生きしたが、眼が晩年見えなくなり、原爆のため視神経をやられていたらしい。

父は母と同じ家屋の中で一緒に被爆したが、外科医だったため、原爆がどんなものかの情報もなく、次々に運ばれる患者の治療に当たり、２次感染したらしい。もし医者でなければ、母とともにもっと生きていただろうと思う。

〔長崎　入市　女　２４歳〕
（１３－１７－０３７）

【死亡家族の概況】
①　２４／１０／１４　父５９歳　肝臓がん　直爆３．０㎞（５５歳）　ある
②　５６／１２／　７　母８４歳　心不全　　直爆３．０㎞（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕ある日、急に気分が悪くなって２ヵ月で死んだ。腹が大きくふくれて、血をはきながら……。

父が肝臓がんで死に、また母が乳がんになり（手術で摘出）、その上、母が心不全で死亡したので、なんとなく恐怖や不安をいだいています。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　１０歳〕
（２８－０３６５）

【死亡家族の概況】
②　２４／１１／２４　母３０歳　病気　被爆状況ＮＡ（２６歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕ねたきりでいて、ふきでものができて亡くなった。

父や母を原爆でなくして、ぼうぜんと立っていました。
まだ７歳だったので、何もわからなかったのを思い出します。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１５　父４３歳　直爆距離ＮＡ　大やけど

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　８歳〕
（４２－１８２７）

【死亡家族の概況】

⑤　２４　／月日ＮＡ　妹　　２１歳　不明　入市（１７歳）　ある
⑥　３５？／月日ＮＡ　伯父年齢ＮＡ　病気　入市（４０歳）　ある
⑦　３５？／月日ＮＡ　叔父年齢ＮＡ　病気　入市（３７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕２０年８月１１日、両親・２弟の安否を気遣った妹（昭３年生）は、伯父・叔父３人で入市、目標になるような物一切失った焼跡近くをさまよい歩き、山里町、松山町辺りの親戚等の消息も尋ね回ったそうです。結果むなしく、家のあったあたりにたくさんの人骨・灰がうず高く重なり、誰か全然判別できないが、５人分のそれを「どなたかわかりませんが、本人達と思って連れて平戸に帰り、お墓に葬ります ので、よろしく本人達になって下さい」と涙ながらにかきくどいたそうです。

（私は、そんなこととはつい知らず、入市したのが８月１６日の朝でした。５人分のお骨の中に私も入っていたとは、後日わかったことでした。）

その妹も、４年後に亡くなりました。原因不明。結婚して２児を残して死亡。

婚家先でのあつかいは、とても悲惨なもののようだったそうです。婚家先で思うように体が動かなかったそうで、姑等からは、なまずるい嫁として、酷い扱いを受けたと聞いております。本当に可哀相なことをしました。（合掌）

〔伯父・叔父〕年より早く亡くなったのです。（没年月不知）

死亡した妹も少女時代は至極健康でした。２日後に入市したことが、今ではその影響であったのだと思っています（私は）。（結婚昭和２１年。２児あり。２４年没）

本人達も残念無念に思っていることでしょう。

何分九州の片田舎だったので、原爆関係の事情で自分達もそれに関わって死んだとは、本人達は夢にも思ってないと思ってます。今にして思えば、何も知らず死んだ彼等が可哀相です。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　父４２歳　直爆０．７㎞　圧焼死
②８／９　母３８歳　直爆０．７㎞　圧焼死
③８／９　弟７歳　直爆０．７㎞　圧焼死
④８／９　弟４歳　直爆０．７㎞　圧焼死

〔長崎　入市　男　１９歳〕
（４０－０６５０）

【死亡家族の概況】
① ２３／１０／５　妹　１２歳　腹膜炎　直爆２．５㎞（　９歳）　ある
② ２５／１／１２　叔母６０歳　脳卒中　直爆３．０㎞（５５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕腹膜炎でおなかが大きくはれ上がり、とても苦しそう。水を抜いても、すぐまたたまってはれ上がる。医者も手のほどこしようがなかったようだ。後で聞いたが、これは白血病も併発していたというより、原爆による影響だろうと聞いたことをおぼえている。
〔叔母〕発作からすぐ亡くなった。意識不明のまま。

妹が生きていたら、今何歳でおそらく楽しい生活を送っていただろう。
原爆がニクイ。

〔長崎　直爆３．０㎞　男　１１歳〕
（４２－２３１５）

【死亡家族の概況】
② ２５／５／３　兄３３歳　白血病　直爆距離ＮＡ（２８歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔兄〕当日、浦上工場勤務中だった兄は、爆風により板壁をつきぬけて吹きとばされていた。

２１年結婚したけど、腹部は年月とともに日ましに悪くなり、人知れぬ悩み、苦しんでいた。子供もできない体になっていて、家庭も人知れぬ事情等おこり、体の方は腹部はパンパンにふくらんできて元気がなくなり、白血病とされて、２５．５．３日死亡、死後解剖される。腹部は真黒でドロドロでコールタールのような有様だったとのこと。

ただ一人の兄であり、陸軍には２度も無事に務めたのに、被爆によって体内まで燃えつくして、人並の家庭生活もできなかった兄を哀れに思う。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／ＮＡ　叔父　直爆距離ＮＡ　大やけど

〔長崎　直爆３．０㎞　女　２３歳〕
（３０－００３１）

【死亡家族の概況】
⑥　２５／７／ＮＡ　長男６歳　白血病　直爆１．２㎞（１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔長男〕昭和１９年８月生まれ、長男。結婚して５年目にできた子供。被爆の時は私の背中におぶっていた。防空壕の内にいた。

６歳で新１年生に入学させ、通学の間、頭がいたい、めまいがすると言いながら、４ヵ月か５ヵ月学校に行き、赤いブツブツのはんてんが体全部にでき、熱が高く１ヵ月位苦しみ、鼻血が止まらず、どす黒いブツブツと泡をふきながら便が出る。それは長崎市山里小学校に集められた被爆者の人達と同じ状態だった。

一家６人もの命、幼い子供、罪もない子供、待ちに待ってできた長男、また兄の長男、姉の娘と一緒に暮らしていたのに、今生きていれば４２歳になります。（長男）

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　　兄嫁　　２６歳　直爆０．３㎞　爆死
②８／９　　甥　　　１歳　直爆０．３㎞　爆死
③８／９　　親戚の子２０歳　直爆０．５㎞　爆死
④８／１４　父　　年齢ＮＡ　直爆１．２㎞　大けが
⑤８／１６　母　　年齢ＮＡ　直爆１．２㎞　大けが

〔長崎　直爆１．５㎞　女　２５歳〕
（４０−０１０９）

【死亡家族の概況】

①　２５／９／１５　兄１７歳　病気　直爆２．０㎞（１２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕やさしい兄でした。父が早くなくなったので、父がわりの兄でした。やっと学校を卒業して仕事につき、「これでお母さんも少し楽ができるね」といっていた矢先、自分が病気になり、毎日微熱が続き、はぐきから血が出て、マッチ棒や針で歯をつついていた。なくなった後、ふとんのまわりには、マッチ棒や針がすき間なくささっていました。出棺の時、母がひつぎにすがって、はなさなかったことを忘れることができません。

兄の病気は、今思えば白血病ではなかったかと思う。その時までは、そんなこともわからず、何の病気かもわからないままに……。

同時同場所にいた私たちも、いつか兄のようになるかもと思う時、不安でなりません。

〔長崎　直爆２．０㎞　女　６歳〕
（４１−００３８）

【死亡家族の概況】
⑥　２５／１２／ＮＡ　弟７歳　病気　直爆０．５㎞（２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕被爆したその時は、母に抱かれていたそうで、特別な傷などはなかったようでした。９月２日頃、家族全員佐賀の病院に入院したのですけど、特別悪い様子もなく風邪をよくひいてるようでした。つぎつぎに両親も亡くなり、残った子供達はかってに退院し、子供達だけで生活していたのですが、いつ頃からか、この弟は背骨がそったようになり、背骨の一番下がふくれて、おできのようになっていたのがやぶれて、骨に穴があいたのが見えました。病院に行ったけど駄目（手おくれ）だと言われました。

原爆でなかったら死ぬことはなかったのです。死ぬようなけがはしていなかったのです。幸せな１１人家族でした。父は４２歳、母は３９歳、１６歳を上に下は２歳の９人姉弟妹でした。それが幼い子供達が生き残ったのです。人を頼ることも知らず、何にも相談する人もなく、本当に真暗な中を手さぐりで、１６歳の弟の働くお金で６人暮らしてきました。

もっと早く援護対策が早ければ、どんなに良かったでしょう。もっと早く病院に行っていれば、両親も弟も死ななくて助かっていたはずです。なぜ焼けあとに３週間近くもいたのかとくやまれます。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／２８	妹１２歳	直爆０．５㎞	大やけど
②９／７	弟１４歳	直爆０．１㎞	原爆症
③９／７	弟　８歳	直爆０．５㎞	原爆症
④９／９	母３９歳	直爆０．５㎞	
⑤１２／２５	父４５歳	直爆１．０㎞	病気

〔長崎　直爆３．０㎞　女　１７歳〕
（４０－０６５４）

【死亡家族の概況】

① ２３／　７／３０　父４２歳　肺結核　直爆３．０㎞（３９歳）　ある

② ２５／１２／３１　母３７歳　肺結核　直爆３．０㎞（３２歳）　ある

③ ２６／　２／２７　兄１９歳　肺結核　直爆３．０㎞（１３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母・兄〕私は、まだ当時幼くて、ものごころついたか ― というころでした。何もおぼえておりませんが、姉達やまわりの者達の話で、また誰が考えても、亡くなっていった者たちが、幼いこども達だけを残してどんなにつらい思いをしていたのか、想像がつきます。自分が親になって、なお、言葉にできないくやしさを感じさせられます。

〔長崎　直爆３．０㎞　女　２歳〕

（４２－１７３９）

【死亡家族の概況】

① ２６／４／１５　夫４８歳　急性白血病　直爆距離ＮＡ（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕

ｏ被爆後、血色が悪くなり、結核などいろいろな病気を考え、病院に通ったがハッキリせず、通院・入院をくり返した。

ｏ２３年ごろから目立って悪くなり、２５年の暮れ、高熱（４０゜ぐらいの熱）がつづき、入院。急性白血病と診断され、２６年4月１５日死亡した。

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　３４歳〕

（４２－１６５０）

【死亡家族の概況】
① ２３／ １／１０ 母５８歳 肺結核 直爆距離ＮＡ（５５歳） ＮＡ
② ２４／１１／ ２ 兄３２歳 肺結核 直爆距離ＮＡ（２８歳） ＮＡ
③ ２６／ ６／ ７ 父６５歳 肺結核 直爆距離ＮＡ（５９歳） ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
国民健康保険とか援護対策が、早く施行されていればと思う。結局、お金がないから病院にも行けず、高い薬も買うこともできず、ただ寝ているだけでした。

〔長崎 直爆３．０㎞ 男 １5歳〕
（４２－１９４７）

【死亡家族の概況】
⑪ ２３／３／１０ 妹 ３歳 病気 直爆１．２㎞（０歳） ある
⑫ ２６／７／２３ 叔父３６歳 肺がん 直爆１．２㎞（３０歳） ある
⑬ 年月日ＮＡ 継母 ＮＡ 子宮がん 直爆１．２㎞（ＮＡ） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕未だ赤ちゃんだったので、私は育てることができなかったので、知人に養子にやり、３年後、百日咳をこじらせ死亡。でもやはり、直爆だった故だと思います。
〔継母〕再婚し、昭和５５年頃、知人から聞き、子宮がんで亡くなったことを知りました。
〔叔父〕家族全部が亡くなったので、死ぬまで私と一緒に暮らしましたが、肺がんでなくなりました。今のように、原爆病院みたいな大きな病院があれば良かったのですが、思うような治療もできませんでした。やはり被爆したのが原因だったと思います。最後に残った私の血縁者でした。

［叔父は］最後に残った者で、私の親代わりのようでしたので、頼りになりましたが、今でも残念でたまりません。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　　妹　１４歳　直爆１．２㎞　大やけど
②８／９　　弟　　６歳　直爆１．２㎞　大けが・圧焼死
③８／９　　叔母２７歳　直爆１．２㎞　大けが・圧焼死
④８／９　　従弟　３歳　直爆１．２㎞　大けが・圧焼死
⑤８／１２　弟　　３歳　直爆１．２㎞　大やけど
⑥８／１６　従弟１２歳　直爆１．２㎞　大けが
⑦８／２８　父　４５歳　直爆１．２㎞　大けが・原爆症
⑧９／１　　従弟　５歳　直爆１．２㎞　大けが
⑨９／９　　祖母７０歳　直爆１．２㎞　大けが・原爆症
⑩９／１０　妹　１６歳　直爆１．２㎞　大けが・原爆症

〔長崎　直爆１．５㎞　女　１８歳〕
（４２－０７４３）

【死亡家族の概況】

②　２６／９／２９　長女６歳　急性骨髄炎・白血病　直爆３．３㎞（０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔長女〕８／８出産〔誕生〕、８／９被爆で物資が無い時代を送り、病弱でいつも病院通いで、ある日突然発熱しては高熱にうなされたりして、幼稚園も休みがちでした。

死ぬ前は、毎日輸血して急場を凌ぎましたが、２６．９．２９に意識ははっきりしながらも、突然息を引きとりました。

被爆者が、ある日突然、病魔に襲われて死んでゆく人を聞くと不安で、将来早く死ぬのなら（小さい時に死んで）、苦しみながら生きるより幸せだったと諦めています。（幼稚園時代に空のカゴもさげきらない〔さげられない〕病弱だったから）

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　妹１８歳　直爆０．５㎞　圧焼死

〔長崎　直爆３．０㎞〜　男　２８歳〕
（１２−００９３）

【死亡家族の概況】

③　２２／１２／２８　夫３５歳　病気　直爆３．０㎞（３３歳）　ある

④　２７／　６／ＮＡ　長男８歳　病気　直爆２．５㎞（　１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕風邪をひいたのがもとで結核になり、下痢がひどく入院。消毒をしてもらうにも１回４００円かかるので自分でやり、動くこともできず生活保護を受けた。夫は入院１年で死亡。その時、腸は（メチャメチャ）になっていたと医者にいわれた。

〔長男〕生後１年位だったが、毛がぬけ、植物人間のようになり、おなかがすくと（アーアー）と泣くだけで、ある日急に高熱を出し死亡。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　おば年齢ＮＡ　被爆状況ＮＡ　爆死

②８／１０　おば年齢ＮＡ　被爆状況ＮＡ　爆死

〔長崎　直爆３．０㎞　女　２４歳〕
（１４−０９０５）

【死亡家族の概況】

②　２４／１２／１　父５８歳　喘息　直爆２．２㎞（５４歳）　ある

③　２７／９／２１　母５５歳　胃がん　直爆３．２㎞（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

昭和２０年８月９日の被爆と終戦。

〔父〕三菱に勤めていたが、娘を原爆が亡くし、勤めの定年を迎えて、田舎へ引き揚げたが、環境も変わり、被爆を境に体が弱くなって、子供のことを心配しながら、５８歳の若さで死亡。

〔母〕３年後に胃がんで死亡、５６歳。今の時代なら、こんなに若死にする人も少ないだろうにと思います。

［父・母とも］原爆と終戦によるショックで、生きる希望を亡くしたのだと考えます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１０　姉１６歳　直爆０．５㎞　大やけど

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　１２歳〕
（４０－１０５１）

【死亡家族の概況】

①　２７／９／２４　父５１歳　肝臓病　救護（４４歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕時々肝臓の痛みがあったらしく、医院でよく注射を打ってもらっていた。亡くなるその日も、急に痛みがひどく往診をしてもらい、注射をしてもらっても痛みがとまらず、ちょっとしてからもう１本打ってもらったけど、そのまま亡くなる。

今では人生８０年と言います。父は５１年でこの世を去りました。終戦後の何もない時に、これから食物も出回り、世の中が敗戦から今の時代に変わり、少しは楽になれたのに、被爆していながらその制度もなく、息子は戦死するし、今では援護対策ももうけられてある。医学も進んで、ただ痛み止めの注射だけでなく治療もでき、たびたび苦しむこともなかっただろう。生きていたら今は８４、５歳のはず。私たちも親

孝行することもできたのに、ほんとうに生きていてほしかった。

〔長崎　救護　女　１７歳〕
（４２－２０６５）

【死亡家族の概況】

② ２５／５／２５　母４８歳　病気　　入市（４３歳）　ある
③ ２７／９／２５　父４８歳　病気　　入市（４１歳）　ある
④ ５１／５／２３　兄5.0歳　肝臓がん　入市（１９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕１年半くらい家で寝込んで、血をはいて病院にもかかれず死にました。
〔母〕おなかが大きくはれてました。１年ぐらい寝たままでした。病名は知りません。
〔兄〕肝臓がんで苦しんで亡くなりました。

両親とも早死にでした。せめて私達子供が成人までても、生きていてほしかったと思います。

いちばんくやしいのは、もっと早く援護対策ができなかったのかと、生活が苦しくちゃんとした病院にもかかれず、何年も寝たままで血をはいて死んだ父、おなかが大きくはれて死んだ母を思うと、今さらとはらだたしい思いです。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／9　兄１４歳　直爆距離ＮＡ　爆死

〔長崎　入市　女　9歳〕
（２７－０５３７）

【死亡家族の概況】

① ２４／８／ＮＡ　母５４歳　不明　直爆距離ＮＡ（５０歳）　ある

② ２８／６／２７　父８６歳　不明　直爆距離ＮＡ（７８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔三女〕〔昭和２３．２生〕

生後３ヵ月目に、全身むらさきになって死にました。

岩川町や中心地に自分が入ったから、こんなことになったと、本当にかわいそうなことをしました。

〔母〕木が倒れるように、朝、声をかけた（顔を洗っている途中）返事をする間もなく死んだ。

〔父〕１ヵ月ねこんだ末、意識がなくなって死にました。

いつも死んだ子のことや、父親が商売していたが、原爆でしばらくできず、親が死んだことを、本当に生活が苦しく金がないことと、あわせてくやしい思いをした。

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　３４歳〕

（４２－０４９８）

【死亡家族の概況】

① ２９／１／１９　父５８歳　膵臓がん　直爆３．５㎞（４９歳）　ある

② ５６／７／３１　母８２歳　肺炎　直爆３．５㎞（４６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆後は、特に弱くなったという気はしなかったが、体質がすっかり変わったようには感じていた。４、５年位胃の調子が悪かったが、亡くなる１年位前から背中が痛むようになり、最期は（当時は分かりにくかったようだが）膵臓が悪いということがわかり、水爆で亡くなられた久保山さんの最後によく似ていたので、やはり原爆に大いに関係ありと思っている。

（３．５㎞離れた家の庭先で、上半身はだかで被爆している）

母の死は原爆には全く関係ないと思えるし、年齢的に言っても不足はないが、父の死は、平生すごく元気であっただけに、間違いなしにこれと関係ありと思えますが、同じ家に母も私もいて、父だけ庭にいたということだけで、こんなにもその影響が違うのかと驚きます。このような調査がなければ、原爆と結びつけて考えることはあまりありませんでしたが、今改めて戦争の残酷さを痛切に感ぜずにはいられません。

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　１７歳〕
（４０－０５１８）

【死亡家族の概況】
①　２９／７／５　父５５歳　原爆病　直爆１．０㎞（４６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕背中、全身やけどで、３年間寝たきり、毎日苦しんでいた。室内は臭気で、肉親でもいやな時がありました。

３年後もまた病弱で、ほとんど就職もなかった。また、いつも原爆病の不安にかられていた。

国がもっと被爆者、家族に対して対策がほしかった。

〔長崎　直爆１．０㎞　男　１６歳〕
（２２－０３１６）

【死亡家族の概況】
① ２２／１２／１８　母５５歳　直腸がん　　　　　直爆距離ＮＡ（５３歳）　不明
② ２９／　７／　６　父７３歳　肺結核・喉頭がん　直爆距離ＮＡ（６４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕亀甲細工師でしたので、自分の病気を知っていて、２週間まえまでに頼まれた亀甲の品々を完成させ、その後あっけなく逝きました。その当時は、進駐軍が出島から上がり、亀甲がとぶように売れるのに、職人が戦死して足りず、毎晩おそくまで仕事をしていたのが、死期を早めたのではと思います。
〔母〕戦時中で、歯医者さんにも行けず、歯が上下で１本ずつしかなく、胃腸を痛めていたようです。直腸にがんができているのがわからず、腸ねんてんと診断され、その養生を長い間続けていました。

父が生きていたら、その技術を引き継いで、自分も亀甲細工をやりたかったと、兄（長男）が（当時、傷い軍人で長崎にいた）言っていました。
母は、Ｓ．２２年に亡くなり、次男がソ連からＳ．２３年に復員しました。その間２〜３ヵ月でしたので、とても残念に思いました。また兄も男泣きに泣いていたようです。

〔長崎　直爆３．０㎞〜　女　１３歳〕
（４１−０１２１）

【死亡家族の概況】
① ２９／１０／２５　父６３歳　両膝の腐敗・心臓病　直爆１．５㎞（５４歳）　ある
② ５４／１１／１６　母８１歳　肝臓病　直爆１．５㎞（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆後、両ひざをやけどして、そのきずにうじ虫がわき、見る見るうちにくさっ

ていきました。その異臭が今もわすれられません。

その当時の治療といっても、ろくな治療はできず、そのきずを消毒するくらいで、いたみ止めの薬などはあるはずがなく、馬小屋からいつも聞こえてくる苦痛の叫びは……私はおもわず耳をふさぐばかりでした。その後も容体は変わらず、S．２９年に他界しました。

〔長崎　直爆１．０㎞　女　２４歳〕
（２３－０１３６）

Ⅱ．昭和３０年代の死

【死亡家族の概況】

①　３０／２／２０　夫４９歳　白血病　直爆３.２㎞（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕発病する３年位前から身体のだるさとかゆみを訴えていました。その頃より肝臓も悪くなっていたと思います。２９年１２月頃から動けなくなりました。白血病との診断でした。

私も７０歳をすぎました。夫の死亡したときの年齢は４９歳。若かったなあとしみじみ思います。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　３３歳〕
（４２－１３０５）

【死亡家族の概況】
① ３０／３／２２　続柄ＮＡ４０歳　胃がん　入市（３０歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
原爆症の不安恐怖におびえている時、ついにその時が来た。急に苦しみだしさっそく病院に急行、診断の結果胃がんという病名のもとに、約２０日間入院の結果死亡。

〔長崎　入市　女　２４歳〕
（４０－０６１４）

【死亡家族の概況】
① ３０／３／２５　母３４歳　病気　入市（２４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕具合が悪くてねていて、子どもたちだけで洗たくを干していたら、急にバターと倒れて３日後に死亡した。３日のうち２日は意識があったが、３日目は意識もなく死亡した。

毎日近くのお医者さんが来てくれたが、原因は最後までわからなかった。

〔長崎　入市　女　０歳〕
（４２－０４３１）

【死亡家族の概況】
① ２２／６／１　父５３歳　腹膜炎　直爆２．５㎞（５１歳）　ある
② ３０／９／２　妹２６歳　肺結核　直爆１．８㎞（１６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕２年間ほど病床に伏す。死因は腹膜炎との診断。しかし、たえず歯ぐきより出血。体の腹から背にかけて紫斑があった。手足はやせ細り、腹だけが異常にふくらんでいた。

〔妹〕症状は父と大差なく、死因は肺結核との診断。しかし父よりも歯ぐきよりの出血は多量であった。

当時１９歳の私は、希望と迷いの時代に入って行く年齢。勉学もしたい、人生の万般の相談もしたい。特に父の病気から死に至る経済的苦しみは、妹が幼く私をはじめ７人家族、その日を食することで苦しい日々であった。だから一家［の］大黒柱である父が元気で「生きていてくれたら」との思いは、血を吐く想いであった。

〔長崎　入市　男　１７歳〕
（２７－０２８６）

【死亡家族の概況】

①　３０／１２／５　夫５８歳　直腸がん　入市（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕生活が苦しかったので、階段を上るのもきついと言いながら仕事も休まず頑張って仕事に出ていた。最後まで病院にかからず、自宅で死んでいった。

入市した時の情景を家族に語り、「かわいそうだった」とかは言っていた。

運が悪かった。かわいそうで、長生きしていてくれたらと思う。

〔長崎　入市　女　３５歳〕
（４２－０４２０）

【死亡家族の概況】
① ３１／６／３０　弟２９歳　病気　直爆距離ＮＡ（１８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕［被爆］当時役所に勤めていた弟は、その時は手に傷しただけでしたが、翌日から何日間か［原爆が］落とされたところに調査にやられ、２カ月位してからきついきついと言うようになり、それから役所もやめ１０年間もそんなに言って亡くなりました。

当時家族全部力をあわせ看護［に］あたりましたが、10年もの長い間病気とたたかった弟が可哀相でした。
もっと早く援護法があったらと思いました。

〔長崎　救護　女　年齢不明〕
（42−0175）

【死亡家族の概況】
① ３２／４／１８　父6.7歳　胃無力症　直爆4.0km（５５歳）　ある
② ５３／８／１１　母８１歳　心不全　直爆4.0km（４８歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕［昭20．８］１０日の朝から町内の人達と（私も）△△さんや町内のまだ帰ってこない人を捜しに、坂本町から大橋方面と、坂本町から西山立山方面にわかれて、毎日毎日1週間ぐらい行った。
その後体をこわし寝たり起きたりの生活をしていたが、３年間は寝たっきりで「早く死にたい」と言って苦しむのを見るのは辛かった。死亡した後ＡＢＣＣから遺体を解剖したいと言ってきましたが、当時はモルモット扱いにしていたので断りました。

せめて原爆医療法（３２年３月３１日制定）でも早くできていれば長生きできたのではないかと思います。当時医療費は１日８００〜１５００円かかり、経済的に困っ

たことを思い出します。

母もそれで体をこわしたようです。

〔長崎　直爆3.0km～　男　15歳〕
（42－0471）

【死亡家族の概況】

①　32／8／19　前夫30歳　肺結核　直爆1.2km（18歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕長い間、原因不明の湿疹で悩まされ、結核と診断されてからは、常時2名の介添人が必要な程の状態でなくなりました。

苦しむ姿を目の前にして何もしてやれなかった。長い病院生活で費用がかさみ、生活も苦しかった。当時、援護対策など考えられないし。

〔長崎　直爆3.0km～　女　18歳〕
（14－2502）

【死亡家族の概況】

①	24／11／10	姪　4歳	脳脊髄膜炎	胎内被爆	（胎児）	不明
②	32／12／　9	父77歳	内胸筋膜のがん	直爆3.0km	（65歳）	ある
③	42／　5／23	母87歳	肝臓障害	直爆4.5km	（65歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕被爆当時、すでに66歳であったが、一生かけて築いた家（病院）を灰にし、再建はごく小規模にしかできず、本人は100歳まで生きるといいながらも、体力も減退していったようである。弱音を吐く人でなかったが、30年頃より、好きだっ

た甘いものも食べなくなり、毎朝の排便時には腹痛のため必ず私どもに腰のあたりをつよく叩かせていた。咳払い、すぐ声がかれるなどあり、結局「肺がん」といわれたが、解剖の結果は肺に異常はなく胸膜の外に血うみのようなものがたまっていたようで「がん」としては珍しい症例といわれた（千葉医大）。

〔母〕とくに被爆のせいで、苦しんだ風ではなかったが体がだるい、つかれるといっては自分でビタミンなど注射していた。

〔姪〕２歳の時に住居を別にしたのでくわしくわからないが、胎児の折母親は直接に中心地近くまで何回かいっており。２４年頃は東京で脳膜炎が流行していたようにも思うが —— 。

〔長崎　直爆３.０km～　女　１６歳〕
（１３－１１－０１０）

【死亡家族の概況】

③	２３／月日ＮＡ	長女	２４歳	病気	直爆１.３km（２１歳）	ある
④	３２／月日ＮＡ	再婚の夫	６０歳	肝臓硬化炎	直爆１.０km（４８歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔再婚の夫〕家族を亡くしてしまい、全財産もうしなっていて、娘２人をつれて私と再婚した夫。生きる支えをなくしていた。身体も弱くなっていた。子供が結婚する年頃だったので、生活も経済的に大変だった。こどもの事を心配していた。

〔長女〕結婚し子供を産んだが、病弱で、仕事がきつくて子供を産んでまもなく死亡した。

毎日忘れることはできません。朝晩のお祈りの時もこの世ではいくら苦しんで死んだとしても、来世では、もっと幸せなところに神様から助けられていただくようにお祈りしています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　夫４６歳　直爆１.３km　大けが・大やけど
②８／９　甥１９歳　直爆１.３km　大けが

〔長崎　直爆2.0km　女　41歳〕
（42－1652）

【死亡家族の概況】

① 33／2／NA　兄27歳　肺結核　被爆状況NA（14歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕当時銀行に勤めていた兄は休むのが嫌いな人で、風邪にかかりやすいようでしたが無理をして出勤を重ねている内に肺結核にかかり、それからは入退院のくり返しで、そのことに対して終止符を打ちたいために手術をしましたが、その結果が悪くて亡くなりました。

現在父83歳、母77歳の高齢ですが、その当時兄を頼りにしていましたので母は特にショックがひどく寝込んでしまい葬式にも出席できませんでした。

両親の淋しそうな姿を見るにつけ、兄が生きていてくれたらどんなにか安心した気持で余生を送れるのにとくやまれます。

〔長崎　直爆3.0km～　女　年齢不明〕
（40－0291）

【死亡家族の概況】

① 33／3／20　母48歳　がん　　健診区域（35歳）　なし
② 47／8／ 5　父71歳　脳卒中　救護　　（44歳）　なし

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕生きていてくれたら、もっと被爆時のことも聞けるし、また生きる支えにもなる、といつも思う。

約２年随分苦しんで死んだ。被爆時から、父も母も何かボーッとしてくらす日々が続いた。母はすごく苦しんで他界した。

〔長崎　健診区域　女　１０歳〕
（４０－０３５７）

【死亡家族の概況】
① ２４／１２／１２　父７５歳　咽頭がん　直爆2.5km（７１歳）　ある
② ３３／　５／　７　母８１歳　高血圧　　直爆2.5km（６８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆直後２０年１２月頃から体の調子が悪く、急激に弱くなっていった。寝込む日が多くなり熱が続くようになり、死の１年前（Ｓ．２３年）頃から、身体的な衰弱がひどくなって、ついに寝込んでしまった。食物がのどを通らなくなり、最後の日は、声も全然出なくなった。（１週間ばかり前から少しずつ声は出なくなっていたが）

父の場合は原爆手帳交付前だったので、原爆死没者にはなっていない。非常に悔しい。

〔母〕被爆当時ひどい下痢になやまされ、髪の毛は抜け、歯ぐきがはれて黒い血が少しずつ出ていた。その後小康を得たが、血圧が異常に高くなり（２００以上）寝込んでしまったのはＳ．３１年、以後寝たきりで最後は手がしびれ口のもつれがでてそのまま死亡した。

もっと援護対策が早ければと残念、そのため被爆者（２０年～３１年）の再調査がほしかった。

〔長崎　直爆3.0km～　女　２９歳〕
（４２－２２２３）

【死亡家族の概況】
③　３３／６／４　父６９歳　胃がん　直爆３.０km（５６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕私達兄弟３人男手１人でずいぶん苦労し育ててきました。弟達の就職のことや私達の結婚のことなど考えていました。私達が寒さや食べ物が貧しい時（弟達は学校へ弁当など持っていったことはなかった）泣いたりしている時、父は「あの時いっしょに死んでいればよかった」と時々口癖のようにいっていました。
　苦しい生活と疲労が重なり、食べ物が喉を通りにくく胸につかえているようだと訴えていました。病院に連れて行ったら胃がんと診断され、医者からもう手遅れだと宣告されました。胸が焼けるように痛いと言って、氷水を飲んではコーヒー色のような水を吐いていました。それからまもなく眠るように亡くなりました。

　苦しい生活をしても生きていてくれたらと思いました。病気しても何もしてやれなかったのがくやしく残念でなりません。私達が生きているのも父のおかげと思っています。生きていたら孫達を抱いてどんな楽しい生活ができたかと思うと、悲しい思いがします。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／　７　母４２歳　直爆０.８km　圧焼死
②８／１０　妹　４歳　直爆０.８km　圧焼死

〔長崎　直爆２.０km　男　１４歳〕
（４１－００３１）

【死亡家族の概況】
①　３３／６／２１　父６４歳　脳溢血　直爆４.０km（５１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆してから１年後血圧が次第に上がりだし、定年退職後は手足にしびれ感と腎臓が悪くなり小便が思うように出ず、加えて長男（私）が病弱であったため、精神

的に疲れ亡くなった。

当時は原爆手帳もなく、思うように医師にかかることができなかった。

〔長崎　直爆１.５km　男　２５歳〕
（４２－００８２）

【死亡家族の概況】

① ３３／６／２５　父６５歳　肝臓がん　入市（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕諫早市役所に勤務していましたが、長崎市への救援物資を運ぶトラックにのって夜半に長崎市内の自宅に帰ってきました。それから２、３日後、親戚の消息がわからないため心配して、城山町まで山越えして爆心地あたりを数日間にわたって捜しまわりました。詳しいことは忘れましたが、その直後、下痢が続いたり、気分が悪くなったり、吐き気がしたりで、母がとても心配していました。その後郷里へ帰り、田舎の空気のよいところでの生活が続いたのですが、やはり身体がきついといって役所も早く退職しました。

終戦前までは隠居したら別荘を島原に造って悠々自適の生活を……と夢見ていたのですが、終戦で地主は土地はとられるし、身体はきつくて思うようにならないし、子供は私を除いてまだ一人前になっていなかったところで死を迎えてしまったので、父も多分弟妹のことを思って無念であったろうと思います。

弟の友人が長崎大学医学部でインターンをしていたので、頼んで入院させていただき、そこで初めて、友人を通して父の死が近いのを知りました。父の死後私ども家族中は恐怖でした。というのも放射能の影響に間違いないと信じていたからです。それですぐ原爆手帳の申請をしました。

とても丈夫な父だったので、被爆直後親戚を捜しに行かなかったら、もっと長く生きられただろうにと残念に思っています。

〔長崎　直爆３.０km　女　１２歳〕
（１１－００４６）

【死亡家族の概況】
① ３３／９／２０　母６５歳　胃がん　直爆２.０km（５２歳）　ある
② ３４／５／１２　父６８歳　肺がん　直爆２.０km（５４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕入院、手術し手当ての最中に妻（母）に急逝され、希望をうばわれて死亡。 両
〔母〕夫（父）発病、その看護の途中で発病、病床の夫のことを気づかいながら死亡。
親ともに余り病気などしたことなかったが、原爆を境に急に弱くなったように感じられ本当に残念だった。

両親ともにがんで亡くし本当にがんの恐ろしさを身をもって体験し、その死に方に恐怖や不安をいだいている。

〔長崎　直爆３.０km～　女　１７歳〕
（４０－１０４７）

【死亡家族の概況】
① ３４／７／４　母５４歳　肝臓がん　直爆４.５km（４０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕生活を支えるため働いておりました。最近疲れがひどいと言っていたので、医者へ早く行くようにとたびたび言っても、とてもがまん強い母でしたのでだいぶがまんして、いよいよ疲れがはげしくなり医者にみせた時はもう手おくれで、またその当時は肝臓がんは手術もできないし、死を待つばかりでした。
３カ月苦しみ続け、やせ細り、腹部ははれあがり熱くなり、ほんとうに苦しみもだえて死んだと言っても過言ではありません。

父は出征して戦病死。母は子どもたち６人を守り育て、やっと楽できる年になって肝臓がんで死んだ。戦争や原爆のせいとばかり思いたくないが、残された者もそれぞれの生活をもつまでには苦労がありました。相談したいことがあっても親がなく、両親揃っている人が羨ましくてなりませんでした。

〔長崎　入市　女　１７歳〕
（４０－０５１９）

【死亡家族の概況】
⑥　３４／８／２　父５３歳　心不全　直爆２．５㎞（３９歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕足にやけどをし、その傷が残っていました。でもやけどが死因とは思えませんが、酒を飲んでいてテーブルに顔をうずめたかっこうで亡くなっていました。自宅ではなく食堂でのでき事で、知らされた時は信じられませんでした。

今までそんな病気などしたこともなく本当に健康そのものでしたので、こんなに早く死が訪れるとは夢にも思ってなかっただけに、死の恐怖を感じました。もっと早くから援護対策があったなら、健康診断など受けていたかもしれないと思うと残念です。父が８月に亡くなりその年の１１月に私は結婚しました。晴れ姿を見せてやれなかったことも心残りです。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／　９	おば年齢ＮＡ	直爆０．７㎞	ＮＡ
②８／　９	いとこ　胎児	胎内被爆	胎内死
③８／１３	おじ年齢ＮＡ	直爆１．４㎞	大やけど
④８／１５	祖母年齢ＮＡ	直爆１．４㎞	大やけど
⑤８／２１	おば年齢ＮＡ	直爆１．４㎞	大やけど

〔長崎　直爆３．０㎞～　女　１２歳〕
（４２－０９３５）

【死亡家族の概況】
①　３４／９／ＮＡ　母６３歳　死因不明　直爆3.0km（４９歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕昭和３０年頃から体が弱くなって病院にかかっていたけれど原因がわからなく、足が腐れて１カ月ぐらい（ツリケ）がきてなくなりました。

生きていてくれたら、親孝行もできたのにと、いつも思います。

〔長崎　直爆3．0km　男　17歳〕
（40－0599）

【死亡家族の概況】
⑤　３５／２／２７　弟１９歳　白血病　直爆1.2km（４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕やっと原爆の中から生きのびて苦しい生活にたえて生きてきたのに、白血病と診断され、その悲しみは何事にもかえがたいものでした。１８歳までも生きてきたのに苦しんで死んでいった弟は、今も忘れることができません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①　８／ＮＡ　兄１４歳　直爆1.2km　大けが・大やけど
②　９／ＮＡ　兄１２歳　直爆1.2km　大けが・大やけど
③　９／　末　姉１０歳　直爆1.2km　原爆症
④１１／　１　父５０歳　直爆0.5km　原爆症

〔長崎　直爆1.5km　女　8歳〕
（42－2320）

【死亡家族の概況】
① ３５／３／３　父５３歳　バクトチャリー症候群　入市（３８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕毎日仕事から帰って来た時、つかれるつかれると言っていました。よく被爆のためかなと言っていた。

そのころは生活が楽でなかったため、好きなお酒もあまり飲めず、今生きていたら少しはいい思いもしたと思います。

〔長崎　健診区域　女　４歳〕
（１４－３７１３）

【死亡家族の概況】
① ３５／４／８　母３８歳　内臓がん　直爆３.２km（２３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕昭和３４年の年末に急に発病して長医大で手術を受けたが、がんの転移が内臓全体に広がっていたため、何も手をつけられない状態で４月に亡くなった。食物を一切受けつけずに点滴だけで生きていたが、子供４人のことを心配しつつ、最後は骨と皮だけになってしまって死んだ。

母が死ぬ時の悲しみは、人一倍強く記憶しています。また、死んだ後は家族みんなが、医療費の負担で苦しんできた。
援護対策がもっと早ければ、あんな苦しみを味わう必要なかったのに……。

〔長崎　胎内被爆　男　胎児〕
（４２－０５３８）

【死亡家族の概況】
① ３５／５／３　母５０歳　腎臓・卵巣腺　直爆２.０km（３５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕昭和２１年夏頃だったでしょうか、腹膜を患い入院したのをはじめ、次の年２２年腎臓を手術して片方をなくしました。医療不足と設備不足から良き療養もできず、それからというものは入退院の連続でした。昭和３１年今度は卵巣腺を併発し手術もできず死亡いたしました。

〔長崎　直爆２.０km　女　９歳〕
（１３－２１－００７）

【死亡家族の概況】
① ３６／１／２６　義父７４歳　心不全　直爆距離ＮＡ（５８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義父〕血圧が高くなり心臓が肥大し肝臓も悪く、体には紫色の斑点が大小いくつも出ていました。だいぶ苦しそうでしたが昏睡状態が２～３日くらい続いて亡くなりました。本人は被爆のせいとは口にしませんでしたが、私は原爆のせいではないかと思っていました。

もっと援護対策が早ければ、もう少しは生きられたのではないかと思います。肝臓が悪くなり、高血圧や紫斑が体や手などにでていた。

〔長崎　救護　女　１７歳〕
（４２－２０８９）

【死亡家族の概況】
② ３６／４／１３　妹　３４歳　子宮がん　直爆4.0km（１８歳）　ある
③ ４７／１／１３　次兄５７歳　老人結核　入市　　　（３０歳）　なし

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕子宮がんとの診断で手術、入院したが、１０カ月目頃再発。がんは全身に転移し、末期症状の激痛に苦しみながら１年後に死亡。この時原爆被害の恐ろしさを強く感じた。
〔兄〕生前、発病時から死亡の時点まで本人に接していないのでよく分からない。

妹が死亡した昭和３６年頃は、まだ援護法も何もなく、がんの手術にて精神的に金銭的につらい思いをしたことを考えるとつらい。がん特有の激痛は身内のものにとってはつらかった。

今でも思い出すと気が狂いそうになる。そして自分もこんな病気になるのでは？と今なお恐怖と不安に包まれる。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①8／9　兄２６歳　直爆・爆心地　不明

〔長崎　直爆3.0km～　女　２８歳〕
（27－0706）

【死亡家族の概況】
③ ３６／１０／１６　姉　４７歳　脳出血　直爆距離ＮＡ（３１歳）　ある
④ ３７／　５／２１　義兄５０歳　肺がん　直爆距離ＮＡ（３３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔義兄〕病院で死亡。
〔姉〕主人が年中入院ばかりで、２人の子供をかかえて暮らせなかったのです。無理して突然死亡したのです。それも仕事のかえりに外人の家で。私たちも復員したばかりで十分なことはできなかったのですが、少しのたしはしたつもりですが。私は１

人の姉夫婦をなくして生きる力もなかったのです。
　兄の身内が全滅なので、私が２人の子供を引き取って、成人しています。仏、先祖様も私がおまつりしております。

生きてさえいてくれたら、またわらって過ごすこともあったでしょうに、残念です。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１０　義兄の兄の妻　年齢ＮＡ　直爆０．８km　圧焼死
②８／１１　義兄の兄　　　年齢ＮＡ　直爆０．８km　大やけど

〔長崎　入市　女　年齢不明〕
（４２－０７１１）

【死亡家族の概況】
①　３５／１０／２６　母６４歳　病気　健診区域（４９歳）　ある
②　３７／　６／　８　父７４歳　病気　健診区域（５７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕やせ細って、長い間床について最後は老衰のような死に方でした。
〔母〕お腹のはれる状態でなくなりました。長い間せき込むような苦しみがつづき、あまり痛みがひどかった時に病院についていった時は、お腹がすごくはれていました。

〔長崎　直爆３．０km　女　１７歳〕
（４２－１６６５）

【死亡家族の概況】
①　３２／１／２０　伯父５９歳　死因不明　直爆１．０km（４７歳）　ある
②　３８／９／２１　伯母６５歳　死因不明　直爆３．０km（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔伯父〕病気のため床についていることが多かった。原爆症の不安におびえていた。
〔伯母〕伯父の看護のため疲労が重なり、自分の体も思うように働けなくなって、悩んだ。

混乱時で思うような医療看護もできず、食料も不足し栄養も不足する中での死であり、現在にあれば何とかできたと思う。また、生活保護も最低の保障があれば、安堵の死を迎えさせてやれたと思い、それが残念です。

〔長崎　直爆3.0km　男　12歳〕
（46－0059）

【死亡家族の概況】
① 21／ 1／15　母54歳　腸がん　直爆2.5km（53歳）　ある
② 38／11／16　父73歳　口腔がん　直爆2.5km（55歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕腹痛に苦しんでいたが、名医もなく、自宅で苦しんで死んだ。
〔父〕被爆後、すぐ爆心地に出かけたせいか、がんの病に父もかかった。口の中なので食べ物が思うようにいかなかったが、あらゆる手をつくした。苦しみはなかった。
姪［昭22生れ］は、私の姉の子で姉もがんにおかされ早期発見のため全治したが、その子も同じがん［卵巣がん］にかかりとても苦しみ、死にたくないと言って死んでいった。［昭52．8．16　死亡時30歳］

学生だったので、一番母が必要とする時期で口には言えないほど苦労があった。朝早く起きて水取りに行ったり交替で母の体をさすったり、医者不足とがんに対する医学が未開であったために家族全員が苦労した。

〔長崎　直爆3.0km　女　13歳〕
（13－15－180）

【死亡家族の概況】

① ３８／１１／２８　母５２歳　高血圧　入市（３４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕更年期障害とか高血圧とか貧血とかいろいろと病気が重なりながら、血圧２６０になって洗面器一杯という程鼻血が出て、その後３日間くらい止まりましたが、その後ずっと寝たり起きたりの生活で、５２歳で亡くなりました。今だったら入院して助かったのではと思うと残念でたまりません。

まだ中学生の妹２人が家事の世話、農作業の手伝いなど学業の合間にしておりましたが、自分の病気がなかなかよくならないのを大変悔やんでおりました。

ア）生きていたらまだ７５歳。老人会とかゲートボールなどに元気に出かけておられる姿を見ると、ただただ夫を召集でとられ、残る老人と子供６人のため山仕事、農作業と男まさりの働きずくめ。２１年帰ってきた父は過労と栄養不良などがもとでの片目失明、その間１年あまり病院通いでした。苦労ばかりの母が可哀そうでなりません。ただ救いになるのは、苦しい中にも親子ともに和気あいあいと明るい家庭だったことです。

イ）もっと早く今のようになっていたら、入院もでき、長生きして子供たちの生活を喜んでくれたと思います。

〔長崎　直爆3.0km　女　１５歳〕
（４２－１７１７）

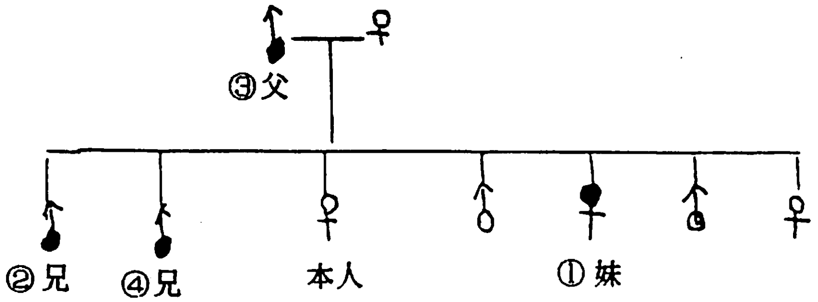
【死亡家族の概況】

①	２５／８／ＮＡ	妹１２歳	心臓弁膜症	直爆3.5km	（　７歳）	ある
②	３１／１／１７	兄２８歳	不明	入市	（１７歳）	ある
③	３４／月日ＮＡ	父５５歳	不明	直爆距離ＮＡ	（４１歳）	ある
④	３９／月日ＮＡ	兄３４歳	不明	直爆距離ＮＡ	（１５歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

①～④共通することは、原因不明で苦しんで苦しんで最後まで笑顔をひとつみせないで死んで行った。

〔兄④〕貧血がひどく輸血を何本してもおっつかない。外部に出血なし、身体のなかに血液を食べる魔者でも住んでいるのではないかと思うほどであった。
父、兄④は、明日アメリカの病院に行く前日に亡くなった。



○身内の方に次々と死なれ、母はがっくりと力が尽きたようであった。
○病気で苦しみながら死んで行く人をみるのがとてもつらく、自分が死んだ方がましだとよく思った。
○最後まで苦しみとおした顔が今でもうかぶ。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１２歳〕
（２８－０３５３）

Ⅲ. 昭和４０年代の死

【死亡家族の概況】
①　４０／３／１１　夫６８歳　病気　直爆・中心近く（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕被爆後、健康が勝れず、仕事も余りできなく、だんだんと動脈硬化症になり、その当時、医療管理もないので自宅で最後は６年間、床について亡くなりました。

主人の失職のため経済も家庭和楽も全然失ったので、主人が亡くなった後も私ひと

り、年をとるし実際に困りました。主人〔の〕年金などもその時は無いので、苦しみは今でも続いている。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　３０歳〕
（１３－２３－０２６）

【死亡家族の概況】
① ４０／１０／９　父６３歳　肝硬変　直爆２.５㎞（４３歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕被爆で足をけがをして、それがもとでリュウマチのようになって長い間くるしんでいた。天気がわるくなったり、雨がふったりした時は、痛いのをがまんできなくてうなっていました。

子供のころ、父のそんなすがたを見て育ちました。その後、６０歳をすぎたころ、病気になって死亡した・

父は被爆した時には４０歳をすぎていたので、被爆者手帳はもらって病院費用などは無料でしたが、今のように健康管理手当などももらうことなく亡くなってしまった。

もう少し早く援護対策がなされていれば、父の生活ももう少し楽だったかも知れません。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１歳〕
（２７－０３９４）

【死亡家族の概況】

① ４０／１２／１５　父６７歳　狭心症　直爆３.０㎞（４７歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕会社から帰宅し自宅で突然、具合が悪くなり死亡した。心臓が悪いと言われたことない。

子供たちは一応、全部一人立ちになって今から楽してもらいたかったので、もう少し生きていてくれたらと思いました。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１７歳〕
（４２－０４５９）

【死亡家族の概況】

① ２６／７／２４　妻３０歳　異状妊娠　直爆４．０㎞（２４歳）　ある
② ２８／８／　３　父７１歳　胃がん　直爆２．２㎞（６３歳）　ある
③ ４１／５／２９　母７８歳　胃がん　直爆２．２㎞（５７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父・母〕被爆以来弱くなった。特に胃が悪かった。特に母は、昭和２１年に胃がんと診断されたことがあったが、当時は診断技術も機械も発達していなかってので、誤診であったかも知れぬと考えている。

〔妻〕３人目の妊娠で出血が見られ、摘出手術となり、術後間もなく死亡。

２児を残して突然〔妻に〕死なれたので、悲しみを通り越して、気が狂うほどでした。説明不能。

その後現在の妻を迎え、４児の父となっております。一応平穏ですが、今でも当時のことは考えたくありません。あまりにも悲しいです。

〔長崎　入市　男　２１歳〕
（４０－０７２０）

【死亡家族の概況】

① ４１／１０／１０　妹３４歳　ＮＡ　　直爆２.５㎞（１３歳）　ある
② ５７／　３／　６　母８３歳　胃潰瘍　直爆２.５㎞（４６歳）　ＮＡ
③ ５８／　２／２２　父８９歳　心不全　直爆２.５㎞（５１歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕被爆後はわりと元気と思えたが、次第に身が弱くなり入院を続けていたが、貧血症状が悪化し、子供のことをいたく心配しながら他界した。

妹の死は私にとって最大のショックでした。もし生きていれば何かと相談相手となったのにと思います。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　２０歳〕
（４０－０１２１）

【死亡家族の概況】

① ２２／　９／　１　母４６歳　胃がん　直爆２.３㎞（４４歳）　ある
② ４１／１１／１５　父７３歳　肝硬変　直爆２.３㎞（５２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕被爆を境にからだが急激に弱り、昭和２１年７月頃から胃ケイレン、胃痛、食欲不振に苦しみ昭和２１年１２月、胃がんと診断をうけて長崎医大に入院、２２年１月手術。すでに胃から他に転移しており、４月に退院し、６月に九州大学付属病院

に入院したが手術不能で身体の衰弱を回復するとの理由で長崎の自宅に戻り、約3ヵ月、飲食〔が〕ほとんどできない中で、幸い叔父が内科医だったため当時配給された注射液や薬をもって福岡から往診を続け、最後は幼い子どもたちのことを心配しながら、天国に静かに昇天した。

当時、原爆症、後遺症等の知識はほとんどなく、母は血縁者にがん発病者がいないのに、なぜ自分だけががんにかかったのかと幾度も不思議そうに話していた。

〔父〕被爆直後、会社の部下を捜しに爆心地に連日行ったり、救援活動にも従事して多くの放射能を浴びたためか、被爆後、身体が弱く次々と病気（肺結核、レイノー氏病、肝機能障害）を併発し、入退院を繰り返していた。昭和37年、厚生大臣の認定被爆者となった（肝機能不全症、東京都で申請、認定された）。自分が病弱になり、思うような人生を送れないのは原爆被爆のせいではないか……と言っていた。反戦、反核、同時に平和の尊さを常に私たち子供にはもちろん、教会（熱心なクリスチャン）でのみ話や、あらゆる機会を作っては説き、貴重な平和論者だった。

母を早く亡くしたので、戦争さえなければもっと母は長生きできたのではなかったかと、特に弟妹は母の記憶さえないので可哀想でならなかった。母が生きていたら……と今でもことある毎、何かにつけて思う。

母が死亡した昭和22年は日本の政府は全く被爆者対策に手をつけなかった時期、父が亡くなった昭和41年はまだ特別措置法も制定されていなかった時期なので、父は認定患者といっても何一つ国からもらっていない、名ばかりの認定患者。いずれにしても国の援護対策が、もっと早くすすめられていれば……と残念に思う。

〔長崎　直爆3.0㎞　女　14歳〕
（13－17－016）

【死亡家族の概況】

①　41／12／17　夫64歳　胃がん　直爆5.4㎞（43歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕高血圧症から急にやせていき、急に胃がんになり即入院で胃をきり、３カ月の命と診断されましたが、１年７ヵ月位入院生活し、苦しみ死亡しました。

○子供の結婚をみることなく、今、生きていてくれたらと思っております。

○夫の弟たちの家族が満州から引揚げて来てから、生活状態が一変しましたため、夫は苦労しました。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　３５歳〕
（４２－１９０８）

【死亡家族の概況】

①	２１／月日ＮＡ	祖母６５歳	赤痢	直爆２.５㎞	（６４歳）	不明
②	２３／月日ＮＡ	祖父７３歳	胃がん	直爆２.５㎞	（７０歳）	不明
③	４１／１２／２５	妹　３６歳	胃がん	直爆１.５㎞	（１５歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕病名を最後までかくしておりますので、被爆との因果関係までは考えなかったようですが、若かっただけに死にたくないと話すなど、がん特有のものだと言われればそれまでですが、見るに耐えかねる状態でした。

妹は学徒動員（当時１４歳）で爆心地（中心地）の向う側でしたので、被爆中心地を通り、歩いて帰って来ました。家に着いたのは翌日でした。健康のように見えましたが２０歳頃から膝がガクガクするなどと言っておりましたし、死亡後、解剖した医者が脊椎がボロボロに弱っていたと、首をかしげておられました。やはり放射能の影響が大きかったのではないかとしか考えられません。

昭和４０年４月にがんと診断されましたが、生計を維持するためもあり勤務を続けておりました。４１年１２月に亡くなりましたが、その間、仕事を休ませることがで

きず、大変心苦しく思っております。

援護対策が早くできていればと、残念でなりません。生存中の病気はその時のがんだけでした。

〔長崎　直爆1.5㎞　女　16歳〕
(13−20−038)

【死亡家族の概況】

① 42／1／25　夫50歳　蜘蛛膜下出血　入市（28歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕それまで床屋で働きつづけた夫が、ある日、トイレに行って出てくると「頭が痛かー」と言いました。普通の痛みのようでなく、1日安静にしたあと、救急車で市民病院に入院させ、3カ月療養生活を送りました。

先生からは「被爆はありませんか」と問われ、復員して8月9日後すぐに中心部を通って来た夫の話を思い、その時、初めて原爆手帳の申請をしました。しかし3カ月間のうち何度か意識を失い、もどりをくり返した後、うめくようにして死んでいきました。

夫が死んだあと原爆手帳が交付されましたが、何の役にもたたずに夫は死んでゆきました。

〔長崎　直爆3.0㎞〜　女　18歳〕
(42−0452)

【死亡家族の概況】
① ４２／９／１３　姉５４歳　病気　直爆２.５㎞（３２歳）　ある

【死亡の状態・遺族の思い】
〔姉〕私は再婚ですが、それまで子供を育てながら姉の面倒を見ました。生活は別でしたが、姉は体が弱くあまり働けず、お互いに助け合って暮らしました。入退院をくり返し、金銭にも困り、姉は原爆手帳も申請するひまと金がないまま、いただけず、入院中、突然、死にました。解剖しましたが死因が今一つ、はっきりしませんでした。

昭和４２年９月１３日、姉が死亡。その姉が原爆手帳を持っていたら、も少し早く手当てができて、原因が分かったらそれなりに手当てもでき、未だ元気でいたのではないかと。また、戦中戦後、苦労ばかりの連続で、一つもいいことなしの生涯でした。

その頃は私も子供をかかえ生活も苦しかったため、未だ原爆手帳の手続きもできず姉の看病をしており、そのズーっと後、手帳をいただき、大変感謝しております。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１９歳〕
（４０－０５３７）

【死亡家族の概況】
③ ４０／　１／　３　義母９０歳　老衰　　　直爆４.２㎞（７０歳）　なし
④ ４２／１０／１３　夫　６１歳　直腸がん　直爆４.２㎞（３９歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕５カ月間入院して亡くなりました。がんが胃の方にも転移していましたが手術もされなくて衰弱していきました。床ずれができたりしてかわいそうでした。

入院するまではたいした病気もしたことはありませんでしたが、急にお腹がふくれだして、病院にかかった時は手遅れでした。被爆した日から１週間、親戚の者を

捜しにに行ったので、放射能も吸っていたのかも知れないと思います。

もっと援護対策が早かったら良かったと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１０　弟　年齢ＮＡ　被爆状況ＮＡ　原爆症
②８／２１　義兄年齢ＮＡ　被爆状況ＮＡ　大やけど

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　３５歳〕
（４２－１２６５）

【死亡家族の概況】
⑥　４３／２／２１　母６１歳　子宮がん　被爆状況ＮＡ（３８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕子供はいくつになっても親は生きていてほしいもの。これから楽が出来るときに５５歳で病気になり、闘病生活６年、がまん強い人だったが、後の２年間は苦しんでいました。

その死に方に恐怖を感じざるを得ません。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　　おば　４２歳　直爆０.５㎞　圧焼死
②８／９　　いとこ１１歳　直爆０.５㎞　圧焼死
③８／９　　いとこ　２歳　直爆０.５㎞　圧焼死
④８／１６　おじ　４２歳　直爆０.５㎞　大けが
⑤８／２４　いとこ１２歳　被爆状況ＮＡ　大やけど

〔長崎　直爆３.０㎞　男　１７歳〕
（２７－０５５５）

【死亡家族の概況】

① ４３／４／１２　妹４７歳　胃がん　直爆３.０㎞（２４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕死亡前、約２ヵ年半程前、ある日、胃と腸の間あたりに固い個所があることを感じて、さっそく胃腸専門の医師に診察を受けたが、その医師では病名が判明しなかったので、医師を更新したところ手遅れのことがわかり、翌日手術した。一時、治癒したように思われたが、再度悪くなったので、原爆病院に入院したところ、がんであることが判明した。再手術したが病状は悪化し、死に至った。

原爆病院でもしばらくは病名がよくわからなかった。病変部位も通常の胃がんのような症状でなく、難しいようであった。

出来れば少し病弱であっても生きていてくれた方がよかったと思うが、しかし前述のような状態で入退院をくりかえすだけであれば、本人は非常に苦痛であり、家族の者としてもそれを見ているだけでもかわいそうだから、長い間、闘病生活を続けるより、死は止むを得ぬことと思う。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　２７歳〕

（４２－２３０７）

【死亡家族の概況】

① ４３／５／３１　父７１歳　肺がん　直爆３.０㎞（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕肺がんと宣告されたのは昭和４２年１２月の初旬でした。さっそく大学病院に入院いたし、入院生活が始まりました。検査の後、コバルト治療を続け、一時は退院できるまでに良くなり父は大へん喜んでいましたが、今度は首の後ろに腫瘍ができ、がんが転移したのです。父にはできものとうそを言ってしまいました。

これからがほんとうに苦しい闘病生活が始まりました。肝臓、腹膜と徐々に転移

し、痛みがひどくなり苦痛に耐える毎日が続きました。痛みがきても痛み止めの注射で一時におさえるくらいで手のほどこしようもありませんでした。最後は身全体にがんが転移し、激痛に苦しむさまは可哀想で見ていられませんでした。家族思いで優しい父でしたががんには勝てず、帰らぬ人になりました。

亡くなる前に私に、一生懸命治療しているのに治らないのは自分はがんではないのか、本当の病名を知りたいので教えてくれと頼まれましたが、最後まで話すことはできませんでした。本人はうすうす感じていたようです。そのことが一番心に残って忘れることができません。

まだまだ長生きして欲しかった。原爆に遭わなかったらまだ元気でいるのではないかと思うと残念です。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１８歳〕
（４２－０５６９）

【死亡家族の概況】

①　４３／８／２２　義父７９歳　脳軟化症　入市（５６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義父〕昭和２０年８月９日午後９時ごろ、救援のため入市した。それまでは健康であったが、その後、原爆症のことで悩んだり、突然、原因不明の病気でなやまされ（数カ所の医師も原因がわからず）、昭和４３年死亡するまで、病気とのたたかいの日々を過ごした。

健康であった者が被爆後２３年間、病気の原因もはっきりしないまま、苦しんで死亡したが、もっと援護対策が早ければ病名位はわかり、治療の方法もあったろうと思っている。

〔長崎　入市　男　２６歳〕
（４４－００７２）

【死亡家族の概況】

⑧　４４／１／２　兄６１歳　胃がん　直爆距離ＮＡ（３７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕被爆で身内を全部なくしたので、あらたに結婚した。長男が生後３年位の時、発熱が続いた時、原爆被爆の故ではないかとひどく悩んでいた。子供は３人生れたが、どの子に対しても被爆の影響がないかと常に心配していた。

兄の命をうばった胃がんが果たして原爆のせいかどうかは正確にはわからないが、私にはそうとしか考えられない。

原爆という兵器は、爆発した瞬間にも大きな災害を人間に与えるが、時が経って幾年も後になっても害を人間にもたらすものだ。恐ろしい、むごたらしい兵器だ。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①	8／　9	姪	9歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
②	8／　9	甥	8歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
③	8／　9	姪	5歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
④	8／　9	姪	3歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
⑤	8／１６	姪	１歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
⑥	8／２１	兄嫁	３０歳	直爆距離ＮＡ	圧焼死
⑦	9／　１	父	７１歳	直爆距離ＮＡ	原爆症

〔長崎　入市　男　２７歳〕

（４０－０７１５）

【死亡家族の概況】

①	３７／月日ＮＡ	舅	年齢ＮＡ	老衰	被爆状況ＮＡ	（ＮＡ）	ＮＡ
②	４１／１０／8	夫	６２歳	胃がん	直爆３.０㎞	（４１歳）	ある
③	４４／　３／２８	長女	３９歳	子宮がん	直爆３.０㎞	（１５歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕８月９日三菱造船所水の浦で被爆、光線によるやけどをうでに受け、いつまでもなおらなかった。原爆のせいかどうかわからないが、体の調子は悪く特に胃腸が弱かった。病院にかかったり売薬を飲んだり、薬と縁が切れることはなかった。神経質でイライラすることが多く、今にして思えば、子供を７人もかかえ一家の生計の中心として、体の具合が悪くても働かざるを得なかっただろう。

昭和３５年造船所を退職、５５歳。後３年は嘱託として勤められたが、体のことを思い家族が止めた。退職後３年位して、やせる一方。病院にも通院していたが胃がんの発見が遅れ、手術後、死。原爆の被爆者はがんにかかりやすいと聞くが、全くそのとおりだと思う。

〔長女〕８月９日当時１６歳、三菱造船水の浦本館の玄関前で倒れているのを助けられて、気づいた時は部屋の中にねかされたいたという。けがはなかった。その後、私どもが疎開していた三和町の為石に父親、兄といっしょにきた。歯ぐきの出血、下痢、ぬけ毛があった。歯ぐきの出血はその後１０年たっても時々あったと思う。

この子も体の調子はあまり良くなかった。原爆のせいかどうかはわからない。だけど意地っぱりなところがあって仕事は休まなかったが、休みの日、日曜など、何もしないでぐったりしていることが多かった。結婚の話もいくつもあったのだが、進んで結婚しようとはしなかった。自分は原爆を受けているから子供も出来ないかも知れないなどと言っていたので、自分自身で悩んでいたのかも知れない。子宮がんとわかったのは原爆検診で、手術したが手遅れだった。

夫、長女とがんで亡くし、原爆が起因ではないかと言われる病気だけに悲しかった。もっと早くわかっていれば死なせずにすんだのではないか、あんなに苦しまなくてよかったのでは、とくやまれる。

特に長女の場合、結婚もせず、若いまま死なせたことが残念でたまらない。結婚についても、本人にとってはつらかったろうと思う。話は多くあったのに、自分から断ってしまうことが多かった。

生きていてくれたら。私の方が先に死にたかったのに。

〔長崎　入市　女　４１歳〕
（４２－１６４０）

【死亡家族の概況】

⑥　３３／月日ＮＡ　従姉３２歳　腎臓　　　直爆２.５㎞（１９歳）　ある
⑦　４２／８／　１　夫　３９歳　肝臓がん　入市　　　　（１７歳）　ある
⑧　４４／９／３０　父　６８歳　肝臓がん　直爆２.５㎞（４４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕妹婿が早死にして残された小さい孫たちの行く末を思い、ひどい落胆のなかの闘病でとても辛い父の姿を思うと、今でもたまらない。病床で家族６人の原爆手帳の手続きをしてくれた。

〔夫〕小学４年と１年の子供を残して、つらいだるい体に鞭打って、いよいよ駄目と観念、入院して１カ月も経たないで亡くなりました。あとの暮らしを考えるとどんな思いだったことだろう。

〔従姉〕２人の子供を残して死亡、長い闘病生活でした。

３人とも被爆者手帳は知らないままに病死。

１７歳で長崎日見村の笠原部隊にいた主人は、原爆投下後、すぐ救援隊として爆心地に動員された。放射能の恐怖も知らされず、あの地獄図の中で貴重な働き手として毎日、毎日、遺体収容に従事しました。トロ箱に鎌をかけて引きよせる、ちょうどあのようにして死体をトラックに積んだ。ほとんど話さなかった９日のことですが、その言葉を思い出します。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　叔母３７歳　直爆０.０㎞　圧焼死
②８／９　従弟１０歳　直爆０.０㎞　圧焼死
③８／９　従妹　８歳　直爆０.０㎞　圧焼死
④８／９　従弟　４歳　直爆０.０㎞　圧焼死
⑤８／９　従弟　０歳　直爆０.０㎞　圧焼死

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１４歳〕
（４０－０７０５）

【死亡家族の概況】

③　２１／９／ＮＡ　祖父６０歳　肝臓病　　　直爆１.７㎞（５９歳）　ある

④　４４／９／ＮＡ　母　５７歳　淋巴腺がん　直爆１.７㎞（３３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖父〕体だるくて思うように働けない、とよく言っていた。

〔母〕原爆検診で淋巴腺〔がん〕と診断、即入院。それから主治医から、約１年、早くて３ヵ月とのこと。その後、９ヵ月で死亡。

祖父や母の死に方は、明日は我が身かと思い恐怖と不安の毎日です。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／１０　いとこ7歳　直爆1.8㎞　大けが・大やけど

②８／１２　いとこ7歳　直爆1.8㎞　大やけど

〔長崎　直爆２.０㎞　男　１０歳〕

（４２－１８１１）

【死亡家族の概況】

①　３０／１０／２２　父年齢ＮＡ　肝臓がん　ある　直爆１.５㎞（ＮＡ）　ある

②　４４／１０／　６　母年齢ＮＡ　肝硬変　　ある　直爆１.５㎞（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕直爆で目をやられ失明（左）、左腕の中に腫〔瘍〕が出来、手術をすすめられたがすごく嫌がっていました。私たち、子供がすすめ手術をさせますと、その手術の縫目から出血がとまらず、そのことと、私と妹の病気のことでなやんでいました。２年間、（私と妹）の歩行困難なのでひどく傷ついて、自分自身も頭を打って頭痛になやまされていました。

ある日突然に店にいてお客が出した金の計算で私が気づきました。病院（長崎大学）に入院させましたが１人で帰宅してきました。それが最後で、その後、私たちが誰であるか分からなくなりました。肝臓がんで亡くなりました。

〔母〕私たちと父のことで心配ばかりしていました。父の病気のことで隠そうとしていました。私と妹の２年間の床に伏せっている姿を見、「何か前世に……」と神仏にお参りするようになりましたが、自分自身も肝硬変におかされて、また心配のあまり血圧が高く、上がいつも２００位でした。家族のことを心配して倒れ、一生懸命に貧乏さえ感じない程に働く母でした。原爆さえ受けなかったら幸せがきたろうにと……可哀想な死に方でした。

子供たちのために一生懸命に働いてきた父母が苦しんで、死ぬまでグチひとついわずに死んでいます。こんなきれいな心であった人々に、政府は早く援護法を制定すべきです。

原因不明の高熱で私が２年間苦しんだ時、病弱の身の母が下の世話から食事の世話からと、していただいたことなど思いだし、母も肝硬変、父も肝臓がんと苦しんで死亡したことなどで、援護対策が早ければとくやまれます。私も病気と友達になりながら早く死ぬだろうと、心配してくれた母に私の姿、また、孫２人が母の好きなチャンポンを作って食べさせたのにと、くやまれてなりません。（長崎の医師が、私は早く死ぬ病気にかかつていると言われたそうです）

私の周り、父母、イトコと皆、がんで亡くなっています。恐いことです。

〔長崎　直爆１.０㎞　女　２８歳〕
（４０－０２２６）

【死亡家族の概況】

①　４４／１１／１２　６６歳　肝硬変　入市（４２歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕遠く離れているものですから母、弟、妹の話で聞いたことは２ヵ月程入院し輸血

をたびたびしたそうです。

死ぬ２、３日前は毎日のように血をはいていたそうです。

〔長崎　入市　男　１１歳〕
（０４－０３５５）

【死亡家族の概況】

①　４４／月日ＮＡ　兄５４歳　肝硬変・がん　入市（３０歳）　ある

〔死亡の状況・遺族の思い〕

〔長兄〕丈夫に働いていたが、ある日、急に入院して、そのまま病状が悪化し、約半年後に苦しんで死亡しました。父亡き後、母と私たち６人の兄弟を一人前に義務教育を受けさせるため、一家を背負って来た苦労が、知らない内に健康を害したのでしょう

被爆の時、すでに父をなくしていて、女手１人で子供６人（内、姉は被爆時すでに他家に嫁いでいた）を育てるため、母親は途方に暮れ、さらに大黒柱の兄の死をひどく嘆きました。

それから、残された子供たちが力を合わせて現在に至っていますが、考えれば悲運の生活苦に健康を害した長兄がいとおしいです。なお母は生存し、この４月に９２歳になります。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１１歳〕
（３８－０１３４）

【死亡家族の概況】

①	35／3／15	母54歳	心臓麻痺	入市	（39歳）	不明
②	45／1／28	兄43歳	心臓麻痺	直爆距離NA	（18歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕死亡2カ月位前から胃の調子が悪いと言って、朝から吐き出してしまったら気分が良くなったと言って、毎日労働仕事に出勤していた。死亡の日、あまりの胃の痛みで病院へ行く途中倒れて、病院へ運ばれて息を引き取ったのです。

〔兄〕治療済みの歯が痛んだので歯科へ行ったところ、大きな病院へ行って下さいと言われて三菱病院へ行ったところ、即入院し手術を終えたのですが、「たん」を出す時にうまく出せなくて、そのまま息たえた。むずかしい病名で覚えていませんが「歯がん」とか……。

母、兄ともに心臓麻痺で苦労し病院〔へ〕行っていて、家族みんなが苦楽をともにして死んだすがたがみられなかった。援護対策がもっと早ければと思い残念です。

〔長崎　入市　女　10歳〕
（40－0148）

【死亡家族の概況】

①	42／11／22	義父63歳	膵臓がん	直爆1.8㎞	（41歳）	ある
②	43／12／12	義母66歳	脳溢血	直爆1.8㎞	（43歳）	ある
③	44／ 3／15	父 78歳	病気	直爆1.8㎞	（54歳）	ある
④	45／ 8／18	母年齢NA	病気	直爆1.8㎞	（NA）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔義母〕体全体、火傷をしていました。恐らく、助かると思った人はいなかったそうです。その傷は亡くなるまで痛々しく、雨の前日などはかゆくなり、真赤にはれてぶつぶつだっていました。

〔義父〕最初は顔にぶつぶつができてかゆくなり、その後、胃が痛み背中がいたみ、食事もできず、原因不明のまま苦しみ、やせてしまい、亡くなりました。
　解剖の結果、膵臓がんと分かりました。

原爆に遭った人の死亡された人でほとんどの人が原因不明等の病気で亡くなられる方が多く、これから先、恐怖と不安で心配です。

〔長崎　直爆２.０㎞　女　１４歳〕
（４２－０８６４）

【死亡家族の概況】
①　４５／月日ＮＡ　従姉５７歳　病気　直爆２.５㎞（３２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔従姉〕硝子の破片によるけがの部分が急に腫瘍となり、１ヵ月位で死亡。

あまり突然のことで驚いて、原爆の恐ろしさが身にしみた。傷はなおったと思っていたのに、急に腫れて死亡に至る。

〔長崎　救護　女　２７歳〕
（４０－０８３６）

【死亡家族の概況】
①　４６／５／１７　兄４４歳　喉頭がん　被爆状況ＮＡ（１８歳）　ある

【死亡の状況・遺族思い】

〔兄〕被爆を境にからだが弱くなった。こどものことを、または母のことを思い、せめて５０歳までは生きていたいと、いつも口ぐせのようにいい、死にたくないといって死んでいった。

兄は長崎、私は東京だったので、あまりつきあいもなかった。でも、兄は兄弟でもたった１人のたよりになる兄。あとは女４人、父も母も、兄が死んだあとは病気ばかりで、このまま死んで行くのではないかと思うほどやつれていた。でも今は少しは元気をとりもどしています。兄が生きていてくれたらどんなによかったか。

〔長崎　直爆距離ＮＡ　女　１１歳〕
（２４－００８３）

【死亡家族の概況】

① ２３／８／　２　伯母２７歳　結核　　直爆1.5㎞（２４歳）　ある
② ４６／９／２７　祖母７２歳　肺がん　直爆距離ＮＡ（４６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕長年、原因不明ともいえる咳、痰に悩まされ、かかりつけはもとより、大病院の検査でも単に「ぜんそく」でしょうということであったが、死後、解剖の結果、肺がんであったと言われた。病床にあっては時折、胸をかきむしるような仕種があったときくが、余り苦しんだ様子はなかったようだ。ただし、小生も含め被爆者が家族（子や孫）にいるため、被爆による病気のことはひどく気にしていたようだと、伯父たちや看病にあたった母から聞いた。（その頃、小生は東京在住）

〔伯母〕幼少時でよく分からないが、聞き伝えでは、他へはうつらない結核？といわれ、食が細くなり枯れるように死んでいったとのこと。戦後間もない頃であったため、大した医療も受けられなかったのであろうが、特にこの頃、伯母はまだ若く、結核が他へ感染しないとは思われないので、本当は被爆のせいで何かを患って死亡した

ものと私は思っている。

早くして死んだ伯母は心優しく、病におかされていたにもかかわらず、他の兄弟姉妹のためよく家事をつとめ、家業（理容店）で多忙な父母を助け、惜しまれながら亡くなった。出産時乳頭がんで入院中の母に代わって、私を養育してくれただけに、生きていてほしかった。

祖母は生後より若死にした伯母とともに事実上、私の養母的役割を果たしてくれ、病弱な母や他の家族のことや、家業に追われた多忙な日々の中で、皆のゆっくりした落ち着くさまを見ることもなく死亡した。今、やはり生きてあればと心残りである。

〔長崎　入市　男　3歳〕
（１３－５３－０２０）

【死亡家族の概況】

① ３１／ ６／４　父６０歳　病気　直爆距離ＮＡ（４９歳）　不明
② ４６／１２／３　母８０歳　胃がん　直爆９.８㎞　（５４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕５９歳で原因もわからず、老すいのような感じで死んだ。その頃、被爆者手帳もなかったし、被爆者の健診もまだなかったから何もわからないが、今考えると放射能のせいではないかと思う。父は市内に勤めていて歩きまわったから。

〔母〕胃がんで亡くなっている。私の親族には誰もがんの人はいなかったから、これは被爆のせいだと思う。

もっと早く被爆者の健康診断が行なわれ、治療がすすめられていたら、父ももっと長生きできたろうにと思う。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１４歳〕
（１３－２３－０１６）

【死亡家族の概況】

①　２６／２／２８　夫　４１歳　脳溢血・高血圧　入市（３５歳）　ある

②　４６／月日ＮＡ　四女２５歳　胃がん　胎内（胎児）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕香焼で被爆し、入市後死体処理等で動員されてから、病弱になり職も失って、ボイラーの仕事をしていた。あちこちに出張する仕事を無理しながらやっていたので、血圧も上がったのだろうと思うが、頭が痛い、ちょっと横になると言ったまま死んでしまった。

家族を抱え無理したのが早死にの原因だと思うし、絶対、原爆のせいだと思う。

〔四女〕胎内被爆〔１ヵ月〕だったがわりあい健康で、結婚して子供ができてからも元気だったが、二番目の子供を妊娠中に胃がんになり、おろすのを医者から何度もすすめられたが断った。未熟児を出産後、旬日して苦しみながら亡くなってしまった。２５歳だった。

夫……もっと生きていてくれたら苦労をなめることもなかったのに。

四女……残された２人のこども（孫）が不憫でならない。

〔長崎　直爆２.０㎞　女　３２歳〕

（４２－０４８０）

【死亡家族の概況】

②　４６／月日ＮＡ　夫８０歳　病気　直爆距離ＮＡ（５４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕足がよろめいて６カ月ねたきりで、ものも言えんようになって死にました。ものが言えた時は最後まで（戦後生れた長男は）「原爆の時、腹の中におったのに、原爆（手帳）ばもらえんねェ」と言っていました。

原爆のかげんじゃろねェと思いました。目はつぶったまんま、メシも食べれんで死にました。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　長女１７歳　直爆０.４㎞　爆死

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　４０歳〕
（４２－２０１０）

【死亡家族の概況】
②　４７／２／３　弟３３歳　劇症肝炎　直爆１.０㎞（６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕急に疲労が激しくなり、原爆の影響であろうと診断された。

苦しみ、悲しみをともにしてきて、突然病気し、１カ月位の間に苦しんで死んだので、生き残っている者の不安と、原爆をのろう気持がいっそう激しくなってきた。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①１０／１１　父４９歳　直爆１.０㎞　原爆症

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　１６歳〕
（４２－１９７７）

【死亡家族の概況】

① ４７／３／２３　母７６歳　心筋梗塞　直爆３.３km（４９歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕戦争、原爆のための半生だったと思う。生まれてから寿命を全うするまで平和の中でのあけくれに生きてほしかった。いい世の中であればもっと長生きしたと思う。被爆した私、娘のことを始終気づかっていた。終戦直後から高血圧になやみつづけた。

私のために看病のために精神的にも肉体的にも苦労しました。

〔長崎　直爆１.５km　女　１５歳〕
（０４－０３２０）

【死亡家族の概況】

① ３４／１０／　９　父５８歳　病気　　入市　　　　（４４歳）　ある
② ４７／　４／２２　兄４８歳　肺がん　直爆２.０km（２１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕入市被爆者ですがだんだんに体が弱くなり、体全体がむくみ、思うように動けなくなり、病名もはっきりしないで痛い痛いと言って亡くなりました。子供２人が被爆者ですので、子供の将来のことをとても心配していました。もちろん働けませんので家族にも随分苦労をかけましたので、父は苦しんでいたことと思います。

〔兄〕青年の頃は元気で働いていましたけど、被爆後１０年位たった頃から体がむくみ、目がまっ赤になり、一時期、３８度の熱が１カ月位続き、白血球が多いと言われたけど病名ははっきりしませんでした。

仕事も思うようにできず、経済面で家族にも苦労をかけて苦しんでいました。最後には肺がんと診断されて亡くなりました。残された家族も、子供は小さいし養育

費にも困っていました。

父も兄も若くして亡くなりましたのがとても残念です。今生きていれば家族や孫たちに囲まれて楽しく暮らせたのに、病名もわからず手の施しようもなく死ななければならないなんて、残酷だと思います。被爆者手帳も、証人が２人いないと駄目とか、また、身内の証人では駄目ということで、手帳ももらっていなかったし、生きてるあいだ中、苦労のしどおしだったと思います。

残された遺族にも何らかの援護がなされることを望んでいます。

〔長崎　直爆３.０km　女　１８歳〕
（１４－０９０８）

【死亡家族の概況】
①　４７／７／１６　父６９歳　病気　直爆１.０km（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕それまでいっさい病気をしたことがなかったのですが、あの日を境にして目に見えて弱くなり、２０年も寝たきりになり、家族皆苦しみにさいなまれ、もっと早く援護して下さったらと現在も思う。

〔長崎　直爆３.０km～　男　１７歳〕
（１１－００７５）

【死亡家族の概況】
②　４７／８／１０　父年齢ＮＡ　肝臓がん　直爆３.６km（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕痛風と肝臓がんのために死の直前まで苦しみぬいて、とうとう帰らぬ人となりました。もともとけがや病気（発熱）には弱い人で、血を見たりするだけでまっ青になるのです。ところが原爆投下の翌日、爆心地に親類の者を捜しに出かけ、死体を１人ずつかき分けて確かめたりする際、信じられないほど落ち着いて正気だったと母が教えてくれました。いつもはすぐに気を失うほどの気の弱い父がしっかりと現実を見つめ対処したことは、相当な精神力であったかと思います。

原爆さえなければ放射線に侵されることもなく、元気で仕事が続けられたことでしょうに、がんに見舞われてしまい残念でなりません。原爆症に対する不安や恐怖といったものは、あまり口に出すことはありませんでしたが、たえずつきまとっていたように思われます。

これまでいろいろ苦労を重ねてきましたので、子供（私たち姉妹）たちがそれぞれ独立して、これから楽をさせてあげられるという時期になって逝ってしまったことは非常にくやしい気持です。もっと生きていてくれたならと歯がゆい思いをしています。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１８　いとこ年齢ＮＡ　直爆距離不明　原爆症

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　５歳〕
（４０－０３４８）

【死亡家族の概況】

① ３６／１０／３　父５９歳　心臓喘息　直爆２.４㎞（４３歳）　不明
② ４７／１１／５　弟４５歳　胃がん　直爆１.０㎞（１８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕２１年に上京し、職にも恵まれ家庭にも恵まれ、それは幸せでした。急に突然、胃がんとせんこくされ（本人は知らず）、嫁は原爆者ということを非常に気にして

苦しんでいたようでした。「被爆者と知っていたら結婚しなかったのに」とまで、私は嫁に言われ、大変悲しくつらい思いをしたことがあります。子供たちのことも被爆２世にならないかと毎日心配で眠られないと言いつづけております。

本人も原爆症の不安と恐怖におびえて、私の子供に「私は死にたくない、子供のために生きたい」と手をしっかり握って涙をため訴えたそうです。私はそのことを聞き、改めて原爆の恐ろしさをまざまざと知らされたものでした。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１９歳〕
（４２－２２２９）

【死亡家族の概況】

①　４７／１２／２３　父６９歳　高血圧　直爆２.６㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆が落ちた時は２㎞以上の地点で被爆しましたが、爆心地へ向けて何回行ったことでしょう。救護活動、死体掘りと申してがんばっているうちに体の調子〔が〕悪くなり、全身が弱りました。歯ぐきからの出血もありました。白内障にも早々となり、もとのように元気になることなく亡くなりました。

原爆にあっていなかったら、父はもっと長生きをしただろうと思います時、本当に残念で涙が出ます。親には孝行してやりたいです。苦労した父です。本当に今、生きててくれたらと毎日思います。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１１歳〕
（２７－０２７１）

【死亡家族の概況】
① ４８／１／２５ 弟４０歳 肝臓がん 直爆３.６㎞（１２歳） 不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔弟〕昭和３０年代後半より肝臓を悪くし、４０年代に入りちょくちょく入退院をくり返していましたが、血管が破れて血を吐いたり、死ぬまでずいぶん苦しんでいました。

もっと長生きして欲しかった。発育盛りの時に戦争があって、そのため食物が欠乏し、体自体も弱くて、そのことが一つの原因だったように思われる。

〔長崎 直爆３.０㎞～ 男 ２０歳〕
（４０－０３３７）

【死亡家族の概況】
① ４８／５／１４ 夫８３歳 脳腫瘍 直爆３.０㎞（５５歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕あの８月９日はちょうど傷の手術をして自宅にいたので助かりました。
　土木会社の監督をしていましたが、会社は全滅していて働くことが出来ず、実家の八女に引き揚げましたが、病気勝ちで入院したりして失対人夫になり、８０歳まで生活保護を受けずに頑張りました。
　８０歳で交通事故で入院し、当時のことで事故の保険もなく、貯えもすっかり無くなり、８３歳で脳に腫瘍ができて苦しみました。よく働く人でした。
　３年間の入院で貯金もすっかり無くなり、私のことを心配したのでしょうか、一緒に死ぬつもりでしょうか、私を手にかけようとしました。でも私は死ねませんでした。

被爆してからは、病気勝ちな夫婦になって家もなく、とうとう失対人夫までして働

きながら、いつも「お前が後に残ったとき困らぬように」と人様によくして、生活も無駄をせず、貯えをと心がけてくれました。一緒に死んだ方がよかったと思います。

生活保護は受けないと８０歳まで働いた夫です。生きていてくれたらと心から思います。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　４２歳〕
（４０－０７３４）

【死亡家族の概況】

①　４８／５／２６　母７０歳　白血病　被爆状況ＮＡ（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕貧血がひどく１０年以上の入退院の繰り返しが続きました。出血をすると血が止まらないために、ケガをすることに神経を使っていました。

母が４２年〔ママ〕に亡くなりました。１０年余り入退院の末に白血病で亡くなりました。入院が長いために、火葬の遺体は骨が全部なく灰だけでした。

子供達のために何年も苦労したうえに、一つも楽な思いをしないで何年も苦しんだ母があわれです。もっと早く治療が早ければ、もっと生きていたと思います。

〔長崎　直爆３.０㎞～　女　７歳〕
（１３－１９－０４２）

【死亡家族の概況】

⑤　４３／７／１６　弟　３９歳　病気　　直爆２.０㎞（１６歳）　ある

⑥　４７／３／１５　次男３１歳　病気　　直爆４.０㎞（　４歳）　不明
⑦　４８／９／　１　夫　６２歳　肝不全　直爆４.０㎞（３４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

次男、弟２人とも、心臓ポックリ急死した。

〔次男〕昭和１９年８月１日に長崎に焼夷弾攻撃があった時も、びっくりして目が見えなくなったりした。

〔弟〕りんぱ腺の手術を２回もした。２人とも同じような死にかたでした。

○夫は酒をよくのんでいたので肝不全で亡くなったが、原爆に関係があったかはなんとも言えなかった。

○次男と弟は前日まで働き、夜、ふとんの中で急にポックリ逝ったので、あきらめきれなかった。

次男が死んだ〔昭和〕４７年にあの群馬県の妙義山事件があったので、ああ、こんな人間にならず、人に惜しまれて死んで行ったことで良かったと思ってからあきらめるようになった。３０歳で死亡。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／１０　父６０歳　直爆０.５㎞　大やけど
②８／２１　母５４歳　直爆０.５㎞　大やけど・大けが・原爆症
③８／２５　妹１８歳　直爆０.５㎞　原爆症
④８／２７　妹１２歳　直爆０.５㎞　原爆症

〔長崎　直爆３.０㎞　女　３２歳〕
（４２−０９２８）

【死亡家族の概況】
①　４８／９／３　父７４歳　肝臓がん　直爆２.０㎞（４６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕

○被爆後５～６年後より、右わき腹の痛みを年１～２回訴えるようになった。

○晩年（５５歳位）に喘息をわずらい、

○昭和４８年入院後（喘息）、急に肝臓が悪くなり、七転八倒しながらなくなった。

○父は体質的に丈夫な筋肉質の身体だった。

○酒は飲まず、煙草も６０歳前に止めて、健康管理に努めていた。

○なぜ肝臓がんなんかにかかったのか未だに不可解である。

○会社を辞めるまで、定期検診以外病院にかかったことはなかった。

○現在のように年２回の原爆検診があっておれば、早期発見できたかもしれないと思うと残念です。

〔長崎　直爆３．０km　男　１９歳〕
（４０－０５２６）

【死亡家族の概況】

①　４８／１０／１４　父７５歳　結腸がん　直爆２.５km（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕結腸がんで苦しみながら亡くなりました。

昭和２２年頃から視力がおち始め、昭和２５年頃は５０ｍ先の人の顔が識別できなくなり、船の操舵ができなくなって船の仕事をやめました。

昭和３０年頃から時々胸がしめつけられるように痛むと言うようになり、昭和３４年頃は視力がますますおちて、１０ｍ先の物のリンカクがぼやけてはっきり見えなくなったと言うので、昭和３５年、長崎から茨城県へ連れてきて、眼科医で治療に当たったが治らず、この頃の父の眼は黒マナコが白っぽくにごっていて素人が見ても眼が悪いことが判別できましたが、医師は心配することはないとのことでした。　昭和４５年頃からしばしば起きるようになった胸の激痛は、狭心症だとの診

断もありましたが、心臓と胃が悪いとのことで通院加療を続けましたがよくならず、昭和４７年頃からは下腹部の痛みを訴えるようになりました。この時の医師は、父が腹が痛いと言っているのに胃の検査ばかりやっておりました。何回か通い、最後の頃はのどがつかえてバリウムが飲めないと言うのを、それでは検査ができないと医師に言われ無理に飲まされておりましたが、その後、数日は便が出なくて苦しんでおりました。腹がひんぱんに痛むようになったので第２の医師に診てもらいましたが、ここでも胃の検査だけやって、大したことはないようだから薬を飲んでみなさいとのことでした。

昭和４８年３月頃から便の出が悪くなり第３の医師の診断を受けたところ、結腸がんで、もう手おくれであることがわかりました。本人は知っていたらしく、病院には入れないでくれと言っておりました。昭和４８年６月頃から体力も食欲もなくなった父は、腹がフクラミ苦痛にたえながら１０月に亡くなりましたが、どの医師も原爆の被爆によるものかどうかは判らないとのことでありました。

内科医の誤診とも知らずに通院、投薬を受けておりましたが、いつまで経っても治らないので胃腸外科に転医したところ結腸がんで、すでに手おくれの状態でした。早く、よい医者にめぐり逢っておれば長生きできたのにと思うと残念で、父が可哀相です。

〔長崎　直爆３.０㎞　男　１５歳〕
（０９−００１０）

【死亡家族の概況】

①　４８／１２／６　夫４５歳　胃がん　直爆２.０㎞（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕右肩より手くびまで火傷の痕があり、時々、手がしびれる、つかれると言ったりしていました。病気はがんと診断されましたが、他の病院では原因はわからないと言われました。

主人の「死」は原爆のせいでは、と思うことがあります。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　２２歳〕
（４２－１２７６）

【死亡家族の概況】
①　４９／５／ＮＡ　姉５０歳　がん　直爆３.０㎞（２１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕異常にこえて、いつも体がきつそうにゴロゴロしていた。乳がんで発見され手術後、９年後に大腿骨にがんが再発し、肝臓、肺に移っていった。痛い痛いと言い続けていました。姉の子供は小さいので看病も大変でした。

生きていてくれたら話し相手になってくれるのに、とくやまれます。姉の子供たちもその当時は小さかったので、姉も心残りにしながら死にました。病状から本当のことを言ってほしいと言いましたが、本人にはがんのことは知らせませんてせした。３年間苦しみました。看護も、シップをはったり、少しでも痛みをやわらげてやろうと必死でした。
看護しながら何度外で涙したことか、とてもみじめでした。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１８歳〕
（４０－０１８３）

【死亡家族の概況】
①　４９／８／１３　夫４６歳　肝硬変　直爆１.５㎞（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕爆心地で１７歳の時に被爆しました。身体中にガラスの破片を浴び、背中半分に火傷を負いましたが、重傷ではなかったために、傷ついた学友を背負って救護所に運んだり、死体を荼毘に付したり、地獄絵の中で働きました。１週間後に郷里に連れ帰られましたが、その夜から高熱にうなされ、髪の毛が抜けはじめて死線をさまよいました。

幸いに生命はとりとめましたが、被爆後１０年目頃から身体の不調に苦しみ、入退院を繰り返すようになりました。内臓諸器官をやられ、原爆症の恐怖におびえながらの闘病生活。少し回復すれば職場に復帰して生徒に戦争の悲惨さを語り、同じ過ちを繰り返してはならないと説きました。夫のポケットの中にはいつも薬が入っておりました。

２人の男の子の父親になってからは特に健康に留意して、成人するまでは何としても生きていたいと口ぐせのように言っておりました。しかし傷ついた身体は過激な勤務にはあまりにももろく、最後は2ヵ月の入院生活の後、あっけなく世を去りました。４６歳の働き盛り、何もかも、これから！という時期でした。

夫が逝って今年は１３回忌を迎えます。志半ばにして、１人で逝ってしまった主人がとてもあわれで、原爆さえなかったら、親子、平和な暮らしができたでしょうに。一家の柱を亡くした残された者の悲しみは、いつまでたっても消えることがありません。それどころか、齢を重ねるたびに悲しみは深くなります。長い老後を一人で過ごすのはとても寂しいことです。寝ていても生きていてほしかったと思います。

〔長崎　入市　女　１５歳〕
（１３－３５－０２１）

【死亡家族の概況】

①　４９／１０／１１　父６９歳　肉腫　入市（４０歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕病院嫌いで、働きづくめで、数ヵ月の入院生活で他界しました。早期発見、早期治療ができればよかったのに、手遅れで手術ができなくて残念でした。

〔長崎　直爆３.０㎞～　男　２歳〕
（４２－０４９０）

【死亡家族の概況】

② ４９／１１／２３　父７５歳　被爆時のけが・　入市（４６歳）　ある
収縮性心嚢炎

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆の日までは香焼の川南造船所に勤めておりましたが、川南造船所で被爆し、その時点では何の怪我もやけどもしておりませんでした。しかし、夜、自宅に帰って見ると妻（母）が帰宅しておらず、朝から自分が出勤する時、一緒に長崎市内へ用事で出掛けたが、もしや原爆でやられたのではと思い、一夜すごすと仕事も無断で欠勤し、手熊町の自宅から歩いて長崎市に入り、出掛けた先の用件先を尋ねたがそれどころの騒ぎではなく、全く行方がわからず、大橋付近から大波止に向かって、できるだけたくさんの人々の死体やけが人などの中にいないか、捜し回ったそうです。１日目はわからなかったそうですが、また、歩いて帰るうち足にけがしているのに気付いたそうですが、その時は何とも思わず、自宅へ帰ってから赤チンキをつけておいたそうですが、これが後で大変なことになり、これだけではなく、また心臓もこの日からおかしくなったそうです。

こうして何日か長崎市内と手熊を歩いて往復し、正確にはわからないそうですが、３、４日か4、５日かに〔母が〕稲佐小学校に収容されているらしい話を聞いて行ってみると、見るも無残なやけどで言葉でやっとわかる程度で、顔はもう全く見分けがつかない位でしたそうですが、応援の地元の消防団、警防団の方々の担架で手熊へ帰ったそうですが、油木町の油木坂は気の毒だと言って気丈にも歩いて登ると言ったそうですが。かくして８月２１日に没するまで苦しみ抜いて死んだそうです。

父はこの時の傷が病院にかかっても少しも治らず、だんだんとひろがり、昭和４５年頃はもう片足が腰まで真っ黒になってふやけたようになり、もちろん、皮膚もできず、さながら、やけどのような格好になっておりました。同時に心臓も悪化して、これが直接の死因のようですが、原爆病院に入院したのは昭和３６年頃でした。

父の足の傷が最初の時点では単なる引掻きかすり傷のような直径１.５㎝の皮膚のはがれたものだったが、それが１５年もの間(それからずっとだが)全然皮膚が出来ず、やけどのようなものに変わったまま少しずつ大きくなり、昭和３６年にはこれで入院した。その時はもう直径が１５㎝位、縦長の皮膚のむくれた、生の赤いただれた様相を呈してその周囲はどす黒くなり、だんだんももの方にはい上がって行く。病院でもいろいろ薬をつけてくれるが少しもなおることもなく、心臓も悪くなり、目もだんだんと視力が落ち、病状は少しもよくならない。原爆の症状というものの（いろんな形状もあろうが）こわさ、放射能というもののこわさが肌に粟立つ思いで身にしみている。

身内はもとより親類の人たちまで見舞いに来られると、移るのではないかと凄く不安であった。その父とも戦後８年は同居していたのだから、小生兄弟もおいおいに何か出てくるだろうと思うとやはり不安である。ずっと続く腰痛もそうだと思わないようにしたいが。４９年に死ぬまで、妻を先になくして３０年近く、どういう思いで死んで行ったか、死に目に会わなかった小生は、残念な気が、今でも尻が落ち着かない気持が続く。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／２１　母４８歳　直爆０.５～１.０㎞　大やけど

〔長崎　入市　男　１７歳〕
(４２－０６７５)

Ⅳ. 昭和５０年以降の死

【死亡家族の概況】
①　５０／４／５　母７８歳　死因ＮＡ　被爆状況ＮＡ（４８歳）　ＮＡ

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕歯ぐきからの出血がひどくなった。胃や腸がたびたび痛むようになった。美味しいからと少しでも食べすぎるとものすごくお腹が痛むし、人工こうもんでなかったら、衣類フトン汚さないですむのにと涙を流しておりました。家にいては栄養がとれないのでほとんど病院のお世話になっていました。原爆手帳を交付してもらってない間は国鉄職員保険（家族）で入院し、入院料及び手術料で少々の預貯金は使いはたしてしまいました。捨てる神あれば助ける神ありとか、ある方が、原爆手帳を申請してみたらと勧めて下さって、その後はお陰様で入院料、小遣いは心配がなくなり感謝しております。

自分がこのような病気になったらどうしようと、そのことがいつも脳裡にあってちょっとした体の変化にもビクビクです。例えばつば飲みをやるとき喉が痛むと、喉に何か悪いものが（？）等、悪い方にばかり考える。

〔長崎　入市　性・年齢不明〕
（４２－０５１６）

【死亡家族の概況】
①　３８／１２／　３　兄３１歳　心臓マヒ　直爆４．１km（１３歳）　不明
②　５０／　６／２５　父８４歳　直腸がん　直爆４．５km（５４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕長い間神経痛に悩まされ、死ぬ前は２、３年も寝たり起きたりの状態で、足は

象の足のようにはれ上がり歩けない状態でした。手首も物が自由に持てないような状態で、つねに痛みをうったえていました。

〔兄〕東京で死亡したので私は詳しいことはしりませんが、兄嫁の話では救急車も間に合わなかったとのことです。

父は８６歳まで何だかだと言いながら、病院通いのたえない日々でしたが、わりと長生きしましたのでそれ程心残りのこともありませんが、兄は３１歳の若さで、これから親孝行をすると言っていた矢先のことで、兄の訃報を聞いた時は全く信じられませんでした。今生きていれば東京と△△は近いのでどれ程頼りになったかと、くやしくて仕方ありません。苦しい生活の中から兄の大学費用をやりくりしていた母の姿が忘れられません。

〔長崎　直爆3.0km～　女　4歳〕
（２２－０２４１）

【死亡家族の概況】

① ３５／９／２０　父７２歳　胃がん　直爆３.０km（５７歳）　ある

② ５０／７／　３　母７７歳　白血病　直爆１.５km（４７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕胃がんで亡くした当時は原爆の原因だとそれほど思いませんでしたが。

〔母〕白血病で亡くし（特別手帳）発病して６カ月死亡。２カ月前から非常に苦しみ、体が日に日にやせおとろえて行く状態を感じて、被爆で放射能を体内にあび、体が弱った時分に発病したんじゃと思います。いかに原爆の後遺症が恐ろしいと身にしみました。

原爆症（ケロイド、ガラス破片、放射能その他）医療たいせいがアメリカの妨害と日本政府の怠まんで、極たんに遅れたため、たくさんの被爆者の方がまんぞくな治療をされないまま惨死され残念でなりません。日本政府が人道上許されない殺人

兵器原爆を使用したアメリカに抗ぎと治療と救援の要求をしておれば、被爆後長期間ぞくぞく被爆死の方々を最小限度に出来、治療の方法もある程度は進んだと思います。くやまれてなりません。

〔長崎　直爆３.０km　男　１５歳〕
（４２－１１５５）

【死亡家族の概況】
①　５０／１０／１２　母５６歳　結腸がん　入市（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕健康で病気しらずの母が、ある日急に発熱し、それから毎日に熱とのたたかい、原因不明でがんとわかるまでの１年、また手術後の痛みと思うように動けないこと、すべてにイライラし、早く死にたいと苦しんでいました。

〔長崎　入市　女　１歳〕
（４０－０７３１）

【死亡家族の概況】
③　５０／１２／２９　母６４歳　脳出血　入市（３４歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕発病して４０日間苦しみ、子供達のこと（特に私が原爆のために子供を産まなかったので、私の老後を心配してました）それに夫、つまり私の父のことをほんとに心配しながら死んで行きました。母はいつも機会あるごとに、原爆の恐ろし

さを話しておりました。またその話が上手で、今生きてたら原爆の「かたりべ」になったろうと思います。こういう人がだんだん少なくなって行くのが、ほんとに恐ろしいことにつながるんではないかと思ったりします。

私の入院費を得るために、当時非常に苦労したのではと思います。原爆さえ落ちなければその苦労もなく、もっと長生き出来たのでは、と思うと母にとてもすまないと思うとともに、原爆に対していきどおりを感じます。

も少し生きてくれたらと思いました。被爆して私が病気になり、そのために入院費がかさみ、どれだけ苦労かけたかわかりません。

終戦後の生活苦、ほんとに家族全部がどん底の生活をして来ました。その生活を支えてくれたのが父と亡き母です。その時に被爆者対策でもあったなら、少しは医療費でも出してもらえたら、どんなに助かったことでしょう。今からでもおそくはないと思います。１６歳であった私自身、５７歳になりました。そして子供もない老後がひどく心配です。

私も援護対策がほしいと思うけど、亡き母にほしかったと思います。その時の苦労が母の死を早めたのかもわかりません。この頃ますますその思いが強くなってきてます。自分が母の年に近づいて、ほんとにそう思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①死亡月日ＮＡ　祖父６３歳　直爆０.７㎞　不明
②死亡月日ＮＡ　祖母５９歳　直爆０.７㎞　不明

〔長崎　直爆０.５㎞　女　１６歳〕
（１４－００７３）

【死亡家族の概況】

①	２１／１／ＮＡ	祖父年齢ＮＡ	老衰	直爆１.０㎞	（ＮＡ）	不明
②	４１／９／１３	母　５８歳	子宮・直腸がん	直爆１.０㎞	（３７歳）	ある
③	５０／９／　１	父　７８歳	心不全	直爆１.０㎞	（４８歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖父〕老衰であったように両親が話していたので、はっきり分かりませんが、被爆時は少しやけどをしておりました。

〔母〕昭和３０年９月１日、子宮がんの摘出手術がなされ、昭和３８年８月、直腸がんの手術がなされ、４１年９月１３日まで、この３年間は病に苦しみぬきました。

〔父〕老衰によるものでした。被爆時は右眼失明（家のはりの下じきのため）。

〔長崎　直爆１.０km　女　９歳〕
（４２－０５９４）

【死亡家族の概況】

① ５１／１／８　母６８歳　肺がん　直爆３.０km（３７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕昭和４７年肺がんの診断の結果、△△国立病院にて手術。以後入退院をくり返し４年間がんとのたたかいで、脳その他に転移し亡くなる。

〔長崎　直爆３.0km～　男　４歳〕
（４２－１３９６）

【死亡家族の概況】

① ４５／２／２４　母６５歳　脳血栓　直爆４.０km（４０歳）　ある
② ５１／５／２４　父７２歳　肺がん　直爆４.０km（４１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕突然急死。

亡くなる2時間前までは元気だった。

海であさりとりをしていた。そこで発作がおきた（海岸は自宅から１０ｍ位）。５～１０分、前のめりの形をしていたので、となりの奥さんが肩をたたいたらそのまま たおれた。戸板にのせて自宅につれられた。そのまま１～２時間後に亡くなった。（脳血栓）

〔父〕昭和４９年長崎原爆病院入院。昭和５０年１１月、東京に呼んで△△△病院で診てもらう（セキとムネの痛みのため→カゼとの診断）。同年１２月には長崎へ帰る。帰ってから、食欲がおちる等の症状が出る。年明けて昭和５１年１月に精密検査。結果は肝臓、胃、他内臓ががんに侵されていた。

２月に長崎の市民病院に入院。本当に苦しんで苦しんで亡くなりました。

病院から亡くなった時、どこが悪かったのか解剖させてほしいとたのまれ、弟等とも相談の上、自分達のためにも皆のためにもということで、解剖してもらいました。

なぜ、病院で診てもらっていたのに、前もってがんが分からなかったか、病院が信用できない気持ちです。だから最近は年１回位しか行きません。

〔長崎　直爆3.0km～　女　9歳〕
（１３－２３－０３３）

【死亡家族の概況】

① ５２／１／７　兄３５歳　脳血栓　直爆８.５km（３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕２０歳ごろまでは元気で、家業のそば屋をついで、よく働いてくれました。私と弟は兄のおかげで高校も卒業出来、私にはやさしい兄の思い出しか残っていません。

その兄が原因不明のシャクリに悩まされたのです。それも普通のシャクリではなく、何日も何日も休む間もなく出るのです。シャクリが出ると兄は食事もとれ

ず、衰弱する一方なので病院に入院させ、麻酔を打って１日中眠らせてシャクリを止めるという日々でした。それが何年も続くと医者の方でも注射を打ってくれなくなり、兄はずい分苦しみました、そのうち余病も出て、朝起こしにいったら死んでいたそうです。

母は、子供は親より長く生きるものと思っていたものですから、そのショックは大きく、母も後を追って死ぬのではないかと思うくらい、体はやせ、周りを心配させたものです。何かある度に、兄が生きていてくれたらと言うのが、母の口ぐせです。

〔長崎　胎内被爆　女　胎児〕
（１４－８００１）

【死亡家族の概況】

①	２１／２／１７	祖父６０歳	老衰	直爆２.５km（５９歳）	ある
②	５２／９／２４	母　６４歳	直腸がん	直爆２.５km（３２歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖父〕被爆当時（長崎駅近くの屋外で被爆）少々足が不自由程度の他は、これといった病気はなく元気だった祖父は、被爆後、日に日に衰弱し、翌年２月に亡くなりました。

〔母〕当時、やけどを負いながらも生きのびた母は、その後は原爆症の不安と恐怖におびえ、あの日を思い出すことを極端にきらい（稲妻や雷の光りや音にも異常なくらいおびえていた）、被爆者手帳の申請も拒みつづけました。

しかしその間、病弱で病院通いの日々がつづくようになり、Ｓ５２年最も恐れていたがん（直腸がん）で亡くなりました。

先にも書いたように、被爆を境に、それまで特にこれといった病気もなく、元気だった祖父や母が病気がちとなり、祖父は翌年２月、そして母はＳ５２年に最も恐

れていたがんで亡くなりました。

母の死は被爆後３０年以上もたっていましたが、その時の母の苦しみは、あの被爆直後の、原爆症で亡くなられた人たちの苦しみそのもののように思えて、耐えられない思いをしました。

〔長崎　直爆１.０㎞　男　９歳〕
（１７－０００２）

【死亡家族の概況】

①　５３／１／２７　母７５歳　心筋梗塞　直爆１.８㎞（４２歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕被爆によるやけどを負うとともに、戦後間もない頃から心臓がだんだん弱くなっていきました。働き者だった母は、思うようにうごけなくなった自分をみて、健康をとりもどしたいと、死ぬまで悔しがっていたことを、いまさらのように思いだします。（心筋梗塞・糖尿病・高血圧ほか）

年とった父母への孝行の一つとして、毎年、数回は温泉地などへ出かけることにしていました。亡くなった母は、それをまた一つの楽しみにしていたようです。

母には少なくとも８０歳台までは生きていてほしかったと、いまでも残念に思っています。

〔長崎　直爆２.０㎞　男　１５歳〕
（１３－３２－０３４）

【死亡家族の概況】
① ５３／３／３０ 姉５６歳 膠原病 直爆４.０㎞（２３歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔姉〕昭和３９年頃より身体の痛みを訴え、病名不明のまま入退院をくりかえし、１０年位してからは床につくことが多くなり、５３年死亡し病名は膠原病と医師よりつげられたが、自分は肺がんではないだろうかと思う位苦しんでいた。

〔長崎 入市 男 ２０歳〕
（４０－０５６７）

【死亡家族の概況】
① ５４／１／２８ 夫６６歳 白血病 直爆１.５㎞（３２歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔夫〕白血病とはなかなかわからず、いろいろ病院をかえ、手おくれになったことがくやまれてならない。

ちょうど手帳申請をしていた時でした。死亡してから手帳は出来上がって来ました。早くしておけばと残念でなりません。子供達のためにかくしておいたのが、あだとなりました。

〔長崎 直爆3.0km～ 女 ２０歳〕
（４０－０７６１）

【死亡家族の概況】

① ５４／１／３１　妹５０歳　がん　直爆０.０㎞（１６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕長い間病床にあり、ようやく生活が出来るようになったのもつかのま、がんにおかされ、下半身マヒのみじめな姿で息をひきとった。

結婚したいという夢や希望をもちながらもままにならず、あわれな一生だった。

最後の病気の時も、つきそいの費用など多額のお金がかかり、大変困った。特別手当の許可がきた時は死の翌日であった。

長い間、父や母は妹のために苦しみ、なやんできた。もっと援護対策が早ければとつくづく残念です。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１８歳〕
（１３－２７－００９）

【死亡家族の概況】

① ５０／２／２６　夫５０歳　肺がん　入市（２０歳）　ある
② ５４／２／２６　母６８歳　皮膚がん　入市（３４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫・母〕がんという病名だけはよく聞いていましたけど、主人、母とがんでなくし、私自身も二度がんによる手術をしました。主人、母ともに苦しんでなくなりましたので、発電所等で原子〔力〕が使用されています、おそらく被曝は絶対にしないということはないと思います。

地球の上から原子という字がなくなることを希望します。

いつかは生あるもの皆、死が来ると思いますが、あと何年か生きていてくれたら、私自身の入院の折も力になってくれたと思います。

〔長崎　直爆3.0km～　女　１７歳〕
（２３－０１７２）

【死亡家族の概況】
②　５４／４／７　妹５１歳　がん　入市（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔妹〕側についていなかったのでわかりませんが、全身にがん転移。悲惨な状態でしたが、最後はあきらめの状態だったようです。

私よりもずっと若く健康だったのに（あるいは私達にかくしていたのかも知れません）、誰もがん等にかかったことがないのに、ある日突然病状を知らされ、本当に驚きと悲しみで夜を明かしました。全身に転移したのですが、あんなにひどい病状は初めて見ました。やはりいつの間にか身体全体が弱っていたのだと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　父４９歳　直爆距離ＮＡ　圧焼死

〔長崎　入市　女　２１歳〕
（１３－５２－００４）

【死亡家族の概況】
②　５４／６／１９　母８２歳　呼吸心不全　直爆３.５km（４８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕帰らぬ子供たち５人の安否を気づかい、母は原爆の廃墟の中を捜し歩き、第二

次放射能を浴びた被爆者でした。その母が、被爆後３４年目に死亡しました。

原爆によって不具の身になった私は、母にとって最後まで思いの残る子であったでしょう。病弱と経済的な自立の不安定、その思いを母は深く残して逝ってしまいました。

国家補償に基づく被爆者援護法があって、一応のみとおしがあれば、母はどんなにか安らかに息をひきとることができたでしょう。それだけが悔やまれます。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／９　兄２６歳　直爆１.５㎞　圧焼死

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１７歳〕
（４２－１５１７）

【死亡家族の概況】

①	３７／８／１５	父６６歳	十二指腸閉鎖	直爆２.３㎞	（４９歳）	ある
②	５４／９／２０	母８１歳	心不全	直爆２.３㎞	（４７歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕原爆で家と財産と仕事を失い、大怪我をした私を連れて、一家で父の故郷である佐賀へ帰ったが、そこに長居することもできず、粗末な借家住まいで、食っていくのがやっと、という状態を父の細腕一本にたよった。

その頃の無理が被爆の影響と重なって、昭和３０年頃から体をこわし、よく苦しそうに嘔吐をしていた。その後は離れて暮らしていたのでよくわからないが、あっけない最期であったようだ。

〔母〕父の故郷で苦労が多かったようだし、生計のきりもりがまた大変だったように思う。そのような苦労も重なって、晩年は体の各所に痛みを訴えて病院通いが激しかったようであるが、離れていたのでくわしくはわからない。

〔長崎　直爆１.０㎞　男　１７歳〕
（１３－２１－０２２）

【死亡家族の概況】

②　４３／　２／　５　父６３歳　肝臓がん　　直爆距離ＮＡ（４０歳）　ある

③　５３／　２／２１　妹４２歳　白血病　　　直爆１.５㎞（　９歳）　ある

④　５４／１２／２９　弟４０歳　急性脳膜炎　直爆１.５㎞（　６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕肝ぞうがんで余り苦しみもなく死に至った。

〔妹〕永年病名がはっきりしないまま苦しみながら死亡。

〔弟〕突然頭痛を訴え急死しました。

今生きていればお互いに力になれるのにと淋しい思いをしています。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　弟２歳　直爆１.５㎞　圧焼死

〔長崎　直爆１.５㎞　女　１２歳〕

（４２－０８０９）

【死亡家族の概況】

①　２９／２／１５　養母６１歳　病気　　直爆１．０㎞（５２歳）　ある

②　５４／月日ＮＡ　従弟５２歳　肺がん　直爆１．０㎞（１８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔養母〕昭和２８年春頃から、髪の毛が抜け出し、髪を解かすとびっくりする位でした。また歯も１本の虫歯もないのに、ぽろぽろぽろと、本当にぽろっぽろっという感じで取れて、気持ち悪がっていました。母は原爆症など知らないので、不安も恐怖もありませんでした。何となく食欲なく、体がだるいと言ってはぶらぶらしておりました。

昭和２９年２月に入って、ますます食欲がなくなり体もやせて、病院へ行っても

少し胃腸が弱っている位で、別に大したことはないから、消化の良いものを食するようにとのことでした。２月１２日にトイレに行くのに歩けなくなり、１５日午後１時半頃になって、何だか母の様子が変なので、医者をよびに行き、家に帰った時は、体中小豆大の紫斑点が出ていて、眠ったように息を引き取りました。医師は急に死ぬような病気は何もない。病名は不明と言われました。

〔従弟〕△△△△（いとこ）は体が病気がちになり、職場も長つづきせず、そのために結婚もできないで、各地を転々として、ずい分すさんだ生活をしていたそうですが、ますます体が悪くなり、生活もできなくなり、兄の世話になっていたそうですが、昭和５４年に、肺がんと肝炎で苦しみながら息を引き取ったとのことでした。去年春、田舎へ帰崎した時、初めて知りました。音信不通だったので、また手当ても受けていなかったそうです。△△の兄嫁が申しておりましたけど、毎日毎夜苦しむすがたは見ておれなかったそうです。

養母の死は、今でも私の目に焼き付いております。もっと早く援護対策ができていれば、また原爆の後遺症のことなど何も知らず、どこといって悪い所もないと医師には言われながら、この世を去った母のことを思い出す度に涙が出て来ます。

いとこの△△も私達と一緒に住んでいた頃は、とても元気ではつらつとした明るい性格の若者でしたのに、被爆したために病弱になり、人並の生活もできず、やけになって生活もすさんでしまったのでしょう。その苦しみを誰にも訴えることもできず、ただ病魔との闘いで、苦しみもだえて死んで行ったかと思うと、何とも言いようもなく悲しくてたまりません。被爆した時は１８歳でしたので、青春も何もなかったと思います。

〔長崎　直爆１．０㎞　女　２５歳〕
（２８−０１０３）

【死亡家族の概況】

①　５４／月日ＮＡ　兄６０歳　直腸がん・胆のう　入市（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕胆のうをわずらって、腰の痛い、腰の痛いと言っていたので、遊んでいるからよーと冗談を言っていたが、直腸のがんだった。死ぬまで痛い痛いと言って死んでいった。兄弟でかわいそうで、面会に行って「がん」ということをかくし通せるか不安で、時々しか面会に行かなかった。かわいそうで面会に行ってもすぐに帰ってきた。みておれなかった。

自分はこの死に方だけはしたくない。かわいそすぎる。

〔長崎　直爆3.0km～　男　１６歳〕
（４２－２００８）

【死亡家族の概況】

①　５５／４／１８　姉６６歳　がん性腹膜炎　救護（３１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕日頃から便秘だったようです。だんだんと症状がひどくなって、種々と検査、治療を受けたらしいのですが、すでに手術も出来ずに腹水がたまるのを抜く位で、最後まで、腹が張って、便が出ないのを苦にしながら、体力が無くなり、口内炎、湿疹等余病を併発、検査のくり返しにあえぎながら死亡しました。

発病から死亡までの期間が短期であったこと。本人の苦しみを目前に見たこと。自分の体質と良く似て、日頃便秘症であること。その家族の苦労、看病、本人の闘病、周囲の心配等、日々忘れ得ず自分の将来に不安を感じる毎日です。

〔長崎　救護　女　１７歳〕
（４２－０１３９）

【死亡家族の概況】

②　５５／８／１６　夫６１歳　肝臓がん　直爆１.５㎞（２６歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕すごく自分の体には気付けておりました。でも夜ねむられなくて、よく薬をのんでました。

病院にも通院しておりましたし、煙草も酒ものみませんでした。ある日突然肝臓が悪いと言われ、入院通院のくりかえしでした。足ははれるし、とてもつらそうでした。５５年の７月１５日に、大学に検査に出すようにいわれそのまま入院、その時がんといわれました。でも今年いっぱいぐらいと言われたのに、入院して１カ月８月１６日に死にました。先生もわからないということで、なくなってから解剖までしました。

酒も煙草ものまず、仕事も自分でできるだけむりもしなかったのに、肝臓がんとは私もなっとくいきません。被爆のためと思います。

私は今１人暮らしております。子供達は立派に生活しております。

主人は病気々々で、どこにも出たことはありませんでした。子供を大きくするまでは働くのに一生懸命、やっと楽になれた時は苦しんで苦しんで死にました。本当にかわいそうと思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９　従姉年齢不明　直爆０.４㎞　死亡状況不明

〔長崎　直爆３.０㎞　女　２２歳〕

（１３－３３－００９）

【死亡家族の概況】

⑤　５５／９／２９　夫年齢ＮＡ　脳軟化症　直爆１.５㎞（ＮＡ）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕被爆を境に身体が弱くなって、罐工場に転職して働いていたが、思うように働けないことに苦しんで、それにまた、△△へ来てから生まれた五男が、高校卒業直後交通事故で再起不能の重傷で、廃人同様になり長期入院中。それを苦にして脳軟化症になり、死の前４～５年ぶらぶらしながらいたが、四男が一家を支えてくれるようになり、現在は安定した生活に入った。

夫の死に方を見て、自分もやがてはこうした死にかたをするのかと自分一人で思って、そんな話は若い子供夫婦には話せず、一人当時の悲しみを抱いている。

〔昭和２０年内死亡家族〕

①８／９	母５０歳	直爆０．５㎞	圧焼死
②８／９	妹１５歳	直爆距離不明	圧焼死
③８／９	弟１２歳	直爆距離不明	爆死
④８／９	弟１０歳	直爆距離不明	爆死

〔長崎　直爆１．５㎞　女　３１歳〕
（２２－０２６８）

【死亡家族の概況】

①	４６／１／１１	父７５歳	脳溢血	直爆３．５㎞	（４９歳）	不明
②	５５／７／　９	弟５０歳	胃がん	直爆３．５㎞	（１５歳）	ある
③	５６／２／　３	母７８歳	脳溢血	直爆３．５㎞	（４２歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔弟〕屋外被爆の弟、何となく身体が弱く肝臓も悪かった。結婚後子供２人、奥さんの仕事で生活していた（自営業食堂）。被爆者であることを隠し手帳も持っていなかった。入院して１カ月足らずで、とても苦しんで子供のことを案じながら亡くなった（女子小６、男子中２）。最期を見取りましたが……子供の成長を見る

ことも出来ず……とても可哀相でした。
〔父〕寝たきりが多く、最後脳出血で亡くなりました。
〔母〕６年間寝たきりで……父と同じでした。

両親は年齢も７０歳過ぎで止むを得ないと思います。弟はもっと生きられたのでは……？と、後に残された子供２人、奥さんが気の毒でなりません。とても苦しんで亡くなったので……不安で、生活のこと等もとても心配でした。

〔長崎　直爆１.５km　女　１９歳〕
（２２－０３５４）

【死亡家族の概況】
① ３９／１１／１　父６７歳　病気　直爆２.０km（４８歳）　ある
② ５６／６／２２　母８１歳　病気　直爆２.０km（４５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕暑い夏倒れ３年半ねたきり、一度も起き上がれなかった。キリストみたいにやせほそり、床ずれがあわれだった。「早く元気になりたい」と、寝言のように言っていた。家族を食べさせるため働きすぎが生命をちぢめたよう。
医者がはっきり〔被爆が〕原因でしょうねといった。
〔母〕８０歳の誕生日まで生きましたが、死ぬ２０年程前から医者に見離され、何度も親せきが集まりました。母をみるため、すぐ上の姉、私と結婚がおくれたと思っています。父と反対で、腹などふくれるだけふくれ、最後は植物人間でした。母の最期の時は姉、弟、嫁全部がふりまわされ、看護する者が疲れはてました。

原爆受けても受けなくても人間の命はわかりません（交通事故等）。でも、被爆しなかったらこんな死に方はなかったろうにとくやしいです。

〔長崎　直爆２.０km　女　６歳〕
（４５－００４２）

【死亡家族の概況】

① ５５／５／２５　母８０歳　病気　　直爆１.７km（４５歳）　ある

② ５６／８／２５　姉４４歳　胃がん　直爆１.７km（　８歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕私が５歳の頃から体が弱くなり入院しました。忍耐強い母でしたから、父や子供達のために、薬と精神力で長生きしてくれたようです。

私の前ではいつも笑ってたのですが、眠っている時に苦しい顔をしてたのをおぼえてます。母の入院が原爆が原因ならば恐怖を感じます。（母と姉が亡くなった当時、石川県に住んでいて看病もすることなく亡くなってしまったので、いつもすまなく思ってます）

〔姉〕胃潰瘍で入院したと知らされていたのですが、死因は胃がんとのことでした。

両親が、被爆当時は身体に影響がないので、自分達は被爆者ではないと思っていたようです。被爆手帳は手にしても被爆の認識がなく、アメリカより派遣されて検査を行っていた（ＡＢＣＣ？）で検査されて異常がないと言われ、それを信じて後日母が入院生活をくり返しても持病と思い込んでしまって、入院するごとに家庭が経済的に苦しくなっていったようです。

２３歳の時に私は東京に出て、長崎の人は被爆者だと思われていることがわかり、それからはじめて自分が被爆者であることを認識してきました。仕事中鉛筆が持てなくなり病院で検査しても異常なし、それ以上心配なら精神科に行きなさいとまで言われ、「自分は健康だ、気のせいだった」と思いなおし生活して、その後専門医の先生に甲状腺だと知らされ、それが原爆のためになったか、持病か、いまだにわかりません。

〔長崎　直爆３.０km　女　３歳〕
（２２－０２０５）

【死亡家族の概況】

⑤	26／12／30	姉29歳	盲腸炎	入市	（23歳）	ある
⑥	27／12／24	母51歳	心臓麻痺	直爆1．8㎞	（44歳）	ある
⑦	53／12／11	父88歳	肺炎	入市	（55歳）	ある
⑧	56／12／NA	姉56歳	病気	直爆1．8㎞	（20歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉⑤〕盲腸炎と言われて、氷でひやしていたが、腹の中に虫がかたまっているとか言われて、近所の医師の診断にあやふやなところがあった。

〔母〕腎臓炎で血尿が出るといっていたが、夜、突然呼吸困難となった。

〔父〕長いこと通院生活の末に。

〔姉⑧〕卵巣の摘出手術、乳房の除去手術など、入退院をくり返し、身体が弱く病苦の生活をつづけていた。

もっと早く原爆手帳が交付されていて、良い病院で適切な治療をさせたなら、あるいは生きていたかもしれないと思う。

〔昭和20年内死亡家族〕

①8／12　弟3歳　直爆1．8㎞　原爆症

②8／30　弟1歳　直爆1．8㎞　大やけど

〔長崎　直爆2．0㎞　女　12歳〕

（40－0708）

【死亡家族の概況】

①	56／4／29	妹50歳	白血病	直爆3.0㎞	（14歳）	ある
②	57／7／23	母78歳	肺炎・肝硬変	直爆1.0㎞	（41歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔母〕肝硬変でたびたび入院をしていた。
〔妹〕入院退院を繰り返しながら、最後には全身に湿疹みたいなのがひろがり、かゆく、痛く、体いっぱいに広がっていき、呼吸するにも苦しいといいながら亡くなった。

母は一応運命と思ってあきらめています。よく今まで生きられたと思ってます。
妹は年も若く、子供達をおいて死にたくなかったろうと思います。本当に戦争は嫌いだと心にしみてます。

〔長崎　直爆3.0km～　女　１７歳〕
（４２－１９０４）

【死亡家族の概況】
① ４２／５／３　父５１歳　心不全　入市（２９歳）　ある
② ５８／２／２　母７１歳　肺がん　入市（３３歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】
〔父〕４０歳頃より、しばしば多量の鼻血が出て、目にまでもにじみ出ることがありました。大学病院でも原因不明。
〔母〕亡くなる半月前より、血タンが出るようになり、肺がんと診断がなされた。

両親とも、原爆が原因だと思っている。被爆していなかったら、まだ元気にしていることと思う。

〔長崎　入市　女　１９歳〕
（４３－０１７８）

【死亡家族の概況】

①	44／6／ 7	父73歳	胃がん	入市	（49歳）	ある
②	58／3／22	弟52歳	脳出血	直爆2.0km	（14歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕8月10日出張先（島原）より帰宅のため、長与から爆心地を通り（国道）桜馬場町の自宅に帰った。そのための被爆症状はなかったと思うが、70歳過ぎてからの検診の時に胃がん発見、次第に弱り、あまり苦しみもなく死亡した。

〔弟〕ガス会社付近の路上で被爆し、その後は元気に働いていたが、交通事故等で頭部打撲し、その後仕事が十分にできなくなり、入退院、通院をくり返していた。死亡時は脳出血のためこん睡状態となり死亡した。被爆したための不安はいつもあったと思う。

父は老齢のため死亡したのも仕方ないと思う、苦しまないで死んだのでよかったと思っている。

弟は早死にと思っている。体が弱くなってからは可哀相だと思っていた。

〔長崎　直爆3.0km～　女　21歳〕
（42－1208）

【死亡家族の概況】

①	28／11／ 7	妹21歳	肺病	直爆2.5km	（13歳）	ある
②	57／10／18	弟40歳	骨肉腫	直爆2.5km	（ 3歳）	不明
③	58／ 3／27	父87歳	老衰	NA	（49歳）	不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕21年度頃から風邪引きのくり返し、なかなか良くなってくれないので後の検査の結果、肺をおかされていることがわかった。

〔弟〕腰が痛いと言って病院にかよって2年、原因不明、仕事と休みのくり返しで、

５７年1月１日年始回りと家を出て、太ももが急に折れて救急車でかつぎ込まれ、調べた時は骨肉腫であった。

〔父〕高血圧で、通院途中でたおれて、半身まひで寝込んで１６年、亡くなる時は老衰とのこと。

妹が年若く死んだが、９歳〔ママ〕で被爆し、１０歳からずっと原爆の後遺症で青春がなかった。何もやりたいことをさせてやれなかった。

頼りにしていた弟が骨肉腫で亡くなった時、残した子ども（小学生1年）がふびんでならなかった。

1年のうちに夫、弟、父と失いました。その頃は母（今も胃がんで入院中）も含めて4人の親族を看護しながら、毎日を暮らしていました。

〔長崎　直爆３．０km　女　１５歳〕
（４２－０４３９）

【死亡家族の概況】

①　５８／４／ＮＡ　兄５７歳　心臓・胃潰瘍　直爆３．０km（１９歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕１０年前位に半身不随になり、病気で働けなくなって精神的に家族にふたんをかけていることで気をつかっていた時、突然に胃の調子がわるくなり、入院して３日目になくなった。２日目に小指位の胃かいようだといわれて、たいしたことないと安心していたら、急に心臓が悪くなりあっけなく死にました。もっと長生きしてほしかった。若くして急に病気になり短い人生でした。

生きていてくれたら、家族の悲しみがわかります。子供達は学校も行けず、母親を助けて生きています。半身不随でも生きていてほしいといつも子供達はいっています。元気で長生きしてほしかったと。

〔長崎　直爆３.０km　女　４歳〕
（４２－０４７８）

【死亡家族の概況】

①　５８／６／１４　夫６３歳　白血病　直爆２.０km（２５歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔夫〕

①歯ぐきより血は時々出ていた。心配するほどでもなかったのですけど、歯の治療（痛みのため）に行き次第に顔まではれてきた。

②治療の途中、風邪気味熱を出し、血液検査にて白血球多いとのこと、さっそく大学病院へ入院。

③病院にて白血病と診断された。顔色わるく、熱が４０°、寝汗をかき食欲無く、とても疲れていた息苦しいと。

④よくわからないけど輸血も普通ではなく、くださる人も４時間位かかってもらうので、いろいろと知人をたより多くの方々にたのんだけど、入院して２５日ぐらいで死亡。ある日突然おそってきた病気、原爆のじわじわと年月がたってあらわれて来ると思うと不安です。

原爆がおちたために、多くの人々が死亡され、夫もまだまだ生きられたことだろうと残念に思います。

〔長崎　直爆3.0km～　女　２２歳〕
（４３－０１４９）

【死亡家族の概況】

① 58／8／14 夫68歳 脳腫瘍 直爆2.0km（30歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕58年4月28日頃東京にいる娘の所に行った、その日から（主人）顔にブツブツが少し出来た、病院の先生に見てもらった。始めは帯状疱疹というもので、顔だけが頭に広がり眼もはれ上がり、両眼とも見えないくらいになり、入院するよう勧められたが旅先だったので、眼のはれが引くのを待って帰宅して、こちらの病院に入院した。1カ月ばかりで良くなったが、今度は左腕が麻痺したため他の病院にうつり、少し良くなった頃、胸のCTをとったところ腫瘍ができていることがわかり、また△大病院に入院した。いろいろ検査をして手術をすることになったが、腫瘍が悪化して手術できず58年8月14日死亡した。

主人が脳腫瘍で死亡したので、私も年老いてどうなることか不安でならない。もっと援護対策が早くできていれば、生活のためむりをして仕事をしたので、こんなに早く死亡することもなかったと思う。

〔長崎 入市 女 6歳〕
（40－0258）

【死亡家族の概況】

①	24／5／NA	祖母72歳	病気	直爆1.0km（68歳）	ある
②	24／7／10	妹 14歳	病気	直爆3.0km（10歳）	ある
③	56／8／ 6	父 79歳	高血圧他	直爆3.0km（43歳）	ある
④	58／8／29	母 80歳	腎臓肝臓他	直爆3.0km（42歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔祖母〕被爆後鹿児島に帰り、叔母達の話によると、からだが弱り寝込んでしまって、最後に血を吐いたり血を下したりして死んだそうです。

〔父母〕被爆後は母がからだが弱り、病気がちで家庭内のことが出来ず、病院通いばかりしていたので家庭不和になり、離婚いたしました。その後父はくわしいことは私は知りませんが、高血圧症その他の病気で死亡しました。父が死んだ頃は私はすでに結婚し、２人の子の母親になっていて、別に住んでいたのでわかりません。

私の母は被爆後は弱ってしまい、内臓の病気ばかりして入院通院のくりかえしばかりで、からだはひとまわり手術しました。じんぞう・かんぞう・貧血、いろいろの病気をしました。死のまえには血を吐いたり、下したりして死にました。

鹿児島に帰った祖母や叔母は（生死不明）、もっと援護対策が早ければと思いました。

私の両親は健康だったら離婚もしなかったろうし、小さい弟達もみじめな苦労もしなかっただろうと思います。

〔長崎　直爆３.０㎞　女　１８歳〕
（４２－１９７５）

【死亡家族の概況】

①　５８／１２／１５　妻６８歳　肝硬変　直爆２.８㎞（３０歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妻〕異常な程の身体の硬さ、（４０代の時６０歳位の骨のもろさをしていると医者に言われたことあり）を気にし、自分の子供も同地点で被爆しており、その子も骨がもろいため大変気にしていた。

また、１０年間程肝臓を病んでからは、「死にたい、死にたい」で、目が離せない状態であった。

夫婦２人だけの生活で一方に先だたれてしまうと、たとえようのない寂しさはどうしようもなく、病気の時の苦しみを見るのはつらかったけれども、やはり１日で

も多く延命してくれ、側にいてくれることを願った。

〔長崎　入市　男　３５歳〕
（１３－０６－００２）

【死亡家族の概況】

①	２１／６／　７	母４４歳	急性肺炎	直爆３．０km	（４３歳）	ある
②	５７／３／３１	父７９歳	肝臓がん	入市	（４２歳）	ある
③	５９／４／１９	弟５１歳	肝臓がん	入市	（１２歳）	ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕被爆を境に体が弱くなって寝込むようになり、勤めもやめ必死に看病したが…

〔父〕毎日毎日、検査検査、あっちの病院こっちの病院と回され、みるみるうちにやせて、とにかく苦しいの言葉を何度聞かされたことか。

〔弟〕小食でまた偏食するため（被爆後）病気になる２年程前からは仕事も休みがちで大分なやんでいた。見舞いに行った時は食事もあまり取らず、息を引き取る時はいられなかったとのこと。

両親、弟とも生きていてくれたらと現在は特に思う。弟に対しては、１人だけの男だった、まだ５１歳はこれからの人生、なぜこんなに早く、残念。母も同じ、４２歳の若さである。

〔長崎　入市　女　１５歳〕
（２８－０１１８）

【死亡家族の概況】

① 56／6／25 父90歳 心不全 直爆1.8㎞（54歳） 不明
② 59／7／ 4 兄60歳 がん 直爆1.8㎞（21歳） NA

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕いつも当時のこと、兄の友人が原爆症でなくなったことを話しては不安がっていた。
　がんの発病が昭和40年の始めだったと思います。入院と退院のくりかえしだった。最後の時は病院入院3年で退院して、自宅療養2カ月で、再入院で1カ月で死亡した。

〔父〕同様で入退院の繰り返しであった。最後は自宅療養で死亡した。

兄の場合は、30歳を越えてからは仕事らしき仕事も出来ず、義姉と長女、長男が働いて生計を立てていた。兄の入退院の繰り返しで、苦労の連続だったのを思いだします。一時は義姉も子供達も死を考えた時期があったそうです。だけど兄は、常に自分は被爆を受けたことより子供のことを考えて、死より生きることを考えていました。広島と長崎で被爆した関係で、自分は2度も死を越えてきた、だから長生きするんだと言っていました。

〔長崎 直爆2.0㎞ 男 8歳〕
（27－0341）

【死亡家族の概況】

① 55／5／ 6 母73歳 十二指腸がん 直爆1.8㎞（38歳） ある
② 59／8／24 父81歳 胃がん 直爆1.8㎞（42歳） ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母〕初めに風邪引きと思い、風邪がなかなか治らないでぐずぐずしていたら、お腹がはれだし大学病院に入院し手術をしました。2月に手術をし、3月頃は良くな

り自分で歩き運動もしていたのですが、４月頃になると急に容態がかわり、５月になくなりました。

〔父〕元気だったのが食事がいけなくなり、胃がんと言われ、わりに早く２カ月くらい入院生活してなくなりました。

元気だった父母が急に病気にかかり、余り長い病もしなく亡くなったことが被爆と関係あるのではないかと、不安に私自身も思いました。

〔長崎　直爆２.０km　女　１４歳〕
（４０－０８６６）

【死亡家族の概況】

① ５９／８／２９　父７９歳　鼻がん　入市（４０歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕ある日急にまぶたがたれ下がり、診断の結果、鼻の奥ががんにおかされているとのことで手術し、抗がん剤で治療したが、４カ月で死亡。

原爆投下の際は、自治会長として働いており、私たち兄妹はもちろん、父の弟の救護活動に入市したが、その当時の残留放射能のせいでがん体質になったのではないかとの疑いもある。

〔長崎　直爆２.０km　男　１５歳〕
（４２－１３８４）

【死亡家族の概況】

②　５３／９／２０　父７４歳　脳軟化症　直爆３．５km（４１歳）　不明

③　５９／９／２３　母７５歳　腎不全　直爆４．０km（３６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔父〕昭和５２年６月、長崎に墓参のため帰郷後よりボケが始まり、１年３カ月後、何の苦しみもなく数秒間で死亡。（痰が喉にからまり窒息したようだとのこと、……食事が終わり、母が食膳をさげるため目をはなした数分の間であった）

〔母〕腎機能が低下し、ほとんど排尿がなくなり肺に水がたまり、顔を中心に浮腫がひどく、呼吸困難の状態が続き、心不全を惹起し死亡（死亡２時間前までは割合に意識はしっかりしていた。苦しくないと本人は言い続けた、気の強い母であった）。

生きていてくれたら、という思いは当然だったが、当人たちの状況に、むしろ息苦しさを感じ、死を迎えた瞬間は、やっと楽になってくれたという思いがした。しかし、悪い夢を見ているような気が今でも時々起こることがある。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①８／２８　妹３歳　直爆４．０km　病気

〔長崎　直爆3.0km～　男　１３歳〕
（１４－０２３８）

【死亡家族の概況】

①　２３／７／２１　父４５歳　脳内出血　被爆状況ＮＡ（４２歳）　ある

②　５３／９／　７　母６８歳　肝臓がん　被爆状況ＮＡ（３５歳）　ある

③　５８／６／１７　妹４６歳　直腸がん　被爆状況ＮＡ（　８歳）　ある

④　５９／１／　１　弟４０歳　死因不明　被爆状況ＮＡ（　１歳）　ある

⑤　６０／２／２１　姉５７歳　肝臓がん　被爆状況ＮＡ（１７歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

つぎつぎと肉親ががんで死亡していく。皆、苦しい病気とのたたかいで、家族のことを心配し、不安と恐怖の中で去った。

今更思い出したくない。

〔長崎　被爆状況不明　女　１１歳〕
（４０－０１５２）

【死亡家族の概況】

②　６０／３／２７　姉５４歳　肝硬変　直爆４.５km（１４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕私達姉妹の長女のせいか、２０年に父を亡くして以来親代わりのような存在でした。私も主人を亡くし、子供と２人でその姉を頼って、現在地に住むようになりましたが、今も心の淋しさはいえていません。

その姉も△△地区の被爆者の運動員をして頑張っておりましたので、援護法が成功することを見守ってくれると思います。

〔昭和２０年内死亡家族〕
①９／２　父３９歳　直爆距離ＮＡ　原爆症

〔長崎　直爆3.0km～　女　7歳〕
（４０－０９５２）

【死亡家族の概況】

① ３８／９／　４　父４３歳　胃がん　直爆距離ＮＡ　　　　（２５歳）　ある
② ６０／７／１０　夫４９歳　胃がん　直爆距離ＮＡ＝広島（　９歳）　ある
入市＝長崎

【死亡の状況・遺族の思い】

母が５人の子供を育てるのに、他人には言うに言われぬ苦労をしてきたと思う。若い時の母は優しかった。でも１人になって５人もの子供を育てるためには、きつい性格にもなってきた。私達子供とて同じ……。

〔父〕あの日の父は自転車にすがり、どこをどう歩いてきたのさえ覚えがないとかで、服はボロボロ……全身ガラスがささり血が流れていたという。母や近所の人達で全身グルグル包帯巻きしたそうだ……。食事は、はしをもてなくいつも（おむすび）だったとのこと。私はそのようなことは何ひとつ覚えてはないけど、祖母や母に聞かされた。覚えてることは、身体のあちこちに傷があり、それを見るのが恐ろしかった。

胃がんで死亡したのは、どうしても原爆と関係あるのではないでしょうか。

〔夫〕６０年7月１０日胃がんで死にました。広島で直爆、その後長崎へ8月１０日入市。私がたどった道をまた子供達も、もういやなことは振り返りたくない。

〔長崎　直爆3.0km～　女　2歳〕
（４２－１８７３）

【死亡家族の概況】

① ５５／　６／　６　母７７歳　心臓病　　　直爆３.８km（４２歳）　ある
② ６０／１０／２０　妹５１歳　甲状腺がん　直爆３.８km（１１歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔母・妹〕２人とも被爆を境にからだが弱くなり病気で死亡。

母は心臓病で亡くなり、妹は甲状腺がんで亡くなりました。妹は血圧、糖尿病、タンセキ、甲状腺がん、四つの病で長いことくるしみ、死にたくないと言って５０歳の若さで悲しく死んで行きました。被爆していなかったら早死にしなかったと思います。私も不安でなりません。

ほんとうに原爆はおそろしい、戦争はイヤです。

〔長崎　直爆3.0㎞～　女　１９歳〕
（４２－１３３７）

【死亡家族の概況】

①　６０／１２／１７　妹５６歳　子宮がん　入市（１６歳）　不明

【死亡の状況・遺族の思い】

〔妹〕５９年３月に子宮がんと診断され、入院し、４月に手術し、最初は２期と言われていましたが、リンパ線にもすでに転移しておりました。８月に退院し９月からは職場に戻り勤めかかりましたが、６０年１月に再発し２月に入院、再び腸を手術しました。すでに悪〔性〕腫瘍ができ、小腸から直腸をむすぶしか方法がなく、少し食事ができるようになってもすぐ吐き、１日に何回となく下痢をするのです。点滴は２４時間、休む間もありませんでした。７月からは食事ができなくなり、水も飲まなくなりました。３月３０日に手術した傷もふさがらず、いつもジュクジュク汁が出ていました。口からは黒みどり色の（胆汁）を吐き、下からは腸汁が１日に何回となく出ました。

痛みがひどくなり、１日に２回、多い時で４回、痛み止めの注射をし、亡くなる１カ月前頃より手や足がむくみかかり、最後には体中はれて顔はオタフク風のようにはれ上がり、体中がはれたまま１２月１７日に「早くゆきたい」と苦しみながら息を引きとりました。

〔長崎　入市　男　１８歳〕
（４０－０５２１）

【死亡家族の概況】

① ６０／１２／ＮＡ　兄４４歳　直腸がん他　直爆１.３km（４歳）　ある

【死亡の状況・遺族の思い】

〔兄〕

ア、病気とのたたかいの日々をおくっていた。

イ、４年間に１０回もの手術を行った。

ウ、被爆の不安をもっていた。

自分も同様の死をむかえるような不安。

その死に方、病気に恐怖を思う。

〔長崎　胎内被爆　男　胎児〕

（２３－０１９４）

【死亡家族の概況】

① ５０／月日ＮＡ　姉４８歳　脳腫瘍　直爆１.８km（１８歳）　ある

② ５７／月日ＮＡ　母７２歳　心筋梗塞　直爆３.６km（３５歳）　ない

③ ６１／１／１１　父８３歳　心不全　直爆３.６km（４２歳）　ない

【死亡の状況・遺族の思い】

〔姉〕被爆後からだが弱くなり頭痛がひどく、通院していた。Ｓ４０年頃、脳腫瘍の診断をうけてからは、入院手術のくり返しで３～４回開頭手術をうけた。Ｓ５０年に帰らぬ人となるまで、医療費の工面に苦しむ毎日だった（父親の賃金が高いということで、手当ももらってなかった）。

〔父〕とくに被爆のせいで苦しんだことはない。

〔母〕（とくに被爆のせいとはいえないかもしれないが）足腰はよわくいつも痛いといっていた。

姉は脳腫瘍で死んだが、あれは被爆のせいだと思う。入院手術をくり返すくるしかった生活を思い出すと、せめて医療費に相当する手当なりほしかったと思う。

若くして死んだので、残された家族とくに子供たちが不憫でならない。

〔長崎　直爆3.0km～　女　16歳〕
（42－1675）

日本被団協

原爆被害者調査に関する資料一覧

【報告書】

- 原爆被害者調査第１次報告 ………………………… ５００円（〒 210円）
- 原爆被害者調査第２次報告
  －原爆死没者に関する中間報告－ ……………… ３００円（〒 210円）

【資料集】

- 「あの日」の証言（その１） ………………………… １０００円（〒 310円）
- 「あの日」の証言（その２） ………………………… １０００円（〒 260円）
- 被爆者の死（その１）
  －「あの日」から昭和２０年末まで－ ……… １０００円（〒 260円）

【パンフレット】

- 被爆者は原爆を受忍しない ………………………… １５０円（〒 175円）
  （厚生省調査への見解・被団協調査が語ること）
- あなたは核戦争を受忍（がまん）できますか …… １５０円（〒 72円）

【講演録】

- 被爆者の死と生
  －＜原爆＞の反人間性－　（石田　忠） ……… ４００円（〒 175円）

被爆者の死（その２）－参考資料－

この資料は、昭和２１年から４０年間の原爆死の特徴を示すいくつかのデータを、日本被団協「原爆被害者調査」第２次報告から作成したものである。

〔表１〕被爆時年齢別、死亡時期別、累積死亡者数(全死亡者)

☆上段は死者の累積数（人）
☆下段は総数を100とする累積度数（%）

時期 被爆年齢	当日死	～S20 年末	S21～ 29年	S30～ 39年	S40～ 49年	S50～ 61年	総数
9歳以下	448 (40)	836 (74)	960 (85)	997 (88)	1,046 (93)	1,123 (99)	1,130 (100)
10～19歳	632 (38)	1,160 (70)	1,280 (78)	1,363 (83)	1,430 (87)	1,616 (98)	1,647 (100)
20～29歳	291 (30)	538 (55)	634 (65)	672 (69)	754 (77)	967 (99)	979 (100)
30～39歳	241 (19)	443 (36)	532 (43)	636 (51)	811 (65)	1,215 (98)	1,243 (100)
40～49歳	303 (14)	587 (27)	783 (36)	1,023 (47)	1,445 (67)	2,132 (98)	2,167 (100)
50～59歳	223 (14)	452 (28)	642 (40)	896 (56)	1,310 (82)	1,581 (99)	1,600 (100)
60～69歳	123 (21)	224 (38)	347 (59)	482 (81)	555 (94)	578 (98)	592 (100)
70歳以上	56 (28)	109 (54)	165 (82)	193 (96)	197 (98)	197 (98)	202 (100)
小計	2,317 (24)	4,349 (45)	5,343 (56)	6,262 (66)	7,548 (79)	9,409 (98)	9,560 (100)
無回答	480	1,347	1,816	2,146	2,455	2,743	3,166
合計	2,797 (22)	5,696 (45)	7,159 (56)	8,408 (66)	10,003 (79)	12,152 (95)	12,726 (100)

◇　〔表１〕は「あの日」から４０年の間に亡くなった人について、被爆当時の年齢別にその死亡時期別死亡者数をまとめたものである。

◇　〔表２〕は昭和２１年以降の死亡時期と死亡原因が分かっている死者５，９８３人（２１年以降の死者の８５％）について作成したもの。とくに「白血病・がん」は３０年代に比重をまし、その後もふえつづけている。

〔表２〕死亡時期別、死亡原因別、死没者数（昭和２１年以降）

☆上段は死没者数（人）
☆下段は総数を100とした率（％）

		S21～29年	S30～39年	S40～49年	S50～61年	計
やけど、けが		158 (12)	70 (6)	54 (4)	61 (3)	343 (6)
病　　気		1,162 (90)	1,073 (93)	1,400 (94)	1,941 (95)	5,576 (93)
内数	（白血病）	30	30	18	28	106
	（が　ん）	186	317	447	634	1,584
		(17)	(30)	(31)	(32)	(28)
事　　故		35 (3)	41 (4)	37 (2)	25 (1)	138 (2)
自　　殺		7 (1)	11 (1)	6 (0)	12 (1)	36 (1)
そ の 他		42 (3)	29 (3)	46 (3)	65 (3)	182 (3)
死没者総数		1,292 (100)	1,154 (100)	1,497 (100)	2,040 (100)	5,983 (100)

(注)原因が２つ以上ある場合があるので、死没者総数と原因の合計数は一致しない。「やけど」「けが」の場合、同時に「病気」

を伴ったものが「やけど」で５５％、「けが」で５４％ある。

◇　〔表３〕は昭和２１年以降の各年代における死亡者に関し、その死と原爆との関係について遺族が抱いている意識をまとめたものである。

原爆とは「関係がないと思う」死は１０％にすぎず、６割近く（５８％）が原爆と「関係がある」と思っており、残りの３割が原爆との関係を測りかねている。「わからない」というのは、原爆と関係があるとも言えないし、ないとも言えないということであり、「あるかも知れない」という疑いを捨て切れないことである。したがって、遺族の９割前後のものが、被爆した家族の死について、原爆と関係がある、即ち〈遅れた原爆死〉であるのではないか、という疑いをもっているということになる。

〔表３〕死亡時期別、関係意識別、死没者数

☆上段は死没者数（人）
☆下段は総数を100とした率（％）

	S21～29年	S30～39年	S40～49年	S50～61年	計
関係がある	883 (67)	655 (58)	807 (55)	1,078 (54)	3,423 (58)
関係がない	98 (7)	132 (12)	156 (11)	238 (12)	624 (11)
わからない	346 (26)	347 (30)	494 (34)	664 (34)	1,851 (31)
総　　数	1,327 (100)	1,134 (100)	1,457 (100)	1,980 (100)	5,898 (100)

注）死亡時期、関係意識がともに回答されているもののみによる。

◇　「亡くなるまでの苦しみ」に関する設問（自由記述）に対する遺族の回答を整理すると次のようである。原爆死者たちの〈死に至る過程〉が、いかに苦悩にみちたものであったかが示されている。

病気との闘いの日々をおくらされて …………	1,267人（28.5）
被爆を境に体が弱くなって ……………………	1,007人（22.6）
こどものことを心配して ……………………	432人（ 9.7）
原爆症の不安・恐怖に脅えて …………………	392人（ 8.8）
思うように働けないことに苦しんで …………	380人（ 8.5）
原爆で肉親を亡くした悲しみに、生きる支えを失って …………	276人（ 6.2）
けが・やけどの傷あとに苦しんで ……………	254人（ 5,7）
被爆後、生活が苦しくなって …………………	235人（ 5.3）
医療の遅れ、原爆症に対する周囲の無理解に苦しんで …………	172人（ 3.9）
早く死にたい、と苦しんで ……………………	129人（ 2.9）
あの日の体験に苦しめられて …………………	107人（ 2.4）
学業や就職、結婚・家庭など、夢や希望を奪われて …………	83人（ 1.9）
隠そう、忘れようと苦しんで …………………	56人（ 1.3）
	（その他………18人）

注）カッコ内は、死者総数より「亡くなるまでの苦しみ」が「不詳・回答なし」、「特になし」の者をのぞいた４,４４８人を１００とした比率

1989．11．8

日本原水爆被害者団体協議会

〒105 東京都港区芝大門1－3－5
ゲイブルビル902
☎03（438）1897